



Kirinuki Sokuhou



巻頭  
特集

# がん患者を支える対話

思いをくみとるには

## 切抜き速報<sup>®</sup>

# 医療と 安全管理総集版

### 全国85紙の新聞記事から 医療の「今」を読み解く

keep up-to-date with articles from 85 newspapers nationwide.



善入寺島のコスモス畑の向こうにそびえる高越山。夕焼けに山容が映える=阿波市市場町  
徳島新聞(夕刊)2018年12月8日(土)

## PICKUP TOPICS

- 22 ▶ 看護師の国際救援活動
- 28 ▶ 服薬指導の今後
- 36 ▶ 身体拘束
- 40 ▶ ゲノム編集と生命倫理



Kirinuki Sokuhou

全国85紙の新聞記事を10の分野に分類して厳選収録

# KS・月刊切抜き速報®シリーズ

新聞というメディアをお仕事や生活に、より活用していただきやすい形で提供し、幅広さと深さを兼ね備えた情報誌として1970年の創業以来多くの方にご愛読いただいております。



## 月刊切抜き速報® 教育版

学校経営・運営、教職員、学校安全、生徒指導、学習指導など、学校・教員・子どもを取り巻く問題の、傾向と対策。

●A4判/168頁 ●毎月28日配本  
●年間購読料 本体25,667円+税



## 月刊切抜き速報® 社会版

政治・経済・法律、国際関係、歴史など、時事問題の総覧と比較からニュースを深く理解し、より良い社会を考える。

●A4判/96頁 ●毎月10日配本  
●年間購読料 本体16,667円+税



## 月刊切抜き速報® 健康りてらしい

ここからからの健康情報、医学基礎知識、生活習慣改善、健康教育・保健指導など、セルフケアの実践に向けて。

●A4判/96頁 ●毎月5日配本  
●年間購読料 本体16,667円+税



## 月刊切抜き速報® 食と生活版

食の安全、食品流通や食の歴史・文化、食育、給食など、栄養管理・指導や家庭教育に携わる方、食品業界の方にも。

●A4判/96頁 ●毎月9日配本  
●年間購読料 本体16,667円+税



## 月刊切抜き速報® 科学と環境版

新発見や研究成果、研究者、科学用語や原理の解りやすい解説など、自然・科学・技術に関する知識欲を刺激する情報誌。

●A4判/96頁 ●毎月14日配本  
●年間購読料 本体16,667円+税



## 月刊切抜き速報® 保育と幼児教育版

保育行政、幼児教育の動き・実践から子育ての知恵まで、保育士、幼稚園教諭はもちろん、子育て中の保護者の方にも。

●A4判/96頁 ●毎月30日配本  
●年間購読料 本体16,667円+税



## 月刊切抜き速報® 福祉ニュース高齢福祉編

超高齢社会の問題、介護施設の取り組み、社会保障行政など、介護者と高齢者をとりまく幅広い話題を掲載。

●A4判/96頁 ●毎月20日配本  
●年間購読料 本体16,667円+税



## 月刊切抜き速報® 福祉ニュース障害福祉編

保育、教育、就労、福祉施設の取り組み、行政の動きなど、さまざまな実践、報道から、よりよい障害福祉を考える。

●A4判/96頁 ●毎月15日配本  
●年間購読料 本体16,667円+税



## 月刊切抜き速報® 医療と安全管理総集版

病院運営、医療技術・倫理、医療従事者の育成・労働環境、患者心理・支援など、医療に携わるすべての方に。

●A4判/120頁 ●毎月29日配本  
●年間購読料 本体22,167円+税



## 月刊コラム歳時記

「新開コラム読み比べ」大晦日5元日版 付

全国の地方新聞・朝刊1面コラムを毎月200本厳選。地域の話題、心動かされるエピソードや時事問題など、幅広い話題を幅広い視点で。

●A5判/216頁/年12冊 ●毎月末日配本  
●読み比べ A5判/128頁/年1冊  
●年間購読料 本体14,589円+税



本誌は発行日に確保にお手元にお送りするために予約購読での販売と、購読期間の自動継続システムをとっております。ご購読いただいている雑誌が途切れることがないよう、お申し込みいただいた定期購読期間が満了する1ヶ月前ほど前に、郵便で継続のご案内を差し上げます。お客さまから特に送本停止のご連絡がない限り定期購読を継続更新させていただきます。定期購読期間を気にして、メールや電話、葉書などでご連絡いただく必要がないシステムです。本誌は毎月送料無料でお届けいたします。お申込、お問い合わせは弊社ホームページまで！

### ●KS・月刊切抜き速報® シリーズご購読者様限定サービスのご案内

#### 索引検索 / 目次・索引ダウンロード

膨大な記事の中からキーワードで記事を簡単検索！



#### ①索引検索

本誌掲載の記事を主なキーワードから検索いただけます。



#### ②目次・索引ダウンロード

目次ダウンロードは、発刊日より1年以内のみのご利用です。ご了承くださいませ。

<http://www.nihon-mic.co.jp/contents/download/index.html>

有効期間 ID: 32452448  
2018年11月～2019年1月 パスワード: 5Sbi8kN9

有効期間 ID: 75596864  
2019年2月～2019年4月 パスワード: iUvezZui

#### 継続購読でもらえる！保管に便利な専用ファイル

月刊切抜き速報®シリーズを継続購読いただいた方に1冊プレゼント！

#### ①専用ファイル概要

○本体907円+税/冊 ○特別製作による赤字銀文字表示

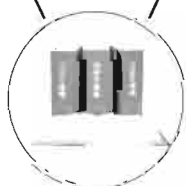
#### ②1冊あたりの収納容量

『教育版』----- 6冊 (半年分)  
『医療と安全管理総集版』--- 6冊 (半年分)  
その他7銘柄(「コラム歳時記」を除く)12冊 (1年分)

#### ③送料

○大阪府----- 800円  
○北陸/東海/近畿/中国/四国 --- 900円  
○関東/甲信越/九州 ----- 1,000円  
○東北----- 1,100円  
○北海道/沖縄 ----- 1,400円

ご希望の方は必ず弊社までご連絡ください



# PICKUP TOPICS PICKUP

[今号の話題5選]

巻頭  
特集

## がん患者を支える対話 思いをくみとるには

7

がん患者は治療方針や治療後の体調不良について不安を抱えつつも、医師の様子に相談しづらいと感じることが多いようです。じっくりと時間をかけた対話や、共感できるピアサポーターの存在によって、やっと患者たちは悩みを吐き出せるのでしょう。心が元気になることで、身体も元気に。一人一人の思いをくみとることは、治療やその後の生活を支えることにつながります。

### 看護師の国際救援活動 22

紛争地で苦しむ人々に寄り添い続ける看護師や、バン格拉デシュで看護技術を無償ボランティアで指導する看護師、マダガスカルのお産を支える助産師であり修道女の女性など。国際救援活動に取り組む看護師の記事を集めました。

### 服薬指導の今後 28

調剤薬局の機能について厳しい目が向けられています。医師の処方箋に従うだけの薬局から脱却が求められ、在宅医療への対応や、よりきめ細やかな服薬指導など、薬剤師ならではの役割は今後広がっていくでしょう。

### 身体拘束 36

根深い問題である病院や介護施設の身体拘束。患者の安全のためとされていますが、心身への負担は大きいです。身体拘束ゼロに向けて奮闘する現場の記事、過去に身体拘束をされた患者の記事から読みとれることとは。

### ゲノム編集と生命倫理 40

中国でゲノム編集をした受精卵から双子が誕生したと報道され、強い批判が起きました。一方、日本でも4月からゲノム編集を人の受精卵に施す研究が始まる見通しに。医療の発展を願いつつ、踏み越えてはいけない倫理とは。

# KEIZOKU TOPICS KEI ZOKU

[継続トピックス／毎月知りたいキーワード]

医療従事者	46	救急医療	86
養成・研修	50	予防医療	88
技術・療法	54	医薬品	91
病院運営	58	医療行政	96
地域医療を支える	62	意見・社説	100
連携・ネットワーク	64	医療ニュース	101
患者・家族支援	70	医療事故・訴訟	102
移植医療	74	医療安全	104
ターミナルケア・緩和ケア	76	医薬品の安全	111
精神医療	82	災害に備える	112

キーワードは随時入れ替わります

ご購入者様  
限定サービス

当社 HP (索引検索／目次・索引ダウンロード) のログイン ID・パスワードは表紙の裏 (表 2) をご覧ください。

医療と安全管理 総集版

# 新聞記事見出し一覧

2019  
3号

掲載期間 2018年12月1日～12月31日

**頭集**  
**巻特**

## がん患者を支える対話 思いをくみとるには

悩み語り合い、食の情報も がんの人が集えるカフェ	11・14	読売新聞（福岡）	7
「哲学外来」で癒やす	9・5	朝日新聞（東京）	8
「記者有論」闘病も育児も支えあい がんママカフェ	12・1	朝日新聞（東京）	9
がん闘病「一人じゃないよ」 患者たちの声 ネットで生配信	12・15	朝日新聞（東京）	10
がんと闘う母 漫画に 患者仲間に笑顔広がる	10・15	中国新聞	11
「ひと」がん患者らの集いの場づくりに励む	9・12	大分合同新聞	11
がん乗り越えひたむきに、前向きに	12・12	神戸新聞	12
若年性乳がん 悩み共有	11・14	北海道新聞	13
負担分かつ仕組みを	10・30	京都新聞	14
がんの悩み相談室再開 看護師ら出張対応	12・4	京都新聞（滋賀）	14
がん治療と仕事 両立支援	9・27	福井新聞	15
患者の意思決定 支援へ 看護師同席の説明要望	11・14	沖縄タイムス	16
ネットでセカンドオピニオン	12・19	毎日新聞（東京）	16

最期まで自分らしく

がん緩和ケア 充実途上 終末期、体に苦痛4割	12・26	朝日新聞（東京）	19
複雑な思い 口からあふれ 母亡くした記者	12・22	西日本新聞	20
病と向き合い 人生デザイン	9・21	毎日新聞（東京）	21

**PICK UP**

## 看護師の国際救援活動

「人の優しさ信じた」 紛争地に赴任17回	9・12	埼玉新聞	22
病院に銃、支援活動停止	12・17	岩手日報	23
Bangladesh 看護支援30年 衛生管理、患者との接し方指導	10・21	北海道新聞	24
「ひと」イラクから災害ボランティアに加わった看護師	10・19	北海道新聞	25
モロッコ派遣「楽しみ」 医療支援活動に意気込み	12・19	室蘭民報	25
働く意味、幸せとは何？ 85歳の助産師・修道女	12・27	山陰中央新報（共同）	26
「ひと」ミャンマーの養育施設で子どもたちを守る看護師	9・13	朝日新聞（東京）	27
教育、看護でアジアと交流	11・6	東奥日報	27

# CONTENTS

テーマをより深くお読みいただくために、  
連載記事など一部掲載期間外の新聞記事も掲載いたします。

## PICK UP 服薬指導の今後

薬局6万店再編の風圧 手厚い報酬問われる機能	11・24	日本経済新聞
薬剤師両肩で不足感強く 背景に在宅医療への対応充実	12・19	山陰中央新報
在宅患者にオンライン服薬指導	12・5	毎日新聞(福岡)
処方薬 自宅で入手可能 スマホで服薬指導	12・25	日本経済新聞
「きょうのことば」服薬指導 継続的な介入に課題	12・25	日本経済新聞
スマホで「お薬手帳」	12・5	紀伊民報
健康相談薬局にお任せ	10・16	静岡新聞
薬受け取りスムーズに 処方箋、スマホで撮影し事前に送信	10・29	日本経済新聞
患者の「残薬」検証へ 整理バッグで薬局に持参	10・6	茨城新聞
処方箋に血液数値や体重 薬局が適正量や副作用チェック	11・1	中国新聞
あなた用サプリ 薬局が支えます	10・10	中日新聞(三重)

## PICK UP 身体拘束

〔論説〕病院の身体拘束 「縛らない医療」へ転換急げ	12・8	山梨日日新聞
---------------------------	------	--------

## 連載・安心の設計

身体拘束		読売新聞(東京)
上 介護施設「縛らない」徹底	12・17	
下 精神科病院 信頼関係を重視	12・18	

心の病ありのままに 歌や漫画で思いを吐露	12・2	沖縄タイムス
----------------------	------	--------

## PICK UP ゲノム編集と生命倫理

基礎研究に限り容認 受精卵ゲノム編集 来春解禁へ	12・5	日本経済新聞
ゲノム編集指針案容認 受精卵で基礎研究	12・14	日本経済新聞
ゲノム編集ベヒー 京大「禁止を」見解	12・10	読売新聞(東京)
ゲノム編集 応用側に特許 基礎開発の教授敗訴	9・12	読売新聞(東京)
ゲノム編集 臨床応用は是非	12・13	朝日新聞(東京)
〔風〕ゲノム編集の論じ方	12・6	京都新聞
「見上げてごらん」人ごとではない	12・3	毎日新聞(東京)
望み通りの子ひそむリスク	10・29	朝日新聞(東京)

## KEI ZOKU 医療従事者

83歳 また歩けた 医学博士自らの研究実証	12・28	毎日新聞(大阪)
医学貢献の140人紹介	12・2	佐賀新聞
心電図研究 師弟の集大成	12・19	信濃毎日新聞
医師残業 上限超え設定 厚労省案	12・6	南日本新聞(共同)
医師の働き方点検 第三者機関設置へ	12・19	読売新聞(東京)
看護師に医師の業務シフト	12・21	朝日新聞(東京)

## KEI ZOKU 養成・研修

看護の道へ保育士奮闘	12・31	東奥日報
------------	-------	------

看護師の卵とSNS指針 禁止でなく適切利用学ぶ	12	10	琉球新報	51
看護の道 日本で歩む	12	16	岐阜新聞	51
医学部面接総合評価の試み	12	22	朝日新聞(東京)	52
血管縫合点数で評価 医師の技能向上図る	12	2	福島民報	53
<b>KEI ZOKU 技術・療法</b>				
脊髄損傷で初の実用化 来春にも保険診療に	12	29	北海道新聞	54
世界最小の 心肺補助装置	12	26	山陽新聞(共同)	54
食道疾患 内視鏡で切除 2人に施術 国内で初	12	19	中国新聞	55
「ひと」 「大分産」の医療・介護機器のPRに力を入れる	12	21	大分合同新聞	55
がんゲノム検査 初承認 保険適用で負担減	12	14	北日本新聞(共同)	56
免疫療法の治験、全国で 難治性の膵臓がん	12	28	紀伊民報	56
広がる「ロボット手術」 実績や症例数などで見極め	12	24	西日本新聞	57
<b>KEI ZOKU 病院運営</b>				
患者支援で「便利屋」参入	12	1	北國新聞	58
患者目線「壁を取っ払う」	12	19	日経流通新聞MJ	58
子連れでの来院実現	12	8	宮崎日日新聞	60
日本の技術で省工ネを インドの病院で実証実験	12	18	高知新聞(共同)	60
増える外国人悩む医療現場 2病院の取り組み	12	17	西日本新聞	61

<b>KEI ZOKU 地域医療を支える</b>				
住民が守る地域医療 講演、パネル討論	12	19	岩手日日	62
「ひと」 NPO法人「へき地保健師協会」代表	12	27	毎日新聞(東京)	62
助産師に相談「安心」 遠隔医療サービスも拡充へ	12	24	埼玉新聞	63
<b>KEI ZOKU 連携・ネットワーク</b>				
健康長寿へ 医療・介護連携 データ共有縦割り見直し	12	14	読売新聞(東京)	64
オランダ医療×ICT カルテや投薬ネットワーク化	12	8	朝日新聞(東京)	66
脳卒中治療で連携 画像データ共有	12	19	茨城新聞	67
企業の医療情報ビッグデータ化	12	18	産経新聞(大阪)	68
5Gで遠隔高度医療	12	7	日刊工業新聞	68
サンプル数でも画像診断 必要なビッグデータ人工生成	12	12	日経産業新聞	69
<b>KEI ZOKU 患者・家族支援</b>				
広がり低糖質自販機	12	4	西日本新聞	70
ふれ合い効果 実証研究	12	3	読売新聞(東京)	71
ベネチアングラス 闘病支え	12	1	京都新聞	71
病院出向き貸し出し 入院患者向け評判上々	12	12	信濃毎日新聞	72
小児科外来に温かみ	12	27	静岡新聞	72
ホスピタルアート 気持ち前向きに	12	12	中国新聞	73

# CONTENTS

テーマをより深くお読みいただくために、  
連載記事など一部掲載期間外の新聞記事も掲載いたします。

<b>KEI ZOKU</b>	<b>移植医療</b>	あの子と どこかで また会える……………	12	27	中日新聞……………	74
-----------------	-------------	----------------------	----	----	-----------	----

		「登録が命救う」「骨髄バンク」落語で啓発……………	12	23	大阪日日新聞……………	75
--	--	---------------------------	----	----	-------------	----

<b>KEI ZOKU</b>	<b>ターミナルケア・緩和ケア</b>	尊厳死 公正証書で宣言……………	12	14	北海道新聞……………	76
-----------------	---------------------	------------------	----	----	------------	----

		「天命論争」現代医療考察糸口に……………	12	14	京都新聞……………	77
--	--	----------------------	----	----	-----------	----

		寄り添い家族支える……………	12	19	山形新聞……………	78
--	--	----------------	----	----	-----------	----

		「死ぬ権利」はある？ 戸惑う現場……………	12	17	日本経済新聞……………	78
--	--	-----------------------	----	----	-------------	----

		「聴診記」自分の最期は自分で決めたい……………	12	17	西日本新聞……………	80
--	--	-------------------------	----	----	------------	----

		終末期ケアに 患者の意思を……………	12	7	徳島新聞……………	80
--	--	--------------------	----	---	-----------	----

		在宅の看取り考える 新潟で臨床研究会……………	12	12	新潟日報……………	81
--	--	-------------------------	----	----	-----------	----

<b>KEI ZOKU</b>	<b>精神医療</b>	円滑な社会復帰へ新拠点 「長期化」解消へ……………	12	30	北海道新聞……………	82
-----------------	-------------	---------------------------	----	----	------------	----

		「刑罰でなく治療の場」 触法精神障害者と信頼関係……………	12	29	長崎新聞……………	84
--	--	-------------------------------	----	----	-----------	----

		江戸時代からの松林保全 3万坪に850本治療にも一役……………	12	15	西日本新聞……………	85
--	--	---------------------------------	----	----	------------	----

<b>KEI ZOKU</b>	<b>救急医療</b>	救急車出動 最多更新へ 7月の猛暑日 93%稼働……………	12	22	産経新聞（大阪）……………	86
-----------------	-------------	-------------------------------	----	----	---------------	----

		5Gで救命率アップ 搬送時の患者動画、検査結果……………	12	29	上毛新聞……………	87
--	--	------------------------------	----	----	-----------	----

		「記者の目」救急患者になってみて……………	12	9	南日本新聞……………	87
--	--	-----------------------	----	---	------------	----

<b>KEI ZOKU</b>	<b>予防医療</b>	がん探知犬事業終了 3年計画、2年で……………	12	6	山形新聞……………	88
-----------------	-------------	-------------------------	----	---	-----------	----

		個別に回復目標達成を支援……………	12	6	日経産業新聞……………	88
--	--	-------------------	----	---	-------------	----

		交通事故で重度脳障害 専門病床……………	12	5	毎日新聞（東京）……………	89
--	--	----------------------	----	---	---------------	----

		リハビリ記録「甲賀流」で 行動範囲拡大に効果……………	12	30	京都新聞（滋賀）……………	90
--	--	-----------------------------	----	----	---------------	----

		A1使い心臓疾患解析 検査減、患者の負担軽く……………	12	29	熊本日日新聞……………	90
--	--	-----------------------------	----	----	-------------	----

<b>KEI ZOKU</b>	<b>医薬品</b>	リハビリ効果 薬で高める……………	12	12	日経産業新聞……………	91
-----------------	------------	-------------------	----	----	-------------	----

		インフル新薬で撃退……………	12	31	毎日新聞（東京）……………	92
--	--	----------------	----	----	---------------	----

		がん治療薬 全臓器承認 既存治療効かない患者……………	12	25	北海道新聞（共同）……………	92
--	--	-----------------------------	----	----	----------------	----

		ALS 別疾患薬で治験 iPS使い効果確認……………	12	3	読売新聞（東京）……………	93
--	--	----------------------------	----	---	---------------	----

		化合物探索から臨床まで機能集積 最先端の研究環境……………	12	19	大分合同新聞……………	94
--	--	-------------------------------	----	----	-------------	----

		肝炎などの 新薬開発へ……………	12	13	大分合同新聞……………	94
--	--	------------------	----	----	-------------	----

		「社説」富山産学官事業体 薬都の存在感高めたい……………	12	23	北日本新聞……………	95
--	--	------------------------------	----	----	------------	----

<b>KEI ZOKU</b>	<b>医療行政</b>	社会保障費1200億円抑制 19年度予算案……………	12	26	毎日新聞（東京）……………	96
-----------------	-------------	----------------------------	----	----	---------------	----

		妊婦加算 当事者らはどう見る……………	12	3	朝日新聞（東京）……………	98
--	--	---------------------	----	---	---------------	----

		妊婦加算凍結 1月から……………	12	20	毎日新聞（東京）……………	99
--	--	------------------	----	----	---------------	----

		オハマケア「無効」判決……………	12	16	朝日新聞（東京）……………	99
--	--	------------------	----	----	---------------	----

危険な感染症に備える	より正確・迅速に検査…	12・12	毎日新聞（東京）…	108
無痛分娩受け入れ体制	産科麻酔の専門医迎え	12・1	読売新聞（名古屋）…	108
信頼回復カルテ閲覧で	…	12・16	読売新聞（東京）…	106
〔論説〕千葉市・医療事故公表指針	説明責任を果たせるか	12・3	千葉日報…	105
悲しみの力…	…	12・31	産経新聞（東京）…	104
画像診断書「未開封」4割	主治医の確認形骸化	12・28	読売新聞（東京）…	104
院内の読影体制に問題	特別調査委が報告書公表	12・14	東京新聞…	104
<b>KEI ZOKU 医療安全</b>				
がん検査結果を放置	60代男性判明遅れ…	12・22	熊本日日新聞…	103
卵巣、左右取り違い摘出…	…	12・21	下野新聞…	103
患者と接触は128人	カルテに撮影記録なし…	12・7	埼玉新聞…	102
女性の結核見落とし	肺の陰影気付かず…	12・7	埼玉新聞…	102
<b>KEI ZOKU 医療事故・訴訟</b>				
医学部受験生を救済	定員超過容認通知…	12・26	読売新聞（東京）…	101
<b>KEI ZOKU 医療ニュース</b>				
〔体温計〕病を得た医師…	…	12・20	毎日新聞（東京）…	100
〔風向計〕…	…	12・13	西日本新聞…	100
<b>KEI ZOKU 意見・社説</b>				

建築確認の手続き終了…	…	12・29	朝日新聞（福岡）…	110
処方された抗生物質「適切な服用心がけて」…	…	12・13	日本経済新聞…	110
<b>KEI ZOKU 医薬品の安全</b>				
免疫抑制剤3種 妊婦も使用可に…	…	12・15	秋田魁新報（共同）…	111
<b>KEI ZOKU 災害に備える</b>				
災害時に被災地へ	22年完成新校舎へリポート利用	12・12	毎日新聞（福岡）…	112
病院2割 災害設備不十分…	…	12・22	読売新聞（東京）…	112
〔解く追う〕初動搬送計画作成へ…	…	12・9	愛媛新聞…	113
熊本、真備被災者と歩む…	…	12・7	読売新聞（大阪）…	114
「もつと医療の拡充を」富岡への帰還意向調査…	…	12・1	福島民友…	114
119番3時間で735件…	…	12・24	北海道新聞…	115
災害時の情報伝達を確認…	…	12・2	長野日報…	116
災害医療 人材育成急務…	…	12・1	神戸新聞…	116
歯型で身元確認 きょう実践的研修…	…	12・16	中日新聞（三重）…	116
<b>表紙写真</b>				
日没前が絶景 高越山とコスモス…	…	12・8	徳島新聞…	表紙
キーワード検索…	…	119	…	119



# 悩み語り合い、食の情報も

国民の2人に1人ががんになるといわれている中、患者らが気軽に集えるカフェの取り組みが注目を集めている。地域の中で、つらい思いを分かち合ったり、学んだりできる場となっている。



九州・山口発

福岡県飯塚市にあるカフェ「ブルソファ」。飯塚病院（飯塚市）で広報室長などを務めていた萱嶋誠さん（44）が、今年6月に開いた。ランチや飲み物などを提供する一方、毎月2回、店内で患者や家族が集まって語り合うサロンを催す。

8年前に母親が大腸がんを患い、患者家族の不安な気持ちを理解した。2013年に患者

## がんの人が集えるカフェ

や家族が交流する病院のサロン「がんコミュニティ」の開設にも携わった。ただ、病院には治療という本来の役割がある。「同じ種類のがんの患者同士で話したい」といった要望に応えるには限界があり、退職して地域でカフェを経営することを決めた。

「手術前は不安で、聞きたいことがたくさんあったが、主治医は忙しそうで……」「手術の後遺症か、抗がん剤の影響かわからないが、体がきつい」。7日夜、患者やソーシャルワーカー、在宅ホスピスの経験者らが語り合った。胃がんを患う40歳の自営業の女性は「友人には『気を使わせてしまうかも』と思って言えないことが多い。気兼ねなく病気のことを話せる場が必要」と話していた。

萱嶋さんは「つらい思いをしている人が、少しでもホッとできるよう、お手伝いしたい」と話す。詳細は店のホームページ（<https://www.cafeblue.sofa.com/>）で確認できる。参加無料だが、飲み物の注文が必要。

福岡市東区箱崎の「養生カフェことほぎ」は、乳がん患者らに栄養価を考えた食事を提供する。栄養学を研究している黒木美紗さん（38）が店長を務める。もともと父親が隣で乳腺・甲状腺専門クリニックを開いており、様々な食の情報に戸惑う患者の姿を見てきた。正しい情報を伝え、闘病中にもおいしく食事してほしいと、3年前に開店。店では、野菜の低温蒸しや、日替わりの肉、汁物、白あえ、

無農薬米などの料理を提供する。肉を敬遠する患者もいるが、取り過ぎなければ問題ないとのデータから目安の70gを使うメニューも。抗がん剤治療で味覚が変化した患者が食べられるよう、ソースを選べるなど工夫をする。一般の利用客にも好評だ。カフェで開いていた栄養学講座は休講中だが、来年以降再開し、がんと栄養をテーマに研究データなどを紹介する予定だ。

「患者やそうでない人も、楽しく食事をして、元気になってほしい。正しい情報を発信する場にしたい」と話す。主なメニューは850～1500円。営業は午前10時から午後6時まで。日、水曜日は休み。問い合わせは同店（092・517・5010）へ。（後田ひろえ）

読 売（福岡・朝刊）  
2018年11月14日（水）



# 「哲学外来」で癒やす

「今日はどこから来たの？」  
東京都内の教会で8月中旬にあった「がん哲学外来」。

コーヒーにミルクを入れながら樋野さんが尋ねると、患者は話し始めた。がんとわかったときのショック、自身の気持ちの落ち込み……。白衣は着ない、カルテもない。病気に悩む悩みを聞く「外来」。2008年に始め、大学病院や喫茶店など様々な場所で開き、約3千人の患者や家族らと対話してきた。薬を処方する代わりに出すのは、「言葉の処方箋」。「八方ふさがりでも天は開いている」「やるだけのことはやって、あとは心の中でそっと心配する。ほっとけ症候群」。目の前の人が自身の人生と向き合えるよう、言葉をかける。語録は、学生時代から愛読する政治学者や経済学者らの著作から引用もする。

アスベスト（石綿）が原因の中皮腫患者を専門に診る外来を担当していた05年。治らないと悩む人の思いを受け止め、主治医と患者の間を埋める役割が必要なのではないかと

生涯のうちに2人に1人がなるがん。患者やその家族の悩みを聴き、心の痛みに寄り添う「がん哲学外来」を続ける病理医で順天堂大学教授の樋野興夫さん(64)が、日本対がん協会の朝日がん大賞に選ばれた。賛同者は増え、活動は全国に広がる。その一つ、名古屋の高校生の団体は協会賞を受ける。

## 朝日がん大賞の病理医・樋野さん

## 痛みに処方する言葉たち 全国に広がり

になり、病院外にも出向くようになった。

鳥根県の無医村で生まれた。幼い頃は体が弱く、母親に背負われ隣村の診療所まで通った記憶が医師になった原点だ。しかしなまりがきつくと、人と話すのは苦手だからと病理医になった。

患者の相談内容は、病気や治療の悩みが3分の1、あとは家族を中心とした人間関係の悩みという。この10年間で、職場で異動を余儀なくされたなど仕事の悩みは少なくなってきた。だが、心配しすぎとか冷たいといった、主に家族に不満を抱く人間関係の悩みは減らないという。そんな相談には「患者を支えようとか、互いに関心を持ってあげようとか思わず、そばにいて寄り添うだけでいい。相手の必要に共感することが大事」と答える。

樋野さんの活動に賛同した医師や看護師らが集まり、患者や家族と語り合う活動も広がっている。敷居は

## 当事者だから伝えられる

### 日本対がん協会賞・団体の部の高校生

団体の部で日本対がん協会賞を受けるのは、名古屋市の高校生4人が中心で運営するメディアカルカフェ「どあらっ」だ。代表の中村航大さん(16)は小学2年の時に脳腫瘍が見つかり、16年に再発。リハビリテーションをしていて、樋野さんと出会った。後に、一緒にカフェを運営することになる幼なじみの彦田栄和さん(16)の母親がメディアカルカフェを開いていたことが縁だった。

「やってみたら」と樋野さん

高くなく、お茶でも飲みながらという趣旨で「メディアカルカフェ」と名付けた。現在、全国のクリニックや教会合わせて約150カ所で開催されている。カフェを企画・運営するコーディネーターの養成講座も11年に始まり、これまでに80人が誕生しているという。

国内でがんと診断されるのは、年間100万人超。悩みに対応するには、7千カ所の「カフェ」が必要だと考える。哲学外来を「受診」した患者や家族には必ずこう勧める。「メディアカルカフェ、あなたもやってみませんか」

テーマにした小学生もいる。中村さんは「興味を持ってくれる人がいてうれしかった」と話す。

小学校での講演活動も始めた。質問タイムで「なんでそんなに元気なんですか?」と問われ、「考え込まないことが自分の個性だと思おう」と答えた。

「がんを経験して再発しても、こんなに元気なんだよと、治療している人にも知ってほしいと思う」 (月鏡彩子)

がん患者を支える対話 思いをくみとるには

# 記者有論

オピニオン編集部

いわさき けんいち  
岩崎 賢一



気づいた。  
08年、順天堂医院で5日間限定で  
哲学外来を開くと、予約でいっぱい

## 心の

から提案され、中村さんは「自開くと、小学生ら6人が参加し  
分の経験が役立てば、と『はた。参加後に「がんについて知  
い』と返事をしていた」。  
らない子が多い」と自由研究の

朝 日(東京)・朝刊  
2018年9月5日(水)

子育て中のがん患者の女性が語り合う場、「がんママカフェ」の記事を2月に書き、まもなく10カ月になる。多摩ニュータウンの住宅街にあるカフェで、月1回ひっそりと悩みや不安を吐露し、支え合う。その後、少し離れた地域から次々とママが訪れるようになったと聞き、何が起きているのかを知りたくなった。記事は、2月4日付朝刊「窓」。

14日にはwithnewsでカフェの様子や背景を探った記事がネット配信され、大きな反響があった。始めた2人に会った。乳がん経験者で小学生のママである井上文子さん(49)は、「記事を読んだ夫からLINEで『こういう場所があるようだよ』というメッセージが届いて知った、というママが何人もいました」と語る。カフェを提供し、治療中でもある田原愛子さん(65)は、「外から店内をのぞいて、知っている人がいないことを確認してから入ってくる人もいます」と話す。

がんは2人に1人がかかる。医療者や患者支援者は「隠すようなこと

## 闘病も育児も 支えあい

がんママカフェ

ではない」と言う。ただ、不安や副作用、ホットフラッシュ(ほてり)、浮腫でふさぎ込みがちな人もいる。

私は、2016年から始めた患者インタビュアーや「声」欄の投稿者のやりとりで40人ほどの働き盛り世代、子育て世代に話を聞いてきた。多かつたのは孤立感だ。病院を一步出れば日常生活がある。カフェで語られる話題も、夫、家事、子どもが多い。「夫に家事を教えないといけない」「最初は優しくかったのに……。今もホルモン療法でしんどいのに手伝ってくれない」「入院や通院中、子どもをどうしようか」などだ。なぜ、がんママカフェなら気持ち解放されるのか――。

一つは、患者会は、比較的年齢層が高く、子育て中のママ同士の悩みを語り合えないと感じている点だ。また、先輩患者に諭されるような雰囲気も避けたがっている。三つ目は、病院内や公共施設なら参加しなかったという人も多いという点だ。

政府は2007年からがん対策推進基本計画をたて、計画的な対策を

進めている。患者や家族が抱える幅広い分野の相談を1カ所ですべての相談支援センターの充実や、その人材育成を図ってきた。このような課題解決型の窓口の重要性は分かるが、カフェを訪ねてくる人が絶えないのはなぜかも考えて欲しい。

井上さんらは今、家族の接着剤になればと考え、パパ側の気持ちを知る会を試み始めている。「お金の不安は話せない」「フォロワーの仕方が分からない」といったパパ側の胸の内も、他人の話なら聞けるといってがんママもいるためだ。

私たちは「がんとともに」と簡単にいうが、こうした小さな積み重ねや家族の修復作業がとても大事だと考えさせられる。

朝 日(東京)・朝刊  
2018年12月1日(土)

# がん闘病「1人じゃないよ」

## 患者たちの声 ネットで生配信

「1人じゃないよ」「疲れたら休もう」。がんと向き合う「闘病中のあるた」へのメッセージを伝えるインタビュ―を生配信する、インターネット番組「がんノート」が16日、100回を迎える。「心強い」といった感想が寄せられ、過去の配信は1万回以上再生されたものもあるといい、共感が広がっている。

NPO法人「がんノ―」られない人も、ベッドの上ト―が企画し、2014年 であれどもくすと笑に始めた。6年前に胚細胞 腫瘍の診断を受けた代表理 の伝え方や恋愛、お金、性 事の岸田徹さん(31)が主 にも遠慮なく切り込む。

「再発したときどうだっ た?へこむとかなく?」 「(何度も手術があつて) もうさすがに手術いやだ、 とかならなかつた?」。笑 いを交え、岸田さんは軽妙 にトークを進める。外に出

### 「前を向けた」

がんになり、2度目の手術で、岸田さんには射撃障 害という後遺症が残った。 「がんを告知された時より もショックで、どん底まで

## 「心強い」広がる共感

■出演者が語った主な内容

●30代女性 子宮頸がん

手術入院の前日に家出。母から「とにかく生きなさい」と長文のメールが届いた。つらかったとき、家族の存在が大きかった。

メッセージ「現実的にあきらめなくてはいけないことはあっても人生はあきらめないで!」

●30代女性 乳がん

妊娠する力を保つために卵巣や卵子の凍結を検討したが、費用が少し高いと感じる。妊娠率などの情報も届けてほしい。

メッセージ「明るい未来の話をしよう。できないことよりできることに目を向け続ける」

●30代男性 大腸がん

再発した時は、精神的なダメージが大きかった。患者会で話をしたらみんなと一緒に泣いてくれて「思いをはき出せた」とプラスに変わった。

メッセージ「1人じゃなかつた。みんながいてくれた。だから『がん』が『晴れる』で、がん晴れる」

落ち込んだ」。主治医は「しばらく様子を見ましよう」と話したが、不安が募る。インターネットを検索したが、ほしい情報はみつからなかつた。探し続け、似た状態になった男性の妻のブログを発見。連絡を取ると「3カ月で自然に治りましたよ」と言われた。

絶望しなかつた日々になつた。光が差し込んだようだったという。「同じがんでも治療法や副作用の出方が違う。仲間がいる、治るかもしれないとわかり、前を向



### 番組 あす100回

出演後、亡くなった仲間がいた。再発を繰り返しても「笑顔でいれば幸せ」と

「患者会やイベントで出会ったがん経験者らに声をかけ、患者が知りたい情報を発信しよう」と始めた。月2回程度、日曜日などに配信している。約1時間半の間に毎回約300人が視聴。コメントも20〜30件ほど寄せられる。「視聴者が匿名で質問でき、同じ時間を過ごすことで少しでも孤独が解消できる」とライブ配信にこだわる。

100回目は16日午後3時から。ゲストには、昨年精巣腫瘍と診断された岸田さんの7歳年上の兄を迎える。当日の生配信やこれまでの配信は、がんノ―ホームページ(<https://gannote.com/>)から無料で視聴できる。50回までの配信は冊子にまとめられ、がん教育でも活用され始めている。(月舘彩子)

朝 日(東京・夕刊)  
2018年12月15日(土)

# がんと闘う母漫画に

## 比治山大短大部の村中さん

比治山大短期大学部(広島市東区)美術科1年の村中幸恵さん(18)は東広島市高屋町IIが、乳がんと闘ってきた母千鶴さん(49)の姿を4コマ漫画に描き続けている。深刻な病状や薬の副作用で落ち込みがちな心を励ますように、ユーモアを交えて描き、がん患者仲間たちと共に共感の輪が広がっている。

(鈴木直美)

漫画は、千鶴さんが抗がん剤治療中という設定。副作用で髪が抜けても「むだ毛もない。脇をそる必要もない」と笑い飛ばしたり、強風でかつらが飛ばされないうような取られてスカートがめくれたりする姿を明るく、コミカルに描く。幸恵さんは小学生の時から千鶴さんががんと闘う姿を見てきた。6年前に切除手術を受け、抗がん剤治療も続け、今もがん再発の不安と向き合う母と「いつも冗談を言って笑い合うことで乗り越えてきた」と感じ、漫画で表現することにした

東広島市で月1回開くサロン「こころの駅舎」の会報紙第115号に連載中。千鶴さんが通うサロンで患者仲間から聞いたことを描くこともある。連載はサロンの運営スタッフに頼まれたのがきっかけだったが、「母の日常を通じてがんのことを分かりやすく伝え、患者さんや家族に少しでも前向きな気持ちになってもえたら」と話す。短大で学んだ技術も役立っている。

肝臓がんなどを患った金原華恵子さん(77)は東広島

## 患者仲間に笑顔広がる

市IIは「うまいよね。同じような経験に『あるある』って思わず笑い、気持ちも軽くなる」と毎号楽しみにしていると話す。

娘に描かれる立場の千鶴さんは「抗がん剤の副作用はつらいけれど、漫画が病気に上手く折り合いをつけてる妙薬になれば」と願う。サロンは、市の委託を受けて東広島地区医師会地域連携室あざあが運営。毎月第4木曜に芸術文化ホールからで開催している。あざあ082(493)7360。

中国新聞・朝刊  
2018年10月15日(月)

がん患者らの集いの場づくりに励む



がん患者らを支援する日出町のNPO法人「クローナ・フエゴ」で、2016年の創設時から代表を務め、患者らが憩うサロンの運営などに力を注ぐ。集いの場づくりにとどまらず、バス旅行やアロママツサージ、コンサートなど生きる自信につなげようとさまざまなイベントも企画している。「多様な悩みを抱える患者たちが気軽に交流できる場は必要。多くの出会いを届けたい」と意気込む。

自身もがんの闘病経験がある。58歳の時、検査で血液のがんである悪性リンパ腫にかかっていることが判明した。治療で現在は症状がない状態だが「生かされた幸運良く残った時間で、世の中にお返ししたい」という思いが活動の原動力になっている。

## 多くの出合いを届けたい

サロンをつなぎ、交流や情報交換できる体制の構築。呼び掛けに賛同するサロンは多いが、地域によっては「個人情報を出したくない」などの声もある。「参加者の心の繊細な部分に触れる取り組みでもある。対話を通し、望まれるネットワークの在り方を考えたい」と力を込める。

花木を育てるのが趣味で「色や香りにほっとする」という。植物以上に楽しみなのは、空手に打ち込む中学生の孫の成長。「めきめきと実力を付け、頑張る姿に元気をもらえる」。町内大神に妻と2人暮らし。(渡辺久典)

谷口 道徳さん(74)

大分合同新聞・朝刊  
2018年9月12日(水)

# がん乗り越え ひたむきに、前向きに

がんの治療体験を通して、生と命について考えるセミナー「治療の先に見えたもの」が神戸市内で開かれた。がん患者らのグループ「ゆずりは」（芦屋市）が企画。「必死に生きたことで気付いたことがある」と、同グループメンバーが告知から現在までの心の変化をありのままに語り、患者や家族、遺族ら約40人と体験を共有した。

## 患者グループが神戸でセミナー

同グループは1996年 込めた。

### がん友が支えに

「悔しいけれど、病気とも巡り合いですね」と語り始めたのは、同グループ副代表の藤本和子さん(64) 大阪府。7年前、兄を喉頭の福祉情報を紹介するサイトをつくったNPO法人「みやっこサポート」の中島恵美さん(52) 西宮市。昨春、自分にも乳がんが見つかった。ステージ1の小さな腫瘍だった。「早く見つかってよかった」と思う半面、軌道に乗り始めた仕事に全力で打ち込めないことがつらかった。手術後は傷痕を見て言葉を失った。

「でも、なくしたからこそ分かることがある。患者として家族として、今の仕事は、自分の使命」と力を

## 告知からの心の変化語り合う

「治療の先に見えたもの」が神戸市内で開かれた。がん患者らのグループ「ゆずりは」が企画。「必死に生きたことで気付いたことがある」と、同グループメンバーが告知から現在までの心の変化をありのままに語り、患者や家族、遺族ら約40人と体験を共有した。

### 仏門をたたく

同グループ代表の宮本直治さん(58) 西宮市は11年前、病院の待合室で、震える膝頭を押さえた自分を静かに振り返った。「ステージ3の胃がん。リンパ節にも転移」。告知後の記憶はほとんどない。医師の説明も耳をすり抜けた。術後は食べ物を受け付けず、下痢や嘔吐を繰り返した。こんなに苦しいものかと、経験者を探して足を運んだのがゆずりはだった。

後悔することは何だろう」と考えた。24歳の時に母を肺がんで亡くしてから仏教に興味があった。病気を経験し、「真剣に学びたい」と一念発起。3年かけて僧籍を取得した。西本願寺でお勤めをした際に「この人生をどう歩んでいくかが私に与えられた課題」。自然とそう思えた。

講演を聴いたがん患者らからは「まだ前向きにはなれないが、気持ちがどう変化するかを楽しみにしたい」などの声が上がった。宮本さんは「病気になった事実を変えることはできないが、その意味を変えることはできる。話すことで気持ちが整理されたり、誰かの言葉に気付かされたりする。投げ出さずに次の一歩を踏み出そう」と締めくくった。ゆずりは事務局 ☎080・1476・5715 (市立芦屋病院総務課)

神戸新聞・朝刊  
2018年12月12日(水)

# 若年性乳がん 悩み共有

20代や30代で乳がんになった人たちが交流する「おしゃべり会」が札幌で開かれるようになって1年。同会を開いている患者支援団体「Pink Ring 北海道branch（支部）」代表の永井都穂美さん(41)＝札幌市＝は「若年性

乳がんは罹患者が少なく、患者や体験者の出会い、交流の場が少ない。恋愛や結婚、妊娠や出産、子育て、仕事など若い世代特有の悩みや不安を抱えています。でも、1人じゃない、仲間がいます」と呼びかけています。(編集委員 岩本進)

## 札幌の「おしゃべり会」1年

### 参加者「体験聞いて安心」

を持ち帰るのが狙いです。

がんを  
防ごう

3日、札幌市西区の札幌ことに乳腺クリニックの会場に、全道から三十数人の若年性乳がんの患者や体験者が集まりました。札幌で4回目のおしゃべり会です。前半は、札幌大病院の認定遺伝カウンセラー、宮崎幸子さんのセミナー「遺伝性乳がんについて」。正しい知識と最新の情報を学びました。後半は、体験者のおしゃべり交流会。同世代の仲間と出会い、気兼ねなく体験や悩みを分かち合い、安心とあすからの元氣

「30代までに発症するのは乳がん全体の6%程度です。病院でも患者会でも、若い世代の患者同士が交流会がなかなかない。私もすごく落ち込んで、孤独でした」。永井さんも、31歳で乳がんが見つかった体験者です。

生ぎられる社会の実現を目指す支援団体「Pink Ring」と永井さんは、札幌で初のおしゃべり会を開きました。

全道から33人の患者や体験者が集まりました。「初めは緊張していましたが、すぐに話が弾み、最後はみんな笑顔でした。仲間がいた。私自身もつながりを感じました。体が温かくなる不思議な安心感に包まれました」と思い起こします。

がんになって約2年後、看護師だった永井さんは、自身が治療を受けていた札幌ことに乳腺クリニックに就職。病棟看護師として多くの乳がん患者と向き合っています。

昨年11月、東京でおしゃべり会を開くなど若年性乳がん体験者が希望を持って

札幌で開いています。

がんと患者を支える対話く思いをくみとるにはく

うした場が必要なのだとあらためて感じています。このコミュニティを大切に続けて、今後は札幌以外の各地でも開きたい。若い乳がん患者に正しい情報を伝え、若くして乳がんになっても力強く希望を持って生きていく仲間がいることを社会に発信したい」と話しています。

◇ 「Pink Ring」

は、20代や30代で乳がんになった人や若年性乳がん特有の悩みを共有できる人ならば年齢を問わず参加できる。北海道branchは来年1月28日に札幌でおしゃべり会フチ(ランチ交流会)を、3月16日には東京での講演を札幌など3支部で同時中継する「サミット」を開く。問い合わせは、北海道branchのメール(pinkring.hokkaido@gmail.com)か、東京本部のホームページ(http://www.pinkring.info/)へ。

3日のセミナー後のおしゃべり交流会は約2時間、続きました。自己紹介が終わると、あちこちから弾む声や笑い声が聞こえました。しみみりと話し込み涙を流す光景も見られました。初参加した、今年乳がんになったという女性(30)＝千歳市＝は「同世代の乳がん体験者と初めて出会えた。出産や子育てが不安でしたが、先輩体験者の話を聞いて安心し、『1人ではない』ことを実感しました」と笑顔で話しました。

北海道新聞・朝刊  
2018年11月14日(水)

# 負担分かつつ仕組みを

## 京都市立病院 がん患者就労支援フォーラム

がん患者の治療と仕事の両立を考える京都市立病院主催の地域医療フォーラムが、京都市下京区で開かれた。病院側と企業の産業医がそれぞれの立場から発表した上で、患者の就労を支えるため周囲が負担を分かち合う仕組みづくりの必要性を訴えた。

患者にとって、仕事を続けながら通院時間をどう確保するかは大きな課題だ。同病院では主に乳がんなどを対象に、継続的に必要な放射線治療について、夕方の照射時間を2015年9月に延長した。昨年度に延長時間帯で対応した患者49人は8割が有職者で、40

代、50代の働き盛りの世代が33人に上った。

放射線治療科の枚岡（まぎ）が、京都市下京区で開かれた。病院側と企業の産業医がそれぞれの立場から発表した上で、患者の就労を支えるため周囲が負担を分かち合う仕組みづくりの必要性を訴えた。

### 放射線延長も 治療進行に伴い課題は変化

病院内は初診時の聞き取りに基づき、女性の勤務形態に合わせて放射線照射の時間をさらに後ろ倒しして受け入れることにしたほか、照射場所を定めるマキキングが職場のユニホームに隠れるよう配慮した。家事負担は夫や母の協力を得られることも確認した。

### 退職まだまだ多く 労務管理と社内研修進めて

射に伴う皮膚炎や倦怠感、夫の出張による家事増加といった心身の負担感を看護師に伝えた。後期には皮膚炎が悪化、痛みが激しい時は軟こうを追加するよう助言を受けたが、業務中には難しかったという。女性は「治療後に2カ月間も倦怠感が続いたのが最もつらかった」とも打ち明けた。

枚岡氏は「治療の進行に伴って課題は変化することを示された事例だった。段階に応じたニーズを把握したい」とした上で、「対応は治療現場だけでは限界があり、治療と職場、家庭をつなぐ役割が看護師にあると考えている」と語った。

生命保険会社で産業医を務める和田孝氏は、年間86万7千人（2014年）が新たにがんと診断される中、就労支援は社会的ニーズが高まっているとの観点で発表した。

がん患者の30%が診断後に依願退職しており、解雇も4%、自営業者は13%が廃業という厳しい現実を指摘した。体力低下や通院時間確保の困難さといった理由が挙がっており、「社内の配置転換など労務管理で克服できる。周囲が応分の負担をして支えることが必要だ」とした。患者の心理的負担について、職場で就労支援への理解を広げる研修を進めるべきとした。

労働者への健康面の投資を経営的に行うことで、意欲や生産性を高め、結果的に業績や株価の向上につながるとする「健康経営」の考え方を取り上げ、就労支援は「事業者にもメリットがある」と訴えた。

（鈴木雅人）

京都新聞・朝刊  
2018年10月30日（火）

## がんの悩み相談室再開

守山市図書館 看護師ら出張対応

ターの名称だった2014年11月、病院より気軽に訪れられる場所として出張相談室を開設。16年10月に始まり、津市の病院7カ所にあるが、図書館で相談が受けられるのは守山だけという。

など幅広く相談を受け付ける。

毎月第2、4金曜日  
午後1時半～3時半。  
1人1時間以内で無

82-8141、申し込みは同図書館077-5836-1639。  
（西田昌平）



11月にリニューアルした守山市図書館(守山5丁目)で、がんの検診や治療に関する相談室が再開し

た。隣接する県立総合病院のがん相談支援センターが運営する県内の図書館で唯一の出張相談室で、「誰に聞け

ば良いか分からないが、人の悩みがある時、利用してもらえれば」と呼び掛けている。

同病院は成人病センターは彦根市や大

た同図書館の建て替えに伴い、相談室を一時休止していた。

現在、がん相談支援センターは彦根市や大

京 都(滋賀)・朝刊  
2018年12月4日(火)

# がん治療と仕事 両立支援

## 県済生会病院 国モデル指定

がん患者の3割が「働く世代」(20〜64歳)といわれ、仕事と治療の両立の支援の重要性が叫ばれる中、県済生会病院(福井市)は本年度、厚生労働省の「がん患者の仕事と治療の両立支援モデル事業」病院に北陸で唯一指定された。全国7施設のうちの一つ。患者それぞれの治療や生活、勤務情報を総合的に把握し「両立プラン」を策定、診断初期の段階からサポートしていく。

(前田和也)

た、病気の従業員の負担を軽減する制度がある企業も少なく、仕事と治療の両立支援は社会的課題になっている。

個々人の「両立プラン」をたてて支援する。国はそれらの効果を把握して今後の政策に生かす。

県済生会病院は、国立がん研究センターの認定を受けたがん相談支援センターがあり、相談支援員が常駐。ハローワークや福井産業保健総合支援センターと連携し、治療状況や希望職種、労働時間の制限などを記載した就労相談表を独自に作成するなどの取り組みを進めてきた。今回の指定はそうした実績が認められ、全国に約400ある「がん診療連携拠点病院」の中から国立がん研究センター中央病院(東京)などとともに選ば

れた。これまでの取り組みに加え、国が作成した「仕事とがん治療の両立お役立ちノート」を活用

がんの治療は、進行度合いや部位によって個人差はあるものの、短期入院と通院が主流になっており、治療を受けながら働く人は増加している。一方、放射線治療などで定期的な通院が必要になったり、副作用で体調に不安を抱えたりする場合があります。仕事と両立できずに退職する人が全体の患者の3割超に上るとの調査もある。ま

### 北陸唯一患者に合わせプラン策定

りする場合があります。仕事と両立できずに退職する人が全体の患者の3割超に上るとの調査もある。ま

た。これまでの取り組みに加え、国が作成した「仕事とがん治療の両立お役立ちノート」を活用

福井新聞・朝刊  
2018年9月27日(木)

# 患者の意思決定 支援へ

## がんタウンミーティング

### 看護師同席の説明要望

第21回県のがん対策に関するタウンミーティング（主催・琉球大学医学部付属病院がんセンター）が10日、浦添市でだこホール多目的室で開かれ、がん患者が適切な意思決定をするために必要なことをテーマに、患者や医師、支援者らが意見を交わした。約30人が来場した。

### 10項目の制度化提案

27歳で血液がんの一種 支えられた一方で、死の恐「悪性リンパ腫」を発症し、怖を抱える天野さんに対し2度の再発を経験した全国 「根性がない」と言わんばがん患者団体連合会の天野 かりに「説教」をした医師 慎介理事長は、不安や病気 もいたと振り返った。そのを認めたくない否認などの 上で「当時はよく分からな患者心理を説明。「患者が いまま、すみませんと謝るどんな状態にあってもでき 自分がいたが、傍らに看護 師がいれば、その医師を制 する」という主治医の言葉に してくれなかったかもしれない」

と実感を込めた。 国が指定するがん診療連 携拠点病院の整備指針は、 医師が患者に診断結果や病 状を説明する際、看護師や 医療心理に携わる専門職な どの同席や、他の医療機関 に意見を求めるセカンド・ オピニオンの提示などを定 めている。

しかし、琉大病院がんセ ンター長の増田昌人医師は 「県内の病院では十分に実 現できていないのが現状」 と強調。看護師などの同席 をはじめ、病状や治療方針 を説明し患者の同意を得る インフォームド・コンセン トに30分以上かけることな ど10項目の制度化を提案し

た。 フロアからは「医療者が いつも忙しそうなので、気 を使ってしまおう」「勇気を 出して医師にセカンド・オピニオンの話をしたら叱ら れた」といった体験談が寄 せられた。増田医師は「わ れわれの同業者よりも、県 民や患者の声が何倍も強 い。おかしいと思ったら声 を上げてほしい」と要望。

天野さんは患者の意思決定 支援で医師が果たすべき役 割をチェックリストにまと めるなど、確実に実行され る体制づくりが必要と訴え た。

沖縄タイムス・朝刊  
2018年11月14日（水）

# ネットでセカンドオピニオン

がん治療に際し、主治医でない別の医師に意見を求めるセカンドオピニオン。一般には患者と医師が直接対面して行うが、近年はイ

## 選択 く

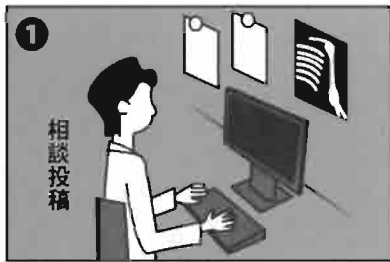
セカンドオピニオン して医師から医療に関 は、主治医から提供さ する意見を受けられる れた書面や画像検査結 サービス「ファインド

## ラインで対話

亀田総合病院（千葉 県鴨川市）は今年9月、 パソコンやスマートフ ォンを介して、腫瘍内 科の医師とがん患者が 対話しながらセカンド オピニオンを提供する サービスを始めた。 同科は07年から患者

ライン診療ソフトを使 うことで、地域を問わ ずに患者を受け付けら れ、これまでに四国地 方などからの利用もあ ったという。 患者は事前に主治医 からの診療情報や画像 データなどの資料を郵

インターネットを使った  
セカンドオピニオンの流れ



フラインドミーのレポートのイメージ

Findme  
レポート提出日: 2018年07月30日  
ID: 53540010  
年齢: 40代  
性別: 22歳  
職業: 日本産科婦人科学会, 産科婦人科専門医, 日本産科婦人科学会, 日本産科婦人科学会, 日本産科婦人科学会, 産科婦人科専門医  
年収: 年収不明  
勤務先: 2500以上  
所属: 産科  
■ 前提  
当サイトのご利用は、ご自身の責任において行われます。これからの内容は、誤謬、誤差、誤解等を行っていただき、ご提供いただいた情報のみを参照して判断されるものであるという前提でお読みください。また、このレポートは、今後の治療方針等を医師と相談し、決定する際のみご参考としてご利用いただくことを目的として第三者の立場から作成するものであることをご理解ください。  
■ 治療法の選択 (列挙)  
① 術式詳細を掲載、コメント欄で内容をコントロール (医師の方針)  
② 手術時間  
③ 術後ケアや管理施設の内装情報  
■ 各治療法の特徴 (長所短所リスクなど)  
① 手術費用が国保が適用可能で高く、かつ手術後の経過から手術を受けるべき、という状況であればこの方針が第一選択

インターネットを使ったものまで登場している。新しい仕組みと使用の際の注意点をまとめた。  
【高野聡、五味香織】

相談投稿→医師名乗り→回答→治療法  
地理的・時間的制約な

果などを基に、別の医師から病気の症状や治療について見解を聞く行為だ。日本では、1990年代後半から知られるようになり、2006年にはセカンドオピニオンのため主治医が診療情報を提供する診療報酬が付くようになった。このため専門外来を設ける病院が増えるなど、普及が進んだ。

セカンドオピニオンには公的医療保険は使えず、費用は医療機関ごとに異なる。国立がん研究センター中央病院の場合、約1時間の相談で4万3200円かかる。

医療IT企業「リズンホワイ」(塩飽哲生社長)は今年4月、インターネットを利用

「ミ」を開始した。このサービスでは、同社が大規模病院勤務で経歴10年以上の医師約1200人を登録。がん患者が相談を投稿すると、医師が匿名で名乗りを上げる。患者は、医師の履歴書に書かれた経験年数や論文数、専門医資格などから依頼先を選び、医師名が書かれたレポートを受け取る。

塩飽社長は「医師法では診察していない患者への診断、治療、薬の処方をしていないため、レポートの情報は、病気の概要と一般的な治療の選択肢が中心」と説明する。

現在までの利用者は数百人。東京都練馬区の会社員、川口拓志さん(45)は今年5月、人間ドックで初期の食道がんが見つかり、このサービスを利用した。「以前、大きな手術を受けた時には他の選択肢を考えると手術を受ける時は、別の医師の意見も聞いてみたかったが、どの医師に聞けばいいかわからなかった」と語る。

最初の病院では「手術で食道ごとがんを取り除き、胃で食道を形成する」と説明された。そこで相談を投稿し、「経歴39年」の医師に回答を依頼すると、手術のほか、内視鏡での切除や放射線治療など四つの選択肢を示すレポートが届き、内視鏡による切除を選んだ。

川口さんは「いろいろな治療法から選べたかった。対面のセカンドオピニオンでは、医師に無言の圧力を感じてしまい、思った通りと対面でセカンドオピニオンをしようとしてきたが、房総半島南部にあるため、患者には移動の負担が大きかった。オン

送し、予約時間に医師から連絡を受ける。料金はカード決済で30分、2万1600円。60分3万2400円。

の決断ができなかった人には利用しやすいと思う」と振り返る。川口さんの相談に回答した虎の門病院分院の「(川崎市高津区)の宇田川晴司・分院長(消化器外科)は地理的、済で、1人目2万9800円。2人目からは2万9800円。

セカンドオピニオンを活用するがん患者はまだ多くない。がん患者の支援に詳しい国立がん研究センターの若尾文彦・がん対策情報センター長は「セカンドオピニオンは『主治医を変更するために受ける』との誤解がある。本来は主治医の説明で納得できない患者が、別の医師に異なる視点から説明を聞き、納得するために」と説明する。セカンドオピニオンを受けた患者は、最終的には最

また、直接対面して患者の要望を把握することも重要で、「対話を通じて患者の疑問点が明らかになることもある。文書でのセカンドオピニオンの限界を知らした上で利用が必要だ」と指摘する。

初的主治医が勧める治療法を選ぶケースが多いという。

限界知った上で利用を

毎日(東京・朝刊) 2018年12月19日(水)

# 最期まで自分らしく

## ■平鹿総合病院のACCP

人生の最終段階に向けてどんな治療やケアを望むのか、患者があらかじめ医療者や家族と話し合うのが「アドバンス・ケア・プランニング」(ACCP)だ。医療者ですら認知度が低く、厚生労働省は普及を図っている。県内で、再発乳がん患者らを対象にACCPに取り組んでいる横手市の平鹿総合病院・乳腺外来を紹介する。

(内田洋子)

病院側で中心的な役割を担うのが、乳がん看護認定看護師の武石優子さん(48)。患者が記入した質問票に目を通し、症状や悩みを把握することから始める。患者と繰り返し面談し、治療・ケアの進め方や、これからの人生で大切にしたいことなどを話し合う。面談には家族や、患者が信頼を寄せる人にも積極的に入ってもらう。

面談で重視しているのは、患者の生活に即して考えることだ。例えば、医師が「安静に」と指示した場合は、「これはやって良いけど、ここまででは控えて」と具体的に助言するよう心掛けている。

「乳がんの場合は患者の多りに寄り添い、短期的な目標を一つずつ一緒に考える」と

## 乳がん看護認定看護師 生活に即して助言

きなくなったら、どうしたいか。財産の整理や、お葬式の段取りをどうするかといった話題が出ることもあるという。

面談では、今後予想される症状の変化や、選択できる治療、治療で得られる効果、効果が得られない可能性なども率直に伝える。病状が進行し、非常に強い痛みなどが出てきた場合は院内の緩和ケアチームに橋渡しする。延命治療などに対する考え方は変わる可能性があるため、「気持ちが変わったら、いつでも言ってく」と小まめに声を掛けている。

武石さんは、日本看護協会が2006年に初めて認定し

「いつも気に掛けてくれて、心をそらっと、なでてもらうような気持ちになる」。県南部に暮らす女性(55)は、武石さんの存在をこう語る。

昨年4月に乳がんと診断された。ステージ4で転移もあり、既に手術ができない状態。主治医からは抗がん剤治療を勧められた。

独身で、80代の母親と2人暮らし。病気について調べても、分からないことばかりで不安に押しつぶされそうになった。そんな時、外来を受診するたびに武石さんが面談してくれ、心の支えとなった。当時は「仕事に一区切りを付きたい」という気持ちが強かった。それをかなえる選択肢としてあったのが、ホルモン療法だった。

だが、結果は思わしくなかった。次の治療を選ぶ段階で

超がACCPを「知らない」と答えた。今年3月には、厚生労働省が「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を改定。ACCPの考え方を盛り込み、普及を促す方針を打ち出した。

4月には日本医師会が、ACCPの意義や留意点を示したパンフレットを全国の会員医師に配布。導入する医療機関が増えることが期待されている。

性は「最終的に自分なりに納得し、抗がん剤治療に臨むことができた。今は、人生を全力疾走してきたという達成感でいっぱい」と語る。

仕事を辞めた現在は通院の傍ら、病院で知り合った「がん友」とランチャやカラオケを楽しむこともある。それでも、病気の先に何があるかは分からないという。

「最期まで自宅で」と望まないのは、高齢の母に負担を掛けたくないからだ。その時が近づいたら入院し、痛みを和らげてもらいながら穏やかに過ごしたいと考えている。武石さんにも、そう伝えてある。「自分の望みをくんでくれる人がいるから、安心して一日一日を生きていこう」と感謝しています。

## がん患者の女性 面談が心の支えに

はある程度コントロールできるけど、脱毛は諦めて」と明快だった。自由診療の免疫療法にすがりたい気持ちを吐露した際も、「まずは話を聞きに行ってみたらどう」と否定

# がん緩和ケア 充実途上

## 終末期、体に苦痛4割

がん患者の約4割が、亡くなる前の1カ月間、身体の苦痛がある状態で過ごしていたとする調査結果を国立がん研究センターがまとめた。26日付で発表した。全国規模の調査は初めて。がんは日本人の死因1位で、苦痛を和らげる緩和ケアが重要視されている。センターは苦痛の割合を減らせるとして、治療・ケアの充実をはかっていくという。

### 国立がんセンター、遺族調査

2016年に亡くなった患者の遺族約4800人を、病気が亡くなった場所別に無作為に抽出し、18年2〜3月に郵送で調査。亡くなる前の患者の苦痛の状況などを聞いた。有効回答は2295人で、がん患者の遺族はこのうち1630人。亡くなった場所は自宅38%、介護施設・老人ホーム29%、病院27%、ホスピス・緩和ケア病棟5%だった。亡くなる前の1カ月間、痛みや吐き気、呼吸の苦しさを

亡くなる前1カ月間、  
身体の苦痛が少なく過  
ごせた

全くそう思わない	7%
そう思わない	12%
あまりそう思わない	11%
どちらともいえない	12%
(苦痛あり) 計約41%	
そう思う	48%

亡くなる前1週間の痛み

とてもひどい	11%
ひどい	17%
計約27%	
まあまあ	19%
少し	17%
なし	18%

国立がん研究センター調べ、有効回答1630。無回答もあり計100%にならない

減少があった人はそれぞれ約半数に上った。がん患者の約8割が病院で亡くなっている現状と比べ、今回の調査では自宅や介護施設で亡くなった遺族の回答割合が高かった。病院では様々な治療の必要がある患者が多く、痛みも伴いやすいため、もっと多くの患者が苦痛を抱えている可能性も指摘されている。

センターの加藤雅志・がん医療支援部長は、「勤める場所を問わず、医師らには苦痛を和らげるよう努めていく」と話す。日本在宅医学会理事の平原佐斗司・梶原診療所所長は、「緩和ケアの質は施設や医師によって差がある。死を間近にした患者の症状の変化は大きく、きめ細かな治療・ケアをしていく必要がある」と話す。一方、亡くなる前の1カ月間を「穏やかな気持ちで過ごせた」とする回答は53%。受けた医療への満足度は低くなく、「医師は患者の身体の苦痛を和らげるよう努めていた」としたのは81%だった。センターは来月以降、がんなどで亡くなった患者の遺族5万人を対象に大規模な調査を予定する。苦痛がとれない理由についても詳しく調べていく。

(土肥修一)

くが女性で、仕事や家事、育児、介護などに悩みながらも家庭の中心にいて、暮らしを支えている。そんな暮らしが

武石さん。

不自由なく体を動かせるうちに、やりたいことはあるか。病気が進んで自分のことがで

た「乳がん看護認定看護師」1期生20人の1人。3年前からACPを実践してきた。患者が最期までの時間をどう過

も、武石さんにたぐさんの質問をぶつけた。抗がん剤の副作用について聞くと、武石さんは「吐き気

せずに受け止めてくれた。武石さんに背中を押され、セカンドオピニオンを求めて県外の病院にも出向いた。女

秋田魁新報・朝刊  
2018年9月15日(土)

朝日(東京・朝刊)  
2018年12月26日(水)

# 複雑な思い 口からあふれ

今や国民の2人に1人がかかる「がん」。数字上はありふれた病気に見えるが、いざ自分や家族が告知を受けると、衝撃とともに将来への不安や死の恐怖に

## 母亡くした記者

さいなまれる。昨年、すい臓がんで母を亡くした記者(48)もその一人。少しでも気持ちの整理ができればと、がん患者や家族、遺族が語り合う「がんサロン」を訪ねた。(田中仁美)

県がん患者団体ネットワーク「がん・バツテン・元気隊」が主催する「元気隊がんサロン『かたらんね』」。毎月第3日曜の午後1時半から、福

岡市中央区荒戸3丁目の「ふくふくプラザ」で開かれていて、誰でも自由に参加できる。16日は私を含め4組5人が参加。南区の九州がんセンターで研修を受けた「がんピエサポーター」8人が参加者に

寄り添う。ピアは「同じ体験をした仲間」という意味。サポーターには元患者、抗がん剤治療を始めたばかりの人、再発やうつ病を経験した人もいる。

全員が自己紹介した後、患者、家族、遺族ごとのグルー



プに分かれた。私をサポーターするのは大山薫さん(49)。2009年に乳がんを発症。16年には9歳上の姉、今年5月には母をがんで亡くしたという。

同年度の気安さか、気付くと私も自分のことを話していた。幼いころから母と折り合いが悪かったこと。がんの再発や転移に苦しむ母と向き合わなかったこと。母がたった一人で完璧な終活をしていたこと。いまだに遺言書を開けないこと。家族にも話せなかったことが、涙とともに後から後からあふれてきた。

「元気隊」は、08年の博多どんたく港まつりで、がん患者や医師が「がん患者とんたく隊」としてパレードしたのが始まりという。代表は、医療倫理学の専門家で西南学院

大非常勤講師の波多江伸子さん(70)。「がん患者が社会の片隅で息を潜めているのはおかしいと感じた」と設立した理由を語る。

## 帰路 苦しかった心 少し軽く

「かたらんね」は博多弁の「参加しようよ」と「語ろうよ」の意味を掛けた。「全ての人が心を開放できるよ」ところに」と願う。

今回の「かたらんね」は予定の2時間を少し過ぎて終わった。終了後は毎回、参加者の情報共有とサポーターの技術向上のため反省会を開く。自分のことを話しすぎたり、意見を押しつけたりしないよう、先輩サポーターが助言することもある。新たな取り組みも生まれている。新年度は、男性サポーターが中心となり男性対象の「かたらんね」も開く予定だ。

あるサポーターのこんな言葉が心に残った。「参加者からエネルギーをもらっているのは私たちの方かもしれない」

帰り際、サポーターの大山さんが「また来てください。うちも母が亡くなった後、いろいろ大変なんです」と声を掛けてくれた。

亡くなった人への複雑な思いを抱えながら私たちは懸命に生きている。母に対する心の整理はまだついていないが「かたらんね」に参加して、苦しかった心が少しだけ軽くなったような気がしている。

「かたらんね」はなるべく事前申し込みを、500円事務局の三谷さん 080(1716)0410。九州がんセンターでも毎週水曜午後1時から「かたらんね」を開いている。センターの患者以外にも参加できる。無料。センター 092(541)8100。

西日本新聞・朝刊  
2018年12月22日(土)

# 病と向き合い 人生デザイン

## がんステージ4 からの眺め

今から1年前、29歳のある女性が乳がんで亡くなった。デザイナーの広林依子さん(仮名)。若い旅立ちに人は不幸だけを見がちだが、依子さんはゴールの直前まで、まぶしいほど輝いて生きた。

「最後の3カ月は本人も業しかったと思う」と父、直之さん(61)「仮名」はしみじみ話す。普通の人には体験できないことができた」と母の紗恵子さん(60)「同」ももうなすく。

依子さんは幼い頃から芯が強かった。「人の言うことは聞かなかった」と2人は笑う。関西で生まれ育ち、美術系の大学に進学するため上京。卒業後はデザイナーとしての道を歩み、乳がんが見つかった時は、キャリアアップを見据えた転職活動の最中だった。2014年9月。胸のしこりに気づいて受診した。

### ●受診時 骨に転移も

すでに骨に転移があり「ステージ4」。それでも初めは治療をすれば治ると信じていた。いざ抗がん剤治療を始めると、副作用でみるみる体重は落ち、顔が黒ずむ。病について少しずつ学ぶ中、再発転

移患者の治療には終わりがないうことを知った。死が視界に入らなくなって、依子さんはとうとう治療を放棄した。この頃、思いがけない再会があった。学生時代のサークル仲間、高田直樹さん(30)「仮名。愛称の『くまちゃん』は依子さんが名付けた。友人の結婚式で再会し、その後自然に病のことを打ち明けた。

「治療ができるのにしないのは自殺だと思った。それだけ止めたかった」。くまちゃんは、かたくなな依子さんの心をほぐし、病院に付き添って治療を再開させた。2人はただの友だちではないが恋人でもなかった。「おもしろい関係でした」。そう笑うくまちゃんは、最後まで依子さんの良き伴走者となった。

依子さんは、がんと正面から向き合うようになった。くまちゃんの存在に加え、自分が学んだアートが力になったと後にブログで書いている。閉じこもりがちだった日

々、ふと入った近所の美術館で、ある学生の立体作品に胸を射抜かれた。拙いながらも生命感に満ち、依子さんはそこに、未来に向かって制作意欲に燃えていた過去の自分をみた。現実を受け入れられなかった自分がその瞬間、現実の世界に再び足を下ろしたと思っただけで不思議な体験だった。

光の当て方で影は光に変わる。これもアートから学んだことだった。「自分が影、デメリットだと思いついていたことは、実はメリットだと捉えられるのかもしれない」

依子さんは自分を取り戻し、世界をどんどん広げていった。茶道を習い始め、着物を着る楽しみを知った。あこがれたたニューヨークも旅した。町を歩くニューヨークカーは、マイノリティーの人たちも一人一人がりとしてかっこいい。でも、同じくマイノリティーである若年のがん患者も、選ばれた人しかできないことを経験している価値ある存在ではないのか。

「自分の人生とどう向き合っていくか」と思いをくみとるには

### ●「がん友」と交流

がんのイベントにも積極的に参加するようになり、SNS(会員制交流サイト)でがん患者同士の「がん友」を増やした。さまざまな出会いで世界はさらに広がった。「自分の人生とどう向き合っていくか」と思いをくみとるには

き合い、自分自身のライフデザインしたい」。ブログにそう書いた時はしかし、依子さんは医師から残り時間があと数カ月と告げられていた。依子さんのがんは容赦なく進んだ。肺や皮膚にも転移が広がり、胸の腫瘍が皮膚を破って出血することもあった。

「ぎりぎりまで言わないです」と母の紗恵子さんはため息をつく。16年4月、骨の腫瘍が原因で圧迫骨折(骨がもろくなりつぶれること)し、歩けなくなった。「SOSが来て上京したのに、放射線治療で歩けるようになった途端、「帰って」と言われて」と紗恵子さんは苦笑する。

依子さんは自分らしさを貫くため、東京での1人暮らしにこだわった。「チーム医療」ならぬ「チーム患者」と称し、くまちゃんをはじめ、さまざまなサポートしてくれる友人知人を味方につけた。

17年2月、「がん性リンパ管症」を発症。がん細胞がリンパ管をふさぎ、呼吸困難などが起こる。同年6月、「余命2カ月」と告げられた。

### ●早めの「人生卒業」

17年9月5日。最期は病院で、依子さんの兄も含め家族3人にみとられた。苦しんだ時間はほとんどなく、穏やかな死だった。

若い世代のがん 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」によると2013年、20～30代でがん罹患(りかん)した人は1万9422人。乳がん(女)は20代で323人、30代で3620人だった。

「自分が医師に余命を聞き出したのに、怒っていました。怒りをエネルギーに変えて余命を1カ月延ばしたのかも。最後3カ月の駆け抜け方はすごかった」とくまちゃん。最初は抵抗した緩和ケアも、次は「生きる知恵」として受け入れ、QOL(生活の質)を保ちながら「生産活動」にいそしんだ。「何かを残せばそれだけ私を知る人が増え、死んでも生き続けることになる」。それが持論だった。

17年6月から東京で父母と暮らし、在宅医療を受けていた。生産活動と同時に家族で濃密な時間を過ごす。亡くなる10日前も自宅でテレビ収録に応じた。メールもネイルもぬかりはなかった。

17年9月5日。最期は病院で、依子さんの兄も含め家族3人にみとられた。苦しんだ時間はほとんどなく、穏やかな死だった。

就職や結婚、出産など人生の転機を迎えるこの時期にがんを患うと、治療に加え、仕事と両立できるかなど特有の悩みが生じる。近年、若い世代のがん患者を「AYA世代」として、支援を進める動きがある。15～39歳を指す場合が多い。

に人生を卒業した優秀な生徒だと思ってくれたい」。のこされた家族への依子さんらしい気遣いだった。

くまちゃんは、依子さんが話ができただけ最後、「ままと誘導されて」プロポーズをした。両親にも報告し、病院のスタッフにも「旦那さん」と呼ばれた。ままごこのような最期だった。

同じく乳がんステージ4の記者は17年7月末、ネットテレビ出演で依子さんと出会った。「『がが一番幸せ』。そう語る依子さんにもっと話が聞きたくて、取材の約束をしたが間に合わなかった。依子さんの予定表の最後の項目には、記者の名前が記されていた。依子さんに「可哀そう」という言葉はふさわしくない。置かれた状況で、自分の望む通り全力で生き抜いた。」

【三輪晴美】

毎日(東京)・朝刊  
2018年9月21日(金)

# 「人の優しさ信じたい」

## 紛争地に赴任17回

9・11米同時多発テロから17年。テロや紛争は今も続き、命の危機にひんしている人々がいる。そんな被害者の命を救おうと、「国境なき医師団」の手術室看護師白川優子さん(44)＝東松山出身＝はイラクやシリア、南スーダンなどで看護を続けてきた。派遣は8年間で17回。7月に出版した「紛争地の看護師」(小学館)には現地の過酷な状況や「人の優しさ信じたい」という思いが込められている。(菊地正志)

### 東松山出身 看護師白川さん

#### ■血だらけの地獄図

15万人が難民となった南スーダン。政権内の抗争から石油権も絡み、民族間同士の殺りくへ。白川さんは政府の病院をサポートする任務で2014年2月に派遣された。

ある日、病院にIS戦闘員の子どもが運び込まれた。両親が自爆テロで死亡、少女もひどいけがを負った。そんな少女をイラク人スタッフは心から優しく看病した。パンやバナナを口に運ぶ女性たち。白川さんも少女が話す外国語の意味をスマホで調べ、その言葉がトマトであることを知り、食べさせて少女を喜ばせた。

「いろいろな国の戦争を見てきたが、争っているのは一部の上の人たち。多くの市民は戦争を憎んでいる。イラク人だけでなく人間本来の姿だ」と思う。国、国籍、人種を超えた人の優しさを信じたい

「17歳の女性の笑顔」シリアでは病院が空爆を受けた。血を流し、毎日のように運ばれてくる市民たち。妊婦も乳飲み子も。頭や腹から血を流して苦しみ、うめきながら運ばれた。「安心して勉強ができるよ

#### ■17歳の女性の笑顔

「イスラム国(IS)」最大拠点のイラクのモスルに派遣されたのは昨年7月。奪還宣言が出された直後だった。「イスラムの教え」を強制したIS。敵対する者には首切りや火あぶりで処刑し、残酷な支配で世界を震えさせた。3年間の恐怖が続く、病院のスタッフにも虐げられた人は大勢いた」といふ。

しらかわ・ゆうこ 東松山市生まれ。川越商業高校(現市立川越高校)、坂戸鶴ヶ島医師会立看護専門学校卒。県内の病院で外科、手術室、産婦人科を中心に7年間勤務。2003年に豪州に渡り、オーストラリアン・カソリック大学看護学部卒。メルボルンの医療機関で勤務。10年に国境なき医師団に参加。

国境なき医師団 1971年フランスで設立された国際的な民間の医療・人道支援団体。独立・中立・公平な立場で命の危機に瀕した人々に無償で緊急医療援助を行う。医師、看護師などのスタッフ計約3万8千人以上が世界70の国・地域で活動。日本にも100人以上のスタッフがいる。99年にノーベル平和賞を受賞。

埼玉新聞・朝刊  
2018年9月12日(水)



# 病院に銃、支援活動停止

## 暫定政権支配地、イエメン南部アッダリ

内戦の地イエメン南部に2〜9月、国際医療団体「国境なき医師団(MSF)」から派遣されていた看護師、上平明美さん(50) 岩手県出身が帰国し、ハデイ暫定政権支配地の現状を語った。紛争地を含め過去10年、10カ国以上を渡り歩いて来たが、病院の対応に不満を抱いた患者の家族が銃を持って来て、支援活動が停止に追い込まれたのは初めての経験だった。

### MSF派遣の看護師、現状語る

東京都内のMSF日本事務所で驚いた。女性が一人で外出してはいけないうえ、移動手段は車だが、国内前線に近く、戦傷者や善き添えの住民の搬送が絶えなかった。今は戦闘の中心が西部の要衝ホデイダに移動。少し平穏を取り戻したが「戦争による患者さんは週に4、5人。一挙に来る。みんな亡くなった状態である」とある日、大変なけんまくで事

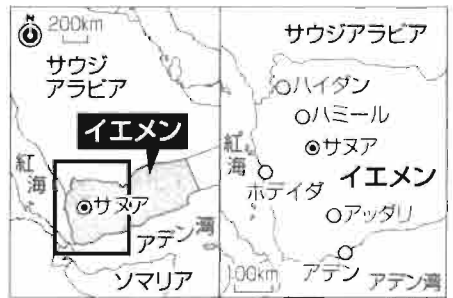
上平明美氏(かみたいら・あけみ) 岩手県出身。2007年から「国境なき医師団(MSF)」に参加し、ウガンダ、シエラレオネ、スーダン、ナイジェリア、エチオピア、南スーダン、シリアなど毎年、紛争地や被災地に派遣されてきた。13年暮れの派遣先、南スーダンでは内戦が始まり、14年のシリアでは、今年のノーベル平和賞受賞者ナディア・ムラドさんが被害を受けたことで知られる過激派組織「イスラーム国(IS)」によるイラク北部シニシャル襲撃に際し、国境を越えて脱出してきたヤジド教徒の保護に携わった。

ともあった」と振り返った。アッダリの市場で買い物をしているのは男性ばかり。通りを「ジャンビヤー」という刀を腰に差して民族衣装を着た男性が歩いている。女性は全身を覆う服を着て、男性がいる時は「顔の覆いの横から入れて食べる。横に男性がいてはいけない。見えてしまうから」という暮らし

と、その家族が銃を持って抗議に来た。「イエメン人はなぜか怒ると一度家に帰る。戻ってきた時が危ない」という。「スタッフの安全が確保されない」とMSF本部が判断。4、5月とアッダリでの活動は停止に追い込まれた。

その後、再開されたが、上平さんが帰国した直後、再び施設に対し「爆発物による攻撃を連続して受けた」とMSFが声明を発表。11月7日、アッダリからの撤退をMSFは決定している。

ハデイ暫定政権 2012年のイエメン暫定大統領選で勝利したハデイ氏が率いる内戦の一方の当事者。実態はサウジアラビアのかいらい政



権。国土の南部や東部が一般に勢力圏とみられているが、実態は北部から迫るイスラム教シーア派系武装組織フーシ派に反発する各地の有力者の連合体で、ハデイ氏の指示に従うとは限らない。南部アデンを中心にハデイ氏に反旗を翻した政治勢力「南部移行評議会(SYC)」も南部には存在する。ハデイ氏自身はサウジに半軟禁状態と伝えられていたが、国連総会の一一般討論演説を行うため9月、ニューヨークに姿を見せた。

岩手日・朝刊  
2018年12月17日(月)

PICKUP TOPICS

看護師の国際救援活動

# バングラ看護支援30年

美唄出身のボランティア 小林さん

バングラデシユの首都ダッカの病院で、2012年から無償ボランティアに取り組み日本人看護師がいる。美唄市出身の小林レイ子さん(70)。バングラデシユとのつながりは1989年からで、今では現場スタッフの指導と在住日本人の看護に情熱を注ぐ。地元では「ダッカのマザー・テレサ」とも呼ばれている。

(ダッカで堂本晴美)

## 衛生管理、患者との接し方指導

「顔色が良くなりましたね」。9月中旬、小林さんが山形ダッカ友好病院の病室で患者に声をかけた。入院中の岡林邦明さん(41)は

「他の病院では放つたらかしくにされることが多いけれど、この病院は患者優先。レイ子さんがいるおかげ」と感謝した。

小林さんとバングラとの出会いは89年。勤めていた山梨県の病院を休み、2人の息子を連れてバングラの病院で1カ月、ボランティアに励んだ。貧しくても明るく生きる村人、目を輝かせて駆け寄ってくる子供た

ちに魅了された。以降、11年までほぼ毎年、ボランティアのため通った。その数は約20回に及ぶ。

移住を決意したのは11年。日本に留学経験のある医師が開いた山形ダッカ友好病院の存在を知り、無期限のボランティアを申し出た。エクラス・ラーマン院長は「日本語が話せる人がいれば喜ばれる」と快諾。

12年、「骨をうずめる覚悟」でダッカに渡った。小林さんの主な業務の一つは看護師への指導。看護師不足のバングラでは、短期研修だけで現場に送り出

される看護師も多い。「手の消毒はこまめに」「掃除は朝昼晩に」。手製の紙芝居も使い、衛生管理や患者との接し方を教えている。

日本人からも頼りにされている。バングラでは入院時の食事は家族が作るか、外で買ってこなければならぬが、地元料理は油料理ばかり。小林さんは毎日、煮物やおかゆ、みそ汁などを作って日本人に提供。「病気の時に日本食はありがたい」との声は多い。

生活費は月約8万円。日本の年金だけでやりくりし、ラーマン院長の謝礼の

申し出も断っている。「お金をもらおうと義務になる。もらわない方が気持ちいい」と小林さん。息子たちも「お母さんが幸せなら」と応援してくれている。

バングラを初めて訪れてから約30年。公用語のベンガル語は今も苦手。言いたいことが伝わらず悔し泣きすることもあった。それでも「帰りたい」と思ったことはない。「優しく、いつも笑顔のバングラの人たちにたくさん元気をもらった。まだその恩を返し切れていない」。ほれ込んだバングラのために、小林さんはきょうも病棟に立つ。

北海道新聞・朝刊  
2018年10月21日(日)

イラクから災害ボランティアに加わった看護師

かなざわ えり  
金沢 絵里さん

「世界のどこにいても、故郷の日本に心を寄せていたい」。NPO法人日本イラク医療支援ネットワークのイラク駐在員として現地の病院支援に携わる。胆振東部地震では9月下旬の一時帰国に合わせ、救護班として胆振管内安平町のボランティアセンターでスタッフのけがや体調管理に取り組んだ。

秋田県出身。看護師だった母の影響で「困っている人の役に立ちたい」と看護師を志した。県内の病院などに勤務し、28歳で米国に留学。2011年、札幌市内に住む妹の出産を機に同市内の病院に勤務し、16年まで宗谷管内浜頓別町、礼文町でも働いた。「北海道は第一の故郷」と言うほど思い入れは強い。

「人が行きたがらないところこそ、助けが必要な人がいる」と、今年4月に同法人で働き始



めた。イラク戦争以降、回国では子供の白血病が多発。米軍が使用した劣化ウラン弾の放射能との関連が指摘される。戦争には日本も特措法に基づき自衛隊を派遣した。「遠い国で起きている悲しい出来事も自分たちと関わりがある」と訴える。

イラクの現状やボランティアで目にした被災地の様子は、インターネットの会員制交流サイト(SNS)などで精力的に発信している。「私を通して問題を身近に感じてもらえれば。イラクも北海道も一時的ではなく、長い時間をかけて支えたい」。クルド人自治区の中都市アルビル在住。41歳。

(斉藤千絵)

北海道新聞・朝刊  
2018年10月19日(金)

モロッコ派遣「楽しみ」

室蘭市出身の佐藤優香さん(26)が独立行政法人国際協力機構(JICA)の2018年度(平成30年度)第3次隊青年海外協力隊員として、19年1月末から2年間、モロッコ・エルジヤデーダ県エルジャデーダ市に派遣される。佐藤さんは18日、室蘭市役所を訪れ、青山剛市長に医療支援活動への意気込みを語った。

(坂本綾子)

室蘭出身 佐藤さん、市長に抱負

佐藤さんは知利別小学校、旧蘭東中学校、室蘭栄高校を卒業し、長野県の信州大学に進学。助産師と保健師、看護師の資格を取得。助産師として札幌市内の病院で4年半勤務し、100人を超える新生児を取り上げた。

が世界に貢献してくれるのはうれしい。帰国したら現地での話を聞かせて」と呼び掛けた。佐藤さんは「少し不安もあるが、楽しみの方が大きい。力を付けて日本に帰ってきたい」と話していた。

モロッコは、産前の健診が4回しかない上に、参加率が低く、乳幼児死亡率が日本よりも高いのが現状。現地では、保健センターで母親学級、産前・産後健診の定着と質の向上のための支援活動、医療施設の職場環境整備の啓発運動を行う。

1973年度(昭和48年度)から始まったJICAの青年海外協力隊員および日系社会青年ボランティアの室蘭市出身者は、佐藤さんで37人目となる。

青山市長は「室蘭で学んだ若者

室蘭民報・夕刊  
2018年12月19日(水)

医療支援活動に意気込み

PICKUP TOPICS

看護師の国際救済活動

# 働く意味、幸せとは何?



修道女や修道士は、清貧（私有財産の放棄）、貞潔（独身）、従順（神への服従）を誓って生活する。  
カトリック中央協議会（東京）によると、国内には2017年末時点で、修道女が4944人、

## 修道女・修道士

### 国内で5千人超

修道士は174人。「少子高齢化に加え、洗礼を受けるかどうかは子どもの意志に任せようとする親の増加などを背景に、修道生活に入る人は減っている」

という。  
「マリアの宣教師フランスス・コ修道会」は、修道女の海外派遣にも積極的に取り組んできた会の一つ。寄付などの問い合わせは、同会日本管区本部、電話03(3709)6771。

## 85歳の助産師・修道女 アフリカで生と死見つめ

アフリカ大陸の東に浮かぶ島国、マダガスカルに暮らし、四半世紀にわたり医療支援を続ける日本人がいる。助産師で修道女の牧野幸江さん(85)。現地の貧困と格闘しながら7千人以上の赤ちゃんを取り上げてきた。多くの生と死を見つめてきたその歩みには、働くことの意味や幸せとは何かを考えさせられる。

## 多くの修道会が高齢化

植民地時代の建物が残る町を、人力車や三輪車が行き交う。マダガスカル中部のアンツィラベ。通りに面した修道院の敷地内にある「アベマリア病院」で、やや腰が曲がった牧野さんが、赤ん坊をあやしていた。「私、子どもが大好きで、すぐに構いたくなる。でも最近は腰が痛いし耳も遠くて、もう大変」と笑う。京都市で生まれ育った牧野さんは、12歳で終戦を迎えた。洗礼を受けたのは高校時代。「戦後の空虚感もあってか、あの頃は受洗する人が多かった。みんな何かを求めていたんだと思う。ただ私の場合、友達に誘われて軽い気持ちでした」

卒業後、看護師と助産師の資格を取得。病院で働いたが人工妊娠中絶の手術が多く、「やりたい仕事なのか」と自問、カトリック系の病院へ移った。25歳のとき、周囲の勧めでその病院を運営する修道会の修道院に入った。修道院は、修道士(女子の場合は修道女)が、戒律に基づき共同で生活する場所。主にカトリック系の教会などに設置されている。

牧野さんは、修道会の要請を受け台湾の無医村や国内の病院に赴いた後、1970年代末、初めてアンツィラベへ。薬も医療機器も乏しく、麻酔なしの手術は

日常茶飯事。栄養失調の母子や、次々と命を落とす未熟児を目の当たりにして、2年ともたず「怖くなって日本に逃げ帰りました」。だが東京都内の病院を定年退職した時、よぎったのはアンツィラベの貧しい人々だった。「今度は力になりたい」と94年に2度目の赴任。年間千件近いお産を扱いながら、看護師や助産師の養成にも取り組んだ。病院の隣では、仲間と鶏を約3千羽飼って卵を売り、新生児らの薬やミルク代を捻出する。

山陰中央新報・朝刊  
2018年12月27日(木)

（共同通信）

# ひと

ミャンマーの養育施設で子どもたちを守る看護師

おおえだ ゆうこ  
太江田 裕子 さん(54)

いつも笑顔。田園風景が広がるミャンマーの主要都市ヤンゴン郊外にある施設の広場で足を止めると、一人、また一人と、子どもたちが集まってくる。

日本のNPOが運営する養育施設「ドリームトレイン」で、ただ一人の看護師ボランティアとして155人を慈しむ。親の病気や貧困などで家族と離れて暮らす全員の前、性格までわかっている。「本当にみんなかわいい」。

やんちゃ盛りはケガが絶えず、だけれど風邪をひけば施設中に広がる。一時も気が休まらない。看護師になりたての20代のころから学習会に通い、人身売買や児童虐待に苦しむ世界中の子どもたちに胸を痛めた。

「手を差し伸べたい」

兵庫・尼崎の200床ある病院で31歳のとき婦長になり、すべての看護師を束ねる管理職になったのが40歳。2人の子が大学生になると同時に辞職、日本を出た。45歳、20年がかりで志を実現した。

「自分の子はもう私なしで大丈夫。次は大勢の子の未来を切り開いてあげたいと思いました」

医療ボランティアとしてカンボジアやラオスを回り、今の養育施設にきた。子どもたち一人ひとりの目を見てミャンマー語で話しかける。集団生活の中で寂しさや葛藤を乗り越えてくれるように。

「あとはいつも笑っていること。そう決めているんです」

文・斎藤健一郎

朝 日(東京)・朝刊  
2018年9月13日(木)

## 青森中央学院大・短大

# 教育、看護でアジアと交流

## ベトナム、タイから視察・見学

青森市の青森中央学院大学・青森中央短期大学にアジアから視察交流のため、関係者が相次いで訪れている。10月30日は、ベトナムから幼児教育の関係者が、タイからは看護学部の学生が大学・短大を見学した。

(増田菜穂子)

ベトナムからの視察団はハノイ、ホーチミンで私立幼稚園の経営を担う計10人。10月22日から同30日まで県内に滞在し、短大で受講したり、付属幼稚園を見学した。30日午前は、付属幼稚園を訪れ、3〜5歳の園児約100人が自由時間を過ごす様子を見学した。子どもたちが遊ぶおもちゃを興味深そうに見ていた幼稚園園長のザン・ティ・フ・ハンさん(43)は「日本の幼稚園では、自分で作って

遊ぶ、創造性を育むようなおもちゃを上手に取り入れていると思った」と話した。また同日は、タイのサイアム大学看護学部の学生ら計5人が同大を訪問した。学生らは、両大学が学部間協定を提携していることから来県。26日から31日までの日程で、同学部や市内の病院を見学した。

30日は、一戸とも子看護学部長が、学生らに日本の看護教育について解説した。3年生のルンルアン・

ジッタワンさん(20)は「タイでは勉強すれば看護師として働くことができるが、日本は試験に受かる必要がある。仕組みが違っていた」と話し、関心を寄せていた。

今回の視察について、同短大幼児保育学科の大沢陽子学科長は「参加者は日本の幼稚園教育要領などについて非常に強い関心を持ってくれたし、私たちがアジアの幼児教育について学ぶことが多かった。今後も交流を深められたら」と話した。

東 奥 日 報・朝刊  
2018年11月6日(火)

今や社会のインフラともされるコンビニエンスストアを上回る業態が日本にある。医師の処方をもとに医薬品を出す「調剤薬局」だ。コンビニより多い6万店の薬局は地域医療を支えてきたものの、扱う医薬品は公定価格で競争は乏しい。厚生労働省は在宅医療などの新しい施策に対応できる薬局を育て、再編を促す方向にカジを切る。医療費の抑制に向け、薬のインフラも変革を迫られている。

病院で医師の診察を受け、受付で処方箋をもらう。スリッパから靴にはきかえて自動ドアが開くと、小さな「お薬屋さん」が何軒か目に飛び込んでくる。誰もが経験するこんな風景が今、批判にさらされている。

指導役機能せず

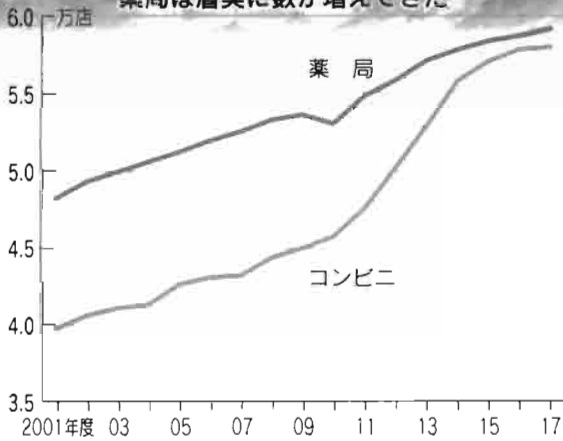
「期待されている役割を果たしていないのではないか」。8日に厚生労働省が開いた審議会で、薬剤師の代表に有識者からの厳しい指摘が続いた。この日のテーマは今後の薬局や薬剤師の役割をどう

# 薬局6万店 再編の風圧

## 手厚い報酬問われる機能



薬局は着実に数が増えてきた



(出所) 厚生労働省、日本フランチャイズチェーン協会

高度な薬局の要件を定めて移行を促す

地域密着型	高度薬学管理型
<ul style="list-style-type: none"> <li>休日夜間の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>需要に応じた特殊な薬剤の確保</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅訪問の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プライバシーが確保された個室</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一定の研修を受講した薬剤師の配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性の高い薬剤師の配置</li> </ul>

(出所) 厚生労働省

考えられる要件

日本経済新聞・朝刊  
2018年11月24日(土)

コンビニは顧客のニーズを満たすことで市場を作り出してきた。街角の薬局は患者のニーズを満たしているかどうか。医薬分業がもたらした非効率を見直すには、ニーズを満たさない薬局には市場からの退出を迫るといった政策も必要になる。(新井惇太郎)

考えるか。関係者の脳裏には、病院のそばにある「門前薬局」が浮かぶ。国内の薬局は2017年度末で約5万9千店ある。厚労省のサンプル調査では常勤換算の薬剤師が2人以下の薬局が半数にのぼる。17年度の薬局への技術料と薬剤料を合わせた「調剤医療費」は、処方箋1枚あたり9187円。半数以上の薬局は特定の病院の処方箋に頼り、少数の薬剤師が調剤して患者に渡すだけのビジネスが成り立つ

「薬局大国」の足元は危うい。薬剤師に求められる役割は、患者のアレルギーや過去の副作用を把握したうえで服薬指導だ。だが厚労省が調べたところ、電話などでの継続的な指導をしたことのある薬局は4割ほど。8割は必要性を感じていない。薬剤師は4割ほど、8割は必要性を感じていない。薬剤師は4割ほど、8割は必要性を感じていない。薬剤師は4割ほど、8割は必要性を感じていない。

「地域密着型」の薬局をつくる。休日や夜間でも対応できるだけの薬剤師を持ち、患者を訪問して服薬を指導する。

調剤医療費は17年度に7兆6664億円と、5年前の12年度に比べて16%増えた。高齢化に伴って薬にかかるお金は増え続け、税や保険料を通じて国民の負担になっている。

## 背景に在宅医療への対応充実

# 薬剤師両県で不足感強く

## 5年以内に 人材必要 鳥取は95薬局に増加

山陰両県で薬剤師の不足感が増している。鳥取県の調査では今後5年程度で新たに薬剤師を必要とした薬局が2年前と比べ25力所増の95力所と膨らみ、島根県でも多くの病院が不足感を訴える。住み慣れた地域で医療や介護サービスを受ける「地域包括ケア」を国が推進する中、服薬指導などの在宅医療に対応しようとする薬局が増えていくのが背景にあるとみられる。

(原田准吏)

「在宅は24時間365日 取締役に在宅業務を集中させていなければならない」。米子市旗ヶ崎5丁目のリブ調剤薬局で、大谷誠司取締役(44)がつぶやいた。同薬局が現在、在宅業務を受け持つ患者は15人。がらんと認知症を患いながらも、自宅で過ごす人々への服薬指導などを3人の薬剤師で対応している。11月は計52回訪問した。ただ、薬局での窓口対応と兼任のため、実際は大谷

所になったものの「在宅業務の時間が取れない」などと早急な確保を訴える声があった。鳥取県・保険課の金浦文男課長は「不足感は増している」とし、学生向けのインターンシップ(就業体験)の充実などで確保を進めるとした。一方、島根県が本年度初めて実施した薬剤師の不足に関する調査で、県内の病院の49力所中35力所が不足と回答。特に県西部や隠岐で目立った。

山陰中央新報・朝刊  
2018年12月19日(水)

国家戦略特区制度を活用し、スマートフォンやタブレット端末などを使った「オンライン服薬指導」が福岡市の一部の地域で7月から実施されている。同様の取り組みはほかに愛知県など2カ所、九州・山口では唯一。高齢化や人口減少が進む中、次世代の医療サービスとして注目を集めている。国も対面の服薬指導を義務づけている医薬品医療機器法（薬機法）に例外を設ける形で法改正を検討している。

【佐野格】



だが、厚労省によると、オンライン服薬指導を受ける患者は11月上旬の時点で、全国でも6人にとどまっている。対象をオンライン診療を利用し、へき地や離島に居住する患者に限定しているためだ。同省の担当者は「対象患者は高齢者が多く、タブレット端

# 在宅患者にオンライン服薬指導

11月下旬、福岡市東区の「ココカラファイン薬局奈多店」でオンライン服薬指導のデモンストレーションがあった。「薬の確認をしておきます」と薬剤師の宮崎美世さん(34)がパソコン画面に向けて薬を示した。「この漢方薬は飲めていますか」との問い掛けに「飲んでます。大丈夫です」。店舗から車で約30分の同区の

志賀島に住む、重藤タエ子さん(94)と長女の小園則子さん(71)が笑顔で応じた。脊椎を痛め、東区の病院に通っていた重藤さんは9月からオンラインで、診療と併せて服薬指導も受け始めた。同居する小園さんが同店で薬を受け取りに行く手間はほぼ「助かっている。スマホだと画面が小さくて見にくか

ったが、タブレットなら画面も大きくていい」と小園さん。一方、薬局側も対面と同じように意思疎通が図れる上、家族を通してではなく、患者本人とも会話ができ、症状などがよりわかるようになったという。宮崎さんは「オンラインが広がれば困っている多くの患者さんを助けるはずだ」と期待を寄せる。

末など機器の扱いに慣れていないことも大きい」と課題を指摘する。福岡市がこうしたオンライン医療に積極的なのは、「団塊の世代」全員が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」を見ずえるためだ。市の担当者は「在宅医療のニーズが飛躍的に増加することが予想される。オンラインで

## 国家戦略特区の福岡市で

診療と服薬指導を受け、郵送や配送などで薬を受け取れるようにすることで患者側の利便性を向上させ、医師や薬剤師らの負担も軽減できる」と意義を強調する。

厚労省の制度部会では「時期尚早だ」「服薬指導は対面が原則でバーチャルな調剤センターの指導などは不適切だ」の意見も出ており、課題も多い。同省の担当者は「法改正する方向だが、対象地域はへき地や離島に限るかどうかはわからない。例えば職場でも服薬指導を受けられるようにするなど、特区での実施例を踏まえて幅広く検討する必要がある」と話している。

毎日(福岡)・朝刊  
2018年12月5日(水)

# 処方薬 自宅でも入手可能

国は医療費削減の観点からも高額な費用のかかる入院期間を短くし、家で療養するように促している。

子育て中の母親が医師の診療を受けやすくなるといった利点もある。

20年度には同意を得た患者の健診・診察データを医療関係者が共有でき

だが医師は慢性的に不



# 20年度めど在宅医療後押し

厚生労働省は患者が自宅にいなから処方薬を入手できる仕組みをつくる方針を固めた。テレビ電話での診察は4月に解禁されたが、今は薬を受け取るには薬局に向き、薬剤師の対面指導を受けねばならない。スマートフォン(スマホ)などオンラインでの服薬指導(きょう)を全国で認める。将来は診察から薬の受け取りまで一貫して在宅でできるようにし、なるべく入院を減らして膨らむ医療費を削減する一助とする狙いだ。

## スマホで服薬指導

2020年度をめどにする。今のオンライン診療では患者は紙の処方箋を医療機関に送ってもらい、薬局まで出向き対面で薬の飲み方を教わる。厚労省はスマホなどを使い、薬剤師がオンラインで服薬指導することを解禁する方向だ。患者は薬局に足を運ぶことなく、自宅に処方薬を配達してもらうことが可能になる。オンライン診療と組み合わせれば、自宅で診察から薬の受け取りまで完結できるようになる。

家で療養しやすくなる。診察から薬まで一貫した在宅医療は7月から愛知県、福岡市など国家戦略特区の一部で始まっており、今後全国に広がる。2019年の通常国会に医薬品医療機器法の改正案の提出を目指す。

一貫した在宅医療では、紙ではなく電子データにした処方箋が必要だ。医師は専用サーバーに電子処方箋を登録。患者が病院からメールで送られた登録番号などを薬局に伝え、薬剤師が処方箋の内容を確認し、調剤する仕組みだ。

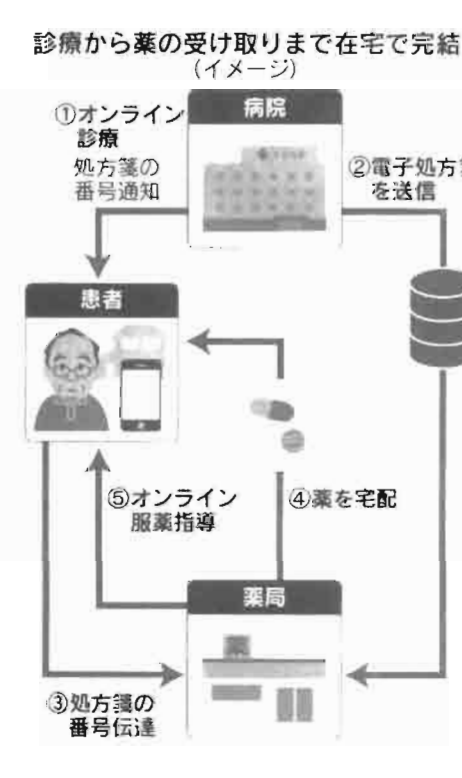
電子処方箋の発行そのものは16年3月に認められたが、今まで発行された例がない。このため厚

労省は電子処方箋のルールを定めた指針を見直し、普及を後押しする。今のルールは電子処方箋を出す病院や診療所に「電子処方せん引換証」という紙を同時に発行するよう求めている。患者が電子化に対応していない薬局を訪れた場合の備

えだが、病院や薬局は業務効率化が見込めない。かかりつけの薬局が決まっているなど一定の条件を満たす患者については紙の引換証を出さなくてもよい仕組みにする方向で検討する。

来年3月まで実証事業を実施し、その結果を踏まえ、19年度に運用方法を再検討し、20年度以降に普及させる方針だ。

高血圧症や糖尿病といった慢性疾患を抱えた患者らがこうしたオンライン診療などに切り替わって、いけば病状の混雑は緩和される。外出が不自由な高齢者も在宅で投薬まで完結できれば、入院せ



は、紙ではなく電子データにした処方箋が必要だ。医師は専用サーバーに電子処方箋を登録。患者が病院からメールで送られた登録番号などを薬局に伝え、薬剤師が処方箋の内容を確認し、調剤する仕組みだ。

電子処方箋の発行そのものは16年3月に認められたが、今まで発行された例がない。このため厚

労省は電子処方箋のルールを定めた指針を見直し、普及を後押しする。今のルールは電子処方箋を出す病院や診療所に「電子処方せん引換証」という紙を同時に発行するよう求めている。患者が電子化に対応していない薬局を訪れた場合の備

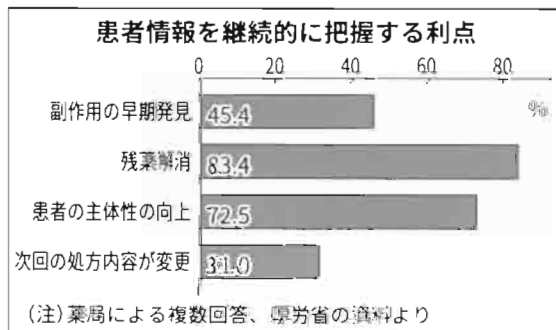
えだが、病院や薬局は業務効率化が見込めない。かかりつけの薬局が決まっているなど一定の条件を満たす患者については紙の引換証を出さなくてもよい仕組みにする方向で検討する。

来年3月まで実証事業を実施し、その結果を踏まえ、19年度に運用方法を再検討し、20年度以降に普及させる方針だ。

電子処方箋などの一連の対処は今後増える在宅医療への備えにもなる。厚労省の推計による

## 服薬指導

## 継続的な介入に課題



▽…薬剤師は患者に処方薬を渡す際に、薬の適切な使用法や副作用などの情報を対面で伝えなければならぬ。薬剤師法などで義務として規定されている。薬を渡す時だけでなく、かかりつけの薬剤師として服用期間中の患者に継続的にかかわり、処方内容の改善など

にもつなげている。残薬の解消は医療費の伸びの抑制にもなる。▽…しかし継続的な服薬指導が十分にできているとは言いがたい。調剤薬局を対象にした厚生労働省の調査によると、薬を渡したあとの服薬指導について8割が必要だと感じているものの、実施しているのは4割にとどまっている。患者宅への訪問などをとする薬局も半数余り。主な理由は小規模な薬局が多いことによる人手不足だ。

▽…服薬指導は対面が原則で遠隔はあくまで例外となる見通し。だがオンライン化により薬剤師の業務が効率化され、継続的な服薬指導をしやすくなる。処方薬の履歴などをスマートフォン(スマホ)で確認できる「電子版お薬手帳」の普及にもつながりそうだ。

電子処方箋などの一連の対処は今後増える在宅医療への備えにもなる。厚労省の推計による

と、在宅で医療を受ける患者は25年度には現在より約30万人多い100万人超に増えるとみられ

足りているうえ診療所の医師の平均年齢は16年末時点で約60歳と高齢化が進む。医師や薬剤師が患者の自宅まで移動する手間を省き、効率的な医療を提供する態勢の整備が不可欠だ。

スマホ診療が広がれば高齢者や在宅患者だけでなく平日に病院に行きにくいビジネスパーソンや

足しているうえ診療所の医師の平均年齢は16年末時点で約60歳と高齢化が進む。医師や薬剤師が患者の自宅まで移動する手間を省き、効率的な医療を提供する態勢の整備が不可欠だ。

高年齢者や在宅患者だけでなく平日に病院に行きにくいビジネスパーソンや

スマートフォン(スマホ)などオンラインでの服薬指導(きょう)を全国で認める。将来は診察から薬の受け取りまで一貫して在宅でできるようにし、なるべく入院を減らして膨らむ医療費を削減する一助とする狙いだ。

2020年度をめどにする。今のオンライン診療では患者は紙の処方箋を医療機関に送ってもらい、薬局まで出向き対面で薬の飲み方を教わる。厚労省はスマホなどを使い、薬剤師がオンラインで服薬指導することを解禁する方向だ。患者は薬局に足を運ぶことなく、自宅に処方薬を配達してもらうことが可能になる。オンライン診療と組み合わせれば、自宅で診察から薬の受け取りまで完結できるようになる。

家で療養しやすくなる。診察から薬まで一貫した在宅医療は7月から愛知県、福岡市など国家戦略特区の一部で始まっており、今後全国に広がる。2019年の通常国会に医薬品医療機器法の改正案の提出を目指す。

一貫した在宅医療では、紙ではなく電子データにした処方箋が必要だ。医師は専用サーバーに電子処方箋を登録。患者が病院からメールで送られた登録番号などを薬局に伝え、薬剤師が処方箋の内容を確認し、調剤する仕組みだ。

電子処方箋の発行そのものは16年3月に認められたが、今まで発行された例がない。このため厚

日本経済新聞・朝刊  
2018年12月25日(火)

日本経済新聞・朝刊  
2018年12月25日(火)

# スマホで「お薬手帳」

## 県薬剤師会 利用呼び掛け

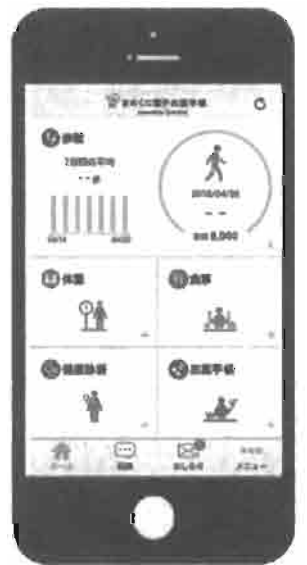
県薬剤師会は、薬の履歴を記す「お薬手帳」を電子化したスマートフォン向けアプリ「きのくに電子お薬手帳CARADA（カラダ）」の普及を進めている。アプリには薬の自動登録や家族の情報を一括管理する機能があり、より質の高い医療サービスの提供に役立つという。

国の補助金を活用し、コンサーバーを利用し、2016年11月に運用を開始した。テント配信事業会社「エムテ（東京都新宿区）」が患者の服薬履歴や他の薬局で受け取った薬の有無などを把握し、より適切な医療サービスを提供するために活用される。紙のお薬手帳だと、手帳を紛失したり持ってくるのを忘れたりして徹底した管理が難しい場合があるという。

スマホ向けアプリのお薬手帳は、利用者がシステムを導入している薬局を「お気に入り」に登録していれば調剤情報が自動で追加される仕組み。家族の調剤情報の管理、病院の処方箋データを事前に薬局に知らせる「調剤予約」といった機能がある。スマホを持っていない人も履歴が追加してもらえるという。

田辺薬剤師会管内（田辺市、上富田町、白浜町、すさみ町）にある保険薬局57店舗のうち、現在27店舗がこのシステムを導入済み。田辺薬剤師会の尾原崇会長（49）は「システムを導入している薬局は増えてきている。多くの人が活用してもらいたい」と呼び掛けている。

田辺薬剤師会管内（田辺市、上富田町、白浜町、すさみ町）にある保険薬局57店舗のうち、現在27店舗がこのシステムを導入済み。田辺薬剤師会の尾原崇会長（49）は「システムを導入している薬局は増えてきている。多くの人が活用してもらいたい」と呼び掛けている。



スマートフォン向けアプリ「きのくに電子お薬手帳」

▽

アプリを利用するには、薬局が管理している「患者番号」の入力や青洲リンクへの参加同意が必要になる。

問い合わせは、県薬剤師会（073・4222・4748）へ。

紀伊民報  
2018年12月5日（水）

医療機関で長時間待たされた挙げ句、薬局でも待たされる――そんなイライラを解消するサービスがある。専用アプリやウェブ経由で、薬局に処方箋を事前送信しておけば、薬

フリービットEPAR Kヘルスケア（東京・渋谷）が提供する「EPARKくすりの窓口」。利用する薬局は全国約1をもつ親が薬局でのインフルエンザや水ぼうそう感染を心配する声は多い。薬局での滞在時間を減らすことで感染リスク

# 健康相談 薬局にお任せ

県と県薬剤師会は「薬と健康の週間」(17〜23日)に合わせ、県内の薬局を健康相談で気軽に訪れてもらうためのキャンペーンを始めた。県の調査では、薬局を処方箋の受け取り以外で利用しないという人が増えているため、健康相談を積極的に受け付けることを宣言するポスターを店舗に掲示し、アピールしている。

県によると、15日現在、県内の薬局約1800カ所のうち、939カ所が宣言のポスターを掲示している。健康相談に関する宣言の内容は、薬局ごと決めることができる。「在宅医療や介護に関する相談も受けたいです」「管理栄養士による食事面のサポートもできます」「相談タイムを設けています」などで、各薬局の宣言内容を県ホームページからも確認できる。

## 県薬剤師会が「宣言」

県のインターネットモニター(572人)を対象にした7月の調査では、薬局を利用する理由は「処方箋をもらったとき」が94%で圧倒的に多かった。健康相談をしたことがある人は15%だけで、相談したことのない84%のうち、34%は相談できること自体を知らなかった。

県薬剤師会理事の河西きよみさんは「最近では病院併設の薬局で薬を受け取ることも多く、自宅近くの『まちの薬局』を訪れる機会が減った」と指摘。今回のキャンペーンが「気軽に健康面の困り事を相談できる『かかりつけ薬剤師』を見つめるきっかけになれば」と期待している。

(政治部・山下奈津美)

静岡新聞・朝刊  
2018年10月16日(火)

局に行くのは薬を受け取る時でよくなる。従来待たされていた時間を買い物などの用事に使い、効率的に薬を受け取れる。

## 知っとく

使い方は比較的簡単だ。病院でもらった処方箋をスマートフォン(スマホ)などで撮影して薬局に送っておくと、受け取り可能になったらメールなどで通知が届く仕組みだ。基本的には処方箋の期限内であれば都合のいい時間に取りに行ける。薬局内の待ち時間を短くできる。



利用者は月平均で前年同月に比べ2割伸びている

## 薬受け取りスムーズに

### 処方箋、スマホで撮影し事前に送信

万店から選べるという。会員にならなくても使えるが、会員は過去の履歴から送信する薬局を簡単に選べる分、便利だ。

利用数(処方箋の送信数)は「月平均で前年同月に比べ2割伸びている」(メディア戦略企画部の宇佐見仁テクニカルマネージャー)。

サービス開始当初は高血圧や糖尿病で通院している人が利用するケースが多かったが、最近では子供連れの利用も増えている。「朝、病院に行つて、夕方仕事帰りに薬を受け取る」(山口遊生 パートナー戦略室長)ため、ビジネスパーソンにもお勧めだ。

待ち時間短縮以外のメリットもある。「処方箋送信アプリは感染予防につながる」と、調剤薬局大手、クオールの薬局支援本部セルフメディケーション推進部清水潤上席部長は強調する。幼い子

も低くなる。同社はアプリを15年から提供しているが、今年9月にリニューアルし、電子お薬手帳と一本化した。また過去にどの薬で副作用があったかなどの情報を全国のクオール薬局で照会できる「クオールカード」とアプリを連携させることで、カードを持ち歩かずに済むようにした。

事前送信サービスは便利だが、写真を送ったとはいえ処方箋の原本は必要だ。持って行かないと薬を受け取れないので、忘れないよう注意しよう。(岡村麻由)

処方箋送信サービスはそれぞれ利点がある

提供企業名	メリット
フリービット EPARKヘルスケア	送信する薬局を約1万店から選べる
クオールホールディングス	クオールカードとひもづき、カードを持ち歩く必要がない
マツモトキヨシホールディングス	公式アプリ内の多様な機能も一緒に使える

日本経済新聞・タリ  
2018年10月29日(月)

# 患者の「残薬」検証へ

医薬品を使わずにため込んでしまう「残薬」の実態を把握し、処方量を適正化させようと、那珂市と常陸大宮薬剤師会（鈴木康生会長）が、県内初となる共同検証に乗り出す。医療費を抑え、薬の誤った服用などを減らすのが狙い。特製のバッグで残薬を薬局に持参し、薬剤師が原因を調査、必要に応じて医師にも連絡する仕組みだ。検証結果を踏まえ、医療・介護職との連携も視野に、地域ぐるみで残薬対応に取り組む。

遵えや品質劣化といったリスクも潜む。市内でも約30万円の薬をためているケースがあったという。

市と同会は、日常的に高齢者に接する介護事業所のケアマネジャーを中心に「おくすり整理バッグ」の配布と案内を依頼した。市民が、事業に協力する市内22調剤薬局に持参し、薬剤師が量や使用期限を確認、それらを整理する仕組みだ。残薬が目立つ場合は医師にも相談する。残薬が出た理由や削減できる医療費を

## 県内初 医療費抑制

## 整理バッグで薬局に持参

調査し、市と情報を共有する。残薬の整理は薬剤師の業務の一つだが、市町村と薬剤師会がタッグを組んで検証するのは珍しいという。

市の国民健康保険・後期高齢者医療制度加入者1人当たりの年間総医療費は、それぞれ34万275円と85万7410円（2017年度）。13年度と比べると、ともに5、6万円ほど増えている。うち2割程度は医薬品の費用だ。今後は、団塊の世代（1947年～49年生まれ）が2022年から順次、後期高齢者医療制度に移行し医療費の増大が見込まれる。このため、市担当者は「ムダを省かないと財政は厳しくなる一方」と指摘する。

厚生労働省の調査によると、残薬で生じる潜在的な損失は約500億円にも達するといふ。薬剤師の管理・指導などで約400億円は改善できるとされている。

市と同会は、来年3月末までを検証期間として定め、情報を蓄積させる。結果も精査していく予定。医師など他職種との連携強化も念頭に、取り組みを強めていく。鈴木会長は「疾病を複数抱えている人ほど薬を多く処方されるため、残薬のリスクは高まる。健康被害を防ぐため、市と一緒に頑張りたい」と強調した。

（鈴木剛史）

同病院の古元俊徳薬局長は「市中の薬局が患者の腎機能や体重の低下に気付いてくれ、病院と相談の上で薬の処方量を減らした例もある」と説明。検査値を手掛かりに会話が生まれ「患者が『処方通りに薬を飲んでない』といった悩みを薬剤師

# 処方箋に血液数値や体重 薬局が適正量や副作用チェック

薬の処方箋に、患者の血液検査の数値や体重などを表示する取り組みが、県内の病院で広がっている。処方箋を受け取った薬局が患者の状態に照らし、薬が適正量で副作用のない用法かどうかチェックし、患者に助言しやすくなる利点がある。

（馬場洋太）

授は「医師は他院の処方分や専門外の薬の特性まで把握できないため、薬局でのチェックは有用だ」と強調。「かかりつけ薬剤師が検査値を継続的に見ること、副作用の早期発見にもつながるため、多くの病院で表示すべきだ」としている。

茨城新聞・朝刊  
2018年10月6日（主）

# 県内の病院導入広がる

県病院薬剤師会の調べでは、2015年以降に中国中央(福山市)中国労災(呉市)マツダ(府中町)広島記念(広島市中区)福山医療センター(福山市)県立広島(南区)呉共済(呉市)広島市民(中区)の計8病院が導入した。ことし6月に始めた広島市民病院は、腎臓や肝臓の数値、身長や体重など約20項目を処方箋に印字する。開浩一薬剤主任部長は「薬局から疑問点の問い合わせが増え、安全な医療につながる」と狙いを話す。薬局側からも、責任が重くなる戸惑いに交じり、歓迎の声が上がる。広島市内のあるチェーンは「これまで薬局は、患者の健康状態を知らずに薬を処方していた。数値がある

# あなた用サプリ 薬局が支えます

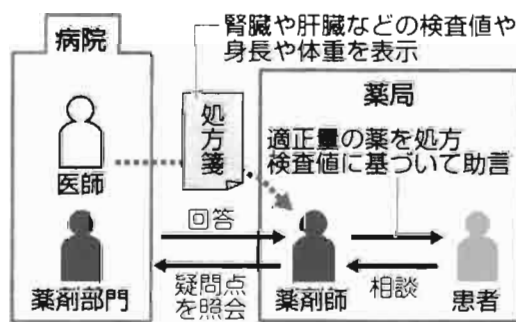
同店では管理栄養士も働いており、薬剤師と連携して利用客の健康相談に応じている。サプリメントは三十五種類あり、イチゴやバナナ、マグロなどの食品から抽出した栄養素を摂取できる。利用客が食生活や睡眠、運動の現状に関するアンケートに答えると、最適な組み合わせをコンピューターが算出。栄養士や薬剤師と相談しながら最終的に購入する商品を決められる。

津市の調剤薬局「健やか薬局上津部田店」は、来店者の健康状態に合ったサプリメント(栄養補助食品)を紹介する独自のサービスを始めた。薬価の引き下げや店舗数の増加で業界の競争が激化する中、健康管理も支援することで他店との差別化を図る戦略だ。

五月に開店したばかりで、サプリメント紹介サービスは八月から始めた。現在は体形が気になる人など、病気でない人が申し込む場合が多いという。栄養士も常駐するので、食生活に関する助言も受けられるのが特色だ。同店で管理栄養士として働く菊地紋嘉さん(30)は「住民のニーズはあるので、これからも応えていきたい」と話した。

を算出するシステムは、デザインサプリ(東京)が開発した。店舗では二月から使い始め、関東から関西までの薬局が導入している。県内では同店が初めてだという。調剤薬局が本業の処方箋への対応以外に力を入れる背景には、業界に吹く逆風がある。高齢者の増加に伴う医療費の膨張を抑制するため、厚生労働省は薬価の引き下げを進めている。全国の薬局数もコンビニを上回る五万八千店に上

## 処方箋を介した病院と薬局の連携



●この「処方せん」は必ず、原本を交付の日を計って4日以内に保険者に出して下さい。有効期限が過ぎた場合は、2歳を待たず取りかたがて! ●事前に「処方せん」をFAXで送った場合は、保険業務での結果は「処方せん」原本が必要です。

【保険薬局さんへの連絡事項】 ●下記検査値は処方箋や保険指書などにご活用下さい。患者に届けてお渡し下さい。→ Q08にしました。

血液検査の数値や身長、体重などを表示した処方箋

項目	検査結果	検査日	項目	検査結果	検査日
WBC	8800-9500 /μl	2018/04/02	U.N		
Hb	11~16 g/dl	2018/04/02	eGFR		
PL	16~41 万/μl	2018/04/02	CK (CPK)		
PT-INR	0.97	2018/04/02	CP (定性)		
AST (GOT)	8~46 IU/L	2018/04/02	E		
ALT (GPT)	5~35 IU/L	2018/04/02	hb		
T-Bil	0.2~1.2 mg/dl	2018/04/02	AIC (NG)		
Cr	0.4~1.2 mg/dl	2018/04/02			

身長: 173.4cm (測定日: 2018/04/10)  
 体重: 80.0kg (測定日: 2018/04/10)  
 体表面積: 1.94m<sup>2</sup>

## 津 薬剤師、栄養士が助言

り、販売競争も激しい。病院の近くで営業する「門前薬局」の収益だけでは、経営が厳しくなる見通しという実態もある。

健やか薬局など県内で約二十店舗を展開するメディカルリンク(松阪市)の榎井慎取取締役(35)は「決められた薬を渡すだけでなく、健康に関する正しい知識を届ける役割を担いたい」と話す。管理栄養士を配置する別の店舗での紹介サービス開始も検討しており、「常日ごろから健康について相談してもらい、生活習慣病の予防にもつなげていきたい」と意気込む。

中日(三重)朝刊  
 2018年10月10日(水)

PICKUP TOPICS

服薬指導の今後

「身体拘束」ゼロに取り組み山梨県内の介護施設幹部が、公立病院に入院中の祖母を見舞った際、「ミトン型手袋を着けられ混乱する姿に戸惑ったという。介護では原則禁止されているが、医療では「治療上必要」との意識から常態化していないか。高齢化で認知症患者が増加傾向にある中、拘束に頼らない医療実現へ対策が求められる。

### 論説

ベッドや車いすへの固定、つなぎ服着用といった拘束は長年、安全性と効率性を理由に行われてきた。しかし福祉現場では苦痛を与え尊厳を傷つける虐待に当たるとして、国が2000年の介護保険導入を機に介護施設で禁止に。一方、医療現場では精神科病院は認める条件を法律で限定しているが、一般病

## 病院の身体拘束

院は医師らの判断に委ねられてるのが実情だ。

一般病院に関し最近、気になる実態が明らかになった。国立がん研究センターと東京都医学総合研究所の研究チームの全国調査（100床以上の937病院）で、病气やけがで入院した認知症患者の45%が拘束を受けていた。チームが「明らかに過

の手袋着用」26%が続いた。確かに認知症に限らず手術後の患者は、せん妄（意識障害）で思わぬ危険行為に及ぶ心配がある。患者の命と向き合う急性期医療では拘束に頼らざるを得ない局面も想定され、拘束を完全否定するものではない。ただ限られた人員で安全確保を迫られ、転倒などに対する家族のク

として指導された。基準順守は無論、身体機能や生活の質の低下、認知症進行といった悪影響を抑える対策が求められる。「団塊の世代」全員が75歳以上となる25年、県内の高齢化率現状29.4%は約33%に上昇する見通し。認知症（同約2万7千人）で病院にかかる人も急増が予想され、このままでは拘束は

後手に回る病院でも「急性期医療で拘束はなくてはならない」との固定観念が払拭されつつあり、金沢大付属病院が患者との意思疎通を密にして拘束ゼロを実現した。同病院の事例を学ぼうと、山梨県立中央病院、市立甲府病院などが職員を招いたり派遣したりして研修。認知症看護の認定看護師がスキルを普及している。これらを県内で拘束を減らす実践につなげたい。

## 「縛らない医療」へ転換急げ

剩な対応で拘束が習慣化している可能性がある」と指摘する通り、もはや特例とは言えない。

レームを恐れるあまり、不必要な拘束をしていないか。各病院で検証する余地がある。

増加の一端をたどるだろう。介護施設向けには県が手引を配るなど身体拘束ゼロを進めてきた。成果を確かめようと本年度は6年ぶりに全施設の実態を調査。入所者や家族の意識、拘束が廃止できない理由などの調査結果を、病院の実態把握と対策に活用してはどうか。

命に危険が及ぶ切迫性があり代替手段がない場合はやむを得ない。だが病院は本人や家族が受ける精神的、身体的苦痛に配慮し、身体拘束ゼロへ転換を急いでほしい。〈小林康治〉

拘束方法（複数回答）は、「ベッドから下りられないよう柵で囲む」69%、「車いすにベルトなどで固定」28%と転倒・転落回避が目立ち、「点滴などのチューブを抜かないようミトン型

山梨県内の51病院全てが身体拘束の基準を持ち、患者側から同意書を取っている。だが昨年度の県の立ち入りで、7病院が拘束の妥当性を見極めるカンファレンスと患者の観察が不十分

を減らすため、3か月に1度以上の適正化検討委員会の開催や指針の整備、記録の徹底などを行わない施設は、介護報酬が10%減算されることになった。

山梨日日新聞・朝刊  
2018年12月8日（土）

上下

# 介護施設「縛らない」徹底

を減らすため、3か月に1度以上の適正化検討委員会の開催や指針の整備、記録の徹底などを行わない施設は、介護報酬が10%減算されることになった。

1トの家具やテーブルの位置を変え、動線を狭くして伝い歩きできるようにする。転倒を少しでも遅らせ、スタッフがあくまでまでの時間を稼ぐためだ。車いすで壁にぶつかり

## 身体拘束

介護施設では2000年、転倒事故の防止などを理由に、利用者の手足をベッドに縛るなどする身体拘束が原則、禁止された。以来、約20年。改善が進む一方、職員の入替わりが激しいため、「縛らない」教育の徹底が課題になっている。

車いすで2時間が過ぎると、腰がずり落ち、腰骨が痛んだ。午前10時。タオルで固定された右の腕と足は感覚が鈍り、自分の体でないようだ。トイレに行きたくて、スタッフを目で追った。伝わらない。夕方になった。諦めに似た感情がわいた。もう動かなくていいや」と、思った。

特別養護老人ホーム「プレーゲ船橋」（千葉県船橋市）

# 安心の設計

この介護福祉士、伊藤弘貴さん(21)は、今年3月、勤務初日の研修を思い出す。脳卒中で半身マヒになった人、認知症で転倒のリスクがあり、利き手と利き足を拘束されている人の状況を追体験する。お年寄りも縛られればこんな気持ちなのかと、その時、知った。この特養の利用者は、短期入所を含めて定員100人。約7割は認知症かその疑いがある。11年の開設以来、一度も身体拘束をしていない。だが、約60人のスタッフは非常勤も含め、全員が初日にこの研修を受ける。

かつては特養や介護老人保健施設(老健)でも、身体拘束は日常的に行われてきた。00年に介護保険法で原則禁止になり、例外は、①切迫した状況にある②他に手段がない③一時的な対応である——という要件を満たし、十分確認された場合に限られた。厚生労働省は翌年、「身体拘束ゼロへの手引き」で禁止対象の11の行為を示した。漫然と行う拘束は虐待と見なされる。こうした施策は業界に大きな変化をもたらしたが、拘束

## 千葉の特養 研修でお年寄りの気持ち知る

の正確な実態は今も分かっていない。

全国抑制廃止研究会が15年に行った全国調査(有効回収率26・3%)がある。拘束率(回答した日に拘束されている人の割合)の平均は、老健2・1%、特養1・5%。一方、大阪府が拘束実施状況について府内の施設に尋ねたところ、今年9月1日時点で「身体拘束ゼロ」と回答した施設数は、特養で229(全体の81%)、老健で102(同85%)。調査によってばらつきがある。

日本高齢者虐待防止学会理事で老健「大阪緑ヶ丘」事務長の柴尾慶次さんは、「拘束を認める要件の解釈にグレーゾーンがあり、漫然と拘束する施設も残っているのではないか」と言う。そして今年4月、身体拘束

### 怖い「諦め」

伊藤さんは、職場が明快な対策を取っていることにホッとしている。どう対応しても利用者の転倒が続く時は、「もう動かないで」と言いたくなる。初めから拘束を行う施設に勤めていたら、これが現実だと感じたかもしれない。

しかし、職場には、「拘束は仕方がない」という発想がない。転倒などの事故は必ず起きるが、減らすことはできる。家族から「事故が怖いので縛ってほしい」と求められても、しない方法を一緒に考える。現場だけで判断しない

——などの理念が徹底している。「身体拘束廃止マニュアル」も整備されている。職員も互いに相談しながら、様々な工夫を凝らす。例えば、利用者が部屋で歩くル

腕にあざができた時などは、原因や状況について家族に丁寧に伝える。

利用者本人の意思に反して行う拘束の弊害は少なくない。動かなくなることで、認知症が進み、床ずれができ、体が固まる。四方を囲ったベッドの柵を越えて転倒する。ベルトで固定された車いすから降りようと、車いすごと倒れるなど、拘束が重い事故につながる危険性もある。何より怖いのが「諦め」だ。表情がなくなり、食欲が落ち、生きる意欲を失ってしまう。

そうした弊害をリアルに感じるのはなぜだろうと、伊藤さんは考える。

決して楽な現場ではない。超高齢社会が急速に進むというのに、特養のスタッフは集まりにくく、この職場でも中堅層が大幅に不足している。認知症の周辺症状(徘徊、興奮、暴言、暴力など)がある利用者も増えていく。それでも、この仕事が好きた。

「誇り」という言葉が浮かんだ。「拘束をする」という選択肢がないことが、この仕事への誇りを生み、自分の専門性を高めてくれるのだと思えた。

◇「身体拘束ゼロへの手引き」で示された禁止対象となる11の行為(内容は要約)

- ・徘徊防止で体幹や手足を縛る
- ・転落防止で体幹や手足を縛る
- ・降りないようベッドを柵で囲む
- ・チューブを抜かないよう縛る
- ・ミトン型の手袋をつける
- ・車いすに拘束帯などで固定
- ・立ち上がりを妨げるいすを使う
- ・脱衣しにくいつなぎ服を着せる
- ・迷惑行為防止のため縛る
- ・向精神薬を過剰に使う
- ・自分で出られない部屋に隔離する

※2001年3月 厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦推進会議」作成

読 売(東京・朝刊)

2018年12月17日(月)

上 下

身体拘束

# 精神科病院 信頼関係を重視

精神科病院の身体拘束は、100年以上前の草創期から存在した。「拘束が原因で死亡した」とする遺族の声や体験者の証言が相次ぎ、近年、社会問題化している。拘束の大幅削減を達成した東京都立松沢病院（世田谷区、898床）を訪ねた。

「緊急措置入院」となった。患者が自分や他人を傷つける恐れがあり、緊急な対応が必要な場合、本人の同意を得ずに強制的に行う。精神保健指定医1人の判断で、72時間を超えて入院させる。都の制度では夜間や休日の急患が対象。松沢病院は都内全体の約3割を受け入れている。

午後10時過ぎ。1階の救急処置室。40歳の男性がパトカーで連れられてきた。統合失調症の幻聴症状が悪化し、興奮が収まらない。声をあげ、

警察官の手も振り払って暴れる。男性は、これまでも何度か他人に暴力をふるうことがあった。

精神保健福祉法に基づき、「緊急措置入院」となった。患者が自分や他人を傷つける恐れがあり、緊急な対応が必要な場合、本人の同意を得ずに強制的に行う。精神保健指定医1人の判断で、72時間を超えて入院させる。都の制度では夜間や休日の急患が対象。松沢病院は都内全体の約3割を受け入れている。

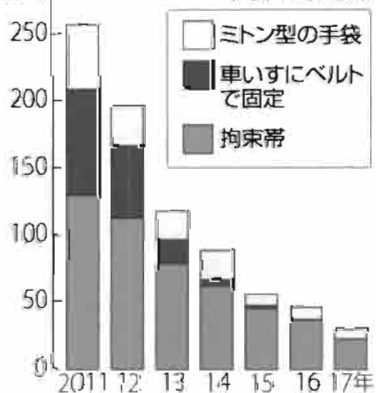
同法は、限られた非常時での拘束を条件付きで認めている。だが、この日、男性が処置室や精神科救急病棟(82床)の病室で、手足を縛られることはなかった。

救急病棟などでは、点滴を粘着テープで壁に貼ることにした。狭い保護室で便器に頭を打ちつけそうな患者がいたら、インターネットの「お急ぎ便」でクッション便座シートを取り寄せた。窓枠などの角につけるクッションを買い、今井さんが1000円ショップに走ることもあった。個々の患者にあわせた手作りの試行錯誤を続け、成功体験を積み上げた。

興奮が激しい患者の姿を家族に見せない慣習も改め、保護室内での面会も認めた。丁寧な説明を心がけると、患者の怒りや興奮、家族の不信感がずっと和らいだ。

「身体拘束の削減は、医療者側の常識や思い込みを崩していく作業だった」と、今井さんは振り返る。

● 松沢病院の身体拘束数 (1日平均人数)



## 設計

精神科医の今井淳司さん(41)は、1時間近くかけて男性の訴えに耳を傾けた。男性は落ち着き、泣々と納得して抗精神病薬の服用に応じた。翌日、治療することを受け入

していた。しかし、16年には、その数を344人中わずか8人(2%)に激減させた。現在も同じ水準だ。

「緊急措置入院の現場ばかりではない。慢性期も含めた入院患者全体の2割弱を拘束した11年時点と昨年を比べると、拘束を行った1日の平均人数は88%減少した。拘束帯の使用が83%、ミトン型の手袋の使用が86%減り、車いすにベルトで固定する拘束は昨年、ついに皆無になった。」

## 削減目標に 家族と情報共有

しかし、戦後、精神病床が世界で類を見ない33万床以上に激増したこの国に、呉氏の理念は根づかなかった。拘束される患者数は2013年に初めて1万人を超え、10年間で2倍近くに増えた。診療報酬が手厚い精神科救急病棟の増加などが理由とみられる。欧米諸国に比べ、患者の拘束時間も突出して長い。

再び拘束削減を目標とした



# 安心

## 心の病ありのままに

### 解離性障害のなかむらさん(34)

精神障がいを恐れるのは、当事者を知らないからではないか。宜野湾市のなかむらなつみさん(34)はそんな思いから、腕や首などに残る自傷行為の痕、精神科病院で身体拘束された経験もありのままと語る。11月にはオリジナルソングなどを披露するライブやかなライブを開催。「病気になるも人生楽しめていきます。理解してとか受け入れてもらいたいのではなく、ただ、こんな私を知ってほしい」との願いを込めて。

(社会部・新垣綾子)

れて転院した。「身体拘束は患者さんと医療者との信頼関係を損ない、逆に治療や回復を妨げてしまう」と今井さん

は言う。拘束の削減に取り組み始めた2012年、松沢病院は緊急措置入院の患者299人のうち202人(68%)を拘束

合った。例えば、緊急措置入院の現場では、鎮静後の患者に点滴をする。目覚めた後にチューブを引っ張り、点滴台が倒れてけがをしないようにと拘束してきた。医師も看護師も、それが患者の安全を確保する方法だと考えていた。患者が緊急入院する精神科

どのリスクの情報を家族と共有したうえで同意してもらう。法的な拘束力はない。反対する家族はほとんどいなかった。同病棟では原則、拘束がなくなった。

病院の敷地に、日本の精神医学の基礎を築いた呉秀三氏

強いストレスなどが原因で記憶が途切れたり、複数の人格が現れたりする解離性障害の診断を受けたのは20代前半。仕事のノルマに追い詰められ、不眠や過食嘔吐を繰り返すようになった。同級生にからかわれたことをきっかけに、小学4年生ごろに始まった自傷行為もエスカレート。入退院が20回近くになり、時には警察に保護され、精神科病院では手足をベッドにくく

られた。ただ「拘束がいいか悪い

か、私には分からない」と強調する。「医者や看護師の苦悩も知っている。私なりのメッセージが、心の病に目を向けるきっかけになればいい」

## 歌や漫画で思いを吐露

8月から利用する「宜野湾市地域活動支援センターはびわん」で11月20日にあったライブは、この地域で子どもたちの見守りボランティアなどに取り組みむ佐久川寛一さん(69)が発案し、約30人が訪れた。ギターやウクレレを手に、オリジナル3曲を含め7曲を歌い上げたなかむらさんは、実感を込めて語った。

「心の病気になったからこそ、出会えた人たちがたくさんいます。いろんな支えで私やあなたが成り立っていること、それはたぶん事実。皆さん、なつみの人生に登場してくれて、ありがとう(うしろ向き)」

沖縄タイムス・朝刊  
2018年12月2日(日)

読 売(東京・朝刊)  
2018年12月18日(火)

## 受精卵ゲノム編集 来春解禁へ

# 基礎研究に限り容認

文科省指針案

文部科学省の生命倫理・安全部会は4日、狙った遺伝子を効率よく変更できる「ゲノム編集」を人の受精卵に施す研究について指針案を了承した。不妊治療などの基礎研究に限って認め、人や動物の子宮に戻し、妊娠、誕生させることは禁止する。厚生労働省や内閣府の同様の専門家会議の了承を経たうえで、2019年4月に運用が始まる見通しだ。

## 妊娠・誕生は認めず

中国の研究者がゲノム編集を使って受精卵の段階で遺伝情報を改変した双子が生まれたと香港で開かれた国際会議で主張し、安全性の問題や倫理面から批判が相次いだ。この日の部会では、国際会議に参加した委員が報告した。部会では、国内で人の

ゲノム編集を使った研究で解明できれば、不妊症の治療に役立つ。使用する受精卵は不妊治療で余ったもので、冷凍保存期間を除いて受精後14日を超えた時点で廃棄する。遺伝性の難病やがんなどの治療を目的とした研究は含まれず、今後議論する。研究計画については研究機関や大学の倫理委員会と国が2段階で審査する。受精卵の提供者に対して研究の目的や受精卵の取り扱いは適切に説明することも盛り込んだ。

ただ、指針は違反しても罰則はなく、氏名を公表するくらいだ。大学や研究機関の研究者が対象で、民間病院の医師が治療目的で使うことは規制できない。部会の委員を務める埼玉医科大学の石原理教授は「法律や指針などで規制する必要はある」とは思うが、限界がある。どう対応するかは難

受精卵にゲノム編集を施す研究について、不妊治療などを目的とした基礎研究に限って解禁することなどで合意した。中国で起きたような問題に対して、一定の歯止めがかかるとなる。

「クリスパー・キャス」と呼ぶ手法が現れると、世界中で研究が一気に進んだ。農産物だけでなく魚などの品種改良にも応用されている。ただ狙った遺伝子とは違う部分に予期せぬ変異が起きる可能性があり、技術的に未熟な部分も残っている。

命の始まりとされる受精卵が発達する仕組みはわからない点が多い。ゲノム編集を使った研究で

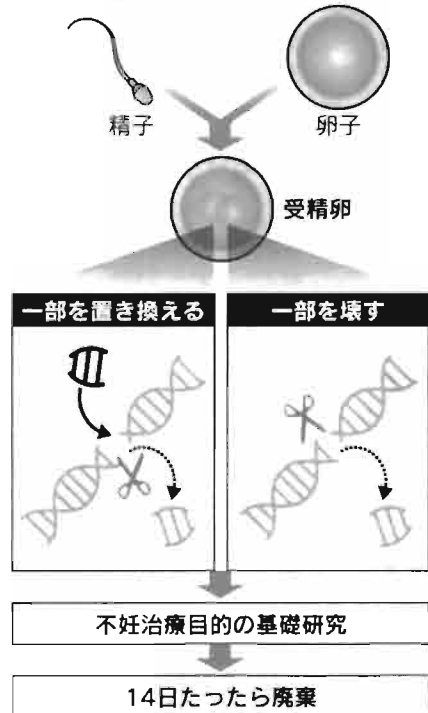
的や受精卵の取り扱いについて適切に説明することも盛り込んだ。

ただ、指針は違反しても罰則はなく、氏名を公表するくらいだ。大学や研究機関の研究者が対象で、民間病院の医師が治療目的で使うことは規制できない。部会の委員を務める埼玉医科大学の石原理教授は「法律や指針などで規制する必要はある」とは思うが、限界がある。どう対応するかは難

	基礎研究	母胎に戻す
日本	指針作成中	指針で禁止へ
中国	大学などが倫理委員会を認めれば可能	指針で禁止
米国	公的研究費の投入を禁止	当局が臨床試験を認めず
ドイツ	法律で禁止	法律で禁止

(注) 内閣府の資料などをもとに作成

ゲノム編集を使った受精卵研究



日本経済新聞・朝刊  
2018年12月5日(水)

海外では、受精卵をゲノム編集で操作する基礎研究が進む。中国では、15年に遺伝性の血液難病の治療を目的に始めた。米国でも遺伝性の心臓病を引き起こす遺伝子変異を高い効率で修復する実験に成功した。受精卵の段階で原因遺伝子を排除できれば、治療効果が高まる。いずれも治療に応用できるかを調べる程度にとどまっており、遺伝子操作した受精卵を母胎に戻すことは国が指針などで禁じている。望み通りに遺伝子を書き換えることが可能になれば「デザイナーベビー」などへの応用につながるという意見も根強い。欧州では、受精卵の段階から「人」とみなし、ドイツやフランスなど多くの国々が妊娠、出産目的での受精卵の遺伝子改変を法律で禁じている。

# ゲノム編集指針案容認

## 厚労省 受精卵で基礎研究

厚生労働省の専門部会は13日、狙った遺伝子を効率よく改変できる「ゲノム編集」を人の受精卵に施す研究について指針案を了承した。不妊治療などの基礎研究に限って認める。動物や人の胎内に戻して出産することは禁止する。内閣府の専門委員会の了承を経て、2019年4月にも運用が始まる見通しだ。

中国では人の受精卵に「ゲノム編集」をする研究に「PSS研

集は、海外では基礎研究で実施されている。だがゲノム編集をした受精卵を胎内に戻して出産することは禁止されている。中国では指針で禁止されているにもかかわらず、ゲノム編集した受精卵から双子が生まれたと主張する研究者が現れ、国際的な非難を浴びている。

日本経済新聞・朝刊 2018年12月14日(金)

### ゲノム編集集ベビー

#### 京大「禁止を」見解

「PSS研

中国の研究者が「ゲノム編集技術で遺伝子改変した人の受精卵から双子を誕生させた」と報告した問題で、京大「PSS細胞研究所（山中伸弥所長）の倫理研究部門は、ゲノム編集技術を使って人の誕生を目指すことは現時点で禁止すべきだとする見解をまとめ、ホームページで発表した。

見解は7日付。ゲノム編集技術について、「発展途上の段階にあり、誕生した双子に思わぬ健康被害が生じる可能性がある」と指摘。「研究倫理上の手続きを軽視するもの。科学研究に対する社会からの信頼を揺るがしかねない」と懸念を表明している。

読 売(東京・夕刊) 2018年12月10日(月)

# ゲノム編集 応用側に特許

## 米控訴裁 基礎開発の教授敗訴

【ワシントン＝三井誠】次世代の医薬品開発や農作物の品種改良で中核技術になると期待される「ゲノム編集技術」の特許を巡り、米連邦巡回控訴裁判所は10日、人や動物の細胞に使えることを最初に示した米ブロード研究所のグループに特許を認めた。基礎技術を発明した米カリフォルニア大バークレー校のジェニファー・ダウドナ教授らの訴えは退けられた。

米特許商標庁は昨年2月10日、人や動物の細胞に使えることを最初に示した米ブロード研究所のグループに特許を認めた。これを不服としてダウドナ教授側が同4月に控訴していた。米カリフォルニア大は控訴裁判所の判断に対し「さらなる訴訟を検討している」とするコメントを発表した。

この技術は「クリスパー・キャス9」と呼ばれ、狙った遺伝子を効率よく改変できる。ダウドナ教授らは細菌を使って基本的な仕組みを解明したが、技術を入り込むのは今後の技術応用に最初成功したのは米ブロード研究所のフェン・チャン博士らだった。米特許商標庁は昨年2月10日、人や動物の細胞に使えることを最初に示した米ブロード研究所のグループに特許を認めた。これを不服としてダウドナ教授側が同4月に控訴していた。米カリフォルニア大は控訴裁判所の判断に対し「さらなる訴訟を検討している」とするコメントを発表した。

クリスパー・キャス9は従来のゲノム編集技術に比べ、効率やコストの面で格段に優れ、農作物の品種改良や病気治療に向けた研究

読 売(東京・夕刊) 2018年9月12日(水)

# ゲノム編集 臨床応用には是非

## 受精卵の遺伝子操作 国際会議で議論

PICKUP TOPICS

ゲノム編集と生命倫理

香港で先月、3年ぶりに開かれたゲノム編集の国際会議。ゲノム編集で受精卵の遺伝子を操作し、世界初の双子を誕生させた中国の研究者が発表し、医療として必要性がなく、拙速な臨床応用に批判が集中した一方、技術の進歩に伴う、将来の臨床応用を期待する意見も多く聞かれた。人間への応用をどう考えるのか、市民を交えた幅広い議論の必要性も指摘されている。

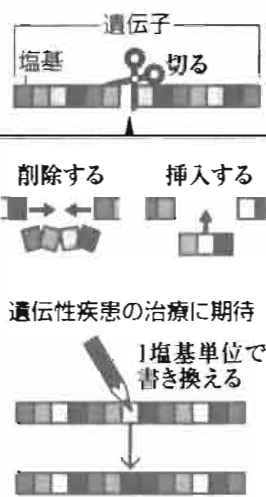
### 「改変に不正確さ」「新技術に期待」

「受精卵へのゲノム編集の臨床応用は、安全性の問題が未解決で、実施するのは無責任だ」。会議の組織委員長を務めたデビッド・ボルティモア氏は、現時点での臨床応用について、厳しく指摘した。ヒトの受精卵にゲノム編集を行った基礎研究の論文は、英米中などから少なくとも計8本出ている。だが、子どもを産ませる臨床応用ができるほど正確な技術ではない。英フランス・クリック研究所のキャシー・ニアカン氏は、受精卵にゲノム編集を行ったところ、狙った改変とは別に、染色体の一部が失われたり、増えたりしたとするデータを発表した。病気に関わる遺伝子が改変されれば、健康被害につながりうる。別の研究者は、ニアカン氏の示した現象を例に挙げ、「受精卵に生じる現象を把握するた

め、信頼の高い遺伝子検査が必要だ」と訴えた。とはいえ、技術開発が進めば、遺伝性疾患の原因遺伝子を修復し、予防などに役立つと期待されている。ハーバード大医学部のジョージ・デイリー学部長は、前回の会議が開かれてからの3年間で「劇的な技術の進展があった」とし、「最初のステップが誤りだからといって後退すべきではない」と臨床応用をめざす考えを強調した。同氏が目を見張る技術だと

紹介したのが、遺伝情報の最小単位である塩基を一つ書き換える技術「ベース・エディティング」(塩基編集)だ。技術の開発者である米ブロード研究所のデビッド・リュウ氏は、ヒトの細胞の実験で、従来のゲノム編集と比べ、遺伝子を改変する成功率が高かったという結果を示し、「1塩基を書き換える鉛筆のような技術だ」と説明した。この技術を人間の受精卵に使い、骨や血管などの組織が弱くなる「マルファン症候

従来のゲノム編集と「ベース・エディティング」



従来のゲノム編集  
ベース・エディティング

### 市民の意見採り入れる活動も

「どんな目的でも受精卵のゲノム編集はすべきでないと考えているが、考えが揺れている」といった意見が出て、公の場での議論を重ねることが重要だという考えでまとめたことを紹介した。「直接話し合うことで、立場が異なる人同士でも、コミュニケーションの構築につながる」と託摩さんは意義を語る。会議の組織委員会メンバーとして参加した加藤和人・大阪大教授(医学倫理)は「技術の進歩は確実。ゲノム編集技術の人への応用の規制のあり方について、日本でも科学界と一般の人が一緒に本格的な議論を進める必要がある」と話す。(香港=福地慶太郎)

研究の進め方や政策に市民の考えを採り入れる活動は「パブリック・エンゲージメント」と呼ばれる。受精卵のゲノム編集は改変が世代を超えて影響し、安全性と倫理の両面でことさら重い課題があるだけに、この手法が研究者に注目されている。会議では日本の取り組みも紹介された。日本科学未来館の科学コミュニケーション専門主任、託摩雅子さんは、遺伝性疾患の患者らの話を多くの人聞き、ゲノム編集の活用を考える催しについて報告した。具体例として、遺伝性の神経の難病の女性が「家族を苦しめる病気を取り除くためゲノム編集を受けたい」と述べたのに対し、別の遺伝性疾患の患者は「子どもにも予想外の影響が出たら親として耐えられない」と発言。参加者から

朝日(東京)・朝刊  
2018年12月13日(木)

風

中国の科学者が、遺伝子を操作できる技術「ゲノム編集」を人の受精卵に施して子を誕生させたというニュースが、議論を呼んでいる。真偽は不明ながらも事実なら、安全性や倫理面の議論をなおざりにして命を誕生させたことと

ゲノム編集の論じ方

なり、非難に値する。しかし注意したいことがある。どんな経緯で生まれた命であれ、その尊厳は守られねばならない点だ。  
11月29日付の毎日新聞一面のコラム「余録」。中国の古典から人間をつくりの人形を作った細工師の話を引き、細工師を件の科学者になぞらえ、「造物主と同じことができる」と言ってみたかったのだろうか」と批判していた。意図は

理解できたものの、違和感が残った。「細工師」である科学者の手によって生まれた子は、「人形」なのだろうか。無論、そんなはずはない。  
これまでも体外受精など新しい生殖技術がもたらされる度、議論が巻き起こってきた。倫理面や安全面に関する検討は今後も必要だろう。しかし体外受精によって生まれた人を「試験管ベビー」と呼

ぶなど、当人を揶揄する言葉が使われたことは不適切だったと思う。ゲノム編集を使った生殖技術で、同じ轍を踏むのは避けたい。生殖に関わる技術を議論する時、批判されるべき科学者と、生まれた当人は切り離される必要がある。科学者を批判することに気をとられるあまり、意図せずともこの一線を越えてしまうと、社会に偏見や差別を生んでしまう恐れ

がある。  
自らの言動の持つ意味に対する想像力を欠けば、子への影響を十分に考えずゲノム編集を施したとされる科学者と、「同じ穴のむじな」になってしまう。  
(広瀬一隆)

京都新聞・朝刊  
2018年12月6日(木)

とうとう起きてしまったのか。そんな思いに駆られたのは、「中国の研究者が『ゲノム編集を施した受精卵から双子の赤ちゃんが生まれた』と主張している」というニュースを読んだからだ。ゲノム編集は「生物の遺伝子を人為的に改変する技術」。中国の事例は、エイズウイルスを持つ親からの感染防止が目的とされる。  
思い出したのが、2002年に起きた「クローン人間騒動」だ。イタリア人医師や新興宗教団体が相次いでクローン人間の妊娠や出産を発表した。結局、その真偽は明らかにならなかったが、そのときの「人ごとではない」という切迫感は今回より薄かったように思う。日本にはクローン人間作りを

見上げてごらん



永山悦子



編集研究に関する指針を整備し、来春から基礎研究の実施を認める一方、ゲノム編集による出産を禁じる方針だ。しかし、基礎研究で作られた受精卵が一方、子宮に戻された場合の罰則はない。  
ゲノム編集の成功率は100%ではなく、安全性は分かっていな

人ごとではない

禁じる法律があり、少なくとも日本で実施される恐れは（法律を守れば）低かったためだ。  
けれども、ゲノム編集に関する法律は、日本にはない。妊娠や出産にかかわる生殖補助医療に関する法律もない。国や関係する学会の指針があるだけだ。国はゲノム

い。この技術によって、人為的に能力を高めた「デザイナーベビー」が生み出される恐れもある。安全面も倫理面も課題だらけ。だから、欧州の多くの国がゲノム編集による子どもの出産を禁じる法律を定め、米国も連邦予算の執行を禁じている。

中国にはゲノム編集による出産に関する規制があり、報道後に開かれた国際会議で今回の件を発表した研究者に中国国内からも多くの批判の声が上がった。政府が、研究者の活動停止を指示する事態にもなっている。それでも実施を止められなかったとすれば、罰則

がない日本でも「えいや」と実施される可能性があるのではないかと。そんな心配が胸がざわつく。  
国内では、体外受精が年間約40万件実施され、世界一のペースとされる。身近な不妊治療の現場で、この技術が使われる恐れも世界一高いといえる。専門家だけではなく、国レベルで早急に議論を始めることが必要だろう。  
中国で起きたことが本当であれば、それは人ごとではない。  
(オピニオングループ)

毎日(東京)・夕刊  
2018年12月3日(月)

# りの子 ひそむリスク

その時、何が

20XX年、「親が望んだ能力や容姿を赤ちゃんに持たすことができる」とうたうクリニックが、一部の国々で登場していた。「IQ（知能指数）のご希望は？」「目の色は5色取りそろえています」……。要望を満たすように、受精卵を遺伝子操作するというのだ。だが、そんな親の期待は実現しないばかりか、予期せぬ健康被害が出て、家族が苦しむことになった。



生まれてくるわが子の知能や容姿、運動能力などを希望通りにしたい。SF小説などでは「デザイナーベビー」として、たびたび描かれている。

もしも、わが子の特性を選べるとしたら、人は何を望むのだろうか。

英米などの研究チームが2013年、精子提供を受けて出産した女性約1700人にオンライン調査した結果を発表した。精子提供を受ける際に重視したポイントを複数回答で挙げてもあったところ、全体の3分の2にあたる約65%が「健康状態」

## を遺伝子操作 ■ 健康被害 子孫にまで？

象に、「赤ちゃんの頭をよくする」という遺伝子操作への賛否を聞くと、8割が否定的だったものの2割は支持した。



じつは、SFの世界のことだったはずのデザイナーベビーが近年、現実味を帯びつつある。

狙った遺伝子を切断し、働かなくしたり、新しい機能を持たせたりできる「ゲノム編集」という技術が登場したからだ。特に使いやすい「クリスパー・キャス9」は、12年に発表されると世界中に急速に広まった。15年には中国の研究チームが人間の受精卵をゲノム編集した論文を発表。こうした研究は米英中などから少なくとも計8件報告されている。

受精卵で改変した遺伝子は、生まれた子の全身に広がり、子孫にも受け継がれる。米科学アカデミーなどは昨年、受精卵のゲノム編集は子どもが遺伝性の病気になるのを防ぐ治療目的に限り容認し、能力や容姿を操作する目的は認めないとする報告書を発表した。一方で、こうしたルールがない国で、デザイナーベビーをつくらうとする「医療ツーリズム」が起きることへの

の知能や性格、体の特徴などをどこまで操作できるのか。

国立成育医療研究センターの松原洋一・研究所長は「知能や性格は、決定づける遺伝子が明確ではなく、思い通りに操作するのは難しい」とする。一方、身長や筋肉量に関係する遺伝子は比較的判明しており、操作できる可能性はあるという。

ただ、松原さんは「いまの技術は狙い通りに改変する精度が低く、人間の受精卵に使うのは現実的ではない」と話す。



さらに、松原さんは「予想外の健康被害が起る可能性がある」と指摘する。

例えば、「CCR5」というたんぱく質の遺伝子に変異があれば、エイズウイルス（HIV）に感染しにくいことが分かっている。ゲノム編集でこの変異を入れることができればHIVの根絶につながりそうなものだが、そう単純ではなさそうだ。逆に、死に至ることもある西ナイル熱にかかりやすくなる恐れがあるというのだ。同じ遺伝子が状況によって違う役割を担うため、狙い通りに遺伝子を改変しても、思いもしなかった問題が起きる可能性がある。

### 進化する ゲノム編集

ゲノム編集技術は1990年代後半に登場した。第1世代の「ZFN」や第2世代の「TALEN」といった先行技術があったが、扱いやすい第3世代の「クリスパー・キャス9」の登場で、研究のすそ野が一気に広がった。ただ、狙いと違う遺伝子を編集する恐れも指摘されている。

尿病になりやすい一方、少ない食事からでもエネルギーを蓄えられる。この変異をゲノム編集で修復すると、高カロリーな食事をしても健康を維持しやすくなると思われる。だが、地球温暖化による異常気象や人口増加によって食糧危機に陥れば、生き残れない恐れがあるという。松原さんは「人間の浅知恵で良かれと思って遺伝子を改変した結果、子孫が将来の環境激変で苦しむかもしれない」と話す。

また、がん治療や再生医療などで効果が不確かにもかかわらず高額な自費診療を提供する医療機関があるように、ゲノム編集でも同じ事態が起こりうるとみる専門家もいる。神奈川県立保健福祉大学の八代嘉美教授（科学技術社会学論）

# 科学の扉

「想定外」  
を考える

# 望み通

と回答した。半数が「知能」を、約43%が「身長」を重視していた。  
また、米シンクタンク「ピュー・リサーチ・センター」が今年、約2500人の米国人を対

## 受精卵

の懸念も示した。  
日本政府は今春、倫理面や全面の課題があるとして、ゲノム編集した受精卵での妊娠を認めない見解を示した。  
そもそも、ゲノム編集で人間

また、松原さんは、暮らしやすいように遺伝子操作した結果、将来の環境変化に対応できなくなる可能性も指摘する。  
脂肪の分解などに関わる遺伝子に変異がある人は、肥満や糖

は「原因遺伝子が特定されている難病を除けば、受精卵のゲノム編集はリスクのほうがはるかに大きい。『ゲノム編集』の限界を理解することが必要だ」と話す。(福地慶太郎、戸田政考)

ゲノム編集技術「クリスパー・キャス9」の仕組み

① 狙った遺伝子をはさみ役の酵素で「切断」

② 切断部位周辺を書き換える

## デザイナーベビーは可能?



他に  
・髪の色  
・肌の色  
・身長  
・HIVへの耐性  
・マラリアへの耐性  
なども項目になるかも

### 思わぬ負の側面も?

目の色を操作した子が...

目の病気になりやすく

IQを操作した子が...

疲れやすい体質に

筋肉量を操作した子が...

免疫力が低下

など  
予想していなかった  
事例が続出する可能性

クラシック 野口哲平

PICKUP TOPICS

ゲノム編集と生命倫理

# 83歳 また歩けた

## 余命1カ月 寝たきりで人生終われぬ

人の歩行の仕組みを研究してきた83歳の医学博士の名誉教授の男性が今春、がん余命1カ月と診断され、寝たきりになったがリハビリに取り組み、再び一人で歩けるまでに回復した。希望を失いかけたが、研究で得た「筋力とバランス機能を整えたら歩ける」との信念から努力を重ねた。男性は体験を記した著書も出版。「寝たきりになっても再び歩けた。同じ境遇の人を勇気づけたい」と語る。【野口由紀】

男性は、関西医科大学の名誉教授で医学博士の岡本勉さん。大阪府茨木市。子どもの発達や高齢者の健康維持に役立つ歩き方を研究してきた。近年は自宅に開いた「歩行開発研究所」を拠点に活動している。

毎朝約1時間歩き、80歳直前には大阪マラソンに出場。だが、胃がんと診断され、治療を受けてきた。今年4月中旬に肺炎で2週間入院。転倒防止のため歩行を止められた。抗がん剤の副作用から関

## 医学博士 自らの研究実証



寝たきりから回復した経緯を記した岡本勉さんの著書「野口由紀撮影」

器を支えに立つ訓練を続けた。バランスを崩さないよう両足を広げて立つことなど、歩行の研究が役に立ったという。8月にはつえを支えに自室を歩き来できるようになった。8月下旬、妻悦子さん(82)の誕生日に万博記念公園(大阪府吹田市)に家族で外出。香代子さんは「一緒に外出できると思わなかった。涙が出るほどうれしかった」と振り返る。

岡本さんは数カ月ごとに目標を更新し、希望をつないでいる。体験の出版を目標とし、10月の誕生日には「在

宅医療・介護 寝たきりからのリハビリウォーク(同研究所)を刊行。次の目標は英語版の出版だ。岡本さんは今、毎日2000歩を歩く。「高齢者が寝たきりになったからといって、必ずしも人生が終わるわけではない。自らの体で試したことが誰かの役に立てば」と願う。著書の問い合わせは研究所(072・631・1788)。

毎日(大阪)・夕刊  
2018年12月28日(金)



# 改訂版「佐賀医人伝」刊行

## 医学史 医学貢献の140人紹介

佐賀市 佐賀医学史研究会(鍵山稔明会長)

は幕末や明治期に佐賀の医学に貢献した人々を紹介した『佐賀医人伝』の改訂版を発行した。医師で、県政など地域の課題にも力を入れた鹿毛良鼎(1855~1923年)ら14人を追記し、計140人の先人たちの功績を収録している。

初版は昨年2月、近代医学の発展や地域医療の充実に尽くした佐賀の医学者126人の功績を掘り起こして刊行。同研究会は佐賀新聞文化奨励賞を受賞している。初版が好評で、新たな資料や情報が寄せられたこともあり、会員が研究を進め、初版から1年8カ月で改訂版の出版に至った。

一人、鹿毛良鼎は現在の基山町に生まれた。西洋医学を取り入れ、優しい人柄で多くの人望を集めたという。好生館改築や県道の整備、農業など、地域のために幅広く手を尽くした。ほかに、佐賀市出身の小児科医で未熟児対策に尽力した大坪佑一(1903~65年)、鳥栖市出身で、こう薬の「朝日万金膏」の開発をした高島熊吉(1870~1948年)らも加えた。

鍵山会長は「佐賀の医学者は種痘を全国へ広げたり、国家試験の元となる制度を築いたり大きな功績を残している。医学のほかに地域に貢献した先人のことを知ってもらいたい」と話している。

A5判、302頁。1500円(税別)。県内書店や佐賀新聞社で取り扱う。問い合わせは、佐賀新聞プランニング出版、電話0952(28)2152。(松田美紀)

佐賀新聞・朝刊  
2018年12月2日(日)

## 心電図研究 師弟の集大成

### 遺志継ぎ出版「役立てて」

松本の北島医院院長、関口元信大教授と医学書松本市高宮北の北島医院の北島敦院長(52)と、信州大医学部教授だった故関口守衛さんによる医学書「健診心電図から臨床へ 心疾患断へのアプローチ」が出版された。2人は20年以上にわたって心電図の研究をともに進め、本の出版を目指したが、北島さんの恩師関口さんは2016年10月に83歳で死去。遺志を継いだ北島さんは、恩師との二人三脚の集大成が医療の現場で役立つことを願っている。

心電図は心臓の動きを示す波形のグラフ。波形を読み取ることで、心筋の炎症や肥大、血液量が乏しい状態「虚血」などの異常が分かる。健康診断などの検査の一つで、手足や胸部に電極を取り付け、心臓の収縮や拡張を示す電気信号を感知する。北島さんは松本市出身。東海大医学部卒業後、1991~2000年に信大医学部第一内科(現内科学第一教室)に在籍した。心筋症が専門の関口教授のもとで93年から心電図を本格的に研究。2000年の開業後も、信大を退職した関口さんと論文作成などに励んだ。2人で判読した心電図は50万例以上に上る。北島さんによると、関口さんは患者の話をよく聞く医師で医学への情熱が強かった。心電図の研究成果を「いつか本にまとめよう」と言っていた関口さんの死後、北島さんが執筆を続けて出版にこぎ着けた。変形A4判202頁。心筋梗塞や心筋症の疑いなどを示す心電図の実例を豊富に掲載。突然死を招く恐れがある「ブルガダ症候群」の心電図を読み取る注意点も解説した。北島さんは「集大成にまとめられて喜ばしい。関口先生も喜んでくれると思う。臨床医や研修医、医学生など心電図を利用する人たちに役立ててほしい」と願う。5616円(税込み)。医学出版社(東京)が発行。全国の医学系書店や医学系大学の購買などで販売している。問い合わせは同社(03・3812・5997)へ。

信濃毎日新聞・朝刊  
2018年12月19日(水)

# 医師残業上限超え設定

## 地域医療はさらに長く

厚労省案

医師の働き方改革を巡り、厚生労働省は5日、2024年4月から勤務医に適用される残業時間上限について、働き方改革関連法で定められた一般労働者の上限「年720時間」を超える時間を設定する方針を示した。地域医療の核となる病院の医師や、専門技能を学ぶ若手はさらに上限を緩和。長時間残業を認める代わりに、終業から始業まで一定時間を空ける「勤務間インターバル」などの健康確保策を義務化する。

厚労省が5日、医療 労省は年内にも具体的関係者でつくる検討 上限時間を示し、年会に「考え方の案」を 度内にまとめる方針を示した。過労死防止の 案は、勤務医の労働観点から始まる制度で 時間を24年までに「大長時間労働を認める形 幅に削減するのは困難」とした。医療二一議論を呼びそうだ。厚 すが高く、医師養成に

時間がかかることが理 疾患の労災認定基準な 由としている。 どを参考に、1九月と その上で、脳・心臓 年間それぞれの上限時

### 2024年4月から適用される 医師の残業規制(案)

対 象	残業の上限時間	注 意 点
一般的な医療機関の勤務医師	年間720時間を超える水準を設定	努力義務
地域医療に従事する医師 [地域医療の核となるような医療機関に勤務]	一般的な勤務医を超える上限を設定。将来的には一般的な勤務医の上限に移行	義務化
専門性や技能を高めようとする若手医師らを想定 [特定の医療機関に勤務、本人の申し出も必要]	一般的な勤務医を超える上限を設定。妥当性は随時検証	義務化

※厚生労働省による

間(休日労働を含む)を定め、連続勤務時間の制限や勤務間インターバル制度の導入を努力義務にする。さらに例外として、緊急診療に対応できるように、健康に関する医師の面談を条件に月の上限超えも認める。

一般勤務医の上限時間でも、地域医療の核となる病院ではサービ人が希望した場合に限る。

「現場医師の疑問の声」に抑えることができたという。「医療ニーズが減るわけではない。地域で医療機関の選択と集中を考える必要がある」と訴える。

関係地方の山間部にあるんじゃないかと疑問を投げ掛けた。

勤務時間インターバルの影響を懸念する。厚労省案については「医師が足りている病院に向けた話のように思える」と言い切った。

一般医師よりも、さらに残業上限が高く設定される対象に「専門性や技能を高めようとする若手医師」が含まれていることに、東京都内のクリニックに勤める女性内科医29は「やっぱり若手をこき使う前提なんだな」と思った。夢を抱き、医師になった人の足元を見ているような気がする」と冷めた口調。「若手を酷使する現状を改めない限り、働き方を改革しようとしても無理があるんじゃないか」と疑問を投げ掛けた。

## 「若手こき使う前提」

現場医師の疑問の声

厚生労働省が、勤務間インターバルなどの健康確保策を取ること を前提に、医師の残業時間の上限について一般労働者の基準(年720時間以内)を超える時間を設定する方針を示した。小手先だけの印象「無理がある」。医療ニーズに配慮するため、奮闘を続ける現場の医師たちからは疑問

「医師配置などを見直さなければ、過労死が減るわけではない。地域で医療機関の選択と集中を考える必要がある」と訴える。

関係地方の山間部にあるんじゃないかと疑問を投げ掛けた。

南日本新聞・朝刊  
2018年12月6日(木)

(共同通信)

# 医師の働き方点検

## 健康確保 第三者機関設置へ

厚労省検討

長時間労働が常態化している医師の働き方改革を巡り、厚生労働省は19日、残業時間の上限を一般労働者より緩和する代わりに健康確保策が確実に実施されているかチェックする第三者機関を設ける方向で検討に入った。年明けにも具体的な議論を始める方針だ。

来年4月施行の働き方改革関連法で、労働者の残業の上限は最大年720時間となる。医師については医師不足地域に配慮し、5年の経過措置を設けたうえで、上限は省令で別に定める。

厚労省は今年度内に残業の上限を決める方針で、現在、一般の医療機関で働く医師は年960時間とする方向で調整中だ。地域の中核的な医療機関の医師や、経験を積む必要がある研修医ら特定の医療機関の医師は上限をさらに緩和する。ただし、健康確保のため、

終業と始業の間に9時間の休息を求める「勤務間インターバル」や、連続勤務は28時間までとする制限を設ける。上限を緩和する特定の医師には義務化を検討している。

しかし、健康確保策の実施が順守されるか疑問視する声もある。このため、自民党のプロジェクトチームが18日、実施を促す第三者機関の創設を求める中間提言案を公表。日本医師会も必要性を指摘していた。

第三者機関は、都道府県などが地域の医療機関の労務管理を支援する「医療勤務環境改善支援センター」などで検討する。

読 売(東京・夕刊)  
2018年12月19日(水)

## 手術後・麻酔の管理など

医師の長時間労働を減らすため、厚生労働省は、手術に伴う業務などの一部を医師から看護師に移すことを促す方針を決めた。医師から手順書で事前に指示を受けた看護師が診療を補助できる制度の研修を見直し、麻酔や手術を受けた患者の管理を担える環境を整える。

# 看護師に医師の業務シフト

## 働き方改革 厚労省が20年度から新研修

研修施設を来年に指定し、2020年度から新たな研修を始める。医師の指示があれば、看護師は診療の補助として医療行為ができる。国は15年、看護師の役割を広げようと制度を開始。国が定めた研修を受け、医師から手順書で指示を受けていけば、看護師の判断で医療行為ができるようになった。対象は国が決め、「特定行為」と呼ばれる。手術後の痛みの管理や血液透析など38行為がある。

看護師に移行を促進する主な業務

- 手術後**
  - 呼吸の管理
  - 疼痛、栄養の管理
- 麻酔**
  - 気道の確保
  - 麻酔の覚醒
- 在宅・慢性期**
  - 輸液での脱水への対応
  - 胃ろうの管の交換

ただ、研修施設の多くは現在、限られた行為の研修しか提供していない。気管チューブの位置や薬の量の調整、体に入れた管の抜きなど、手術後の管理に必要な行為すべての研修を受けづらく、看護師への業務移行は進んでいない。麻酔管理でも同様の状況だった。

厚労省は今秋に見直しに着手。手術後の患者の管理、麻酔管理、在宅・慢性期については、必要な行為の研修をまとめて受けられる内容にする決めた。

今回の見直しは、厚労省が検討を進めている医師の働き方改革の一環。6月に成立した働き方改革関連法では、罰則付きの残業時間上限が導入され、医師については24年4月をめどに適用される。(阿部彰芳)



朝 日(東京・朝刊)  
2018年12月21日(金)

# 弘前市医師会・専門学校の社会人枠

## 仕事、育児、実習こなし

弘前市医師会看護専門学校（弘前市野田2丁目）の准看護学科で、多くの社会人経験者が看護師を目指して学んでいる。2年生の白戸順子さん（43）は平川市と佐藤智美さん（31）は弘前市は、保育士として病院や障害児施設で働く中で、医療行為ができる看護職への思いを募らせ、社会人入試を受け入学した。この2年間、ともに弘前市内の病院で働きながら、家事や育児に、勉強や実習に奮闘してきた。

（太田佳希）

ついでに保育園の先生も応援してくれ、病院実習までやり遂げた。  
「大変は大変だったけど、学がことが面白かった」と声をそろえる白戸さんと佐藤さん。充実した学生生活を胸に、来年2月の准看護師試験に臨む。

# 看護の道へ保育士奮闘

## 「学ぶのに遅すぎることはない」

幼稚園や大病院の小児科病棟での勤務経験がある白戸さんは、同市のなんば耳鼻咽喉科で看護助手として働いている。注射を怖がる子どもたちをなだめたり、親が検査を受ける際に子どもの相手をしたりと、保育士としての経験が生きているという。

ただ、患者の世話などの医療行為はできない。同院の先輩看護師の後押しもあり、看護師になることを決心した。

家計や家事への影響を考え、入学をためらうこともあった。しかし、夫や4人の子どもたちが協力してくれ、来年春には2年間の課

をこなす。一方の佐藤さん。「18歳の頃、子どもが好きだから保育士になろうくらいの気持ちで進路を決めた」と振り返る。

弘前市医師会看護専門学校は2007年から学科試験を課さない社会人入試を導入している。背景には、少子化で高校卒業者の志願が減る中、門戸を広げて看護職を確保したい医師会側のニーズがある。現在は一般入試での入学者も含め、准看護学科の半数近くが社会人経験者だ。

## 半数が社会人経験者 門戸拡大

同校によると、社会人入試を受けた人は、例年0〜1人程度だったところ、この学年は5人いるという。

（太田佳希）

東奥日報・朝刊  
2018年12月31日（月）

# 看護師の卵とSNS指針

## 浦添看護学校

デリケートな個人情報扱う病院や医療施設で実習を受ける機会が多い看護学生に向け、浦添市当山の浦添看護学校はこのほど、ソーシャルメディア利用のガイドラインを策定した。教職員だけでなく学生も交えて内容を決め、具体的なトラブルの事例も盛り込んだ。知念榮子校長は「よく考えてソーシャルメディアを使い、安易な投稿を踏みとどまってもえたら」と話している。

「事例5 教科外活動のイベントで妊婦体験をした学生たちが、ふざけた態度の動画を撮影し、クラスのLINEに投稿した。映像を不快に思ったクラスメートが他のSNS（会員制交流サイト）に投稿し、拡散した」。ガイドラインには学生が陥りやすい事例が並ぶ。どこが問題か、どういことが起こりうるか、その結果どうなるかを分かりやすく説明している。写真共有アプリ「インスタグラム」、短文投稿サイト「ツイッター」。学生たちにとって、SNSを含むソーシャルメディアは幼い頃から身近な存在だ。知念校長は「医療系はSNSでのトラブルに巻き込まれやすい。いつか大きな問題が起きないかと不安があった」と打ち明ける。作成した「教職員だけで作ると当事者意識を持つてもらえない」と、学生会にも参加を呼び掛けた。教員が作った原案を基に、文面の読みやすさ、イラストの配置やレイアウトなどを話し合った。大きなにもこだわり、常に持ち歩けるようコンパクトな手帳サイズにした。



浦添看護学校が策定したソーシャルメディア利用のガイドライン

## 禁止でなく適切利用学ぶ

学生アンケートも実施し、意見を反映させた。同校2年で策定に携わった大山結子さん(20)は「ガイドラインを見て、小さな行動が大きな問題につながる」と知った。守秘義務もあるし、看護の勉強にもなった」と話す。

教職員の意識も変わった。長濱マチ子副校長は「当初は使っては駄目という意識だった。でも、学生たちと話すうち、彼らに使わないという選択はないと気付いた。じゃあどう使えばいいのかと考えた」と振り返った。学生会長の仲田武将さん(19)は「いい体験だったし、知識も付いた。今後はガイドラインを使って月に1回読み合わせをしていく」と活用する考えを強調した。(前森智香子)

## 看護の道 日本で歩む

### 木沢病院、比の女性が就労

フィリピンから経済連携協定(EPA)に基づいて来日し、働きながら日本の看護師資格取得を目指すエナ・マ・テザ・ジョイ・ヒンコさん(26)が、受け入れ先の木沢記念病院(美濃加茂市古井町)で出口隆院長から辞令を受け、看護補助の仕事に励んでいる。テザさんはフィリピンで半年間、日本語を学んでから今年6月に来日。さらに半年間の日本語研修を大阪市で受けた。マニラ市の病院で約4年間の看護師経験があり、木沢記念病院では手術の準備などに従事する。協定では3年間の滞在期間中に看護師資格を取得すれば、その後も日本での滞在・就労が認められる。木沢記念病院では2008年から外国人看護師の受け入れを開始。これまでにフィリピンやインドネシアから15人を受け入れ、うち4人が日本の資格を取得している。

テザさんは「先輩からアドバイスを受けながら日本語や日本の医療をしっかりと学びたい」と決意を語った。(佐竹直人)

琉球新報・朝刊

2018年12月10日(月)

岐阜新聞・朝刊

2018年12月16日(日)

# 医学部面接総合評価の試み

医学部の入試では、面接がつきものだ。「医師としての特性をみるため」とされるが、面接の手法は大学によって異なる。大学側も受験生を「総合的に評価しよう」と、様々な試みをしている。  
(大賀有紀子)

## 短く数回「多角的に」

最近、短時間の面接を複数回繰り返す「MMI(Multiple Mini Interview)」という方式を採り入れた大学が増えている。2017年度入試から導入した東京慈恵会医科大学(港区)の場合、受験生が五つの部屋を順番に回り、それぞれで面接の担当者から出された質問に1対1で答える。一つの面接にかかる時間は約7分。大学側は問題を公表していないが、予備校の調べによると、未婚率のグラフなどの資料を用いて意見を述べさせることもあるという。

狙いは「多様な医師の輩出」で、筆記試験だけでは測れない表現力や、自分の役割を考える能力などを評



大学入試へ新時代

人面接に加え、約5分間のMMIを2〜4回実施している。同大の担当者は「対策が難しいため本場の人物

が見える。面接する人が同じ質問をすることで、評価も安定する」と話す。国立大でも、同様の手法を取る場所が出てきている。医学部専門予備校メデイカルラボ東京立川校の野水翔太校長(31)は「MMIは多種多様な質問をしてくるので、専門性の高い対策が必要だ」と話す。

## 長時間「人間性見る」

一つ一つの面接を長時間にする大学もある。17年春に医学部を新設した国際医療福祉大(千葉県成田市など)は、1人30分

の面接を2回行う。質問をする側は各3人。1回目は志望動機や高校時代の部活動など、2回目は時事問題への賛否などの意見を聞く

という。自ら面接もする大友邦学長(64)は「30分も話しているのは事前に対策してきた姿ではなく、本来の人間性が見られる」と話す。受験生が時事問題を知らない場合は、かみ砕いて説明し、答えを引き出すようにするなど、意見を聞くことを重視する。ただ、判定には小論文や一次試験の結果も加味され、「面接だけで合否を決めることはほとんどない」ともいう。

医学部以外でも、面接を取り入れる大学は広がっている。河合塾教育情報部子一の岩瀬香織さんによると、国公立の教員養成系学部で目立ち、19年春は宇都宮大教育学部と上越教育大が前期日程で始める。「大入試改革を見据え、『主体性』を評価するための動きだろう。教育系では、教員となる資質を入学時点で見極めたい狙いがある」とみる。

## 見えない配点や基準

全国の医学部がある国公私立大82校のうち、入試で面接を実施しないのは九州大だけだ。野水さんは「医学部入試は、大学にとって医師の就職試験のような側

面がある。大学側は医師の適性があるか、早めに見極めようとしている」と話す。

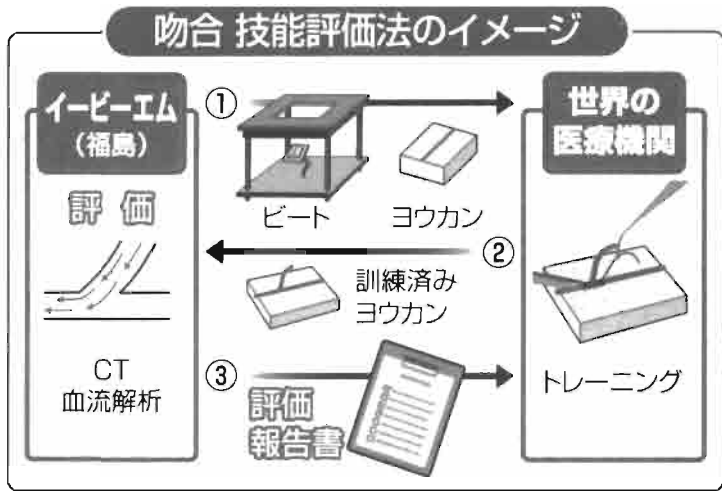
一方で、多くの大学が面接の配点や評価基準などを公表しておらず、受験後、成績開示に応じる大学もほとんどない。医学部入試をめくっては今年に入ってから複数の大学で女子や浪人回数が多い受験生を不利に扱ったり、特定の受験生を優遇したりしていたことが判明し、不透明さも問題と

朝 日(東京・朝刊)  
2018年12月22日(土)

福島に研究開発拠点 **イービーエム**

# 血管縫合点数で評価

福島市に研究開発拠点を置く医療機器製造・販売「イービーエム」(本社・東京都)は、血管を縫い合わせる手術手技「吻合(ふんごう)」の技能評価法を事業化し、特許申請した。福島市で製造した人工血管と手術訓練装置を国内外の医療機関に普及させ、福島市の血流解析とコンピュータ断層撮影(CT)で訓練結果を点数化し、医師の技能を評価する。手術評価の「国際標準」を目指し、具内をはじめ国内外の若手医師の技能向上につなげる。



吻合の技能評価法の流れは【図】の通り。イービーエムは、同社が開発製造した訓練用人工血管「YOUCAN N(ヨウカン)」と、冠動脈バイパス手術訓練装置「BEAT(ビート)」を、国内外の医療機関でさらに普及させる。医師は血管を縫い合わせた訓練済みヨウカンを福島市の同社に宅配便や郵便で送る。同社はヨウカンをCT撮影し、血流解析で血液がスムーズに流れるかを測定する。測定結果を点数化してランク分けし、医療機関

吻合の技能評価法の流れは【図】の通り。

## 医師の技能向上図る

と医師に通知する。血管を縫い合わせる手術手技はミリ単位の作業となる。従来は吻合の出来を第三者的に評価する機関がなく、多忙な熟練医らが学会などで立ち会って若手

十月月上旬に東京都内で開かれた日本胸部外科学会定期学術集会で、朴社長は福島医大心臓血管外科学講座教授の横山斉氏と共同で研究成果を発表し、国内外の心臓外科医から高い評価を得た。日本心臓血管外科学会理事長を務める横山教授は「熟練医が訓練の結果を全て評価するのは時間的に限界があった。評価の事業をスタートさせた。世界中から外科医が縫った血管モデルが福島に送られてくる。英語のTOEFLのように、手術技能を評価する世界共通の制度にしていきたい」と目標を語る。

## 国際標準へ特許申請

今回の評価法は公平中立に大規模な評価が可能になり、経済性も高い。世界への普及が狙えるのではないかと説明する。同社のヨウカンは国内二百施設、海外では米国、中国、韓国、豪州、ドイツ、スイスに納品実績があり、多くの国内外の医療機関で訓練に使われている。朴社長は「特許申請と同時に、この評

医師を採点してきた。

医学系研究科心臓血管外科の澤芳樹教授と大阪大での導入調整も進めている。日本心臓血管外科学会は福島市の同社の施設を心臓手術の教育の場として活用していく方針を示しており、福島と

朴栄光社長(右)は十四年前の早稲田大学院生時代、心臓外科医の技能を工学的に評価し、訓練効率化を高める研究を始めた。東京都内で起業後、福島市に研究開発拠点を設けた。二〇一三(平成二十五)年、県のふくしま医療福祉機器開発事業補助金に採択され、研究を加速させた。同社はヨウカンをCT撮影し、血流解析で血液がスムーズに流れるかを測定する。測定結果を点数化してランク分けし、医療機関

福島民報・朝刊  
2018年12月2日(日)

# 脊髄損傷で初の実用化

## 札医大の再生医療 厚労省が承認

札幌医科大学と医療機器・医療品製造のニプロ（大阪市）は28日、共同開発した脊髄損傷治療の細胞製剤（再生医療製品）「ステミラック注」の製造・販売について、同日付で厚生労働省から、条件・期限付きで承認されたと発表した。患者自身の骨髄に含まれる幹細胞を使って、傷ついた神経を再生させる薬。保険適用の手続きを経て早ければ2019年春にも治療が受けられるようになる見通し。国内治療施設は当初1年程度、札医大病院のみとなる。

## 来春にも保険診療に

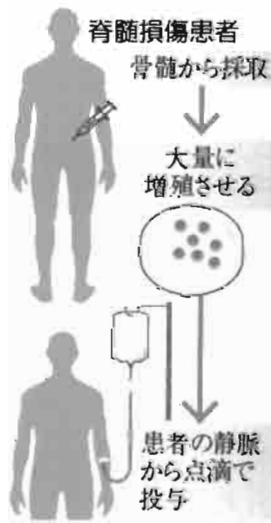
厚労省などによると、事故やスポーツなどで神経が傷ついた脊髄損傷への再生医療製品の承認は世界初。手術やリハビリ以外に治療法がなかった患者に新たな治療の選択肢が増えることになる。

治療の対象は、脊髄を損傷して約1カ月以内に骨髄液を採取できる、まひで寝たきりや歩行不能などになった重症患者。骨髄液の中から、神経や骨などになる「間葉系幹細胞」を取り出し、専用施設で約5千万〜2億個にまで増殖。製剤化して患者の静脈へ点滴で戻す。

治療の対象は、脊髄を損傷して約1カ月以内に骨髄液を採取できる、まひで寝たきりや歩行不能などになった重症患者。骨髄液の中から、神経や骨などになる「間葉系幹細胞」を取り出し、専用施設で約5千万〜2億個にまで増殖。製剤化して患者の静脈へ点滴で戻す。

今回の承認は、治験の症例が少なくても早期に実用化する国の新制度が適用された。治療施設などを限定して投与した全例を調査し、今後7年以内にさらに有効性を証明する臨床データを集め、再度承認を受けるとの条件が付いた。

### 間葉系幹細胞を用いた脊髄損傷の治療の流れ



治療の対象は、脊髄を損傷して約1カ月以内に骨髄液を採取できる、まひで寝たきりや歩行不能などになった重症患者。骨髄液の中から、神経や骨などになる「間葉系幹細胞」を取り出し、専用施設で約5千万〜2億個にまで増殖。製剤化して患者の静脈へ点滴で戻す。

札幌医科大学で開かれた会見で、27年前から研究を続けてきた本望修教授は「今回の承認は第一歩。対象外となった脊髄損傷の患者や、脳梗塞など他の難治性の病気を治療する研究を続けていく」と展望を語った。（編集委員 岩本進、酒井 聡平）

## 世界最小の心肺補助装置

世界最小、最軽量の心肺補助装置を開発したと、国立センターチーム開発。心停止状態の患者や、人工臓器部長らのチームが25日、発表した。

立循環器病研究センター（大阪府吹田市）の巽英介（たけし えいすけ）医師らが、心停止状態の患者や、人工臓器部長らのチームが25日、発表した。

術をせずに太ももや首の血管とつなぎ、心肺機能を代替する。持ち運びが容易で、ドクターヘリなど救急現場での活用も期待できるとい

安全性や有効性を検証する医師主導治験を2019年度に実施したいとしている。装置は重さ6・6kgで、幅29cm、奥行き20cm、高さ26cm。4分以内に起動でき、

電源がなくても、内蔵バッテリーで1時間以上使える。現在、現場で使われている装置は重さや大きさが数倍以上ある。各国で発生しているさまざまな感染症による重症呼吸不全の治療にも生かせる可能性があるという。（共同通信）

山陽新聞・朝刊  
2018年12月26日（水）

北海道新聞・朝刊  
2018年12月29日（土）  
関連記事  
2019年2月61頁



# 食道疾患内視鏡で切除

## 呉医療センター 2人に施術 国内で初

呉市の国立病院機構呉医療センター・中国がんセンターは、咽喉頭食道憩室の内視鏡手術を行い、成功した。患者2人は18日、退院した。咽喉頭食道憩室は嚥下障害などを引き起こす良性のおできのようなもので重症の場合にだけ手術をするのが一般的。内視鏡手術は比較的簡単だが、保険適用されていないことからこれまで国内での手術例がなかったという。

(見田崇志)

英国を視察し、手術を学んだ同センターの桑井寿雄消化器内科内視鏡センター長たちのチームが手術を担当。11日に59歳の男性、83歳の女性に口から内視鏡を挿入して筋肉を切断する手術を行った。外科手術が2時間程度かかるのに対し、内視鏡は30分程度だったという。術後も順調でこの日の退院になった。

今回の内視鏡手術は保険適用外のため、センターは今後は保険診療として一般化することを目指す考え。センターによると、同じ国立病院機構を調べた結果、19機関で63人の患者を確認。潜在的な患者は相当数いると考えられるという。桑井センター長は「疾患の認知度を高め、有効な治療方法として確立したい」としている。



咽喉頭食道憩室は、食道の入り口付近で、輪状咽喉筋と呼ばれる筋肉の圧力が高まり、食道を通れなくなった状態

物が食道の壁に押し出され、袋状の空間をつくる疾患。たまった食物で嘔吐や誤嚥性肺炎を引き起こす原因になる。

重篤な場合は首を切開して憩室付近の筋肉を切断する外科的治療をするが、身体への負担の重さから経過観察にとどめるケースもあるという。欧米では近年、内視鏡での施術が増えているが、国内ではまだ普及していなかった。

「大分産」の医療・介護機器のPRに力を入れる

## ひと

大分県医療ロボット・機器産業協会が作成した「医療・介護商品カタログ」の発案者。「商品開発の次のステップとなる販売につなげる方法を模索していた。県内企業から生まれた優れた製品を、まずは知ってもらう必要がある」と思い提案した。

カタログには各企業の製品の仕様や特徴だけでなく、製品に込める担当者の思いや企業のセールスポイントも掲載するなど、構成にこだわった。「作り手の顔や思いが見えると信頼度が上がる。『大分産』の医療・介護機器を全国に広げるツールとして活用していきたい」と力を込める。

県内の印刷会社などの営業職を経て、2013年に電子機器システム開発・製造のデンケン（由布市）に入社。同社が今後の事業の

山本 文弥さん(33)

柱として位置付ける医療関連分野の営業販売を担当する。「長年の営業を通して、人付き合いや商談の事前準備、アフターフォローなどの重要性を学んだ。今の仕事にも生かしている」と胸を張る。

小学5年から続けているバスケットボールは「今の自分を形成するもの」と断言。現在も国体の県代表として活躍する。趣味は料理。「作った料理をSNS（会員制交流サイト）にアップすると、意外と反応があつて面白い。パスタ系が得意です」。妻と2人の子ともと別府市内で暮らす。津久見市出身。

(衣笠由布妃)

大分合同新聞・朝刊  
2018年12月21日(金)

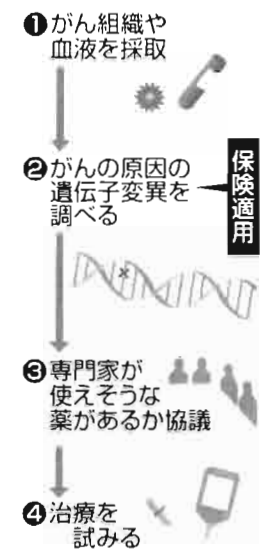
中国新聞・朝刊  
2018年12月19日(水)

# がんゲノム検査初承認

## 厚労省方針 保険適用で負担減

厚生労働省は13日、がん患者の遺伝子変異を調べ、効果が見込める薬を選ぶ「がんゲノム医療」用の検査システム①②の販売を初めて承認することを決めた。1カ月程度で医療機器として正式承認する。その後、公的医療保険も適用し、数十万円かかる検査費用の患者負担が軽減される見通し。

### がんゲノム検査の流れ



保険適用

同省の専門家部会が承認を認める意見をまとめた。今年4月に始まり、中核拠点病院と連携病院合わせて全国約150施設が参加するがんゲノム医療の本格普及に向けた一歩となる。

承認されるのは、シスメックス（神戸市）と中外製薬（東京都中央区）の二つの製品。いずれも主に試薬とデータ解析ソフトで構成され、科学的に確立された治療法を受けたが効果がなくなった患者や、確立された治療法がない希少がん、小児がんなどの患者が対象になる。シスメックスの製品は、国立がん研究センターと共同開発した。114種

類の遺伝子を一度に調べることができる。現在は先進医療として行われ、患者負担は約46万円。中外製薬は米国のフアンダーシヨンメディシンが開発した製品を販売。324

**ズーム**  
がんゲノム検査 患者からがん組織や血液などを採取し解析することで、がんの原因となっている遺伝子変異を特定する検査。遺伝子を高速で読み取る機器「次世代シーケンサー」の発達で検査が手軽にできるようになった。変異が特定できれば、分子標的薬と呼ばれる薬でがんを狙い撃ちして攻撃する。ただ、こうした方法で最適な分子標的薬が見つかり、治療に入れる患者は1〜2割にとどまるとされる。

種類の遺伝子を調べる。がんゲノム医療を提供する連携病院で患者からがん組織を採取。検査システムを使ってDNAを解析し、どんな遺伝子変異が含まれるかを調べる。変異が特定できれば、全国11カ所の中核拠点病院が設置した専門家組織が、見つかった変異を標的とした薬がなにか検討し、主治医を通じて患者に提案する。

〈共同通信〉

## 免疫療法の治験、全国で

### 県立医大 難治性の膵臓がん

県立医科大学（和歌山市）は26日、膵臓（すいぞう）が免疫療法の確立に向けて取り組んでいる治験を、県立医大付属病院（和歌山市）を含めた全国11病院で共同実施す

と発表した。県立医大の治験で薬剤の安全性が確認できたため、「オールジャパン体制」で有効性の検証を進めたい」として、2022年の承認申請を目指す。県立医大外科学第2講座の上山裕機教授らが26日、大学

で記者会見した。上山教授を中心とした研究チームが昨年3月から治験を開始。患者6人に薬剤を投与したが、全員に強い副作用がなく「効果安全性評価委員会」が安全性を確認。これを受け、有効性検証のため11病院による共同治験を開始することにした。共同治験は、被験者が早く集められるほか、全国の患者が治療に参加できるといった利点が

あるという。参加するのは、免疫療法に理解があり、膵臓がん治療の経験が豊富な、北海道から九州までの病院。11病院でスタートし、本年度中に17病院に拡大する。治験対象は、抗がん剤治療などが効かない全国患者185人で、無作為に実薬と偽薬に分けて検証する。

膵臓がんは難治性とされ、標準治療法の手術や抗がん剤治療、放射線治療では治らないことが多い。国内の膵臓がん患者から採取し、がん抗原をとり込ませてワクチンを製造、患者に投与する。ワクチンは免疫細胞ががん細胞を攻撃するよう、効率良く誘導する。抗がん剤に比べ、治療開始後の生存期間延長が期待できるほか、副作用の軽減が期待できるとしている。

「新しい有効な治療法の開発が急務」と話している。

紀伊民報

2018年12月28日（金）

北日本新聞・朝刊

2018年12月14日（金）

# 広がる「ロボット手術」

ロボットを使った手術について、公的医療保険の適用対象が胃がんや食道がんなどに拡大されたのを機に、九州でも導入する病院が広がっている。患者の出血量を抑えられ、操作の精度が高く、執刀医の負担は軽いなどのメリットがある。ただ、どんな医師でも安全に使いこなせるわけではなく、患者は見極めが求められる。

## 保険適用されるロボット手術

- 前立腺がん
- 腎臓がん
- (今春から)
- 心臓の弁形成
- ぼうこうがん
- 肺がん
- 子宮体がん
- 食道がん
- 腔(ちつ)式子宮全摘
- 胃がん
- 良性、悪性の縦隔腫瘍
- 直腸がん

福岡市南区の福岡赤十字病院は4月、米国製手術支援ロボット「ダビンチ」の最新型を導入した。以前から、指にはめたリングや足を乗せたペダルでアームを操作。アームに取り付けたD画面をのぞき込みながら、傷つける危険もある。福岡赤十字病院では、保険適用となるがんで早期の

## 保険適用拡大 出血量や医師負担が減

ら保険が適用されていた前立腺がんや腎臓がんに加え、新たに適用された胃がんや直腸がんの手術を始めた。今月10日現在、胃8例、直腸10例など計36例を実施。年内に肺がんも手術する予定だ。

ダビンチは操作台、カメラ、アームからなる。医師は患者がいる手術台から少し離れた操作台に座り、3

鉗子などを患者の体内に挿入し、手術する。消化器外科専門の永井英司副院長によると、患部の視界が良く、鉗子が360度自由に動き、細かな処置が可能。開腹手術に比べ、アームを差し込む数センチの穴を数カ所開けるだけで済むため、出血量は少なく、合併症のリスクも軽減される。ただ、触感伝わり

患者に、開腹、内視鏡、ロボットの三つの手術法を説明。大半がロボットを選ぶという。胃や直腸の場合、患者の痛みなどは内視鏡とそれほど変わらないが、執刀医の負担は大幅に軽くなる。永井副院長は「何時間も立ちっぱなしが通常だったが、座って操作できる。体力も集中力も続く」と、手術の質向上に期待する。

## 実績や症例数などで見極め

↑ ↑  
ロボット支援手術は今春の診療報酬改定で、心臓の弁形成など12の術式や疾患が新たに保険適用となった。患者負担は高額療養費制度の上限額(年齢や所得によって異なる)に収まり、内視鏡手術と変わらない。2016年4月にダビンチを購入した原三信病院(福岡市博多区)は、前立腺と腎臓に加え、今春からぼうこうがんの手術にも活用している。泌尿器科の横溝晃主任部長は既に計450例近くを手掛けており、「高画質の画面で細かな操作ができ、尿道や尿管をつなぐなど繊細な手術に向く」と、さらに対象疾患が拡大することを期待。「今後はロボット手術が主流になるだろう」と話す。

日本ロボット外科学会(事務局・東京)によると、全国で300台程度が導入されている。現在は米国製のダビンチのみだが、今後は国産の開発も進む見通し。

↑ ↑  
せる事故が起こるなど、安全が保証されているわけではない。関連学会は、導入に当たり、一定の手術実績がある医師の常勤、定められた期間のトレーニングを受けるといった厳しい条件を課している。

日本ロボット外科学会理事で、ニューハート・ワタナベ国際病院(東京)の石川紀彦ロボット外科部長は「車の運転と同じように技術の差がある。内視鏡手術などの手術ができてのロボット支援手術。下手な人が急にうまくなるわけではない。各病院が公開している実績、症例数などを参考に、見極めてほしい」と話す。その上で「全てで効果的なわけではない。個々の症状、タイプなどに応じて使うかどうかが決まる。主治医とよく相談しつつ、セカンドオピニオンなどで選択肢を確認する」としている。(井上真由美)

西日本新聞・朝刊  
2018年12月24日(月)

# 恵寿総合病院

## 患者支援で「便利屋」参入

七尾市の恵寿総合病院などを運営する社会医療法人財団董仙会は、「便利屋」事業に参入する。ベンリーコーポレーション（愛知県清須市）とフランチャイズ契約し、ベンリー七尾店を4日に開業する。医療法人による運営は全国初という。1人暮らしの高齢者が増える能登では、退院後の生活準備や部屋の片付けなどに困る患者や施設利用者が多いことから、生活支援も請け負い、グループ全体のサービスを高める狙いだ。

### 4日、ベンリー七尾店開業

第1号店となる「ベンリー七尾店」は、恵寿総合病院近くにある董仙会所有の旧クリニック建物を活用して設ける。七尾市、中能登町を営業エリアとし、ハウスクリーニングや庭の手入れ、家具の移動、雪かき、墓掃除など、家庭内のあらゆる困りごとに対応する。今後、店を増やし、能登全

域で展開する計画だ。医療法人が直営で便利屋事業を行うのは全国でも珍しく、新規参入は、病院患者や介護福祉施設利用者の声を受けて決まった。1人暮らしの高齢者から「退院したくても家が片付いておらず帰れない」といった悩みが看護師に寄せられ、訪問介護先でも「草むしりをしてほしい」「部屋の荷物を片付けたい」など介護保険を求められることが多いという。

客のほか、こうした患者や利用者の依頼も受け付け、医療、介護、福祉、生活支援が一体的に提供される包括ケアを目指す。神野正博理事長は「高齢社会の中で、医療、介護、福祉サービスに生活支援を連続させていくことが重要になる。この街で安心して、人生を過ごしてもらえれば環境を目指したい」と話した。

北国新聞・朝刊  
2018年12月1日(土)



医療界の外にも目を向け、常に新しいものに挑戦する。理事長をサポートする厚美さんはかつてインテリアの仕事に携わっていた。「色や形など表面だけかえても何も変わらず失敗ばかり。デザインって見た目だけではなく、マインドや仕組みそのものを変えること。常に『なぜ?』と患者の立場にたって疑問を理事長にぶつけてきた」

理事長や常務理事の発想を形にして現場に落とし込むのが病院本部。本部が作業を細かく分解し、具体的な目標を現場の従業員に与えることで組織が同じ方向に向かって動くという。

恵寿が描くデザイン経営の根底にあるのは「壁を取っ払う」という発想だ。壁の中に入ると見えてこないことが、一步外に出て壁の外から眺めると全く違う景色が広がっている。そして一人ひとりが本来やるべき業務や役割、患者にとっての最適なサービスのあり方が浮かび上がってくるのだろう。

たとえば介護と医療の壁をなくし、患者の情報を同じIDで一元的に管理した。介護士の仕事では介護の記録の入力作業をコールセンターに移管。12月からはベンリーコーポレーション（愛知県清須市）のフランチャイズ店となり、引っ越しの手伝いや清掃など生活にまつわるあらゆるサービスを提供する。介護士は介護に特化してもらいたいという視点に立てば改善点が明確になる。

17年度にはグッドデザイン特別賞を受賞した。年間約300人が視察にやってくる。制度やニーズが刻々と変わるたびに医療サービスをリ・デザインし、地方から医療のあるべき姿を発信している。（大岩佐和子）

### 介護情報 Dで管理

石川県の恵寿総合病院(七尾市)に全国から視察者が訪れる。取り組んでいるのはデザイン経営。といっても、建物の外観やインテリアのデザインを良くしようという試みではない。患者目線に立って院内レイアウトを変更し組織の壁を取り払う、医療と介護のリ・デザインだ。

# 患者目線「壁を取っ払う」

## 恵寿総合病院、外来にフリーアドレス

病院は、全国でも高齢化率が高い能登半島にあった。426床という地域最大級の恵寿総合病院だ。

正面入り口を入る。診療時間中にもかかわらず、行列や人ごみがない。総合病院では予約しても1時間、2時間待つことがざらだが、恵寿では予約者の多くは45分以内で済む。

鍵を握るのが2階の外来診療室だ。「脳神経外科」「整形外科」「消化器内科」といった科目名がない。壁のデジタルサイネージに自分の番号が表示されたら指定の診療室に行く。

フリーアドレスオフィスの発想を外来に取り入れた。医師が私物をバックヤードから持ち出し、患者にあわせて部屋を移動する。クラウドで自分のIDを入力すれば、パソコンの画面が自分の内容に切り替わる。

恵寿のモットーはどんなときも急患を断らないこと。2013年に新病棟を建てるとき、急性期の医療に力を入れようと決め、将来の最新機器が設置できるよう手術室や治療空間をできるだけ広めにとることにした。そのためにはどこかを削らなければならない。

病院を運営する社会医療法人財団、董仙会本部の常務理事、神野厚美さんは外来に目を向けた。「診療室は誰のものか」。当時はもちろん医師のもので、医師の数が増えれば部屋も増え、複数の科にかかる患者は各先生の部屋を移動した。患者からしてみれば1カ所で済まないのかと思う。しかも科ごとだと、どんな病気にかかっているのか周囲に知ら



れる。フリーアドレスにして、こうした不快感を一つひとつ取り除いた。

医師にとっても使い勝手がよくなければうまくいかない。恵寿では診療室に合計で29人の医師事務作業補助者をつけた。予約人数を管理したり医師が部屋に入ったらずい働けるように準備したりする、いわば秘書。待ち時間が少ないのは緑の下の力持ちがあつてこそだった。

館内を歩くと、あらゆるサービスが患者の目線で考えられていることが分かる。たとえば一階には磁気共鳴画像装置(MRI)室とコンピューター断層撮影装置(CT)室が並び、中をつながっていることでストレッチャーで運ばれた救急の患者は廊下に待たされることがない。ほかの

2階の外来診療室はフリーアドレスとなっており(写真左)、医師が部屋を移動して診察する

病院にあってもおかしくないが、ストレッチャーで運ばれる身にならないとなかなか考えられない。

病室は4人部屋でも36平方メートルあり、ベッドとベッドの間が2メートルほど空いている。よりプライバシーがある部屋が好まれると見込み、2人部屋に改装できるように設計している。別館には24時間営業のローソン、本館には関連のカフェがある。別館のローソンは院内コンビニの第1号。ここから全国へ広がった。

救急車の導入や薬剤・診療材料の供給・管理(SPD)もどこよりも早く取り組んだ。夫で3代目の理事長、神野正博氏は

### 診療科目分けず 医師が動き対応

医療と  
同じ！



創業

もっと女性を

子連れでの来院実現

日向の接骨院



日向市都町で4月に開院した「のどか鍼灸接骨院」。待合室の一角にはキッズスペースが設けられ、受付には保育士資格を持つスタッフが常駐。来院者は施術を受ける間、安心して子どもを遊ばせておくことができる。「女性は子どものことを最優先に考えてしまうので、自分のことは我慢しがち。子ども連れでも訪れやすい環境をつくることで、体の悩みを持った人にもっと寄り添うことができるのではないかと考えた」。院長の繁村和さん(32)は開業に込めた思いをこう語る。

全国的に女性の創業意欲は高まっている傾向にある。内閣府男女共同参画局が1月に発表した資料によると、2012(平成24)年の起業希望者の割合は女性33・4%、男性66・6%。1979年(昭和54)年以降の調査で、女性の割合は最も高かった。

同市の雇用創出を担う市地域雇用創造協議会は本年度、全5回の「起業・創業支援セミナー」を初めて開催した。参加者17人のうち女性は10人。女性の意欲の高さが表れる格好となった。

同市産業支援センター「ひむかBiz」によると、2017(平成29)年1月の開所以降、手掛けた創業は18件。うち8件は女性創業者だった。長友慎治センター長は「仕事と子育ての両立など働きやすさを模索する中で、創業を選ぶ女性が多

マオイルの香りが漂うなど、女性ならではの視点が随所に見られる。来院者からは「気兼ねなく通える」「癒やされる」などと評判だ。

延岡市内のホテルで11月中旬、起業して間もない創業者らが情報交換する「創業者交流会」が開かれた。延岡商工会議所などによる「スタートアップ支援センター」事業の一環で、女性も多く参加。同商議所中小企業相談所の濱田美香所長は「創業後の悩みを相談し合える仲間づくりになれば。交流でビジネスチャンスが広がる可能性もある」と狙いを説明する。

創業支援の幅は広がっているものの、女性向けの支援はまだ限られていたり、知られていなかったりするのが現状。濱田所長は「女性に特化した支援は、今のところ要望がないため予定していない。声が上がれば検討したい」と話している。

(松田みゆき)

宮崎日日新聞・朝刊  
2018年12月8日(土)

インドの病院で実証実験 日本の技術で省エネを



インドの首都ニューデリーにある国内最大規模の国立医療機関、全インド医科大学(AIIMS)で、日本の先端技術を活用した大規模な省エネシステムの実証実験が10月から行われている。病院を併設しているAIIMSでは、患者数が年々増加し電力不足への対応が課題となっており、ITを駆使し消費電力の削減や病院の効率向上を目指す。

実証実験は、AIIMSと日本の新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が共同で実施し、日立製作所のシステムが導入されている。期間は2020年3月までで、約17億円の費用のうち8割をNEDOが負担する。

13億人超の人口を抱えるインドは、経済成長とともにエネルギー消費も拡大。電力事情は深刻で、12年7月にはニューデリーを含む北部で大規模な停電が発生し6億〜7億人の生活に影響が出たことでもあり、エネルギー効率の向上が急務となっている。インド政府は年間約250万人の外来患者の治療に当たるAIIMSをモデルとし、ほかの病院にも取り組みを拡大したい考えだ。

実証実験では、新たに設置した太陽光発電と既存の電気設備をネットワーク化し、施設ごとの電力供給を調整して無駄を抑える。日本製の高効率な空調機

器やLED照明も導入。14年度と比較して30%の電力削減を目標としている。NEDOによると、これにより1年で1億6千万円(約2億5300万円)の節約が可能になるという。

また、インドではAIIMSなどの公立病院で施設の老朽化が問題になっているほか、カルテやエックス線写真の電子化も進んでいない。実証実験では、診療科目ごとに管理していたカルテなどの医療データを一元管理する新たな電子システムも導入。病院全体でデータを共有し、効率を向上させる。

NEDOニューデリー事務所の前上貴将所長は「日本の先進的な技術や知見を、インドの医療現場に生かしたい」と話している。

(ニューデリー共同) 佐藤大介(共同通信)

高知新聞・夕刊  
2018年12月18日(火)

KEIZOKU TOPICS

病院運営

# 増える外国人 悩む医療現場

政府が高度な医療で外国人を呼び込む「医療ツーリズム」を進めたことなどを背景に、外国人が医療機関を受診する機会が増えていく。ただ、制度や宗教、文化の違いからトラブルとなることも少なくない。入管難民法改正で来春以降、外国人労働者の受け入れが拡大されれば、医療現場の混乱も広がりそうだ。受け入れ態勢を模索する二つの病院取材した。(井上真由美)

## 制度、宗教、文化 トラブルの種類

「初めまして。痛みはありませんか」「今は大きな痛みはありません」。10月中旬、福岡市城南区の福岡大病院(915床)の泌尿器科外来を、中国人の会社経営者(41)が受診した。医師

男性は中国で、腎臓に尿がたまって拡張する「水腎症」と診断された。納得のいく治療を受けられず再発の不安が募り、訪日を決意。受診予約や宿泊などはトッブ九州が仲介した。

福大病院の外国人患者は2017年度が55人、18年度は11月末現在ですでに88人と増加。医療保険が適用されない外国人は、医療費は全額自己負担で、コンサルテーション料(一律4万

支払いや意思疎通で混乱が生じている。

16年に戦略室を新設してトッブ九州と提携。院内で通訳養成講座を開くなど、人材育成にも力を入れるが、外国人増加への不安は

インターナショナル・ホスピタルズ(JIH)を掲げる。東京の社団法人が外国人の診療や健診を推奨できる病院として認証し、特定の医療渡航支援企業が受診を仲介する。国際医療支援室長も務める関口直孝副院長は「外国人を積極的に受け入れたいというより、むしろ窓口を統一して受診を制限したい」と説明する。

## 治療内容や費用 意思疎通に腐心

と、看護師でもある国際医療戦略室の西山道代室長(60)、通訳とコーディネーターを請け負う会社「トッブ九州」の斎藤寧々代表(42)らが同席。斎藤さんが診察を通訳し、血液検査などにも終日、付き添った。

11月上旬にも来日し、詳しい検査を受けた。「当面は経過観察が良い」との診断に納得し、来年2月の再診を予約して帰国。男性は「診察が丁寧で設備も良い。友人にも勧めたい」と話した。

福岡市に住む東南アジア出身の女性の元を訪れた父親が心不全で倒れ、救急搬送されてきたケースでは、医療保険は適用されず、医療費が約300万円に上った。すぐには支払えず、娘が月3万円ずつを支払い続けているという。未収になるケースも多い。

### 2病院の取り組み

円)も負担してもらおう。質の高い医療に出費を惜しまない富裕層が増える一方で、旅行保険未加入の旅行者なども目立ち、医療費の

「心えたい」と話す。↑ ↑ 済生会福岡総合病院(福岡市中央区、380床)は全国に45ある「ジャパン・

このため、昨年7月に医師や看護師、事務職員からなる国際医療支援室を設置。外国人専用の診療契約書、費用や言語、文化・宗教などについて同意を得る診療同意書などを英語、中国語、韓国語で用意した。

関口副院長は外国人患者増加に伴う問題点として①未収金の増加②医療過誤などのリスク増大③医療常識の違いによるトラブル④感染症の危険などを挙げ

る。「外国人労働者の受け入れを拡大すれば、混乱はさらに深まる。医療費の問題などきちんと議論し、制度を整えてほしい」と訴える。

西日本新聞・朝刊  
2018年12月17日(月)

# 住民が守る地域医療

## 盛岡でシンポジウム講演、パネル討論

県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議主催の「地域医療を支えるための県民シンポジウム」は18日、盛岡市内で開かれた。基調講演やパネルディスカッションなどを通して、参加者が地域医療の在り方や地域住民として医療とどう向き合うかなど、住民参加型の地域医療体制に理解を深めた。

県では、2008年度健康保険藤沢病院長の佐藤元美氏、朝顔のたねー医療体制づくりに向けた千厩病院を守り隊長の遠藤育子氏がパネリストを務めた。超えたことを記念に開催し、約300人が参加した。地域住民との対話や交流などを通して、住民と共に地域医療に取り組んできた活動を紹介した佐藤氏は「私が最初に行った」をテーマに、全国自治体病院協議会名誉会長だったが、今は8000人の遠見公雄氏、NPO法を切っており、人が減る人ささえあい医療人権センターCOML理事長のな影響がある」と説明。山口育子氏、一関市国民

さらには「住民と一緒に保

料を払っているのに、医療ができない、お産ができない地域がいっぱいある。もっと保険者が声を上げないといけない」と述べた。山口氏は「今、県がどんな取り組みをしているのかを知ることが大事。それを知った上で、自分の地域で何ができるか一人ひとり考えることが、地域医療を守ることにつながる」とアドバイスした。

少の影響を報告した。寸劇を交えて活動を紹介した同隊の遠藤氏は「医療は私達住民も担い手という言葉は何度も繰り返し啓発活動で伝えてきた」と病院と地域住民が支え合う重要性を説いた。

地域医療を守るために県民ができることについて、遠見氏は「同じ保険

岩手日・朝刊  
2018年12月19日(水)



### NPO法人「へき地保健師協会」代表 青木 さぎ里さん(42)

地域住民の健康相談に乗ったり、生活指導をしたりする保健師は、住民の健康を守る上で欠かせない存在だ。しかし、山村や離島などの「へき地」では、一つの自治体に1人か2人しかいないケースもある。周りに頼れる仲間もない保健師を支えようと、9月、有志と共にNPO法人「へき地保健師協会」を発足させた。大学卒業後、東京・小笠原諸島の青ヶ島村に赴任。島で初めて常勤の保健師となり、血圧計を買ったところから始めた。島民に会うたびに「保健師ってどんな仕事なの」と聞かれ、一から説明を続けたという。離島での活動について「住民に団結力があり、問題解決に向けて、一緒に取り組むのはやりがいがあった」と振り返る。

2006年に自治医大に移ると、ソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)を通じて、へき地で働く保健師同士のネットワークを作った。「誰にも頼れず孤立すると行き詰まることもある。別のへき地の保健師が乗り越えた経験を共有できれば、働き続ける支えとなり、地域社会もさらに良くなるはず」

へき地で働く保健師同士をつなぎ、人材育成や保健活動の支援、就職活動の相談に応じる、身近な先輩のような組織を目指したい。「へき地には、どんな人でも受け入れる力がある。孤独に見えても、味方はいっぱいいる。安心して飛び込んで。へき地勤務を考える学生や保健師らにこんなアドバイスを送り、背中を押し

文・谷本仁美

毎日(東京・朝刊)  
2018年12月27日(木)



# 助産師に相談「安心」

## 合計特殊出生率 県内1位の横瀬町

2017年の県の人口動態によると、1人の女性が一生に産む子どもの数に相当する合計特殊出生率で、1・82の横瀬町が市町村別で1位になった。16年は2位で、首位だった滑川町を追い抜いた。今月1日現在で、人口が10万人を割った秩父地域にある横瀬町がなぜトップに躍り出たのか。子育ての現場を探った。(桜井和憲)

### ■切れ目なく

21日午後、横瀬町の横瀬児童館。助産師の峰岸まや(58)と高橋律子さん(57)が1歳の娘を持つ母親(30)の相談に笑顔で応じていた。現在は第2子も妊娠中で、つわりや故郷への帰省、子どもの昼寝などについて相談した母親は「ここはすぐに顔を覚えてくれたので、安心して相談ができる」と信頼を寄せている。町が昨年1月から開始した「助産師による『ほっとハグくむ ママサロン』」。妊娠婦らが抱える妊娠・出産や子育てに関する悩みを解消し、妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援が目的だ。相談内容は特に授乳に関する話が多い。峰岸さんは「最近

は第2子で利用する人も来ていて、気軽に来られる場所として定着してきた」と語る。

口コミで利用者が広がり、秩父市などからの利用者も増加。町外のニーズも見込まれることもあって、秩父の人口定住を促進する「ちちぶ定住自立圏事業」として、昨年10月からは秩父地域全体に拡大した。同サロンは週1回から2回に回数を増やし、助産師が母乳から育児まで幅広い相談に無料に対応している。

### ■出生数も増加

町は「日本一子育てしやすい町」を掲げる。新生児訪問や育児支援家庭訪問事業、今年6月から開始したマタニティーストレッチャなどさまざまな子育て支援策を展開。町に

## 話題スポット

よると、出生数は15年度が50人、16年度が59人、17年度が62人と増加傾向が続いている。

ただ、現在はこの自治体でも子育て支援には力を注いでおり、町の施策が群を抜いて優れているものは見受けられない。町子育て支援課は「町内は第2、3子の数が多い。小さな町だが、互いの顔が見える関係で、『安心して子育てができる』と思ってもらえているのでは」と分析する。

### ■スマホ活用

町は今年2月、官民が連携して先進的なプロジェクトや事業を誘致する官民連携プラ

## 遠隔医療サービスも拡充へ

ットフォーム「よこらぼ」で、キッズパブリック(本社・東京都千代田区)が運営するスマートフォンなどから遠隔健康医療相談ができる「小児科オンライン」を採択。スマホなどから小児科オンラインに登録する小児科専門医に、無料通信アプリ「LINE」(ライン)のテレビ電話やチャットなどを通じて、気軽に相談ができるサービスを6月からスタートさせた。

対象は町内の0歳から15歳までの子どもがいる家庭561世帯。登録者は約1300人で、利用者からは好評という。富田能成町長は「検証が必要だが、秩父地域1市4町の定住自立圏へ拡大することも選択肢の一つ」と語る。来年1月7日からは産婦人科医や助産師に相談できる「産婦人科オンライン」も開始予定だ。地方の少子化対策は簡単ではないが、地域一丸となった地道な子育て環境の整備が実を結びつつある。

埼玉新聞・朝刊  
2018年12月24日(月)



元気で長生きできる社会を実現するため、厚生労働省の有識者会議は今月、高齢者の健康づくりと介護予防を一体的に行うための提言をまとめた。医療保険と介護保険の制度の枠を超え、市町村が効果的に対策を実施できるようにすることが柱だが、専門知識を持つ人材の不足など課題も多い。(社会保障部 小沼聖実)



■ 訪問指導を強化

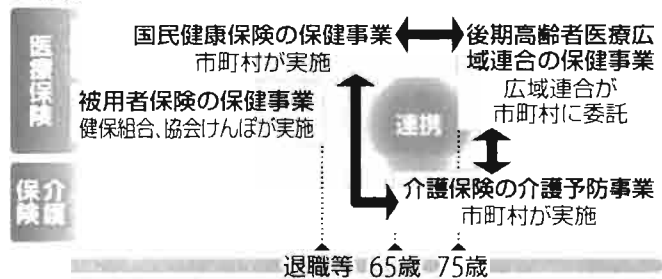
「体重、戻りましたね。このまま維持していきましょう」。今月上旬、神奈川県大和市健康づくり推進課の職員で、管理栄養士の湯野真理子さんは、市内の84歳の女性宅を訪問して体重を量り、声をかけた。

同市は、医療保険で高齢者の健康づくりを担う保健事業の担当課と、介護予防の担当課の縦割りを見直し、連携を強化。5年ほど

# 健康長寿へ 医療・介護連携

## データ共有 縦割り見直し

◎ 保健事業と介護予防事業の連携のイメージ



フレイル 要介護になる手前で、筋力や体力などが低下し始めた状態。「虚弱」を意味する英語「frailty (フレイルティ)」をもとにした造語で、日本老年医学会が2014年に提唱した。この段階であれば回復も可能で、対策として食生活の改善や運動、社会参加が重要とされる。

◎ 保健と介護予防の連携の例

介護予防の体操などを行う「通いの場」に、保健師など医療専門職が参加。健康相談などに応じる
介護サービスの利用や医療機関の受診状況などの情報を一括して把握できるデータベースを構築。高齢者の健康づくりに活用
「通いの場」で健康づくりに取り組んだ高齢者に、商店街での買い物などに使える「健康ポイント」を付与。参加を促す

国は、こうした取り組みが円滑に進められるよう、自治体向けの指針を作成するほか、高齢者医療確保法など関連法の改正も検討する。自治体への補助金も増額する方針だ。  
介護保険などに詳しい日本総合研究所開発戦略センターの齊木大・シニアスペシャリストは、「介護予防も健康増進も、根っこは同じ。セットで取り組むのが自然で、方向性は評価でき

前から、低栄養や口の機能の衰えが懸念される高齢者を、管理栄養士が訪問して指導する事業に力を入れている。

対象者は、介護予防に関するアンケートや保健事業

の健康診断の結果などを活用して抽出している。従来は、それぞれの制度の縦割り情報で共有されず、効果的な取り組みが難しく、たが、運用を改善した。

訪問指導を行った高齢者のうち、2年後に状態が悪くなっていたのは約1割。訪問を受けなかった対象者に比べ、4分の1程度に抑えられた。

湯野さんは、「高齢になると食が細くなり、低栄養に陥りやすい。要介護につながるリスクが高く、早めの支援が肝心」と説明する。

### ■75歳の壁

高齢者の健康維持に関しては、生活習慣病対策や健診は医療保険、健康保険などの介護予防は介護保険と、別々に実施されている。さらに医療では、74歳ま

では国民健康保険、75歳以降は後期高齢者医療制度に分かれ、健診結果などのデータが引き継がれず、「75歳での断絶が大きな課題」（厚労省）だった。

有識者会議は3日にまとめた提言で、こうした縦割りを改め、大和市のような取り組みを全国に拡大するための制度見直しや、支援の強化などを国に求めた。特に、要介護の手前の「フレイル」対策は、医療・

介護の両面からの支援の重要性を強調した。現状では、都道府県単位の広域連合が運営する後期高齢者医療制度の保健事業に含まれているが、保健師の不足などから、「健診のみの実施がほとんど」（関係者）となっているためだ。

### ■市町村主体で

具体的には、公民館などを拠点に健康体操などを行う介護予防の「通いの場」を活用し、保健師による健康相談やフレイル対策を行うことを想定している。制度ごとに、別々に管理

している医療や介護のチームで行い、保健師などの医者を共有し、必要な対策を療専門職を配置。経費は広域連合が自治体に交付する人材を育てていくことが住民に一番身近な市町村主体の仕組みだ。

## 社保費伸び抑制

保健事業と介護予防の一体運営が求められる背景には、団塊の世代が75歳以上となる「2025年問題」で加速する社会保障費の膨張がある。高齢者人口がピークを迎えるとされる40年度に社会保障給付費は、18年度約1・6倍の約190兆円にのぼる見通しだ。

このため、政府は介護を受けずに日常生活を送れる「健康寿命」を、40年までに3歳以上延ばす目標を打ち出している。保健事業と介護予防の連携で、元気に過ごせる期間を長くできれば、本人や家族の不安を軽減できるほか、医療や介護にかかる費用の伸びを抑えられる可能性も高まるためだ。

ただ、実現には課題もある。有識者会議の提言が報告された厚生労働省の部会

## 自治体、専門職不足の声

では、出席した自治体関係者から、事業を担う医療専門職の不足を懸念する声も相次いだ。全国町村会の村上英人理事（宮城県蔵王町長）は、「保健師の確保は大変難しく、取り組みを実施できる余裕はなかなかない」として、国に人材確保への支援を求めた。

専門職の確保が難しい小規模な自治体は、取り組みに差がつくことも考えられ、「格差をできるだけ小さくする仕組みが必要」といった意見もあった。

全国後期高齢者医療広域連合協議会の横尾俊彦会長（佐賀県多久市長）は、「（専門職を）1自治体に1人では難しい。複数の自治体が共同で専門職を活用するなど、柔軟な対応を可能にできるようにしてほしい」と話している。

読 売（東京・朝刊

2018年12月14日（金）

# オランダ 医療×ICT

高齢化に伴う医療費の増加を抑える対策の一つとして、厚生労働省は個人の医療情報を病院が変わっても確認できる「医療等ID」の2020年度の本格運用を目指している。オランダでは、こうしたICT（情報通信技術）を活用した医療の効率化に先行して取り組み、その動きを加速させている。現状を取材した。

首都アムステルダムで家庭医をしているバート・メイマンさんの診療所。現代美術の絵画が飾られた診察室でパソコンをみて、「今はこれを通して、病院での検査の結果や薬局での薬に関する情報を見ることがができる」と話した。

オランダの医療制度は家

## カルテや投薬 ネットワーク化

家庭医が中心だ。病気になるとまず、登録している地域の家庭医で診察を受ける。専門の治療が必要だと診断されると専門医を紹介され、病院で治療を受ける。その際に活用されているのが、家庭医、病院、薬局などみんなが診療録（カルテ）や薬の処方箋などの情報をパソコンで見られるネットワークだ。不必要な検査や大量の薬の投与を防ぐ。

オランダは早くから電子カルテの導入を進めていたが、その取り組みを加速させたきっかけは国の財政悪化だ。13年に即位したウィレム・アレキサンダー国王は議会で「20世紀型の福祉国家は終わった」と演説。国民の自助努力を促す参加

型社会をめざすとした。

その柱の一つが、医療情報のネットワーク化だった。ただ、過去にプライバシー保護の観点から反対の声が上がりと、同様の計画が頓挫した経緯があった。

新たな計画では、民間組織を設立してネットワークを運営する方式に変更。医療情報の提供については、国民一人一人の同意を必要とするほか、情報を医療機関などの第三者が見た場合には記録が残り、確認できる仕組みを入れた。今では人口約1700万人のうち約1300万人が同意している。

ただ、患者側は自分の情報を見られない。そこで、官民プロジェクト「Med Mij」（メドマイ）が16

年に立ち上がった。「私の健康」という意味だ。

保健・福祉・スポーツ省や患者の団体を中心に、民間の保険会社などが参加する。国民が自身の情報を見られるようにするだけでなく、自分で計測した血圧値などを追加で記録できるようなにする計画だ。糖尿病などの慢性疾患の患者や健康に不安を抱える高齢者の健康管理、在宅ケアでの活用が見込まれている。

日本の「医療等ID」も将来的にはこうした仕組みを描く。メドマイ広報のマルゴ・ブランドズさんは、病院に行く前に検査結果を見ることができれば、医者への質問を考えられ、効率的に受診できると説明。「健康を医師と一緒に考えるきっかけにもなる」と話す。

調査機関は、不必要な検査の防止や遠隔モニタリングでの重症化予防などで年46億<sup>円</sup>（約5900億円）

の医療費が削減できると試算する。

だが、普通の人がカルテなどを理解するのは難しい。家庭医のメイマンさんは「情報が多かったり、悪い検査結果だったりした場合は、患者がパニックに陥る可能性もある」と懸念する。医師らの助言といった支援も不可欠とみる。

ICT活用で住民の健康を支える社会の実現をめざす「日本ユーザビリティ医療情報化推進協議会」の森田朗代表理事は、「プライバシーへの対応を強化しながら官と民が連携し、医療情報を活用する仕組みづくりを進めるオランダの取り組みは参考になる」と話す。

（松浦祐子）

朝日（東京・朝刊）  
2018年12月8日（土）

けいざい+

# 脳卒中治療で連携

## 県北中心に6病院

県北地域を中心とした6病院は18日、リアルタイムでCT画像などの患者データを共有できる「遠隔画像診断治療補助システム」を活用した脳卒中治療を開始した。2次救急病院が脳卒中の専門的な治療や3次救急を担う病院と画像データを共有することで、迅速な処置につなげる狙い。1分1秒を争う脳卒中の治療で、より早い診断や設備の整った病院への搬送などが期待される。同日は高萩協同病院（高萩市）と日立製作所日立総合病院（日立市）で訓練が行われ、画像共有から治療までの流れを医師らが確認した。

同システムはCTやMRI画像などの患者データを専門医がいる医療機関にリアルタイムで送信し、データを見た医師から診断の助言や指導を受けられる仕組み。タブレットやスマートフォンで画像の送受信ができ、最大で一度に約400枚分の画像データを送信でき

る。6病院は、慈泉堂病院（太子町）▽常陸大宮済生会病院（常陸大宮市）▽水戸医療センター（茨城町）▽北茨城市民病院（北茨城市）▽高萩協同病院▽日立総合病院。水戸医療センターと日立総合病院がデータを受信し、他の4病院に助言な

どを行う。県医療政策課によると、これまでも病院間で連携して治療に当たるケースはあったが、画像データは患者の搬送時に持参するか、電話による口頭説明にとどまっていた。今回のシステム導入により、専門医以外では判断しにくい小、中程度

の脳卒中の病状について判断や助言など迅速な対応につながる。県北地域は救急搬送時間が県平均より長く、脳卒中による死亡率が高い。システム導入で改善が期待される。

訓練では、脳神経外科医の不在時に脳卒中の患者が高萩協同病院に搬送されたとの想定で実施。医師や看護師らが症状を確認した後、CTを撮影し、画像約100枚をタブレット端末から送信。日立総合病院で医師が画像を確認し、点滴による投薬を指示した。高萩協同病院の近藤匡病院長は「専門医が不足している中で遠方の先生に協力してもらおうシステム。脳卒

## 共有データ画像システム導入

中以外にも応用が可能だ」と期待した。

県は本年度当初予算に約2830万円を計上し、同システム導入にかかる初期費用で461万円を上限に全額補助して導入を後押し。補助金を使い、本年度中に水戸ブレインハートセンター（水戸市）と聖麗メモリアル病院（日立市）もシステムを導入する予定で、連携は計8病院まで広がる見通し。同課の担当者は「今回をモデルケースに、ほかの地域でも連携が広がるきっかけになれば」と話した。

（成田愛）

茨城新聞・朝刊

2018年12月19日（水）

KEIZOKU TOPICS

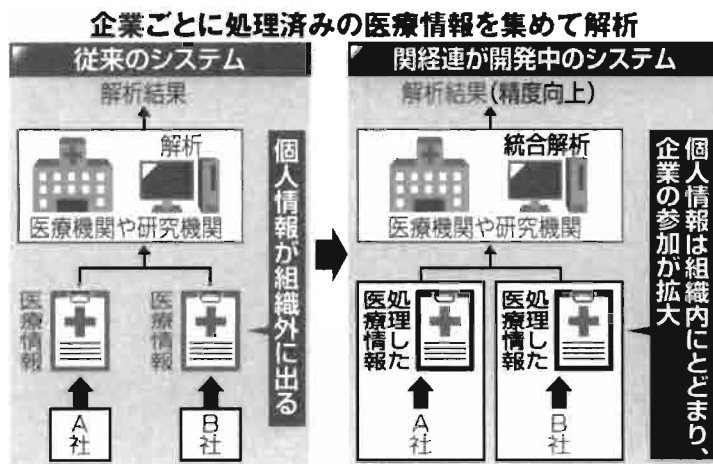
連携・ネットワーク

# 企業の医療情報 ビッグデータ化

## 関経連実験、健診結果など活用

### 個人情報漏洩を防止

関西経済連合会は、企業が持つ社員の健康診断などの医療情報をビッグデータ化するシステムの実証実験に取り組んでいる。関西で盛んな製薬・健康医療産業に貢献する狙いで、治療法の研究や健康食品開発などへの活用を想定している。医療情報は厳



格なプライバシー保護が必要のため、企業側で個人情報に一定の処理を加えたデータをシステム側へ集約する仕組みを新たに開発。情報漏洩リスクを低減したことが特徴で、企業の参加拡大が期待される。

企業が持つ医療情報をビッグデータ化する取り組みは全国的にも珍しい。経済産業省の今年度の補助事業として進められ、来年1月に解析結果をまとめる。事業費は約5200万円。

実証実験では、田辺三菱製薬など4社が、計3万4千人の約3年分の健診結果やレセプト(診療報酬明細書)、勤務状況などの情報を、それぞれ個人を特定できないよう処理。国立循環器病研究センター(大阪府吹田市)に設置したサーバーに集約し、ビッグデータとして統合解析する。

例えば「生活習慣病の発生率は喫煙によって変動する」といった仮説を検証していく。将来はより多くの情報を組み合わせ、その人に合った食事・服薬指導などに結びつける考え。健康状態に応じた保険商品の開発にも応用できるという。

政府は今年5月に施行された「次世代医療基盤法」に基づき、医療機関の情報のビッグデータ化に取り組んでいる。関経連は、「企業が持つ医療情報の活用も進めば、病気予防が進む可能性がある」としている。

産 経(大阪)・朝刊 2018年12月18日(火)

## 新技術展示

### 5Gで遠隔高度医療

NTTドコモは、人工知能(AI)やIoT(モノのインターネット)などの最先端技術

サービスの実用化が着実に近づいている。「新幹線で移動中のベテラン医師が病院で

5Gは4Gでは難しかった4K/8K映像のリアルタイム伝送が

### 示

コンテナに設置したモバイルスマート治療室の構想もある。大規模災害の発生で病院搬送が困難な状況でも5Gとスマート治療室搭載の車両を派遣し、遠隔

タイムで送受信でき、おもちゃのブロックを積み上げるといった4Gでは難しかった細かい操作も可能。ロボットがモノを持つ時の力を操縦者が感じることができ、目隠しをし

# ドコモ、都内で最

術を体験できる「ドコモオープンハウス」を都内で開き、2019年に一部サービスが始まる第5世代通信(5G)関連技術を披露した。会場では約240点の展示の半分を5G関連技術が占める。現在の4G LTEの100倍の高速通信が可能で5Gを用いた次世代

行われている手術の高精度映像を携帯情報端末末で見ながら指示を与えられるようになる。NTTドコモ5Gイノベーション推進室の奥村幸彦担当部長は、東京女子医科大学と開発している遠隔手術治療支援システム「モバイルSCOT」の特徴をこう説明

可能になる。外視鏡で撮影した3次元の4K映像や生体モニタ、神経機能検査装置のデータなど複数の高精度医療映像を遠隔地に伝送できるため、専門医が不足している地方でも高水準な医療を提供可能になる。手術室をトラックの

# 新幹線から指

と情報を共有しながら高度医療を行える仕組みだ。会場と約10キロ離れた東京ソラマチ(東京都墨田区)からトヨタ自動車の人型ロボット「T-HR3」を遠隔制御する実演も行っている。5Gの低遅延特性を生かせば遠隔地からの操作指示をリアル

ながら力の感覚だけモノをゴールに動かす実演も行った。災害地や宇宙空間などでの作業だけではなく、家事や介護を遠隔地から支援するロボットとしての活用を見込む。

日刊工業新聞・朝刊  
2018年12月7日(金)

# AI競わせ、100枚▼数万枚に

# サンプル少数でも画像診断

成する技術。「患者と健康な人の画像から病気の特徴を導き出して画像を作る」(同社)という。

京都大学発スタートアップのデータグリッド(京都市)は医療画像のビッグデータを人工的に作り出す技術を開発した。医師の診断を支援する人工知能(AI)の開発に欠かせない大量の医療画像を、少ないサンプル画像数から作り出せる。新技術は難病なら年単位がかかるといわれる画像データ収集の手間を省き、診断AIの研究開発を後押ししそつだ。

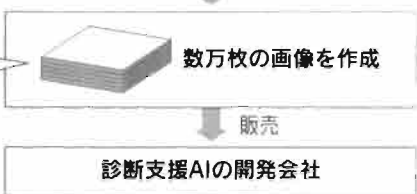
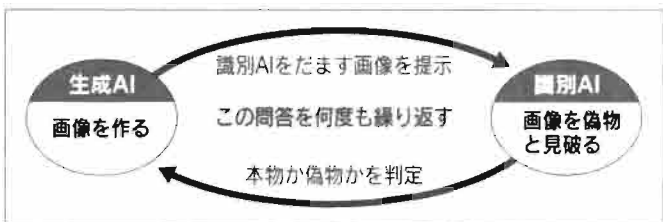
開発したのは本物の病気の患部画像(1疾病あたり100枚)と健康な人の同じ部位の画像(1万枚)から、同じ病気の画像を数万枚規模で作

# 京大発スタートアップ

データグリッド 2017年7月に設立。京大の国際科学イノベーション棟に本社を構える。従業員は13人。全員が機械学習専門のエンジニアで、京大の修士や博士課程を修了した人が多い。GANの技術を活用するビジネスを主力とし、実際のアイドルの画像データからゲームやコミカル用の架空アイドルの顔を大量に作る技術も持つ。

# 必要なビッグデータ 人工生成

両AIが競い合って画像の精度を上げる



AIが作った画像を識別AIを繰り返し、画像の精度を本物が偽物と見破り、生成AIが物に限りなく近づけていく。さらに高度な画像を作る作業

ユーター断層撮影装置(CT)や磁気共鳴画像装置(MRI)の画像などにも応用可能だ。まず心肥大のレントゲン画像を作る基礎技術を確立した。健康な状態から症状が進行していく様子を忠実に再現できたという。今後は2019年(岡田社長)。新技術は9年初めにも京大病院と連携して、医師と作成画像の精度を検証する。

AIでレントゲンなどの医療画像から病気を発見するシステムを開発する会社のニーズを見込む。医師の画像診断を支援するAI開発の難点を、まず人力で医療画像のビッグデータを収集する必要が格と売り上げ目標は未定。19年の供用開始を目指す。

ただ、中国などに比べて人口が少なく、個人情報管理も厳しい日本で医療画像を数万枚も集めるのは難しい。現状は症例数の少ない病気の場合同、医療画像を集めるだけで年単位の時間がかかっていた。サンプル画像を収集する時間だけに短縮できる。大量のサンプル数を集められない難病の画像の大量作成も可能になる。

作成技術をライセンス供与したり、注文を受けた疾病の患部画像を販売したりするビジネスモデルを検討する。価格と売り上げ目標は未定。19年の供用開始を目指す。

(黒田弁慶)

を繰り返し、画像の精度を本物が偽物と見破り、生成AIが物に限りなく近づけていく。さらに高度な画像を作る作業

日経産業新聞・朝刊  
2018年12月12日(水)

# 広がれ低糖質自販機

## 宮崎発糖尿病予防へ医師ら設置

甘い飲料が入った缶やペットボトルが並んだ自動販売機に一石を投じる試みを、宮崎市の糖尿病専門医と小児歯科医の2人が始めた。糖尿病予防策として、糖質ゼロや低糖質の飲料に限定した「糖質を考えた自動販売機」を広める運動で、10月から宮崎市と熊本市の計3カ所に設置し、来年早々にも福岡市に設置予定だ。この20年間で糖尿病が強く疑われる人の割合は増加しており、2人は「健康な人が増えてもらうために、気軽に糖質ゼロや低糖質の自販機を選べるような環境になってほしい」と普及に努めている。

低糖質自販機の設置は、糖尿病予防に力を入れる「みやざき糖尿病予防クリニック」院長の谷口尚太郎さんが、乳幼児の糖分過剰摂取を心配する「矯正・小児ひまわり歯科」院長の柿崎陽介さん呼び掛け、自販機運営会社「ネオス」の西日本エリア九州地区の協力を得て取り組んでいる。

10月から設置を始め、宮崎市大塚台のひまわり歯科近く、同市阿波岐原町の低糖質カフェ・ブルーオウル&ベント前、熊本市東区の川口歯科医院前に設置を終えた。いずれも糖質ゼロの飲料ばかりだ

が、今後は「糖質ゼロ」と「低糖質」の2タイプの自販機を展開する予定。年内には、さらに宮崎市内に2台、来年早々にも福岡市早良区に1台の設置を予定している。自販機には「糖質ゼロ」「糖質を考える自販機」などのステッカーを表示して分かりやすくしている。谷口さんは「現代は、食事で十分に糖分を摂取しており、さらに飲料から過剰な砂糖を摂取するのは健康に良くない。おいしいから飲むではなく、どれだけ余分な砂糖を取り込むかを考えてほしい」と話す。柿崎さんも「幼児期は繊

## 夢は全国展開、来年福岡登場

細な味覚を獲得する時期。砂糖が多い飲み物はなるべく避けてほしい」と訴える。

取り組みに理解を示したネオス宮崎営業所の児玉和士所長は「消費者の選択を広げる新たな試みに注目している。どの程度社会に受け入れられるのかが普及の鍵」と指摘する。自らも低糖質食品提供に取り組む「ブルーオウル」経営の菊池彩香さん(38)は「低糖質のカフェの前にふさわしい自販機ができた」と喜んでいる。

関係者には「低糖質をイメージする青の自販機にしたい」などの声もある。「全国展開を」と意気込む2人は、関心を持つ医師仲間や病院などに働き掛け、台数を増やしていく計画だ。問い合わせはネオス宮崎営業所0985(29)8316。(中山憲康)

西日本新聞・夕刊  
2018年12月4日(火)



## ふれ合い効果 実証研究 国立成育センター

# 長期入院の子 aiboで癒やし

研究を、国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）が始めた。

「痛いことばかり。友達と遊べない」「これ以上何を頑張ればいいの」。長期入院で不安やストレスを感じる子どもが増えるため、同センターは、遊びなどを通じた心理面での支援に力を注いでいる。今回はアイボを生産するソニーに研究協力を依頼した。

今月スタートした研究では、日頃のふれ合いを通じて、ストレスの減少効果や幸福感などが得られるかどうかを、子どもの唾液や血液、尿の成分を解析して調べる。アイボにはカメラやマイクが備わっており、子どもの表情や声などのデータも分析する。

5年前から入退院を繰り返している松浦千咲子さん（10）は「ちゃんと言うことを聞いてくれてかわいい」と、アイボをなでながら笑顔を見せた。

研究は2021年3月まで行われる。責任者で同センター児童・思春期リエゾン診療科の田中恭子診療部長は「動物との交流が患者の生活の質の改善に役立つことが分かってきた。アイボによって、長期療養の子どもたちのストレス軽減や情緒の安定につながるかを確かめたい」としている。

読 売（東京・夕刊）  
2018年12月3日（月）

# ベネチアングラス 闘病支え

## 京大病院に入院の男児、左京であす作品展

闘病生活の中でベネチアングラスの創作に熱中する男児の作品展が12月2日、京都市左京区岡崎徳成町のギャラリーミントで開かれる。色とりどりの作品が、創作を楽しむ姿を伝える。

## 創作楽しむ姿感じて

京大医学部付属病院（左京区）に入院する清田仁維呂君（7）は近江八幡市。3歳から入院生活が始まり、5歳で同院に入ると、小児科で患者らを支援するボランティア団体「にこにこトマト」の活動でベネチアングラスに出合った。

にこにこトマトでは月1回、下西順子さんと母久美子さんを講師に、ベネチアングラス講座を開いている。久美子さんが友人らと「手わざ展」を開く機会に、「作品発表の場になれば」と仁維呂君に声を掛けた。

母親の泉さんによると、仁維呂君は工作が好きで色やデザインに迷うことなく、多い日は何十個も作る。体の状態が良くなる講座に参加できない日もあるが、焼き上がるのを楽しみにして、届くとうれしそうに顔をほころばせるといふ。作品展では、親子で一緒に作った作品や、金具を付けたネックレスやキーホルダーなどを並べて千円〜2500円で販売もする。仁維呂君が描いた墨絵も飾るといふ。泉さんは「幼稚園に行けなかったが、ガラスと墨絵を楽しみにきつい治療を何度も乗り越えてきた。楽しんでやらせてもらった姿を見てもらいたい」と話した。

（加藤華江）

京都新聞・朝刊  
2018年12月1日（土）

## 小諸図書館

# 病院出向き貸し出し

小諸市立小諸図書館は、同市の県厚生連浅間南麓こもろ医療センターへの出張サービスを開始した。隣り合う立地を生かし、図書館職員が出向いて同センターの入院患者に本を貸し出す。外出が難しく、娯楽が限られている患者からの評判は上々だ。

## 入院患者向け 評判上々

初日の6日、入院患者や見舞客がくつろぐ「デイルーム」。図書館の職員3人が車輪が付いた移動式カートで本を運んできた。院内にア

いいね」と、長野県の特徴を紹介する本を借りた。

ナウンスが流れると、病衣姿や車いすに乗った患者が続々と集まった。写真集や旅行関連の本、小説など約100冊を眺め、笑顔を見せた。

昨年12月に開院した同医療センターと、図書館はこれまで連携を協議。常に200人余いるという入院患者のために役立つ取り組みを、図書館が休館の原則第1、3木曜の午後3時半〜4時半に出張することにした。貸し出しは1人5冊まで。期間は次の出張サービスまで、申請書に記入すれば利用カードを持っていない人や市外在住者も借りられる。

同図書館や県立長野図書館

(長野市)によると、県内では信州大病院(松本市)内に患者向け図書室があるが、公立図書館が貸し出しのため病院に出向くのは珍しい。小諸図書館事務主任の掛川裕介さん(39)は「本を通じて会話のきっかけができればいい。ニーズを見ながら並べる本を変えていきたい」と話している。

信濃毎日新聞・朝刊

2018年12月12日(水)

## 小児科外来に温かみ

### 静岡赤十字病院で静大生協力

静岡赤十字病院(静岡市葵区)の小児科外来がこのほど、静岡大の学生の協力で生まれ変わった。子どもの緊張や不安を和らげ、親子のコミュニケーションが生まれる空間が完成した。

病院待合室のマイナスイメージの払拭(ふっしょく)を目指した、2016年から3カ年にわたるプロジェクト。同大教育学部で美術を学ぶ

## 親子交流へ壁画やカード

生延べ約30人が、病院スタッフとの意見交換を繰り返しながら取り組んだ。

コンセプトは「安心・想像・つながり・笑顔」。1年目は待合室の壁一面に、さまざまな動物を温かみのある色彩で描いた。子どもの横でスマートフォンを操作している親が多いという問題を受

作業は診療終了後の夕方や土、日曜日に行った。美術・デザイン専攻4年の小園理紗さん(20)は「自分たちで考えたアイデアが話し合いの中で洗練されて根拠を持ったデザインになり、喜んでもらえる形になっていくのが楽しかった」と充実感をにじませた。壁画を基にした塗り絵や間違い探しもあり、発達指導などにも活用できる可能性があるという。吉角由紀看護係長は「生かしながら、親子に関わっていきたい」と話した。(社会部・鈴木明芽)

はじける世代を深く  
**DeePop**  
ディーポップ

静岡新聞・朝刊  
2018年12月27日(木)

# ホスピタルアート 気持ち前向きに

## 福山・米子医療センターで患者調査

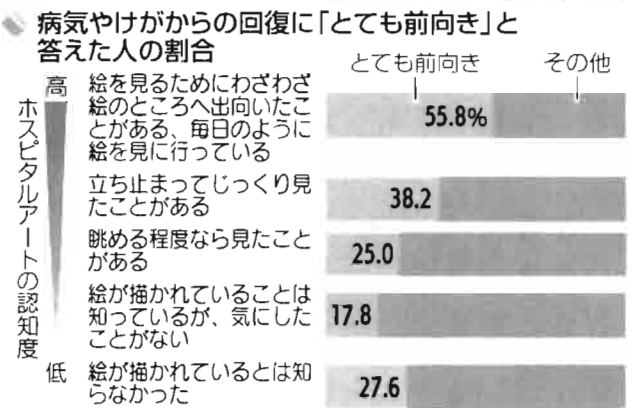
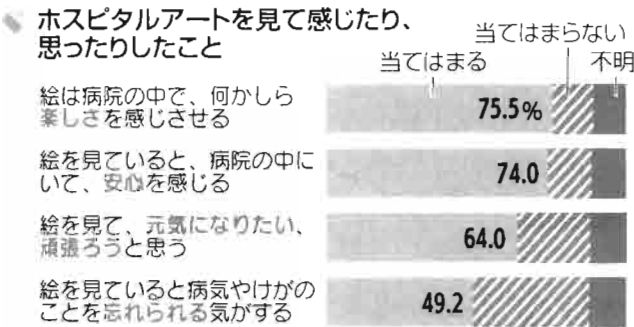
病院の壁や柱に絵を描く「ホスピタルアート」には、患者の気持ちを前向きにする力がある。そんな研究結果が明らかになった。アートのある国立病院機構福山医療センター（福山市）と米子医療センター（米子市）の患者にアンケート。データは、病やけがと向き合う空間を彩ることの大切さを物語る。

（福田彩乃）

ホスピタルアートは、プロのアーティストが、院内の壁や柱の形に沿って直接描き、空間全体を包み込む。福山医療センターでは季節ごとの花や虫、米子医療センターでは地元で親しまれている川や川辺の風景が、患者たちを和ませている。

研究を進めたのは、廿日市の色彩プロデューサー稲田恵子さんと中国地域創造研究センター（広島市中区）の主席研究員、柴田浩喜さん。ホスピタルアートをよく見る人ほど、病やけがする「とした」。

さらに、ホスピタルアートをよく見る人ほど、病やけがする「とした」。



## 7割「楽しさ」「安心感」

がからの回復に前向きな傾向にあった。例えば「絵をみるためにわざわざ絵のところへ出向いたことがある、毎日のように絵を見に行っている」人のうち、気持ち前向きとした人は、55・8%を占めた。一方「絵が描かれているとは知らなかった」人は、27・6%にとどまった。

今回の調査では「額に入った絵」とは、イメージが異なるという結果も出た。アートを観て感じたり考えたりすることが、額入りの絵と比べ「同じではないと思う」とした人は半数に上った。うち6割が理由として、ホスピタルアートの方が「自由で、のびのびとした印象を受けるから」を選んだ。

稲田さんは「枠を決めない自由な絵、手で触られるアートは、病院を訪れる患者や家族の切実な思いに寄り添える。あらためて気付けた」と語る。

小児科の廊下を明るくするゾウやアリ、緩和ケア病棟の面談室でそと咲く花…。場所によってタッチが違う。かしまった絵とは少し違う「あなたかき」が、そこにはある。「すごくしんどくて、絵が目に入らない日もあるかもしれない。でも、ふとした時に寂しさやつらさを和らげ、自分との対話を促してくれる」と稲田さん。ただ、アートの効果を裏付ける研究はこれまでなく、病院側が導入に「二の足を踏む」ことも少なくなかった。

中国新聞・朝刊  
2018年12月12日（水）

# 男児の臓器提供 1年半 母は思う

どこかでも、あの子と会える気がする。岐阜県内の小学六年の男児(当時7歳)が不慮の事故で脳死となり、臓器提供して一年半。母親(40)が取材に胸の内を語った。今も時折、「提供してよかったのか」という気持ちがよぎる。一方で、長男が七人を救い、身体の一部として生き続けていることが希望になっている。

(稲田雅文)

## あの子と どこかで また会える

二〇一七年六月。夕食後、女性 抱きかかえて一一九番。隣人は浴室の静けさに胸騒ぎがした。協力して人工呼吸や心臓マッサージ。飛んでいくと、一人で入浴している。救急隊員の処置で心臓は動きだした。長男が溺れ、湯船に沈んでいた。が、運ばれた県立多治見病院で低

十五歳未満の子どものからの臓器提供は、国内では二〇一〇年施行の改正臓器移植法により家族の承諾があれば可能になった。だが、日本臓器移植ネットワークによると、実際の提供は現時点で二十件にとどまっている。

## 8年20件

### 国内は諦め 海外渡航も

一方で、国立循環器病研究センター移植医療部の福嶋教偉部長によると、心臓移植を必要とする小児は少なくとも年間五十人近い。国内での移

米、カナダは日本人の受け入れを続けているが、費用は数億円とされる。移植を待つ患者らでつくるNPO法人「日本移植者協議

## 失意の中で希望 救った7人の中で生きている

酸素脳症と診断された。集中治療室(ICU)に入ってから数日後、主治医から脳波の検査結果を示された。夫(40)と共に目にしたのは、動きのない平らな線。「脳死の状態でしょうか」と聞く。主治医は「大人ならそう診断します」。現代の医療では救う手段がない、と告げられた。長男は小学二年で始めた柔道に熱中。体が小さく試合ではなかなか勝てなかったが、練習は皆勤賞。「将来は柔道の先生になりたい」と打ち込んだ。学校ではクラスメートの盛り上げ役。妹や近所の小さな子の世話をよくし「人の役に立ちたい」と語る優しい子だった。

小学五年の時、一緒に臓器移植のドキュメンタリー番組をテレビで見た。臓器提供について長男は最初、「心臓が動いているなら嫌だ」。だが、提供を受けた子どもが助かったことに心を動かされ、移植への理解を深めたようだった。お風呂に入れた。心臓や肺、肝臓、腎臓などは重い病に苦しむ十〜五十代の七人に移植された。まだ心は癒えていない。「長男の元へ行きたい」と落ち込む日もある。ただ、臓器提供を受けた患者から届いた感謝の手紙を読んだりするうち、長男は別の人の体の中で生きている、と考えるようになった。「あの子とどこかですれ

た。「もし僕が脳死になったらあげてもいい」。そう話していたのを女性は思い出した。人工呼吸器を付けたままでも帰宅できると説明した主治医に、女性は「臓器提供はできますか」と切り出した。院内で連日、会議が続く間も長男は眠っているかのよう。爪も伸びた。「帰宅した方がいいのかな」「いや、人の役に立ちたいと思う長男の意思をかなえたい」。心は揺れたが、最後は夫と決めた。提供の日、手術室に入る長男を夫や長女(6歳)と見守った。数時間後、「心臓が運ばれます」と言われ、病院を出発する医師らを見送ると、思いが込み上げた。全ての手術が終わわり、対面した長男は手術前と変わらず眠っているようだった。でも、触れると冷たかった。抱きついてさすった。最後に

# 「骨髓バンク」落語で啓発

## 娘が難病克服、守口の栄田さん

# 「登録が命救う」

子どもの場合、十八歳未満なら少しでも虐待の疑いがあれば臓器摘出は認められない。子どもの移植に対応する体制が整った施設は成人より少なく、移植を選択肢として示す医師も少数派という。

## 進まぬ移植

植を諦め、手術のため海外渡航する十八歳未満の子は一〇年以降も年間五人前後いるという。国際移植学会は〇八年、自国で臓器提供を増やして患者を救う努力をするよう「イスランプール宣言」で求めた。

会「前理事長の山本登さん（七三）愛知県弥富市」は「子どもの臓器提供は移植医療で長年続く最大の課題。全ての人が自分のこととして真剣に考えられるよう、国などは啓発に力を入れるべきだ」と指摘する。

違つかもしれない。頑張ろう」。女性はそう思っている。

血液の病気の治療に有効な「骨髓バンク」を啓発しようと、守口市に住む女性が高座デビューを果たす。現在高校2年の長女がかつて骨髓移植を通じ、生死を左右する難病を克服した経験が活動を支えている。和芸澄川流一門による「歳末感謝寄席」が24日、守口市役所であり、「ドナー登録は命につながる活動。一人でも多くの命につなげたい」とPRしている。（藤木俊治）

## あす高座デビュー

一席弁するの、NP 推進協会」の会員、栄田○法人「関西骨髓バンク 慶子さん(42)。高校2年

の長女、咲さん(17)が難病を克服した体験をきっかけに、家族ぐるみで啓発活動を行っている。 ■一時は絶望 2010年6月。小学3年だった咲さんは38度台の高熱が1週間続き、検査を受けたところ血液中の白血球、赤血球、血小板の値がすべて減少する「再生不良性貧血」であることが分かった。発症例がごくわずかの特定疾患で、治療に最も有効とされる骨髓移植には患者とドナーの免疫組

織であるHLA型(白血球の型)が一致する必要がある。一時は絶望した一家の救世主となったのは、当時5歳だった長男の快さん(12)だ。家族の中でただ一人、型が適合した。 それでも、抗がん剤投与による治療はし烈を極めた。栄田さんは「生きているのがつらくなるほど娘が苦しむ姿を横で見ている、何もできなかった。同じ思いの人がたくさんいると思うとじっとしていられた。この経験が啓発活動につながっている。

骨髓移植から8年経った今年の夏、咲さんの血液がドナー由来に100%入れ替わり、再発を恐れることはなくなった。 ■ハンディ乗り越え 栄田さんには、生まれつき「両手機能障害」というハンディキャップがある。料理や縫い物(そでできるが両腕を自由に動かすことができず、入浴などは介助が必要だ。 そんな栄田さんが入門したのは今年2月。落語が好きで、一門の寄席にも通っていたところ、知人だった家元の澄川白舟さんから「障害がある」その姿で人を笑顔にするというのには尊敬すべき対象。あなたにはその使命がある」と背中を押された。そして「自分が注目を集めることで骨髓バンクの発信につながれば」と決意。両手に頼らず表情

ただでの表現が求められるため、研さんの日々が続く。 ドナー登録は、書類の記入と採血検査をすれば18歳からでき、「登録が命につながることを知ってほしい」と栄田さん。もらった芸名は「骨髓バンク」の一部をもじった「澄川白舟子」だ。落語のイントロに当たる「枕」に家族の体験を盛り込むなど、構想を練りに練っている。 午後2時から。入場料は1800円。

中日新聞・朝刊 2018年12月27日(木)

大阪日日新聞・朝刊 2018年12月23日(日)

KEIZOKU TOPICS

移植医療

# 尊厳死 公正証書で宣言

終末期に延命治療を望まない意思を示す「尊厳死宣言公正証書」の作成が道内でこの10年、年間100件前後で推移している。日本公証人連合会（東京）が今年から取り始めた統計でも、8月までの件数は全国が1128件、道内が45件で、例年、年末に向け増える傾向があるという。延命治療の高度化や、高齢化で死者が増える「多死社会」が進行する中、「自分らしい死」を意識する人が増えた反面、患者の意思が反映されづらい終末医療の現状が背景にあるようだ。（斉藤千絵）



5年前に作成した尊厳死宣言公正証書を手にする男性。本人の意思を反映する終末期医療が望まれる（写真を一部加工しています）

**尊厳死宣言公正証書** 不治でかつ死期が近づいた際、人工的に死期を引き延ばすだけの治療を拒否する「尊厳死」の意思を記した公正証書。入院時などに本人や家族、後見人が医師に示す。公証人が申請者の意思を確認して作る公文書のため、私文書に比べて信用性が高い利点がある。各地の公証役場で作成でき、作成料は1件1万5千円前後。

派の議員連盟は法案化も検討したが、日本弁護士連合会などは「患者への心理的圧力になる恐れがある」などと懸念し、尊厳死ありきの法律には慎重な姿勢だ。

## 患者の権利

こうした議論を受け、厚生労働省は今年3月に終末期医療に関するガイドラインを初めて改訂。尊厳死を望むかによらず、医療者と本人、家族が治療方針や最期の過ごし方などを繰り返し話し合う重要性を明記し、医療チームに求めた。札幌市立大のステディン崎和代名誉教授（在宅看護学）は「そもそも本人の意思を尊重し、十分な情報提供と説明に基づいて治療方針を選択する患者の権利が保障されていないことが問題の根底にある」と指摘。

「患者や家族と継続的に話し合っただけで治療に反映させる仕組みを整え、意思を尊重する医療文化を根づかせる必要がある」と訴える。

## 「自分らしい最期」広がる

「自分が望む最期を迎えられるよう、できることをしておきたかった」。5年前に夫婦で証書を作った美眼市の男性（88）は自宅の間際に証書を広げ語った。

### 年間約100件

近しい親族や知人の死に接する機会が増え、「自分（胃ろうなどの）機器に頼らず自然に人生を終えたい」と考えていたところ、知人の行政書士を通じ証書

の存在を知った。作成した証書は息子に預け、金庫に保管してもらっている。

尊厳死宣言公正証書は、死期を引き延ばすだけの延命治療を拒否する「尊厳死」の意思を記す。道内13カ所の公証役場によると、道内の同証書の作成件数は05年ごろから増え、09年に10

0件を突破した後、1000件前後が続く。年間では、家族が顔を合わせ話し合う機会が多い年末などに増える傾向だ。北海道公証人会の瀬川卓男副会長は「遺言作成など『終活』の一環として検討する人が増えている」と話す。

前に尊厳死を望んでいても家族の意向などで延命措置を続けたり、救急搬送された場合に患者の意思にかかわらず延命措置が施される例が多い。現行法では、延命措置を中止した医師や家族が刑事責任を問われる可能性があるためだ。

終末期医療に詳しいすこやかクリニック上嶋向（岩見沢市）の傳野隆一医師は

医療現場では、本人が事

医師免責も

「命に関わる患者の意思を現場で即座に見極め、判断することは非常に難しい」と吐露。医師や家族の免責も盛り込まれる証書は、本人の意思を明確にし判断を手助けするよりどころという。

ただ公正証書は作成時からの意思の変化を反映する難しさや、みとる家族と本人の意向に相違がある場合の対応、具体的に拒否したい治療内容が曖昧な点などに課題が残る。尊厳死を巡る環境を整えようと、超党

北海道新聞・朝刊  
2018年12月14日（金）

# 「天命論争」現代医療考察糸口に

香西豊子・佛教大准教授が講演

死期が近い患者にあくまで治療を尽くすのか、無益だとして控えるべきか。天然痘をめぐる、「天命」にどう向き合うかに踏み込んだ江戸時代最大の医学論争が京都で展開された。一連の論争は、現代の医療倫理や死生観についても考えを深める手掛かりとなりそうだ。

天然痘をめぐる医学史に詳しい香西豊子・佛教大准教授が10月、京都市中京区の府医師会館で講演した。京の医師で、後に漢方の大家とされる吉益東洞が1759年に出版した「医断」での主張と、同じく京の医師の畑黄山による反論を比較し、論争の全体像を紹介した。

吉益は「死生は医の与らざる所なり」と、患者の死は医師が関与するところではないと言いつつ、「死生は命なり、天より之を作す」と、つまり天がつくった天命があるとして、医師は治療に力を尽くした上で生死は天に任

## 医師の倫理問うた江戸期 寿命延び、今求められる死生観

せるべきだと主張した。金もうけ優先で、患者の死が近いとみると風評悪化を恐れて逃げ出す当時の医師らへの批判が込められていた。

これに対し、畑は「死生の明察こそ医師の本分だ」と反論した。治る見込みのない患者を治そうとして、無益な治療をして苦痛をもたらしてはいけないとの考えだ。吉益の「病因は問わず、とにかく体から毒を排出させる」ためにきつい薬を処方する治療方針を批判し、「除毒だけで治療できるほど単純でなく、一律に『下せ』というのは乱暴だ」とした。

### 守るのは個人。社会？

#### 副作用めぐり議論

香西氏はこの論争を「診るべきなのは病気なのか、それとも死生まで見越して人を診るべきか。ここで医師の職業倫理が初めて問われた」と位置づけた。天命は現代に言い換えれば、寿命だ。高齢化社会を迎え、延命治療のあり方などが高い関心を集める中、「現代の天命論争は、医師から一般の人にプレッシャーが移った。自らの命と死にどう向き合うか、覚悟を持って考えなくてはならない時代になった」とする。

予防のためであっても天然痘ワクチンに副作用があるとして、医師らは猛反対した。幕府の設置した医学館までもが、天命を論拠に「百分の一の可能性であっても人為によって死ぬことがあれば、天命に悪いかたちで関与したことになる」と反発したが、政治判断に押し切られた。

副作用については現代でも、子宮頸がんのワクチン接種後に健康被害の訴えが相次ぎ、発症を抑止する効果と健康リスクをめぐって接種の是非が議論となっている。「予防接種は個人を守るのか、社会を守るのか、現代でも議論される。確率的にわずかな死や健康被害を一人一人がどう考えるのか、積み残された課題ではないか」と香西氏は指摘する。

香西氏はこの論争を「診るべきなのは病気なのか、それとも死生まで見越して人を診るべきか。ここで医師の職業倫理が初めて問われた」と位置づけた。天命は現代に言い換えれば、寿命だ。高齢化社会を迎え、延命治療のあり方などが高い関心を集める中、「現代の天命論争は、医師から一般の人にプレッシャーが移った。自らの命と死にどう向き合うか、覚悟を持って考えなくてはならない時代になった」とする。

天然痘をめぐる天命論争は江戸時代末期に新たな展開を迎えた。流行が国力低下につな

京都新聞・朝刊

2018年12月14日(金)

## 寄り添い家族支える

終末期高齢者巡り  
東北文教大生学ぶ

介護施設で終末期を迎え添ったコミュニケーションの高齢者を抱えた家族の支の取り方を学んだ。援について考える授業が12日、山形市の東北文教大で、同学科の橋本美香学科長が行われ、同大短期大学部人医療大看護学科の井上京子間福祉学科2年生37人が介准教授が講師を務めた。実護福祉士として家族に寄り際に起きたケースを基に、

型認知症の高齢者の事例ニケーションで確認してみでは、嚥下機能が低下し、てはどうか」「傾聴して家主治医から管で栄養を損族の不安を取り除くこと取する方法を勧められたが大切」などの意見が出さるが、判断に迷っている家族にどう接するかなどが示され、グループごとに話末期における家族支援が重し合った。学生からは「本要となってきたり、職人の意思を尊重するため員と家族とのコミュニケーションの難しさも指摘され

(柳沢明子)

山形新聞・朝刊  
2018年12月19日(水)

## 意思の尊重 国内議論進まず

患者が自らの意思で飲食を拒み、死を早めようとする行為に医療現場で困惑が広がっている。終末期医療に関わる医師の3割ほどがこじつした患者を診たという調査がある。「苦痛などから逃れたい」という思いなどが原因とみられるが、欧米では「患者の権利」として医療者向けのガイドブックもある。「死ぬ権利」はあるのか。医療現場は苦悩している。

「いっそのこと、死なせてくれないかな」。末期の隣臓(すいぞう)がんに患い、日々苦痛に見舞われていた神戸市の70代男性は、ホスピスの担当医、新城拓也医師にいつもと変わらない穏やかな口調でつぶやいた。「死にたいと考えるほど追い込まれているのです

る？

## 患者、飲食拒否のケース

師などと相談を重ね、最終的に睡眠薬を微調整して本人が望むように少しずつ眠らせることを決断。男性は1週間ほどで亡くなった。

「医師としてどう対応すればよかったのか」。悩み続けた新城医師は男性が実行したものが「V S A D D (Voluntarily Stopping Eating and Drinking)」であると知ったのはそれから数年後のことだった。

日本緩和医療学会と日本在宅医学会の2016年の調査によると、終末期医療に関わる医師の3割ほどが

現場ではV S E Dという言葉があまり知られていないだけで、実際に試みようと考える患者は一定数いる」と指摘する。

欧米の医療現場ではV S E Dは知られた言葉となっている。米国では17年、看護師協会がV S E Dを「患者の権利」とし、その意思を尊重すべきだとする声明を出した。オランダではV S E Dを実行する患者のケアについてガイドブックが存在する。

### 安楽死の「代替」

飲み食いをやめるという単純な方法で死期を早めることができる。このため医療者側は自らの意思で実行する患者に対しては睡眠薬の調整などの緩和ケアを施すケースもあるという。

ただ欧米でもV S E Dを容認すべきか医師によって意見が分かれており、倫理的な観点や違法性などについて議論が続いている。日本では患者の「死ぬ権利」について議論が進んでいない。実際に実行する患者がいた場合、新城医師は「飲食をやめるのは強い身



### 尊厳死法制化を考える議員連盟がまとめた 法案の要点 (2012年)

- ・終末期の定義を「患者が適切な治療を受けても回復の可能性がなく、死期が間近だと判定された状態の期間」
- ・終末期の判断は医師2人以上で行う
- ・患者が書面などで希望し、終末期判定を受けた場合、医師は延命措置を差し控えることができる。その場合、医師は民事、刑事、行政上の責任を問われない

か」。新城医師はこう返すことしかできなかった。新城医師が経験したのは約10年前。「ここまで強く死を求められたのは初めて。どうしてよいのか分からなくなった」と振り返る。

「薬で眠らせて」

男性は自力で飲み食いができる状態だったが、長くとも2カ月程度で亡くなると思われていた。「先生が死なせてくれないなら、飲み食いをやめる。薬で眠らせてほしい」。反対する妻や新城医師の思いとは裏腹に、男性の意思は強く、一切の治療も拒否した。そのため新城医師は看護

## 「死ぬ権利」はあ 戸惑う現場 終末期

### 尊厳死、法整備の動き鈍く

延命治療を中止する「尊厳死」の権利を法律で定めるべきか否か。「消極的安楽死」とも呼ばれるこうした選択について、日本では法整備の動きは鈍い。厚生労働省は2007年、終末期医療で「患者本人の決定が基本」とする初の指針を公表、一般的に尊厳死を容認する方針を示した。06年に富山県の病院で人工呼吸器を外された50〜90代の末期状態の患者7人が死亡

した問題が発覚し、医師が殺人容疑に問われる刑事事件に発展したことがきっかけだった。厚生省は18年3月に指針を改訂し、自分の意思を家族や医療従事者とあらかじめ共有することが重要とした。ただ医師や救急隊員らが尊厳死に関わった場合、法的責任を問われる可能性はゼロではない。法的リスクを懸念し、治療の中止に応じない医師もいる。

12年には超党派の議員連盟が尊厳死法案をまとめた。日本尊厳死協会(東京)は「自分の最期を自分で決める考えを生かすため法整備が必要」と賛同する。国会によると、欧米はほぼ全ての国が尊厳死を法的に認め、近年韓国や台湾でも法律ができた。

一方、「医療費抑制や臓器提供への期待につながるのでは」「死という個人的なものに法律

こうしたVSEDを試みた患者を診たことがあると回答。このうち患者の人数については「1〜5人」が29%と最多で、「10人以上」と答えた医師もいた。日本では患者やその家族から強い要望があったとしても、医師が自らの手で致死量の薬剤を投与するなどして患者を死に導いた場合、司法で処罰される可能性がある。

調査を主導した新城医師は現在、訪問診療医として緩和ケア専門の「しんじょう医院」(神戸市)の院長を務める。患者でVSEDを実行したのは神戸市の男性のみだが、「日本の医療

オランダの場合、安楽死の「代替手段」としてVSEDが患者の間で広がった。同国では安楽死が認められているが、誰でも希望すれば受けられるわけではなく、余命の長さや苦痛のレベルなど厳格な基準が定められている。

安楽死を請け負うオランダのあるクリニックの調査によると、受診した25%の患者が実際に安楽死を遂げた一方、47%は条件を満たしていないと判断。19%は基準を満たしているかどうかを審査している間に亡くなっていった。

基準を満たしていない場合でも、VSEDであれば

体的苦痛を伴う。まずはそうした行為をやめることを求めるべきだろう」と話す。ただ医療者側が行動の意味を理解していなければ正しいケアを患者が受けられない懸念もある。

新城医師は「終末期の患者は『死にたい』と『生きたい』という相反する感情を同時に持ち合わせている。だが実際に死にたいと考えている人は少ないのでは」とみる。そのうえで「まずVSEDを認める国の人権感覚を学び、こうした意見にどう向き合い、応えていけるかというのを考えなくてはいけない」と強調している。

が関与すべきでない」など反対の声も根強い。難病患者の在宅治療を支えるNPO法人「さくら会」(東京)の川口有美子副理事長は「介護の継続が難しく、やむなく治療停止を選ぶ患者もいる。それは『合意』ではない」と指摘。「まず患者の権利を擁護する法律を作り、治療を続けたい患者の思いも保障すべきだ」と話している。(石原潤、松浦奈美)

日本経済新聞・朝刊  
2018年12月17日(月)

# 聴診記

## 自分の最期は自分で決めたい

「私たちのことを私たち抜きに決めないで」。障害者の権利を論じる際に耳にしたフレーズが、在宅医療・介護のあり方を議論する場で使われていたのは新鮮だった。

11月、福岡市で開かれた「第9回九州在宅医療推進フォーラム」。認知症当事者を含め、医療・福祉関係者など延べ1300人が参加。「何も分からない」「決める力はない」などとされてきた認知症や悪性疾患などで終末期にある人の意思と選択を、医療やケアに生かす方法を模索した。

終末期の医療・ケアを当事者とその家族、医療・介護職が繰り返し話し合って決める「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」が提唱されている。医療側の力が強すぎれば、患者や家族が置き去りにされてしまう。一方で、あらゆる場面で当事者意識を持ち、現実的な選択をする力を育てる市民教育も必要になる。そんな問題提起があった。

人生最期の過ごし方を巡っては、乳がんで死亡した大分市の女性（57）

の遺族が余命宣告を受けなかったために「余命が充実したものになるよう手厚い配慮ができなかった」として通院先の病院に慰謝料を求める訴えを起こした。それほど「自分の最期は自分や家族で選んで決めたい」という思いは高まっているのだろう。

フォーラムでは「福岡宣言2018」として「いかなる健康状態であっても、自ら生き方を選択でき、住み慣れた地域で自分らしく生きることが可能なまちを作ろう」「本人の生き方、価値観、想いをより深く理解し共有しよう」などとうたった。宮崎市や熊本市など、終末期の過ごし方について意思表示するノートを作り、市民に配布する自治体も増えつつある。自分や家族の最期と向き合う作業はもちろん、終末期の選択肢を増やす地域づくりも求められている。（井上真由美）

西日本新聞・朝刊  
2018年12月17日（月）

## 終末期ケアに 患者の意思を

終末期にどのような医療やケアを受けるかを事前に家族や医師らと話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の普及を目指し、徳島市の県立中央病院が冊子『もしもの時のために』（A5判、14ページ）を作成した。冊子には、重い病気やけがで意思表示できなくなった場合に備



県立中央病院が作成したACPの冊子

## 県立中央病院が冊子 家族と医師 対話呼び掛け

え、本人に代わって治療やケアの方針を判断する「代理決定者」を決めて記載。代理決定者らと対話を重ね、延命治療の在り方や最期の時をどこで過ごしたか、といった希望を書き欄を設けた。

5千部作成し、来院者らに配布している。臨牀腫瘍科の寺嶋吉保部長は「代理決定者は本人のことを親身に考えてくれる人なら誰でもいい。自分らしい最期を迎えられるよう冊子を活用して十分話し合ってもらいたい」と話している。

厚生労働省は3月、終末期医療の治療方針に関する決定手順を定めた国の指針（ガイドライン）を改定。終末期医療やケアに患者本人の意思を尊重するため、ACPの考え方を初めて取り入れた。冊子に関する問い合わせは県立中央病院（電話088-6317151）。（萬木竜一郎）

徳島新聞・朝刊  
2018年12月7日（金）

# 在宅の看取りを考える

新潟で臨床研究会

「第42回日本死の臨床研究会年次大会」が8、9の両日、新潟市中央区の朱鷺メッセで開かれた。「ひらかれた看取りをすべての人と〜『いのち』と『死』を見つめて〜」をテーマに、全国の医療関係者ら約3千人が参加。超高齢化社会の中で、今後増加する在宅での看取りのあり方、死とどう向きあっていくかなどについて考えた。講演やミュージカルなど、多彩なプログラムの一部を紹介する。

## 地域ケア、最期まで

### 死生観見つめる機会に

対談

「ひらかれた看取りに  
よせて」と題した対談で  
は、長岡西病院（長岡市）  
の緩和ケア病棟「ビハー  
ラ病棟」の開設に関わっ  
た淑徳大アジア国際社会  
福祉研究所の田宮仁顧問  
と、淀川キリスト教病院  
の柏木哲夫相談役が、在  
宅での看取りの課題など  
について語り合った。

柏木相談役は、近年在  
宅で死亡する人の割合に  
あまり変化がなく、ニー  
ズは多いものの自宅での  
看取りが広がっていない  
現状を解説。「地域や在宅  
でのケアが叫ばれている

「地域にひらかれた看  
取り」をテーマにしたシ  
ンポジウムでは、医師や  
大学准教授が、在宅で安  
心して看取りができる取  
り組み事例などを紹介し  
た。

## 市民の意識変革を

医療、福祉と情報共有

新潟市中央区の在宅療  
養支援診療所「ひろさわ  
内科医院」の広沢利幸院  
長は、「住み慣れた地域  
で最期まで過ごすため  
は、市民の意識を変えて  
いく必要がある」と強調。

新潟市立小出病院の布  
施克也院長は、訪問診療  
に携わる医師が連携し主  
治医が不在の場合、別の  
医師が対応する「うおぬ  
ま看取り隊」の取り組み  
を挙げ、「主治医だけで  
はカバーするのは難し  
い。医療の提供体制を継  
続していかなくてはなら  
ない」と述べた。

信州大医学部保健学科  
の山崎浩司准教授は、看  
取りや死別を支える長野  
県の市民団体の活動を紹  
介。死別の向き合い方に  
ついてまとめた冊子を作  
成する取り組みを報告  
し、「死別体験者、支援  
者ら多様な人材が関わる  
ことで、ネットワークを  
構築する足がかりになっ  
てきている」と現状を説  
いたと意義を語った。

KEIZOKU TOPICS

ターミナルケア・緩和ケア

新潟日報・朝刊  
2018年12月12日（水）

# 滑な社会復帰へ新拠点

## 指定入院医療機関 札幌に開設へ

重大事件を起こし、精神障害を理由に刑事責任を問われなかった人を治療する道内初の「指定入院医療機関」が2022年春にも札幌市内に開設される。大病院が運営する。現在、道内の対象者は本州などでの入院を余儀なくされており、札幌での開設後は地域でのスムーズな社会復帰が期待される。一方、周辺住民には入院者の逃走などを不安視する声がある上、長期入院の解消に向けた取り組みが不十分との指摘も根強い。



## 地域の施設と連携も 「長期化」解消へ

**院医療機関** 2005年7月施行の医療観察法に基づき殺人や放火、強盗などの重大犯罪を起こし、心神を理由に不起訴処分、または無罪となった人に対するための治療を行う。運営は国からの指定を受けた立病院が担い、現在は東北以南に33施設（計833は裁判所が決定し、半年ごとに入院継続か退院か院後は民間などの指定通院医療機関での治療に移般の精神科治療に移る。同法施行以前は精神保健でいたが、治療に関する統一した指針がなく、地域に差が生じるなどの問題があった。

「全国に先駆け取り組んで地域医療に貢献したい」。北大病院の宝金清博院長は10月に開いた会見で強調した。23床の施設は、札幌刑務所などがある札幌市東区の国有地に建設する。

### 平均約2年半

道内では、今年4月までに裁判所の入院決定を受けた157人全員が道外で入院した。関東を中心に鹿児島や沖縄の施設に入った人もいる。家族や支援者の面

「全国に先駆け取り組んで地域医療に貢献したい」。北大病院の宝金清博院長は10月に開いた会見で強調した。23床の施設は、札幌刑務所などがある札幌市東区の国有地に建設する。

道元で入院できる利点として、厚生労働省医療観察法医療体制整備推進室の田中央吾室長は「社会復帰に向けた準備がしやすく、入院日数の短縮につながる」と指摘する。入院日数は国の指針で1年半としているが、実際には平均約2年半に及ぶ。

長期化の背景には退院後の生活環境を整える難しさがある。地元に戻る人が大半のため、入院中から家族の他、退院後の受け入れ先となる福祉施設や精神科病

場合、地元で指定入院医療機関がある人と比べ、入院が数カ月長引く傾向があるという。

生活環境の調整を担う札幌保護観察所社会復帰調整室の堀和徳室長は「地元で入院すれば、受け入れ先の福祉施設などに治療経過を定期的に見てもらうことができ、円滑な社会復帰につながる」と期待する。

**大学病院運営**

大学病院による運営も注

目だ。精神鑑定や自立の支援など、罪を犯した精神障害者の処遇にまつわる司法精神医学は、法律や社会福祉など幅広い分野の人材が必要だが、全国的に専門家が少なく、同病院精神科神経科長の久住一郎教授は「新たな治療法の研究に力を入れるとともに、総合大学の特色を生かして医学部以外の学部にも研修などで活用してもらい、人材を育てたい」と話す。

**住民に不安感**

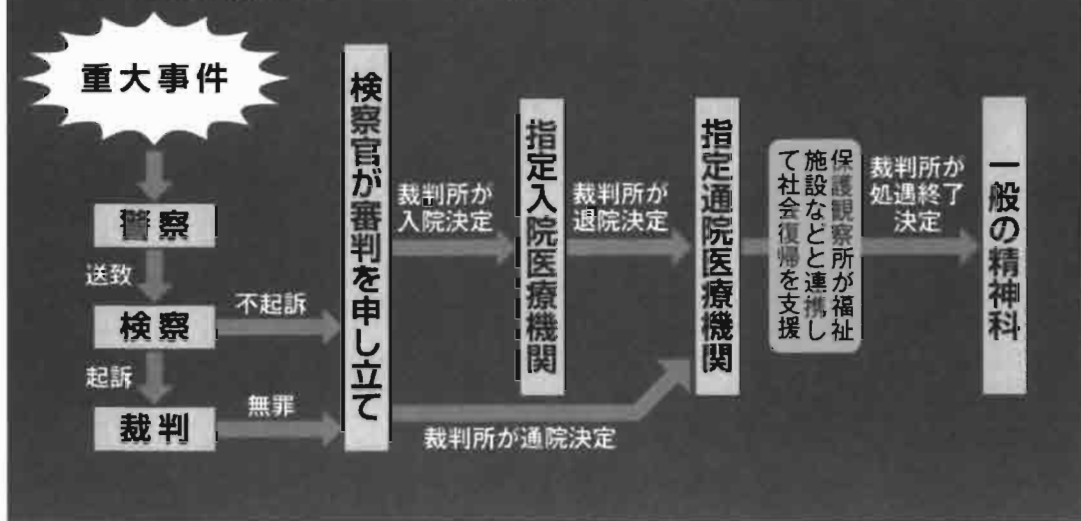
だ。今後の説明会の開催は未定。町内会役員の男性は「近くには小学校があり、不安を抱く保護者もいる。住民の安全安心をどう守るのか、説明を尽くすべきだ」と求める。

医療観察法は立法当初から議論を呼んできた。制定の契機は01年の大阪・池田小事件だ。児童を殺傷した男が過去に別の事件で精神障害を理由に不起訴処分となっていたことが分かり、司法と医療の連携の乏しさに批判が集まった。「再犯の恐れを根拠に長期拘束される可能性がある」などと専門家などから異論が相次いだ。与党は03年に法案を強行採決した。

制度開始から13年たつが、厚労省は「これまでは施設整備が施策の中心だった」とし、国の指針を超える長期入院の是非など、制度の本格的な検証には着手できていないという。制度に詳しい北潟谷仁弁護士（小樽）は「長期入院の解決のためには早期に地域医

# 円

## 医療観察法における入院から社会復帰までの流れ



**指定入** 指定入  
**く施設。** く施設。  
喪失・耗弱状態 喪失・耗弱状態  
象に社会復帰の 象に社会復帰の  
国立、都道府県 国立、都道府県  
床) ある。入院 床) ある。入院  
を判断する。退 を判断する。退  
行し、さらに一 行し、さらに一  
福祉法で対応し 福祉法で対応し  
域によって入院 域によって入院

# 先進施設、チーム医療手厚く

会が困難になるとして、北  
海道弁護士会連合会は14  
年、早期開設を求める決議  
を国に提出するなどしてい

院と連携して支援態勢を固  
める必要がある。しかし、  
入院先が遠方だと打ち合わ  
せなどの機会が限られる。  
札幌市東区で開いた住民説  
明会では、入院者の逃走な  
どへの懸念の声が相次い  
た。  
象者が本州などで入院する  
どへの懸念の声が相次い

施設ではどのような治療が行  
われているのか。国内初の指  
定入院医療機関として2005  
年から患者を受け入れる国立研  
究開発法人「国立精神・神経医  
療研究センター」（東京都小平  
市）は国内最大の68床を構える。  
今年11月までの延べ入院者数は  
402人。うち57人は道内の裁  
判所で入院決定を受け、現在は  
9人が入院している。

## 国立精神・神経医療研究センター

分け、事件に至るまでの自身の  
生活を振り返る内省プログラム  
や作業療法などの治療を受け  
る。

を月1回開き、治療経過など情  
報の共有を図っている。  
受け入れ当初は地域住民から  
反対の声も出た。入院者が外泊  
訓練中に一時連絡が取れなくな  
ったこともあったが、こうした  
問題は全て地域に報告。防止策  
を示し意見交換を重ね、理解が  
広がったという。医療観察法病  
棟部長の平林直次医師は「こう  
した施設があることが、障害者  
を理解し共存する社会をつくる  
きっかけになっている」と話す。

(松下文音)

特徴は手厚いチーム医療だ。  
対象者1人に看護師2人と臨床  
心理技術者、作業療法士、精神  
保健福祉士ら計7人がつき、日  
々の治療経過を確認する。  
国の指針の入院期間の1年半  
を急性期(3カ月)、回復期(9  
カ月)、社会復帰期(6カ月)に

治療の難しさ以外に、入院の  
長期化の一因は社会復帰期にあ  
るといふ。退院後の通院先や受  
け入れ施設との調整に手間取  
り、多くが1年を超える。その  
ため、同センターは関東近郊の  
指定通院医療機関と連絡協議会

# 退院後の通院先と情報共有

北海道新聞・朝刊  
2018年12月30日(日)

# 「刑罰でなく治療の場」

## 大村・医療観察法病棟 ルポ

県精神医療センター（大村市西部町）の「医療観察法病棟」ができて今年で10年。殺人や放火など重大事件を起こしたものの、罪に問われなかった精神障害者を治療する施設だ。この10年で93人が入院し、77人が退院した。ただ、事件を起こした精神障害者への偏見は根深く、社会復帰への道のりは平たんではない。

（報道部・北川亮）

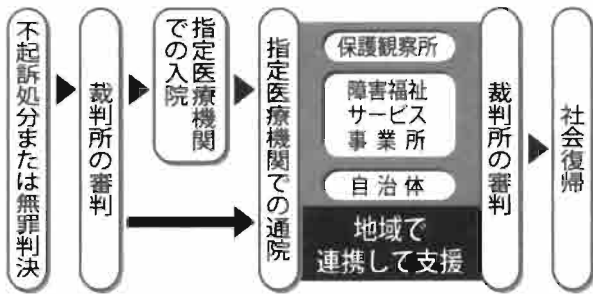
### ■県内外93人

11月中旬。病棟内での取材が許可された。記者が病棟内に入るのは開棟以降、初めてという。病棟内のホールでは、数人の患者が談笑したり読書をしたりしていた。アットホームな雰囲気。表情は柔らかく、罪を犯した人たちには見えな

い。どの患者の周囲にも看護師が付き添っている。「患者のささいな変化も見逃さないよう表情や

行動をさりげなくチェックし、治療につなげている。ここは刑罰を与える場ではなく、あくまで治療の場です」。案内役の松尾洋一看護師長が説明した。

同病棟は2005年7月に施行された心神喪失者等医療観察法に基づき、県が08年4月に開設した。入院治療の対象は、重大事件を起こしながらも心神喪失や心神耗弱で不起訴、あるいは無罪となった精神障害者。裁判官と精神科医による審判



医療観察制度の主な流れ

で治療の期間や開始・終了などを決める。同センターによると、病棟は定数17床。開設以降、県内外の93人（男66、女27）が入院。77人（男54、女23）が退院した。

現在の入院患者の平均年齢48・2歳。犯した罪は傷害が最多。症状は統合失調症が7割を占める。「退院者の中で再び罪を犯して再入院となったケースは聞いていない」という。

### ■入院長期化

医師、看護師、臨床心理士らが通常の病院より手厚い体制で、患者の状態に応じて薬物療法や治療プログラムなどを実施している。入院期間は原則1年半だが、最近では延びる傾向にある。現在の最長は高齢男性で、5年以上に及ぶ。

安藤幸宏医長は「この男性は当初、治療を拒否し、職員と信頼関係を築くまでに3、4年かかった。患者と職員との間に信頼関係がないと治療は成立しない」と話す。「それ」と医長は意外なことを言った。

### ■偏見や誤解

通常の刑事裁判の場合、被告が罪を償った後、家族が更生を支えるケースが多い。だが、同病棟の患者は必ずしもそれが

当てはまらない。患者が起こした殺人、傷害などの事件の被害者は家族であるケースがほとんどだからだ。

## 触法精神障害者と信頼関係

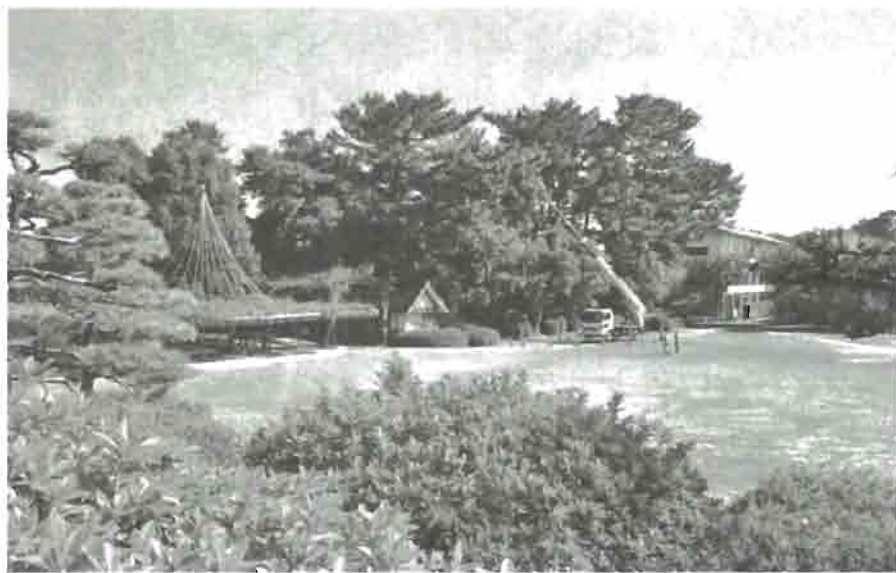
退院後の受け皿として地域の福祉施設などになくにしても、偏見や誤解から拒否されることもある。長崎保護観察所の永富康博統括社会復帰調整官は「患者は、孤立や医療の中断から不幸にも事件を起こしてしまっただけが多い。制度の普及・啓発に一層努めたい」と話す。病棟内のホールを見学していると、患者の一人が笑顔で話し掛けてきた。うまく意思疎通ができず戸惑っていると、やがて、部屋に戻っていった。彼らは果たして「病」がなければ、事件を起こしていなかったのだろうか。

「事件は起きなかった、私はそう思います」。安藤医長は言った。

長崎新聞・朝刊  
2018年12月29日（土）

# 福間病院に「緑の都市賞」

## 江戸時代からの松林保全



病院の広々とした庭に残る松林。自然林の風合を損なわないように手入れをしているという

松林に囲まれた自然の中で自由開放療法を行う精神科「福間病院」（福津市花見が浜）が、「第38回緑の都市賞」国土交通大臣賞に選ばれ、11月に都内で表彰式があった。江戸時代に整えられ、戦前には炭鉱王の別邸となり、終戦直後は米軍将校クラブとして利用されてきた松林の地。時代の変遷を見守り続け、今は病と向き合う患者を包み込んでいる。  
（今井知可子）

## 3万坪に850本 治療にも一役

福間病院には3万坪の敷地を囲むように約850本の松がある。高さ30メートルを超す木もあり、松の遺伝子を残すため次世代の育苗もしている。

一帯の松林は、初代筑前藩主の黒田長政が命じ現在の新宮町から古賀市、福津市まで玄界灘沿岸に植樹させたと伝わる。防風防潮の役割のみならず、住民は燃料として松葉を集め、漁師は海上から特徴のある松を目印に網を入れた。

大正時代、筑豊の炭鉱王・堀三太郎がこの地に別荘を建て、松林の風景を庭園や散歩道としてめでたと伝わる。さらに時代が下り、終戦直後になると別荘は米軍に接収され進駐軍将校が入り込むようになったが、松林と純和風の建築物は保たれてきた。

1953年に将校クラブが解散。55（昭和30）年、精神科医の佐々木勇之進さん（1925～2006）がこの地に病院を開いた。

開院当時は、高さ40メートルにもなろうかという大松があったという。漁師が海上から戻るための目印にしていた一本だったが、雷に打たれ折れてしまった。「この一帯の主のような木だったので、神職を呼んでおはらいをしてもらったことを覚えていま

す」。佐々木さんの妻で現在は病院運営法人の専務理事を務める好子さん（85）はこう振り返る。

「一木一草たりといえども、これごとごとく、治療の道具である」。中庭に立つ石碑には、佐々木さんの医療者としての信念が刻まれている。閉鎖空間での治療が当たり前とされていた精神疾患。だが、緑あふれる敷地に可能性を感じて、医療者が常に患者を見守る形で開放療法に挑んだ。堀の元別荘の座敷に患者と医療者が一緒に住み、早寝早起きの生活リズムと心身を整えていった。

松林に抱かれた広々とした庭で患者が散歩を楽しみ、職員が病棟から病棟へと行き交う。松の枝に異常があると、誰かがすぐに気づいてくれる。好子さんは「受け継ぎ、守ってきた松林の風景が評価されたことは、本当にうれしいです」と話した。

KEIZOKU TOPICS

精神医療

西日本新聞・朝刊  
2018年12月15日（土）

# 救急車出動 最多更新へ

## 大阪市、前年比1万件増

「タクシー代わりに救急車を呼ぶ」などと悪評の高い大阪市で、今年の救急車の出動件数が前年を1万件以上も上回り、過去最高を更新する見通しであることが22日、同市消防局への取材で分かった。記録的な酷暑に地震、台風などの災害が積み重なったためとみられ、7月には、一時的ながら全救急車の93%が出動状態だった日も。市消防局は「本当に搬送が必要な人を速やかに運ぶため」と救急車の適正利用を呼びかけている。

(木ノ下めぐみ)

### 7月の猛暑日 93%稼働

市消防局によると、平成30年の救急車の出動件数は、11月末時点で22万1330件(速報値)。前年同

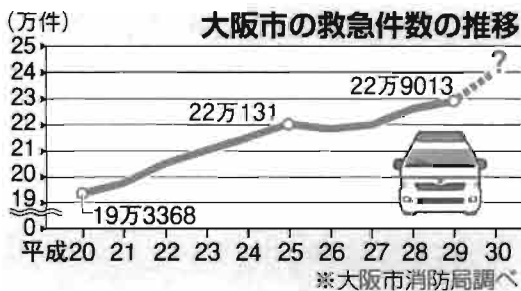
間では、更新は確実。さらに「昨年までは、年々2千件程度の増加だったが、大幅に増える」(市消防局救急課)見通した。

「もともと高齢者の増加にともない、年々、救急要請や搬送者は増加するとみている」(同課)が、前年と最も差が大きかった今年7月は、1カ月だけで3500件も増えていた。「特に今年は猛暑だったため、高齢者を中心に、救急車を呼んだ人が多かったと考えられる」(同課) 加えて今年は大坂北部地

震(6月)や台風21号(9月)など、規模の大きな災害がたびたび大阪を直撃したことも救急車の出動件数を増やしたとみられる。

救急車の稼働が、最も「危機的」な状況となったのが7月23日。埼玉県熊谷市で史上最高の気温41.1度を記録した日で、大阪市内でも、最高気温37.2度の猛暑日だった。熱中症を訴える救急要請が相次ぎ、午前10時半ごろと午後4時ごろの2度、市内に63台ある救急車のうち59台(93.7%)が出動状

大阪市の救急件数の推移



態となった。

「半数の救急車が出動した日は『多い』と思う」(救急課担当者)。ところが、「これまでに見たことのないほどの出動数。とにかく対応できない状況にならないよう苦心した」(同)。現場から現場へ「はしご」出動させるなどして何とか乗り切った。この日1日だけで、計8

43人を搬送。救急課の担当者は「常に救急要請の傾向や救急車の動態管理を行い、増加が見込まれる場合は現場からの速やかな引き揚げを呼びかけるなどして非常時に対応していきたい」と話す。

市消防局は、119番する前に、市民からの医療相談などを受け付ける「救急安心センターおおさか」(電話番号#71119)の利用を呼びかけるなどしており、救急課は「救急車は、要請されれば出動する。『呼ばないでほしい』といっているのではなく、本当に救急車を必要とする人を速やかに搬送するために、適正な利用に努めてほしい」としている。

産経(大阪・夕刊)  
2018年12月22日(土)



# 搬送時の患者動画、検査結果

# 5Gで救命率アップ

## 救急車から医師に送信

### 前橋市が社会実験

救急搬送する患者の救命率アップに向け、前橋市などは次世代移動通信「5G」を活用した動画や画像の共有システムの社会実験を2月に実施する。救急車内で撮影した患者の動画や検査結果を病院やドクターカーと共有し、医師が救急隊員に指示したり、受け入れ病院に準備を促したりできるようにする。5Gのサービスは来年にも本格的に始まる見通しで、市は実験結果を踏まえ、システム導入を検討する方針だ。

市消防局の救急車が移動しながら4K動画や検査機器の情報を前橋赤十字病院とドクターカーに送信する。5G基地局や端末はNTTドコモから提供を受け

る。市によると、救急搬送中に撮影した患者の画像を病院に送ることがあるが、現

在の4Gでは高精細画像をリアルタイムで共有するのは難しい。救急車内で検査した心電図やエコーなどの情報も詳細を読み取れないため、病院で改めてデータを取り直すことが多いという。

5Gを活用すれば、移動中の救急車から鮮明な4K

動画や検査機器情報をまとめて病院やドクターカーに送信できる。例えば指の切断面の高精細画像を共有すれば、医師が救急隊員に再接着のための適切な処置をアドバイスし、病院は必要な準備に取りかかれる。

119番通報から収容までの救急搬送時間の短縮には限界があるが、搬送中の時間を有効活用することで、患者が適切な処置を受けるまでの時間の大幅な短縮につながり、救命率向上が期待できるという。

患者のマイナンバーカードを使って緊急連絡先や既往症、アレルギー、かかりつけ医といった情報を引き

出し、共有する仕組みの実験もする。前橋工大の松本浩樹准教授が研究しているシステムを活用する。患者に意識がないケースでも適切な処置を施せるようになる」と期待される。

市は「高速・大容量、低遅延、多接続という5Gの特長を生かし、救命率の向上につなげたい」（情報政策課）としている。

上毛新聞・朝刊  
2018年12月29日(土)

### 記者の目

曾於支局・三宅太郎

先月3日、弥五郎どん祭りの取材を終えて支局に戻った後、右脇腹付近を経験したことのない痛みが襲った。単身赴任で家族は鹿児島市。119番まではできたが、その後にはしゃべることもままならなくなった。

救急車の中でも七転八倒の苦しみは続く。激痛に耐える時間の何と長かったことか。搬送先の曾於医師会立病院で尿管結石の診断を受け、鎮痛剤を処方してもらってようやく落ち着いた。後日、消防に確認したところ、通報から病院到着まで42分かかっていた。

だが、これは迅速な部類に入ららしい。大隅曾於地区消防組合によると、管内(曾於市、志布志市、大崎町)の平均時

### 救急患者になってみて

間は50分。全国や県の平均と比べ、10分以上長い。対応できる病院が少なく、約半数の患者が管外に搬送されているためだという。

その曾於市に來夏、救急診療所が開院する。昨年12月の市議会でも取り上げられ、五位塚剛市長は「市民にとって安心感が得られる」と期待感を示した。救急搬送を経験した今、答弁の意味は身にしみて分かる。

一方で市長は「緊急性の低い患者が利用する」コンビニ受診が増えることが懸念されるとも述べている。救急拠点は人の命を救う場所だ。急病やけがに苦しむ人が1分でも早くたどり着けるよう、一人一人が心しておかなければならない。

南日本新聞・朝刊  
2018年12月9日(日)

KEIZOKU TOPICS 救急医療

## がん探知犬事業終了

金山町 提携先医師退職 3年計画、2年で

金山町が2017年度から3カ年計画で実施している「がん探知犬」を用いたがん検診事業が、本年度で終了することが分かった。町と提携を結ぶ千葉県内の病院の担当医師が年度末で退職することになり、研究継続が困難となったことが理由。

検査は訓練を受けた探知犬が、人のがんが発する臭いを検体（尿）からかき分けて識別する手法で、町の特定健診などを受ける40歳以上の住民のうち、同意した人を対象としている。町は毎年約1千万円の予算を組み、日本医科大学千葉北総病院（千葉県印西市）と単年度契約を結んでいた。全国的にも珍しい手法で注目を集めていたが、中心となっていた同病院の医師が来年3月末で退職する

山形新聞・朝刊  
2018年12月6日（木）

デイサービスのオール・ウェイ（石川県野々市市）が昨年金沢市に開設した「金沢脳梗塞リハビリステーション」は、脳梗塞や脳出血などの後遺症に特化したリハビリ施設だ。面談を通して患者の症状や目標を共有し、鍼灸（しんきゅう）と運動療法を組み合わせたマンツーマンの個別プログラムを策定。時間に制限がある保険治療では十分

### 医療・介護 最前線

な成果が出なかった「リハビリ難民」を救う。

「足の力を抜いて！」「足の力を抜いて！」理学療法士の言葉が響く。施術を受けている76歳の男性は補助を受けながら、足を前に出すが力はなかなか抜けない。30分歩行の練習を繰り返して、ようやく足から力みが抜けてきた。「先生の『ゆったり大きく』という言葉が

## 金沢脳梗塞リハビリステーション（金沢市）

良かったよ」。男性から笑みがこぼれた。

男性は今年5月に脳梗塞になり、左半身にまひが残った。当時は床から自力で立ち上がることができず、腕が上がらないためドライヤーがかけられないなど日常生活で様々な不便が生じていた。病院のリハビリ施設は満室で、奥さんに付き添われながら片道1時間かけて金沢脳梗塞リハビリステーションに通い始めた。リハビリ開始から1

【施設概要】

所在地 金沢市増泉4の4の25  
 電話番号 076・294・0822  
 設立年 2017年  
 設定人数 1回あたり1人、1日8人まで  
 提供内容 脳梗塞の後遺症や個人の目標に合わせたリハビリプログラムを提供

カ月でこたつで座って食事ができ、真つすぐに足が出るようになり、歩ける距離が増えるまでに改善したという。

施設管理者の袴田裕洋氏は「個人の目標に沿った専用プログラムを作り、確実に結果にコミットする」と施設の意義を強調する。

脳梗塞は損傷した脳細胞の場所によって一人ひとりの症状が異なる。「仕事に復帰したい」「自然に歩きたい」など、患者の目標をセラピストが聞き取ったうえで、「脳リハ式活脳プログラム」と呼ぶ全16回のリハビリプ

## 個別に回復目標 達成を支援

め、リハビリには体を緩めるための鍼灸治療も組み合わせる。

鍼灸による刺激で患者の筋肉を動きやすくしてから、運動療法に入ることで効果を高める。理学療法士と連携し、動きの硬さが取れなければ、運動療法中に鍼灸を行う場合もある。

完全予約制で1日最大8人まで受け付けており、費用は全16回で約30万円。同サービスは健康保険や介護保険が適用されない自由診療で、患者が費用を全額負担することになる。脳梗塞の後遺症に苦しむ患者らの「保険の範囲ではリハビリの時間や量が不十分」とする声に応える。

今後、高齢化の進行によって脳梗塞などの患者は増加する。保険ではケアしきれない人の受け皿として事業を展開する。（金沢支局 毛芝雄己）

日経産業新聞・朝刊  
2018年12月6日（木）

# 手応えと苦悶と

## 交通事故で重度脳障害 専門病床

交通事故による脳損傷で最重度の障害を負った患者を治療するため、国土交通省所管の独立行政法人・自動車事故対策機構が今年1月、藤田医科大学病院（愛知県豊明市）に開設した専門病床が注目を集めている。機構の専門病床としては全国9カ所目だが、事故直後から患者を受け入れ、治療やリハビリを一貫して行う初の施設。ただ、わずか5床のため早くも満床となり、新規患者の受け入れが課題となっている。

【江刺正嘉】

10月中旬、同大病院の専門病床ですぐにリハビリ専門病床のフロア。中学1年の男子生徒（仮）が理学療法士を支えに立つ訓練をしていた。生徒は6月下旬、愛知県内で自転車に乗っていた乗用車と衝突、意識不明の重体になった。搬送先の救急病院の紹介で7月上旬に同大病院に転院。集中治療室（ICU）などで治療を受け、同下旬に専門病床に入る事ができた。頭部以外に負傷はなく、

### 早期治療、リハビリで回復

損害賠償責任（自賠責）保険の過去の保険料運用益を活用し、寝たきりで意思疎通も困難な「遷延性意識障害」と呼ばれる最重度の患者が手厚い治療やリハビリを最長3年間受けられる。機構はこれまで「療養センター」（50〜80床）4カ所と、一般病院に委託してセンターに準じた治療を行う「委託病床」（12〜20床）4カ所を運営。計8施設に入院した患者の26%が遷延性意識障害を「脱却」したとされる。

機構によると、専門病床に入るまでの期間が短いほど治療効果が高い傾向がある。そのため、同大病院の専門病床は早期受け入れの効果を臨床的に実証しようとして、入院までの期間を短縮。事故から1カ月以内に受け

### わずか5床 受け入れ困難

入れて治療をした後、併設の専門病床でリハビリまで一貫して行う。患者が複数の病院で治療を受け、1年近くしてから専門病床に入る従来の流れとは異なる。

同大病院の専門病床は9月上旬で5床が満床になった。入院した時期が早かった患者3人は「脱却」レベルではないものの、簡単な意思疎通ができるほどに回復し、森田教授も早期受け入れに手応えを感じている。だが、機構の予算上の制約で5床になったため、既に満床を理由に入院を断ったケースがあり、新規患者の希望に心えることができないのが苦しいという。

森田教授は危機感を募らせる。「入院を断り続けられ、機構も病院も信頼を失う。国は交通事故による重度後遺障害の深刻さと、専門病床の社会的意義を考慮し、増床の予算を確保してほしい」

### 自賠責の返還 今年度23億円

救命医療の進歩で、交通事故死者は減っているが、重い後遺症を抱える患者は毎年新た

に1700人程度が認められており、横ばい傾向が続いている。自賠責保険の運用益を活用する機構は来年1月、病床を絞った小規模委託病床（5床）

の第1号を石川県に開設し、専門病床は10カ所計300床になる。しかし、専門病床の運営など被害者救済事業の財源として国の特別会計（特会）に計上さ

れていた自賠責保険料の運用益約6100億円が財政難を理由に1年ぶりに返還を再開。2018年度に約23億円の貸し出されたままになっている。交円を特会に戻す。交通事故被害者団体などが全額返還を求め、財減りは続いており、18年度末には約1700億円にまで減少する見通しだ。被害者は「専門病院の運営など救済事業が後退する」として19年度は返還額を増やすように訴えている。

毎日（東京）・朝刊 2018年12月5日（水）

## 行動範囲拡大に効果

高齢者らに運動習慣を身に付けてもらうため、甲賀市は、一日の活動を書き込み、振り返ることができる冊子「甲賀流忍法くらしのリハビリノート」を作った。市内の地域包括支援センターや病院など7カ所で配っており、自分で記録し、読み返すことが運動しようという動機付けになると期待する。

### 市、ノート無料配布

ノートはA5判38ページ。目指す自分の姿や目標を記入する欄と、1年間分の月単位のカレンダーを掲載。利用者、カレンダーに一日の活動を記録し、○、△、×で自己評価した上で、月ごとにその数を集計する。市によると、このような冊子は県内初という。

市は「リハビリは専門職にやってもらうというイメージを改めるため」（健康医療政策課）、2014年に作成に着手。15年から市

内の高齢者健康教室やリハビリ施設で計30人に使ってもらい、行動範囲が広がる効果があったとして、今年7月に無料配布を始めた。同課は「ノートに記入することで運動を意識するようになったという声も聞いた。高齢者以外にも健康作りを活用してほしい」と話す。

(門田俊宏)

京都(滋賀)・朝刊

2018年12月30日(日)

## A I 使い心臓疾患解析 検査減、患者の負担軽く

### 済生会熊本病院 国内初

済生会熊本病院(熊本市南区)は25日から、心臓の冠動脈を人工知能(AI)を使って解析し、狭心症や心筋梗塞の診断に使う診療を始めた。12月に健康保険が適用され、国内では初の実施。従来必要だったカテーテル(細い管)や放射性物質を使った検査をせずに診断できる患者が増えるという。

米国のAIを使う「FFRCT」と呼ばれる技術。狭心症や心筋梗塞の可能性がある、比較的状态が安定した患者が対象となる。冠動脈のCT(コンピュータ断層撮影装置)で撮った血管の画像を米国に送信。AIが最短5時間で血流や酸素の量を解析し、治療が必要かどうかを色と数値で示す。従来はCT画像を見て、さらに血管にカテーテルを入れる再検査などが必要だった。同病院も参加した治験では、カテーテル検査の6割が不要と判断されたという。

検査による血管損傷のおそれもなく、一部の患者に必要だった検査入院も不要。坂本知浩循環器内科部長は「患者さんの体に優しく、年間300〜500件の検査が不要になる可能性がある」と話している。

(林田賢一郎)

熊本日日新聞・朝刊

2018年12月29日(土)

# リハビリ効果 薬で高めめる

## 富士フィルムHD

富士フィルムホールディングス（HD）は脳卒中によるマヒのリハビリテーション効果を高める薬の開発に乗り出す。アルツハイマー病治療薬として開発中の化合物を使う。神経伝達を活性化する働きがあるとみられ、動物実験で運動機能の回復を促す効果を確認した。2019年初めに国内で臨床試験（治験）を始め、22年ごろの承認申請を目指す。

傘下の富士フィルム富うまく話せなくなったり山化学が創製した「エド」することが多い。ネルピック・マレアート」脳卒中の治療は発症直後、脳卒中は血管が詰ま後、およそ1カ月以内のことでブドウ糖や酸素術や薬物治療を施したことが届かずに脳細胞が死ぬ後、運動機能を回復させる「脳梗塞」や、血管が破るためにリハビリを実施される「頭蓋内出血」がある。リハビリで外部から刺激を与えると、脳の神経細胞で神経伝達物質を受け取る「AMPA受容体」が増加。脳内の情報処理がスムーズになり、手足にマヒが生じたり、

## アルツハイマー薬候補活用 神経伝達を活性化

傷ついた機能を補うと考えられる。ただこれまでリハビリ効果を高める薬はほとんどなかった。エドネルピック・マレアートはAMPA受容体の活性化を促す働きがある。横浜国立大学の高橋塚哉教授らの

共同研究で実施した動物実験で、リハビリによる運動機能の回復効果が改善することがわかった。脳の一部を損傷させたマウスに対し、エドネルピック・マレアートを投与しながら隙間から前脚を伸ばしてエサを取る課題を与えたと、損傷から約50日で損傷前と同様に動けるようになった。

エドネルピック・マレアートを投与してリハビリをしなかったマウスや、水を飲ませたマウスでは効果を確認できなかった。細かい動作を評価するため、人間のようにつまめるカニクイザでも実験した。脳出血

後にエドネルピック・マレアートを投与し、指一本程度が入る隙間がある筒からエサを落とさずに取り出す訓練を実施したところ、約35日で出血前水準に回復した。

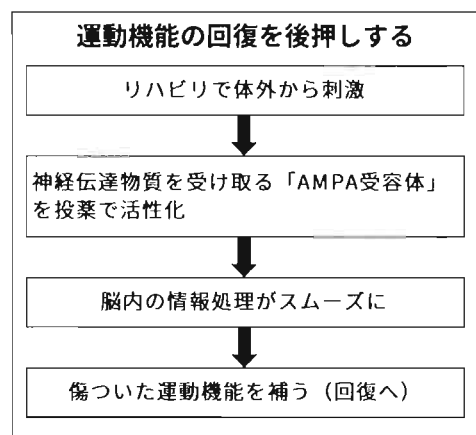
リハビリは発症から時間がたつと効果が得にくくなる。治験は急性期後の「回復期」の患者を対象とする。国内で良好な結果が得られれば海外展開も検討する。

エドネルピック・マレアートは「T-817MA」の開発名でアルツハイマー病治療薬としても実用化を狙っており、こちらの開発も加速する。2019年春には欧州でアル

ツハイマー病の発症を遅らせる薬の臨床試験（治験）を始める。原因たんぱく質「タウ」の減少を狙い、23年ごろの承認申請を目指す。

アルツハイマー病は原因物質が脳にたまって神経細胞が死ぬ病気で、認知機能が低下してアルツハイマー病と診断される前に「軽度認知障害（MCI）」と呼ばれる段階がある。今回の治験はこの患者を対象にする。T-817MAは別の原因物質「アミロイドベータ」を減らす可能性があるという。動物実験で分かった。脳内の免疫細胞が原因物質を食べているとみ

られ、ヒト由来のiPS細胞を使った実験でも同様の効果がみられた。T-817MAはアルツハイマー病治療薬として治験を始め、米国で中間段階の第2相治験まで進んだが主要な評価項目を達成できなかった。ただタウが減ったことと、発症から2〜3年の患者では認知機能の低下抑制を示したことから、発症を遅らせるのに有効と判断した。



医薬品の研究開発を強化する（神奈川県開成町の先進研究所）

日経産業新聞・朝刊  
2018年12月12日（水）

エドネルピック・マレアートは他の脳神経が関連する病気にも効果をもたらす可能性があるという。アルツハイマー病やパーキンソン病など神経系の病気は有効な治療法が確立されていない、アンメット・メディカル・ニーズ（まだ満たされていない患者ニーズ）が高い領域だ。富士フィルムHDは研究成果をみながら他の疾患への適用も検討していく。（秦野貴）

KEIZOKU TOPICS

医薬品

# インフル新薬で撃退

インフルエンザが本格的な流行期を迎えている。厚生労働省によると、23日までの1週間の患者数は全国で推計31万3000人。正月休み明けに会社や学校が再開すると、さらに感染者が増える恐れがある。そんな中、今季は利便性の高い新薬「ゾフルーザ」が登場し、治療薬の選択肢が広がっている。

## 初の錠剤、服用1回 データ蓄積が課題

インフルエンザ治療薬は主に4種類あるが、今年3月に発売されたゾフルーザは初の錠剤で、服用はわずか1回。製造元の塩野義

製薬（大阪市）によると、4〜9月の売り上げはインフルエンザ薬の65%を占め、注目の

高さがうかがえる。従来の治療薬はウイルスが細胞の外に広がるのを抑えるが、ゾフルーザは細胞内でウイ

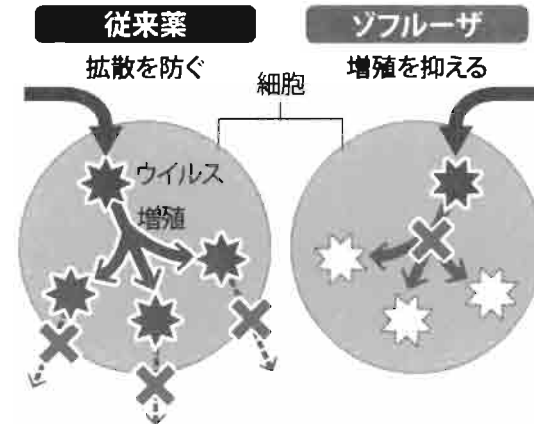
ルス自体の増殖を抑えるのが特徴だ。そのため、周りの人への感染をより抑えられる可能性があるという。

「ゾフルーザの使用はもっと広がるだろう」。ユアクリニックお茶の水（東京都千代田区）の杉原桂院長（小児科）はこう話す。仕事のある人は、服用が1回で済む薬を希望することが圧倒的に多

いという。従来は粉末を吸入するタイプもあるが、「ゾフルーザは錠剤なので服用しやすく、体内に取り込む確実性も高い」と話す。対象は体重10kg以上だが、錠剤を飲めない子どもなどは処方できないこともある。

ゾフルーザにタミフルと同程度の治療効果があることは、成人を対象とした国際共同試験で示されている。ただ、発売から日が浅くデータが少ない。そのため、日本小児科学会は今シーズンの治療指針で推奨していない。薬が効きにくい耐性ウイルスを懸念する専門家もいる。国際共同試験では、ゾフルーザ

インフルエンザ治療薬が作用する仕組み



主なインフルエンザ治療薬

名称	発売時期	服薬回数	薬価
リレンザ	2000年12月	1日2回、5日間	2942.0円
タミフル	01年 2月	1日2回、5日間	2720.0円
イナビル	10年10月	1回のみ	4279.8円
ゾフルーザ	18年 3月	1回のみ	4789.0円

※製薬会社の資料を基に作成。薬代は患者の自己負担割合によって異なる

【五味香織、高野聡】

毎日（東京・朝刊）  
2018年12月31日（月）

## がん治療薬 全臓器承認

キイトルーダ 既存治療効かない患者

免疫の働きを利用するMSD（東京）のがん治療薬「キイトルーダ」について、厚生労働省は、細胞が分裂

する際に遺伝情報の複製ミスが起きてがん化しやすくなる特徴を持ち、既存の治療では効果が無い患者な

ら、がんができた臓器を問わずに使うことを認めた。従来は胃や大腸など臓器ごとに製造販売が承認され、全臓器を一度に対象にするのは初。患者の遺伝的特徴に着目した治療法の開発が加速しそうだ。

キイトルーダは、今年のノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑・京都大特別教授の発見を基にした「オプジーボ」と同様に、免疫のブレーキを外してがんを攻撃させる薬。国内では昨年発売され、皮膚がん

や肺がんなどに使われてきた。今回は、遺伝情報の複製ミスを修復する機能が低下した「マイクロサテライト不安定性(MSI)」が高い頻度で起きている患者が対象。こうした異常は大腸

がん、胃がん、子宮頸がん、前立腺がんなどで患者の5〜10%に見つかるという。ただし血液がんは対象外とされた。（共同通信）

北海道新聞・朝刊  
2018年12月25日（火）

# ALS 別疾患薬で治験

## iPS使い 効果確認

iPS細胞（人工多能性幹細胞）を使って、全身の筋肉が衰える難病「筋萎縮性側索硬化症」（ALS）の治療効果が期待できる薬を見つけ、ALS患者に投与する臨床試験（治験）を、慶応大の研究チームが始める。ALS患者から作ったiPS細胞に他の疾患用の既存薬を加える実験で、効果が確認されたパーキンソン病の薬が投与される。既存薬を使うため、迅速な治療が期待できるといふ。

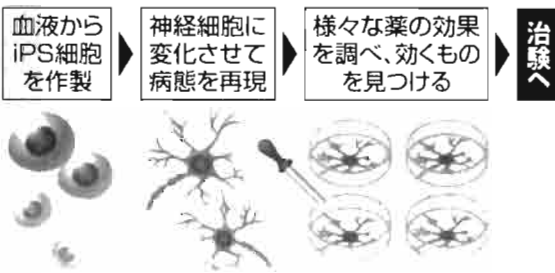
### 慶応大チーム

治験の対象は、ALS発症から5年以内の20〜80歳の20人。研究チームは3日から患者を募り、約1年半の間、安全性や効果などを確認する。ALSは、体を動かすための神経が壊れていく病気

筋萎縮性側索硬化症（ALS） 身体を動かすための神経が徐々に壊れ、全身の筋肉が萎縮する難病。病気が進行すると、呼吸も難しくなる。根本的な治療法はまだない。厚生労働省によると、国内の患者数は2017年度末で9636人。

め、主に病気の進行を遅らせる薬による治療が行われるが、薬の選択肢は少ない。慶応大の岡野栄之教授（生理学）らは、血縁者に患者がいる「家族性」のALS患者3人の血液からiPS細胞を作り、神経細胞に変化させて病態を再現。1232種類の既存薬と反応させて効果を調べた。その結果、全員の細胞で、パーキンソン病の治療薬として知られる錠剤「ロピニロール塩酸塩」に神経細胞

### ALSの治療を目指した慶応大の治験



の死滅を抑える効果があることが確認された。家族性以外のALS患者22人の細胞を使った実験でも、約7割の16人で効果が確認できた。岡野教授は「細胞段階では、既存のALS治療薬の2〜3倍の効果があつた」と話す。ALS患者らでつくる日本ALS協会の嶋守

患之會長(51)は「治験がうまくいき、症状の進行が抑えられて身体機能が少しで

### 臨床応用 迅速に

iPS細胞を使って治療薬を探したり作ったりする手法は、「iPS創薬」と呼ばれて注目されている。患者の細胞から作ったiPS細胞を使い、病気の原因となる細胞を再現すれば、動物実験より人への効果が予測しやすい。さらに今回の治験のように既存薬から候補を選べば、迅速に臨床応用につながる。動物実験で安全性を確認する作業が省ける場合もある。慶応大の研究チームは、細胞レベルで薬効を確認した論文の発表から3か月余で治験開始にこぎ着けた。

同様の手法では、筋肉が骨に変わる難病「進行性骨化性線維異形成症（FOP）」、難聴やめまいなどを起こす遺伝性疾患「ペン

も残ることに期待したい」とコメントしている。

既存薬とはいえ、新たな薬効が確認された薬が承認されるには、時間をかけて効果を厳密に調べる必要があるため製薬企業の協力が欠かせない。日本が世界をリードするiPS創薬を軌道に乗せるため、多額の資金がかかる治験に企業の協力を促す体制作りを急ぐべきだ。（科学部 石川千佳

読 売（東京・朝刊）  
2018年12月3日（月）

# 大分大医学部 創薬を目指す

## 化合物探索から臨床まで機能集積

大分大学医学部は医薬品開発の機能を集積する「クラスタ構想」を推進している。人に投与して効果を見る早期段階の臨床試験分野では先駆的な取り組みで知られており、臨床試験の前段となる新薬の化合物探索の部署を新たに設けた。地方でも最先端の研究ができる環境を整えることで特色を出し、創薬に強い人材の育成を図る。

大分医科大(当時)は1980年代に日本で初めて臨床薬理学講座を開設した。2008年には早期段階(フェーズ1)の臨床試験ができる設備を備えた総合臨床研究センターを設置し、製薬会社の依頼に基づき創薬支援の研究開発を続けてきた。17年4月に外

## 最先端の研究環境

医学研究所「エボメッド」と話している。(渡辺天祐)

部から専門の人材を招き、病気の原因物質に作用する有効物質を探索するための研究室を学内に開設した。19年度には臨床試験までの前段過程を統括する「ド

大分合同新聞・朝刊  
2018年12月19日(水)

# 肝炎などの 新薬開発へ

大分大学医学部が関わる創薬ベンチャー企業第3弾の「ARTham Therapeutics(アーサムセラピューティクス)」は本社・横浜市IIが、製薬大手・武田薬品工業の協力を得て新薬の開発を進めている。ライセ

アーサム社によると、医薬品開発の優先順位見直しに伴い、武田薬品が中断した研究プロジェクトに関連する特許の提供を受けた。大分大と共同で新薬開発を進める。上村教授は「大手製薬会社が開発成果を大学の研究に提供することは世界でも珍しい」と説

## 田の特許活用

駆的に臨床薬理学に取り組んでおり、関連設備など創薬支援の素地が整っていることから共同研究に至った。長袋COOと上村教授が米国の大手製薬会社と一緒に働き旧知の間柄だったこともあり話が進んだ。アーサム社は臨床試験で効

アーサム社には投資会社みやこキャピタル(京都府)を筆頭に武田薬品大分ベンチャーキャピタルなどが総額6億5千万円を出資。大分大医学部発の創薬ベンチャー企業は他に「大分大学先端医学研究所「エボメッド」(いずれも大分市)がある。治療薬開発などに取り組んでいる。

## チャーター第3弾



# 社説

国が新設した「地方大学・地域産業創生交付金」の配分先に選ばれた富山の医薬品振興の取り組みが動き出す。

受け皿となるのは、産学官の連携による「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム（共同事業体）だ。創薬研究などの分野で成果を上げて薬都の存在感を高め、一層の振興につなげてほしい。

共同事業体には県と富山大、県立大、県薬業連合会、県商工会議所連合会などが参加する。今年6月に発足した。

プロジェクト案によると、2027年度に県内の医薬品生産額1兆円の達成を目標にする。バイオ医薬品や製剤などを重点分野とし、世界のトップレベルの人材招聘や県内研究者の海

## 大分大の創薬ペン

ンス（特許）の一部の提供を受け、肝炎などの新薬作りに応用する。来年1月からは大分大で、人に投与して効果をみる早期段階の臨床試験を始める。

アーサム社は今年7月に設立。武田薬品にいた長袋洋氏が代表取締役最高執行責任者（COO）、大分大医学部の上村尚人教授（臨床薬理学）がチーフメディカルアドバイザーを務める。

大分大医学部は全国でも先

明する。ライセンスの一つは、もともと糖尿病の治療に関連している。アーサム社は非アルコール性脂肪性肝炎の新薬に活用。臨床試験を大分大で始める。他にも、がん治療に効果がある物質を血管奇形の新薬に生かす計画がある。日本医療研究開発機構から3カ年度で最大1億5千万円の補助金を受け、血管奇形の新薬開発を進める。

## 「アーサム社」武 来月から臨床

果を確認できれば、より大規模な試験を拒える大手製薬会社に成果を売却する。今後は他の研究機関などとも連携し、2020年度ごろの黒字化、25年度ごろの株式上場を目指す。北野正剛大分大大学長は「創薬のプロを育む場としてアーサム社との共同研究は大きな意味を持つ」とコメントしている。（渡辺大祐）

大分合同新聞・朝刊  
2018年12月13日（木）

## 富山産学官事業体

外派遣に力を入れる。雇用面の目標も掲げる。医薬品産業の雇用者は現在から4千人増やし、1万4500人を目指す。人材育成プログラムを受ける首都圏の学生の県内就職を促す。

富山大は「メディカルデザインセンター」（仮称）の設置、県立大は21年度に大学院に「生物・医薬品工学専攻」（同）の創設などを通して研究、教育環境の充実を図る。

県によると、交付金は5年間で上限35億円を見込む。期間は10年程度で、前半の5年間は国が費用を補助し、後半は共同事業

# 薬都の存在感高めたい

業体が負担する。県は来年1月に検討委員会を開いてアクションプランを策定し、3月ごろに予定するシンポジウムで県民に周知を図る。こうした目標の実現には、プランの方向性を明確にし、具体的な肉付けをしっかりと行うことが重要になる。産学官が十分に相乗効果を発揮できるよう、幅広い研究者、技術者らの意見を聴き、取り入れてほしい。

県内の16年の医薬品生産額は621.8億4500万円で、2018年続けて全国1位となった。シエナリクス医薬品（後発薬）生薬や大手からの受託製造が寄与

「とやま未来創生産学官連携推進会議」の特別顧問に、今年度のノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑京都大特別教授が就くなど、県内の医薬品産業を取り巻く環境は整いつつある。

県内の医薬品メーカーは、生き残りを懸けて新薬やバイオ医薬品開発に取り組むとともに、市場拡大へ海外展開や企業の合併・買収（M&A）なども視野に入れる。

こうした成長戦略を描く各メーカーに産学官コンソーシアムが重要な役割を果たせるよう、関係者は議論を深めてほしい。

KEIZOKU TOPICS

医薬品

北日本新聞・朝刊  
2018年12月23日（日）

19年度予算案

# 社会保障費1200億円抑制

## 消費増税にらみ充実策も

政府が21日閣議決定した2019年度予算案は、例年通り社会保障費の抑制が最大の焦点だった。一方で、来年10月の消費税率10%への引き上げを踏まえた社会保障の充実策も盛り込まれた。暮らしに関わる部分を中心に予算案のポイントを解説する。

### 総報酬割りを拡大

16〜18年度は高齢化などによる社会保障費の伸び（自然増）を各

うした数値による「基準」がなかった。最終的に8月の概算要求段階の6000億円から約1200億円を圧縮。自然増を4768億円とした。

主な削減は、所得の高いサラリーマン（4〜64歳）の介護保険料が高くなる「総報酬割り」の拡大で約610億円とした。

16〜18年度には1300億円、17年度は1400億円、18年度は1300億円、19年度は1200億円と抑制される。自然増は4800億円、総額は34.1兆円と抑制される。

### 診療報酬0.41%引き上げ

医療機関や介護施設などの仕入れには消費税がかかるが、医療・介護サービスは非課税なので患者や利用者から消費税を取れない。来年10月の消費税率10%への引き上げに向け、医療機関などの「持ち出し」の補填の方法も予算編成の焦点の一つだった。

これまでも消費増税時には報酬を引き上げ

### 年金80万円以下の入

#### 生活支援金で収入増

75歳以上を対象とした後期高齢者医療制度（後期医療）で、低所得者向けの保険料軽減措置が来年10月に廃止される。同時に介護保険料軽減や低年金者への生活支援金制度が実施され、収入の増える人が多いが、一部の人は負担増となる。

年金収入80万円以下

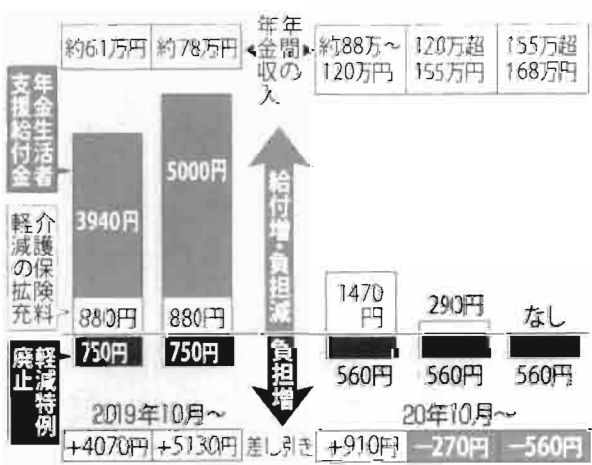
社会保障費の伸びと抑制のイメージ



び幅が一時的に鈍り、自然増自体が例年より小さかったことに加え、来年夏の参院選を控えて国民負担につながる制度の見直しに踏み込まなかったこと

【阿部亮介】

後期高齢者医療制度の保険料軽減特例廃止による影響（月額）



て対応してきた。今回（億円）も創設した。は診療報酬を0・41%（国費200億円程度）引き上げた。これにより初診料や再診料が数円から数十円増える見込みだ。介護報酬は0・39%（同50億円程度）も創設した。日本医師会の横倉義武会長は19日の記者会見で「現時点で医療にかかる消費税問題は解決した」と評価した。【阿部亮介】

## 健康づくり重点 新工程表

### 負担増は不透明

政府は20日の経済財政諮問会議で、社会保障分野を含む新たな改革工程表（2019～21年度）を決めた。健康づくりや医療・年金制度改革など社会保障の項目を拡充した。負担増や給付抑制の具体案は示しておらず、財政再建を主導する財務省と厚生労働省の間で、今後綱引きが続く。改革工程表は、財政健全化などに向け、政策ごとのスケジュールと目標を定めている。現行の工程表では高所得高齢者の介護保険の自己負担増やジェネリック（後発医薬品）の薬価引き下げなどを実現したが、諮問会議では「社会保障分野は進捗していない

の人は後期医療の月額保険料（全国平均）が本来より750円、80万円超～168万円の人は560円低い。財務省の試算によると、支援金などを加え、一方、年金88万円超の世帯は支援金の対象外となる。それでも120万円までは介護保険料軽減の効果でプラスになるが、120万円超～155万円以下、155万円超～168万円以下では560円の収入減になる。厚労省は、80万円超の世帯に対し、来年度予算案に250億円を計上した。【酒井雅浩】

「ものが多い」と指摘されていた。新工程表では、高齢者が元気に暮らせる「健康寿命」を延ばすため、22年度までに糖尿病患者を1000万人以下に抑える目標を示した。女性や高齢者の就労を促すため、短時間労働者への社会保険適用範囲の拡大や年金受給開始年齢の柔軟化も盛り込んだ。給付と負担の見直しは、介護保険のケアプラン作成料や後期高齢者の窓口負担は「在り方などを検討」との表現にとどまった。厚労省幹部は「夏の参院選後まで、官邸は国民の負担増は打ち出しにくい」と明かす。【原田啓之】

### 児童手当の特例給付見直し

### 来年以降も検討継続

中学校卒業までの子どもに支給する「児童手当」で、所得制限を超える世帯に支給している「特例給付」の見直しは、来年度以降も引き続き検討されることになった。児童手当は年齢や生れた順番によって子ども1人当たり月1万5000円または1万円が支給される。所得制限（夫婦と子ども2人の世帯で年収960万円）はあるが、これを超える世帯に対して子ども1人当たり月5000円を支給している。財務省は所得制限を超えるかどうかの判定方法の見直しを主張。現行は世帯の中で最も所得の高い人のみで判定しているが、世帯の所得を合算するよう提案している。財務省は昨年度の予算編成から見直しを求めたが、公明党などの反対で実現していない。ただ、「延長戦」となることが明記されただけに、厚労省幹部は「来年の予算編成で見直される可能性があるかもしれない」と警戒する。【阿部亮介】

毎日（東京・朝刊）  
2018年12月26日（水）

## 100通を超える反響

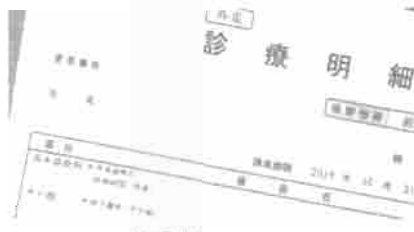
妊娠中の女性が外来診療を受けると追加料金がかかる「妊婦加算」に注目が集まっています。導入の背景には、医療機関に妊婦を敬遠せず、積極的に診てもらおうとの狙いがありました。批判の高まりを受け、厚生労働省は制度を見直す検討を始めました。議論を11月20日付朝刊で報じて以来、当事者や医療関係者から100通以上のメールが届いています。

投稿は、妊娠中の女性やその家族、医師や看護師らから114通寄せられた。うち90通が、加算に反対していた。

### 熱でも受診控え

神戸市に住むパートの女性(32)は、4年間の不妊治療を経て妊娠4カ月。計160万円がかかり、妊娠後も、妊婦健診だけでなく、胎児の心拍を確認するまでの定期診察や出血した際の診察、健診でホルモン異常が出た際の再検査で、万単位の費用がかさんでいる。

9月、明細書に「妊婦加算」という表記を見て、「負担が減るのかな、と思ったら逆に増えるのやん」と驚いた。「極力病院にはかからないうでおこう」と決め、10月に風邪で発熱した際は受診しなかった。2人目も考えているが、不妊治療も含めて再度出費が重なると思うと、家計との見合いで迷ってしまう。



札幌市の妊婦が呼吸器科にかかる時、診療明細書に「妊婦加算」とあった(画像の一部を修正しています)

### 医療者にも疑問

妊娠中の医療従事者からの意見も目立った。名古屋市の皮膚科医(37)は今夏、診察後、看護師から「今の患者さん、妊娠中でしたか？」と尋ねられた。「そうみたいです。5カ月と言っていました」と答え、後、不思議に思っていた。4月から妊婦加算が取られるようになったらいいです」との返答だった。

制度を調べ、投薬も治療もしなくても加算されると知り、納得できなかった。さまざま

### ■妊婦加算について寄せられた意見 ▼制度は必要?

「妊娠8カ月。皮膚科で指のテーピングをして加算され、納得できない。少子化対策に矛盾」

東京都中央区 美容師(37)

「持病で毎月の受診が必須。妊娠後はそのたびに加算される。『健康体でない人間の妊娠は応援されていない』と思えてショック」

北九州市 専業主婦(34)

「勤める病院では妊婦はX線撮影を最低限にし、聴診や打診で代替したり、投薬も相談したりしている。加算は必要」

横浜市 薬剤師(51)

「歯科に妊婦加算はない。麻酔などで妊婦の治療にはとても気をつかうが、医療者として当たり前。医療費の削減が叫ばれているなか、不要では」

沖縄市 歯科医(40)

### ▼妊婦本人が負担?

「妊娠中。寝たきりの高齢患者が多い病院に勤務していたが、1人で介助ができなくなった。やむなく退職し、収入が途絶えたのに、本人負担が増し、不合理」

広島県呉市 看護師(23)

「1児の父。コストのかかる診療を受けたなら、受益者である妊婦が負担でいいのでは」

福岡市 会社員(44)

※11月30日までに、メールで114通の投稿

## 国、対象見直しを検討

そもそも妊婦加算はなぜ、導入されたのか。厚労省によると、「胎児に安全な薬や検査方法を使うなどの丁寧な診療への評価」を目的として、昨年10月、歯科以外の全ての診療科を対象として妊婦に一律加算する案を、諮問機関である中央社会保険医療協議会(中医協)に出した。厚労省の担当者は「医療関係団体からの要望を踏まえた案」とする。

初診料や再診料などの基本部分の引き上げを求めてきた。日本総研の西沢和彦・主席

# 妊

## 妊婦加算

さまざまな疾患の診療で加算がつく今年4月から、妊婦を診た場合、初診で750円、再診で380円が追加で医療機関に入るようになった。深夜や休日、診療時間外はさらに上乗せされる。これにより妊婦側が負担する額は、一般より110〜650円増（3割の場合）となった。問診票で妊娠中と答えるなどした女性が対象で、妊婦健診と歯科以外の全ての診療で加算される。診察後に妊娠中とわかったような場合は対象でない。

## 妊婦加算凍結 1月から

### 中医協了承新制度議論へ

妊婦の外来診察時に要たとして医療機関へ上乗せされる「妊婦加算」について、厚生労働相の諮問機関、中央社会保険医療協議会（中医協）は19日、来年1月1日から凍結することを了承した。ただ、妊婦に配慮した医療体制が必要との判断に変わりはなく、2020年度診療報酬改定に向け、仕切り直す形で新制度のあり方を議論する。

妊婦加算は、今年4月の診療報酬改定で新設された。胎児に悪い影響を与える医薬品を避けるなど、処方や診療に専門的な知識が必要で、妊婦さんに不快な思いをさせたことは遺憾と述べた。一方で「創設から1年経過していない中で、中医協での検証や議論を経ることもなく凍結が諮問されたことは異例で、手続きに違和感を覚える」と不満を示した。

厚労省は有識者会議で妊婦診療のあり方を検討する方針で、現行制度は事実上廃止となる。中医協は有識者会議の意見を踏まえて、20年度診療報酬改定で新制度導入を議論する。【酒井雅浩・野田武】

毎日（東京）・朝刊  
2018年12月20日（木）

担を求めるのには反対だ。

妊娠中は産科以外にもさまざまな受診の必要に迫られることが多く、妊婦健診で高血圧や尿たんばくが見つかって内科受診を指示されて来る患者も診る。「受診控えにつながる」と、胎児に影響しかねない。妊婦が払わなくてよい仕組みにするべきです」

医療団体の幹部は、「基本料の値上げは財政規模が大きいく、国としてはのみづらいので、細かな加算で対応しよう」としてきた提案」とみて、「我々もゼロ回答よりはいいと判断した」と打ち明ける。原案通り決まったが、今年4月の開始後、妊婦らから疑問の声が上がった。

朝日（東京）・朝刊  
2018年12月3日（月）

## オバマケア「無効」判決

### テキサス連邦地裁 制度支持の州上訴へ

米テキサス州の連邦地裁は14日、国民に保険加入を義務づける「医療保険制度改革（オバマケア）」について、「義務づけは違憲」として、制度は無効との判決を下した。無効が確定すれば約1700万人が無保険になるとの試算もあり、制度を支持するカリフォルニア州などは上訴する方針だ。争いは最高裁まで続くことが確実で、ホワイトハウスは確定まで制度は有効だとしている。

オバマ前大統領が推進した医療保険制度改革は、保険料の支払いが困難な低所得者に補助金を出し、保険加入を促す仕組み。だが、自立を重んじ、公的補助に批判的な保守層の受けは悪い。撤廃を公約に掲げるトランプ大統領は判決を受けて、ツイッターで「ずっと言ってきたようにオバマケアは違憲な災いだ」と否定された」と投稿した。

裁判は、共和党が知事ポストを押さえるテキサス州などが国を相手取り提訴した。だが司法省が全面的な弁護をせず、民主党のカリフォルニア州などが代わり

に制度の擁護に回った。最高裁は2012年、加入義務づけは議会の裁量権を越えるとしつつ、加入しない場合の罰金は「課税」に当たるとして合憲判決を下した。今回の判決では、昨年12月の税制改革で罰金がなくなったことから「課税」とは言えなくなった」として、義務づけを違憲だとした。（ニューヨーク＝鶴飼啓）

朝日（東京）・朝刊  
2018年12月16日（日）



戦前の鹿児島県は「男尊女卑」の風が特に強かった。大正期に片牧静江が生まれた家は、同県北部の伊佐市で焼酎造りも営む豪農だったが、そんな風ゆえに出生時の光景は、いささか悲惨だった。

家を挙げて田植えに追われていた6月27日。静江の母キクは庭で産気づき、そのままむしろの上に静江を産み落と

した。しゅうとたちはこの忙しい時にと苦り切り「庭で生まれたつじやで、名はおにわでよか」と言いだした。キクはそんな名ではあんまりですと懇願して静江になった。1919(大正8)年、第1次大戦後のベルサイユ条約が調印される前日のことだった。踏まれると、麦も人も強く育つ。静江は小学校で級長を務め女学校に進んだが、家で勉強すると「炊事をせんか」と叱られる。母キクのこき使われる姿を見るにつけても、女として自立せねばという思いは募り、37(昭和12)年に入

## 従軍看護婦 片牧静江

つたのが山口赤十字病院の看護婦養成所だった。

戦時中は従軍看護婦として2度召集され、まず内蒙古(内モンゴル)へ。太平洋戦争が始まると南方へ向かった。輸送船団が敵潜水艦に狙われ、台湾とフィリピンの間のパシ

ー海峽を行きつ戻りつする間、船が何隻か魚雷で炎上するのを見た。やっとタイに着くと、港に来た看護婦長が「あんたたち、足はあるね」と大声で呼び止めたという。

ミャンマーの病院では、インパール作戦から撤退してくる兵士らを看護した。赤痢に

### 編集委員 上別府 保慶

かかり汚物まみれの体をドラム缶に沸かしたお湯で洗う。洗っても洗っても列は途切れ

ない。痛みに泣く兵士の中から生き延びる可能性がある順に休む間もなく手当てした。

敗戦を聞いた時、軍医から「もう日本に帰っても仕方ない。一緒にとどまってくれ」と求婚された。「生きている姿を母に見せます」と振り切った。やっと復員すると、生

家は農地解放で土地を手放さねばならぬことに。人々が押しかける中、家の男たちはほうせんとするばかり。静江は進駐軍の担当者の元へ1人で

談判に出かけ、家族を守るよう頼んで騒ぎは鎮まった。

その後は鹿児島県の医療行政に携わり、鹿児島市立病院で総婦長を務めた後は、趣味の郷土史研究に打ち込んだ。

わが伯母、片牧静江、11月24日に老衰で他界。99歳。生涯独身のために葬儀はつつましかったが、妹やおいなど11人の昔語りは温かかった。

西日本新聞・朝刊  
2018年12月13日(木)

時々、本社ビルの診療所を訪れる。目につく場所に、公益財団法人「認知症予防財団」が発行するタプロイド判の財団報「新時代」があった。

しばらく前、その一面に興味深い記事が載っていた。財団の評議員で、認知症研究の第一人者、長谷川和夫医師のインタビューだった。「89歳 認知症になって」の見出し。その後、毎日新聞にも記事が掲載された。

## 花谷寿人の

# 体温計

断を受ける際、その検査は受けな

かった。「あれは僕が作って答えを暗記しちゃってるから役に立たないんです」(笑い)

そのユーモアと同時に、医師、

科学者が自身を突き放し、客観的な視線で見つめようとする姿勢に心を動かされた。

「人生100年時代」という言

受けた。思い出す科学者がいる。

素粒子ニュートリノに質量があることを発見し、受賞の有力候補とされた東京大特別栄誉教授の戸塚洋二さんである。大腸がんのため、10年前に66歳で亡くなった。

ブログの闘病記には究極の「科学者の目」を感じた。腫瘍の成長は場所や大きさによってどう違う

者の悲しいさです」とあった。

◇

認知症を告白した医師の長谷川さんはこう語っている。「やはり体験するのと、しないのではまるっきり違うものです。他の患者と同じ目線になるし、優しく接することができるようになりました」

医師が患者の命と向き合うことは、一人の人間である自分自身とも向き合うことなのだろうか。その崇高な精神を思った。

## 病を得た医師

「私、実は認知症になりましたね……。80代、90代の人が発症し、記憶障害が起きたり、怒りっぽくなったりする「嗜銀顆粒性認知症」と診断されたという。「長谷川式」と呼ばれる認知症の検査法を確立した当の本人は診



葉をよく聞く。長寿はめでたいが、寿命が延びるほど人は認知症のリスクを抱える。それでも、こういう医師がいれば心強い。

今年のノーベル賞は、本庶佑・京都大特別教授が医学生理学賞を

のか。「抗がん剤の本当の効果を判定する必要がある」と考え、自分のデータを分析したグラフを公開した。死が怖くないはずがない。それでも社会に伝えようとする思いに胸を打たれる。ブログには「研究

(論説委員)

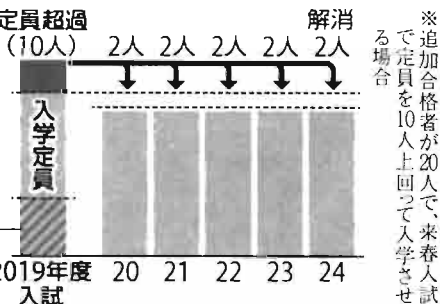
毎日(東京)・夕刊  
2018年12月20日(木)

# 医学部受験生を救済

## 文科省 定員超過容認通知

5年で相殺

医学部の不正入試問題で、文科科学省は25日、追加合格を出した大学を対象に、来春入試での入学定員の超過を特例的に認めることを決め、通知した。受験生に配慮した救済措置で、超過分は2020年度以降の5年を上限に定員を減らして解消することを求めている。追加合格者の人数は、東京医科大(東京)、順天堂大(同)など4校で少なくとも計100人を超えること



救済措置のイメージ  
(文科省の資料を基に作成)

追加合格者(20人)の1・1倍以上を入学させたい。だが、今回の措置は国の補助金(私学助成金)支給のルールでは、「定員踏み切れない大学が多いとみられる。しかし、医学部の定員は、医師が過剰にならないように、通常は1・0倍ぎりぎりとなるよう抑えられているため、一定の救済効果がある

見込まれる。文科省は同日、不適切な入試を行ったことを認めた9大学に対し、今回の措置の利用を検討するよう打診した。超過分を含めた来春の入学定員の公表は来年1月になる見通し。

東京医大、新体制に  
女性理事4人

東京医科大(東京)は25日、運営する学校法人の理事会の新体制が発足したと発表した。新体制では理事を1人増やし、17人とした。不正入試問題の発覚後に就任した理事長や学長ら6人を除く10人が辞任し、11人が新たに選出された。これまで2人だった女性理事は4人に増えた。任期は22日から来年6月末まで。

読売(東京)・朝刊  
2018年12月26日(水)



## 女性の結核見落とし

### 県立がんセンター 肺の陰影気付かず

県立がんセンター(伊奈町)の、命に別条はない。

は6日、多発性骨髄腫の診療 女性患者との接触が把握で中だった県北部在住の60代女性患者の結核を見落としていたと発表された。レントゲンを撮影したが、担当の血液内科医が肺の陰影に気付かなかつた。

女性患者は病状が悪化したものの、現在は結核の専門病院に入院して治療を受けてお

た。受診前から発熱や血痰の症状があり、喉の痛みも訴えていた。担当医が抗生物質を投与したところ症状が改善したため、結核という考えに至らなかったという。実際は、初診の3カ月前には発症していたとみられる。

4月中旬に撮影した胸部のレントゲンでは肺に陰影があったが、担当医が気付かず、結核の診断をしなかった。担当医は「(レントゲンを)見た覚えも見なかった覚えもない。明確な記憶がない」と話しているという。

同センターによると、女性患者は多発性骨髄腫の治療のため、今年4月中旬から8月初旬まで入院や通院をしてい

同センターでは6月、手術でカテーテル(管)を挿入する際に血管や臓器を傷つけ、手術直後に患者が死亡する医療事故が発生。そのため同じ手術が同センターではできず、女性が8月初旬に他院に移ったところ、結核を発症していたことが10月下旬に判明したという。同センターは、保健所から連絡を受けて見落としを把握した。

女性患者は11月に専門病院に入院。入院時より結核の症状は改善したが、多発性骨髄腫の治療は中断している。

会見した坂本裕彦病院長は「患者やご家族、県民の皆さんに多大なるご迷惑とご心配をおかけしていることをおわび申し上げます。レントゲンを撮っているのに診断できなかったという体制の不備があり、安全な医療を行う上で責任は大きい」と謝罪した。

埼玉新聞・朝刊  
2018年12月7日(金)

## 患者と接触は128人

### がんセンター カルテに撮影記録なし 結核見落とし

県立がんセンター(伊奈町)は、結核を見落とした女性患者との接触が把握できた人を現時点で職員63人、患者65人としている。女性の担当医や

看護師、同室や同病棟に入院していた患者が含まれている。128人については、

保健所の指導を受けながら、結核感染の有無を調べるための血液検査をすでに始めた。今のところ感染は確認できていない。

同センターは再発防止策として、レントゲンの画像診断

を見落としの原因は、レントゲンを撮影したものの担当医を確認し、カルテに記録することが必要条件であることを

改めて全医師に徹底。

また今回は担当医一人しかレントゲン画像を確認しなかったため、今後は複数人でチェックを行えるよう、担当医以外の者でも画像の異常に気付いた場合は担当医や放射線科医に連絡することとした。

坂本裕彦病院長は「本来医師のすべきことの原則を、十分に徹底できていなかったことが今回の原因。画像診断結果を主治医が確認していない場合、電子カルテにアラート(警報)が表示されるよう、

システムの改造も行いたい」と述べた。

女性や女性の家族は、センター側の謝罪に「どういこうとを繰り返してほしくないの、全国の病院も含めて啓発の役に立ててほしい」と旨の話をしたという。

(坂本圭)

埼玉新聞・朝刊  
2018年12月7日(金)



## 自治医大病院

# 卵巣、左右取り違い摘出

## 常勤医、思い込みで誤認か

下野市薬師寺の自治医大付属病院で、婦人科の常勤医が患者の右卵巣の腫瘍を切除する手術の際に、誤って左卵巣を摘出していたことが20日、同病院への取材で分かった。すぐに誤りに気付いて元に戻し、患者の健康に問題はないという。思い込みで左右を取り違えた可能性があり、同病院は下野新聞社の取材に対し「手術チームの情報共有などを徹底して再発防止に努める」などと話した。

同病院によると、今年 誤って左の卵巣や卵管を切 院。現在も通院中だが、日 し調査するとともに、国や上半期、婦人科の常勤医 除した。直後、ミスに気 常生活に支障はないとい 県、下野署などに報告。同らの手術チームが右卵巣腫 付いて切除部分を元に戻す う。 委員会は事故の原因とし て、過去の経緯から腫れな を担当した際、常勤医が 患者は手術から9日後に退 として第三者委員会を設置 どのあった左卵巣を患部と

誤認した可能性がある」と指摘した。  
同病院の佐田尚弘院長は取材に対し「患者さまに心理的、身体的な負担を掛けて申し訳ない。事故を防ぐシステムが十分でなかった」と陳謝。今後は手術前の情報共有や、重要な部位を切除する際の再確認、手術中のコミュニケーション強化などで再発防止に努める意向を示した。

下野新聞・朝刊  
2018年12月21日(金)

# がん検査結果を放置

## 熊本大病院 60代男性 判明遅れ

熊本大病院(熊本市)は21日、がんの疑いがある県内の60代の男性患者に実施した検査の結果を1年2カ月間放置したため、進行がんの発見が今年5月まで

遅れる医療ミスをしたと発表した。  
同病院によると、見つかったのは膀胱がんで、最も病状が進んだ「ステージⅣ」。現在、同病院で抗がん剤治療の男性担当医師が今年

18年4月、病院内の別の部署からの指摘で結果の放置が判明。結果を確認したところ、新たながんが疑われたが、男性に連絡が取れなかった。結局、5月に男性が血尿が出たとして同病院を再受診し、膀胱がんと分かった。男性は6月に手術を受けた。  
同病院によると、男性と家族は「今は前を向いて治療に専念したい」と話しているという。男性側への補償は今後、話し合う。  
記者会見した谷原秀信院長は「男性や家族に多大な迷惑をお掛けした」と謝罪した上で、「医師個人と組織・システムの両方に問題があり、再発防止に努める」と話した。  
(太路秀紀)

熊本日日新聞・朝刊  
2018年12月22日(土)

# 院内の読影体制に問題

## 特別調査委が報告書公表

### 杉並の肺がん見落とし

杉並区の河北健診クリニックで区肺がん検診を受けた四十代女性が、がんを見落とされ死亡した問題を受け、クリニックを運営する河北医療財団が設置した特別調査委員会は十三日、検診画像を読影する際の体制に問題があったとする調査報告書を公表した。併せて、現行の検診制度の問題点も指摘した。

(渡辺聖子)

報告書によると、クリニックは二〇一五年秋に、業務増大を理由に放射線科の医師を読影業務から外した。その結果、区の実施要領に望ましいと記されている呼吸器科、放射線科のいずれの医師も読影に関わらな

い状況ができていた。「区医師会に報告することなく外したことは望ましい対応ではなかった」とした。

さらに委員会は、胸部エックス線による肺がん検査の問題点も指摘。「肺がん死亡率を減少させる明確な科学的根拠がない」とし、代わりに低線量CTによる検査を提言した。

### 一般エックス線

### 3万6229人再調査

河北健診クリニック

河北医療財団の河北博文

委員長は十三日、河北健診クリニックで一般健診を受けた三万六千二百二十九人の胸部エックス線画像の再調査を始めたことを明らかにした。来年三月までかかる見込みで、精密検査を受ける必要がある人には案内を送るとしている。

九千四百二十四人の画像について、クリニックは再調査を終えた。そして再調査でも精密検査が不要とされながら、後に肺がんが診断された人が二人いたことを明らかにした。

対象は二〇一四年四月一日～一八年四月三十日に企業、保健健診などを受けた人。既に一万四百七十四人の調査を終え、このうち五人に精密検査の必要があるという。

区の肺がん検診を受けた

東京新聞・朝刊  
2018年12月14日(金)

### 東大病院

# 画像診断書「未開封」4割

## 主治医の確認形骸化

東京大学病院で、CT(コンピュータ断層撮影法)などの画像を専門医が診断して作成した報告書の4割を主治医が「未開封」だったことが、病院関係者への取材でわかった。今年10月に実施された1～8月作成分に対する院内調査で判明した。画像診断報告書の確認不足によるがんの見落と

500件が10月25日時点で「未開封」だった。調査後、病院が呼びかけると、約2週間後に「未開封」は約7500件に急減した。

内容を認識しているかどうかははっきりしていない。日本医学放射線学会は今年7月、報告書を必ずチェックする仕組みづくりを求める見解を出している。

報告書は、主治医の依頼を受けて放射線科の専門医が画像すべてを詳しく見て作成し、電子データで提出する。千葉大や横浜市大などで発覚したがんの見落と

同学会理事の蒲田敏文・金沢大学病院長は「報告書をよく確認せず、主治医が自分で画像を見るだけで診断するのが常態化している

「おお悲みよ、汝がなかったなら、こつも私は妹を想わないであろう。愛を想い、生命を想わないであろう」(柳宗悦「妹の死」、原文ママ)。先日上智大(千代田区)で開かれた集会「ミシユカの森」の講演で、初めてこの一文を知った。悲しみと聞けば、普通は人間の弱さに属するものと捉えがちだ。しかし、悲しいという感情があればこそ、愛や生命の得難さに気づく契機となる。講師を務めた信州大の山崎浩司准



大の山崎浩司准

## 悲しみの力

し、支え合う社会をつくりたい」と説いた。そのメッセージに大きくうなずきながらも、記者として取材するわが身はどうかと考えさせられた。医療過誤で一人息子を失った父親との電話。「絶対に医者殺してやる」。約1時間半に及んだやりとりの中で、父親は何度もその言葉を繰り返した。わが子の命を理不尽に奪われた父親の痛みにも似た悲しみを、境遇の異なる他者がそのまま自分の感情として共有することはできない。怒りや呪いの言葉に形を変えた悲しみ

し発覚が相次ぐなか、確認システムの形骸化が浮き彫りになった。

関係者によると、この8か月間に作成された報告書は約5万2000件。各診療科の主治医は、パソコン画面で報告書の「開封」ボタンを押して内容を確認するシステムになっている。しかし、そのうち約1万9

しは、主治医が報告書を十分確認していなかったことが主な原因だった。

病院によると、報告書は「開封」ボタンを押さなくても読める。このため、広報担当者は「『未開封』でも見ているケースもあるし、『開封』しても確認が不十分なケースもあるだろう」とし、主治医が本当に

病院は多く、このケースも問題になって慌てて開封ボタンを押したのではないかと。報告書を確認したうえで患者に説明することを徹底すべきだ」としている。

読 売(東京)・朝刊  
2018年12月28日(金)

## 東京五輪

あと571日

教授は「この文章には『悲しみは弱さではなく、愛の力の表れである』という意味の転換がある。悲しみを現代に取り戻

を、ひたすら受け止め続けるしかなかった。

「悲しさは共に悲しむ者がある時、ぬくもりを覚える」(同「南無阿弥陀仏」)。全く同じ悲しみを共有することはなくとも、悲しみに寄り添うことはできるはずだ。

(村嶋和樹)

産 経(東京)・朝刊  
2018年12月31日(月)

### 千葉市・医療事故公表指針

千葉市病院局は、市立青葉病院(中央区)と市立海浜病院(美浜区)で医療事故が起きた場合の公表指針を策定し、11月から運用を始めた。事故発生に先立ち公表の基準を市民に公開した姿勢は評価できるが、内容は行政の説明責任を果たし、市民の知る権利に配慮するものとは残念ながら言い難い。

指針は趣旨に「市民に適切な情報提供を行うことにより、病院運営の透明性を高め」るなどと明記。その上で、病院側に過失があった医療事故で患者が死亡したケースや重大な障害・後遺症が残ったケースについて、書面による患者側の同意を受け

## 説明責任を果たせるか

個別に病院名、事故発生年月、患者の年代、事故発生の経過・結果概要、再発防止策を速やかに公表するとした。過失の有無は病院内の委員会が判断する。しかし、患者側が同意しなかった項目は公表を見送る。さらに、件数は年1回のまとめで発表するものの、患者側の意向を理由に事故内容を丸々公表しないこともあるとした。

また、事故が起きた診療科目や医療従事者の情報も非公表。同局は「職員が報告をちゅうちよし、再発防止を図れない可能

性がある」と説明する。患者側の同意を得て事故の概要が公表された場合、ある程度診療科目などが特定されるにもかかわらずだ。

他にも疑問点はある。独居の患者が事故により意識のない状態になった場合、公表の判断は誰がするのか。複数の患者の間で意見が割れた場合はどうするのか。同局はケースごとに検討するとしたが、県病院局の指針のように、患者側の同意が得られなくても事故の一部の情報は発表するとすれば、混乱は生じないと思うのだが。

千葉市病院は患者側が公表を望まなかった事故でも、第三者

調査委員会の検証結果は個人情報を除き公表の対象になると言及。「患者との信頼関係」を理由に非公表とした当初の対応との間に矛盾は生じないだろうか。

病歴や治療の情報は最も守られるべき個人情報であることは論をまたない。しかし、事故となるとその情報の公共性は高い。市民の知る権利に、さらに市民が病院を選択する権利に配慮するため、同局には説明責任がある。指針は内規とのこと。患者を含めた市民の権利に配慮した弾力的な運用、改変を望む。

## 論説

千葉日報・朝刊  
2018年12月3日(月)

# 信頼回復カルテ閲覧で

## ◆「初の試み」

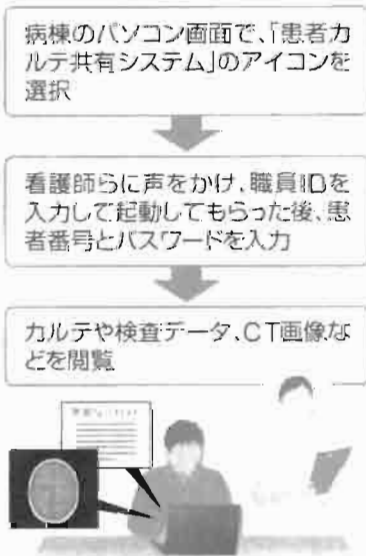
群馬大病院が改革のために設置した「患者参加型医療推進委員会」の2回目の会議があった10月、「患者カルテ共有システム」の導入が公表された。登録した入院患者や家族は、診療記録や検査結果、画像などを自由に閲覧することができる。

病院によると、閲覧の際は看護師らに声をかけ、病棟のパソコンに職員IDを

群馬大学病院は2019年1月から、手術死問題を教訓とした病院改革の一環で、入院患者が自分の電子カルテを自由に閲覧できるシステムを導入する。これまでほとんど例がなく、国立大学病院では初の試みだ。信頼回復が切実な課題となっている群馬大病院だが、一過性の対策にとどまらず、他の病院にも広がる実践例にできるかが問われている。  
(医療部 高梨ゆき子、社会部 蛭川裕太)

## 共有

### ◆群馬大学病院の患者カルテ共有システム(イメージ)



大学42病院に対する読売新聞の取材では、導入例はほかになかった。それだけに、

「いか」。鹿児島大学病院医療情報部の村永文学副部長は懸念を示す。診断までに

### ◆群馬大学病院の患者参加の取り組み例

- ▶入院患者や家族が病棟のパソコンで電子カルテを自由に閲覧できるシステムを導入(採年1月~)
- ▶患者に検査結果を印刷して渡す
- ▶録音機能付き電子カルテでインフォームド・コンセントを録音し、音声データを保存
- ▶カルテ開示請求ができることを院内のポスター掲示で周知
- ▶患者の意見を診療にとり入れるため「患者参加型医療推進委員会」を新設。遺族代表の委員2人を加え、会議を一般公開



同病院では07年から、脳神経外科の患者が、自分の検査結果や画像を自宅のパソコンで見られる「ITカルテ」を活用している。カルテそのものではなく、医師が選んだ一部の情報が見られる。ほかにも各地に例があるのは、一部の診療情報をオンラインで見られるというものだ。

実際にトラブルの経験があるという医師もいる。02年、国立成育医療センター(当時)の電子カルテ導入を担当した聖路加国際大学の宮坂勝之名誉教授だ。当時、小児集中治療室で、電子カルテの一部を親が自由に見られるようにしていた。ある医師が、他の医師と自分の見立てが違うと記載していたのを見た患者の

群馬大の手術死問題 群馬大学病院で2014年、当時は保険適用外だった腹腔鏡を使う肝切除手術を受けた後、患者8人の死亡が続発していたことが発覚。後に肝臓や脾臓の開腹手術でも死亡が相次いでいたことがわかった。第三者からなる調査委員会が16年にまとめた調査報告書では、患者参加を促進して診療の質を向上させる取り組みが提言された。

が顔を合わせてコミュニケーションする文化の確立が必要だ」と話す。

## ◆職員教育

群馬大病院では1月の閲覧システム導入を前に、正確でわかりやすいカルテ記載の方法など、職員への教育を進めているという。

同病院医療の質・安全管理部長の小松康宏教授は「初めてのことで予想外の

入力してもらって画面を開く。そのうえで患者番号とパスワードを入力すれば開ける形で、他人に見られないよう配慮している。

一連の問題では、患者への説明不足やカルテ記載の不備が明らかになった。第三者による調査報告書で、こうしたシステムの導入が提言されていた。

推進委で委員を務める遺族会の小野里和孝代表(38)は「手術で亡くなった妹が入院していたときは十分な情報提供がなかった。電子カルテが見られれば、正確な情報がわかり疑問点も聞けるので、信頼にもつながる」と期待する。

患者へのカルテ開示は、個人情報保護法に基づき医療機関に義務づけられている。ただし、治療中にほぼリアルタイムで電子カルテを閲覧できる病院はきわめて珍しい。少なくとも国立

## 情報と患者大群

医療界には懐疑的な見方もある。

### ◆「誤解」に懸念

「診断の結論に至るまでの不確定な情報を患者が見ると、誤解されるのではな

は、疑われることがあれば可能性が低くても検討され、カルテに書かれる。「確定診断前の途中の記録を患者が閲覧し、自分で解釈して誤診だと思い込んだら困る」という。

親が「誤診か」と慌てた。説明して誤解は解けたが、宮坂名誉教授は「それ以来、医療者が説明しながら一緒に見るようにした。文字だけでは伝わりにくいこともある。医療者と患者

問題が見つかるかもしれないが、患者との情報共有は、基本的に必要なこと。懸念材料をあげるより、まずはやってみて、患者と信頼関係を築くことが大事だと思ふ」と話している。

## 透明性確保に利点

カルテは2000年代から電子化が進んだ。厚生労働省による14年の調査では、400床以上の病院の約8割に普及している。

電子カルテに詳しい森田明弁護士によると、電子化のメリットとして「患者との共有のしやすさ」が当初からあがっていたが、実践例はほとんどなかった。

森田弁護士は「情報共有はインフォームド・コンセント(説明と同意)の問題であり、深刻な医療事故があったかどうかにかかわら

ず、本来どこの病院にも必要なことだ」と説く。

千葉県鴨川市の亀田総合病院は、早くからその利点を積極的に活用してきた。02年、希望した患者や家族が閲覧できる電子カルテを導入した。登録すれば、好きなときにカルテを自分のパソコンで見られるのが特徴だ。遠方の家族とも情報共有できる。

基本的にすべて閲覧対象だが、一部に例外もある。虐待の疑いや、精神疾患の治療で当事者が見ると

支障があると医師が判断した情報などは、「詳細記録」という患者側には見られない欄に書かれるという。

17年度末までに計6930人が利用。これまで「特にトラブルは起きていない」(同病院)。

亀田信介院長は「患者との情報共有はリスクマネジメント(危機管理)として重要。こういうことの積み重ねが、透明性の高い組織風土をつくる」と語る。仮に問題が起き、内部で情報隠しがあれば、発覚したときのダメージは大きい。企業の不祥事にも例がある。亀田院長は「今後は、患者との情報共有が当たり前の時代になる」とみている。

読 売(東京)・朝刊

2018年12月16日(日)

# 無痛分娩受け入れ体制

## 名市大病院 きょうろセンター開設

### 産科麻酔の専門医迎え

名古屋市長大病院（名古屋市瑞穂区）に1日、出産の痛みを和らげる「無痛分娩センター」がオープンする。無痛分娩は希望者が増える一方、重大事故も相次いでいるが、「出産時の疲労を軽減したい」と、産科麻酔が専門の医師を招請するなど安全に出産できる体制を整えた。東海3県の大規模病院では、こうしたセンターの開設は珍しいという。（野村順）

無痛分娩は、麻酔で陣痛の痛みを弱める出産方法。感覚が鈍り、いきみづらくなるため出産時間が長引く傾向にあり、赤ちゃんを器具で吸引する処置が必要になるリスクもある。昨年、事故が相次いで発覚したが、その多くが体制の手薄な診療所での出産だった。

同病院はこれまで、心臓病を抱える人などに限り無痛分娩を行ってきたが、ニーズの高まりを受け、広く受け付けるセンターの開設を決めた。9月には、産科麻酔が専門で、無痛分娩を多く手がけてきた麻酔科医の田中基教授(52)が着任。産科婦人科や小児科の医師

や看護師、助産師らとの連携体制を整えてきた。3日から受け付けを始め、当面は陣痛促進剤を使用し、計画出産する形で対応。希望者にはまず、産科婦人科外来で受診してもらい、センターで出産が可能かどうか判断する。実施する場合、正常分娩費用に14万5000円を追加する。今年度内に数件、来年度は100件弱の実施を目指すが、ニーズを見ながら徐々に体制を拡充し、将来的には24時間365日の対応をしたい考えだ。

「産科の麻酔は効かせすぎてもいけない。チームとして経験を積みあげ、市民に身近な病院として安全な医療を提供したい」と話した。

埼玉医科大で無痛分娩を手がけ、センター長に就任する田中教授は、東海3県

読売(名古屋)・朝刊  
2018年12月1日(土)

# 危険な感染症に備える

致死率の高いエボラ出血熱など特に危険な感染症の病原ウイルスを初めて輸入する計画が発表された。2020年の東京五輪・パラリンピック開催や、訪日外国人の増加によって発生のリスクが高まっているからだ。検査体制を強化し、患者の発生に備える狙いがある。

【野田武】

利用する。例えば「エライザ法」というウイルス検出法では、検査用のたんぱく質を、感染が疑われる人の血液と反応させて調べるが、これまでは一部の遺伝情報しか使えず、たんぱく質の種類が限られていた。ウイルスそのものがあれ

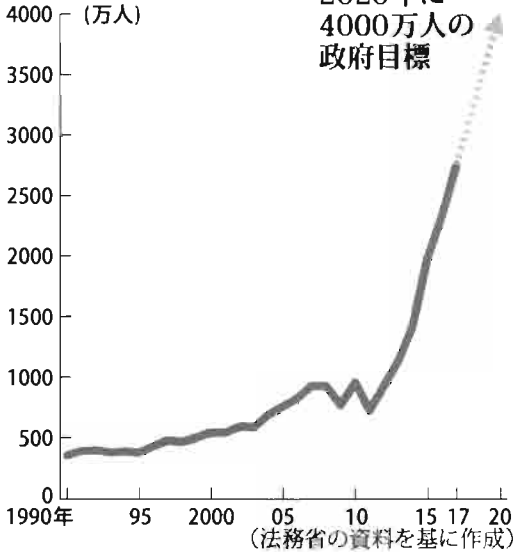
ば、たんぱく質を複数種類作って置いて一度に調べる国際標準の方法が可能となり、より正確で迅速に検査できるようにするという。一方、患者の容体を調べる検査法も可能となる。「中和抗体法」といい、回復途中の患者から採取した血液をウイルスそのものに加え、免疫反応の強さから治療効果や回復の度合いを調べる。これまで本物のウイルスがなかったため、できなかった。

ウイルス輸入の利点について、感染症の西條政幸・ウイルス第1部長は「慎重な取り扱いが求められるバイオセーフティレベル(BSL)4での作業を性急に言うわけにはいかない。ウイルスが入手できていれば時間をかけて準備しておくことができる」と説明する。

## 最も危険性の高い「1類」

# エボラ出血熱などウイルス輸入計画

訪日外国人数の推移



発表したのは、国立感染症研究所。計画によると、輸入するのは、エボラ出血熱▽ラッサ熱▽クリミア・コンゴ出血熱▽南米出血熱▽マールブルグ病―の五つの感染症で、13種類のウイルスが想定されている。

エボラ出血熱は14年以降、西アフリカを中心に発生し約1方1300人が死亡。致死率は平均50%前後と高く、今年もコンゴ民主共和国(旧ザイール)で流行している。ラッサ熱も西アフリカが主な流行地域で、年間10万人以上の感染者が出ており、1987年にはアフリカからの帰国者が日本で発症した例がある。

国内の感染者発生のリスクは高まっている。訪日外国人が近年急増しており、法務省によると昨年は約2700万人で過去最高だった。政府は東京五輪・パラリンピックのある20年に訪日外国人を4000万人に増やす目標を掲げており、感染者のいる国からの渡航もあり得る。感染研の脇田隆字所長は「国際交通網の発達や訪日外国人増加によって輸入感染症は増えていく」と対策強化の必要性を訴える。

なぜ危険な感染症の病原ウイルスを輸入する必要があるのか。

国内で感染が疑われる人が出た場合、既に判明しているウイルスの遺伝情報を用いて検査する必要がある。国内で感染が疑われる人が出た場合、既に判明しているウイルスの遺伝情報を用いて検査する必要がある。

## 訪日外国人増 東京五輪見据え より正確・迅速に検査

輸入が計画されているのは、感染症法で最も危険性の高い「1類」に分類された感染症の病原ウイルスだ。国内で扱えるのは、感染研村山庁舎(東京都武蔵村山市)にある国内唯一のBSL4の施設だけ。輸入が実現した場合、実際にはどのように扱われるのだろうか。

ウイルスの保管や培養は、全てBSL4施設内の実験室で作業をする。実験室は周囲を廊下で囲まれ、入り口には更衣室とシャワールーム、さらに更衣室が直列に並ぶ。研究者は、最初の更衣室で実験着に着替え、次の更衣室で専用ガウンを着用して実験室に入る。退出時はこれらを脱いで、シャワーで体を洗い流してから外へ出る。研究者を介してウイルスが外へ出ることを防ぐためだ。

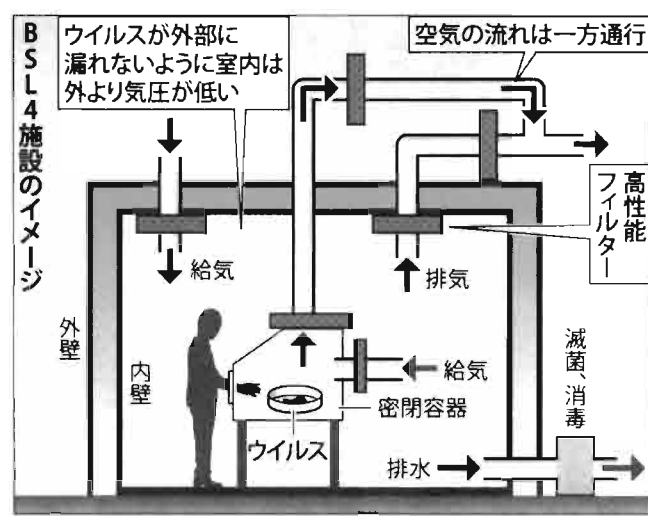
ウイルスは三重になった密閉容器に入れて、実験室内の約マイナス80度の冷凍庫内で保管する。ウイルスが熱や乾燥に弱く、常温下では徐々に死滅してしまうためだ。培養などは、外気と遮断され手袋越しに作業ができる箱「グローブボックス」へ、密閉容器ごとウイルスを移して作業をする。ウイルスは空気中を浮遊することはないが、万一に備え、グローブボックスと実験室の空調設備にはそれぞれ、「ヘパフィルター」という極めて細かい目でウイルスを捕らえる高性能フィルターが使われている。

厳重に扱われる施設だが、村山庁舎の地元では戸惑いの声も聞かれる。

先月15日に村山庁舎であった周辺住民や自治体との連絡協議会で計画が公表されたが、自治会代表者の男性(1)は「必要性は分かるが、今よりもリスクは高まる。住民への丁寧な説明ができていないと思えず、納得できない」と反対を表明した。別の自治会の男性(2)は「仕方がないと思う」と理解を示しつつ、「正確で親切な説明をしてほしい」と注文をつけた。

感染症法では、1類感染症の病原ウイルスを輸入・所持する施設には厚生労働省の指定が必要だ。感染研の施設は、15年に所持が可能となる指定だけを受けた。感染研は今後、同市の同意を得た上で、厚労省の指定を受けたい考えだ。

ウイルスは三重になった密閉容器に入れて、実験室内の約マイナス80度の冷凍庫内で保管する。ウイルスが熱や乾燥に弱く、常温下では徐々に死滅してしまうためだ。培養などは、外気と遮断され手袋越しに作業ができる箱「グローブボックス」へ、密閉容器ごとウイルスを移して作業をする。



毎日(東京)・朝刊 2018年12月12日(水)

KEIZOKU TOPICS

医療安全

# 長崎大BSL4施設 年明けにも着工へ

## 建築確認の手続き終了

危険度の高い病原体を扱う「バイオセーフティーレベル(BSL)4施設」の建設を計画する長崎大は28日、長崎市に申請していた施設の建築確認の手続きを終えたことを明らかにした。年明けにも着工する。

施設は、世界保健機関(WHO)の基準で最も危険な病原体であるエボラウイルスなどに対応できる。医学部のある市内の坂本キャンパスに建設する計画で、2021年度の完成を目指している。

交付された。26日には業者との工事契約も済ませ、建設の条件が整ったという。予定地周辺は住宅密集地。周辺の住民には建設への反発も根強い。住民らが大学などを相手取り、施設で扱う病原体などの情報開示を求めて起こした裁判が長崎地裁で争われている。(森本類)

大学によると、10月に市に出していた建築基準法に基づく建築計画の審査が終わり、27日に確認済み証が

朝日(福岡)・朝刊  
2018年12月29日(土)

# 処方された抗生物質

「全部飲み切る」「5割誤」「途中でやめる」「3割

医療機関などで処方された抗菌薬や抗生物質を医師の指示通り最後まで飲み切っている人が5割程度にとどまること、国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンターの調査で分かった。症状が良くなった時点で服用をやめたり、余った薬を保管したりする人が多く、薬の不適切な使用を懸念する声も上がっている。

## 「適切な服用心がけて」

調査は2018年8月、インターネット上

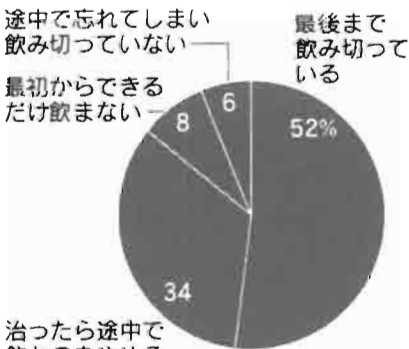
で「最後まで飲み切っている」人が52%、「治ったら途中で飲むのをやめる」(34%)、「飲むのをやめる」(8%)、「最初からできるだけ飲まない」(8%)など

が続いた。

処方された分を飲み切っていない人の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向で、60歳以上は57%だった一方、15〜19歳は43%と最低だった。飲み残した抗生物質をどうしているかを尋ねたところ、「全て捨てている」が45%と最多。「いつか使おう」としてある「(30%)」や「体調が悪い時に飲んだことがある」(22%)など再利用している人も一定数みられた。

余った薬を保管したり、別の機会に使用したりすると効果が出なったり症状が悪化するケースもあるといい、担当者は「医師の指示通り適切な薬の使用を心がけてほしい」と呼びかけている。

## 処方された抗菌薬・抗生物質を どうしているか



(注) 国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンター調査

また家族や他人からも

日本経済新聞・朝刊  
2018年12月13日(木)



# 臓器移植後や自己免疫疾患治療に投与

## 免疫抑制剤3種 妊婦も使用可に

妊婦には「使ってはならない」とされてきた3種類の免疫抑制剤が、医師の判断で使えるようになった。国が設置した「妊娠と薬情報センター」が国内外の使用実績などを調査し「胎児の異常を増やす証拠はない」と判断されたためだ。センターは今後も妊婦に使える薬を増やしたい考え。こうした取り組みは治療で薬を続ける必要がある女性の希望になるとして歓迎されている。

3剤は「アザチオプリン」「シクロスポリン」「タクロリムス」。臓器移植を受けた人は拒絶反応を抑えるためにずっと飲み続ける必要があるほか、免疫が自分の体を攻撃してしまう自己免疫疾患の治療にも使われる。

書では、妊婦は使用を避けるべき「禁忌」とされてきた。「この子たちがいる喜びを口々かみしめています」。腎臓移植を受けた大阪府枚方市の山口律子さん(42)は、2012年生まれの長男を筆頭に2男1女を授かった。山口さんにとって、免疫抑制剤を飲みながらの妊娠は「賭け」だった。高校1年の時、腎臓が小さくなる病気が見つかり、年齢とともに発熱や疲労感にも悩まされるようになった。

### 実績調べ添付文書改訂

国内で把握されている臓器移植後の妊娠・出産例

腎臓移植	500人以上
肝臓移植	30人以上
膵臓移植	2人

(日本移植学会の資料から)

た。04年に結婚した後は、立つて家事をするのも困難なほどに病状が進んだ。

09年、母親から提供された片方の腎臓を移植し体調が安定。手術後1年半経過したところで妊娠の希望を医師に伝えると「子どもに異常が出る可能性はあるが、この薬なら、普通の妊婦さんが病気の子どもを出産する確率とそう変わらないと言われている」と、免疫抑制剤をアザチオプリンに変えることを提案された。

幸い、アザチオプリンは山口さんに合い、子どもは3人とも元気に生まれ、すくすく育った。

山口さんは「移植後の妊娠出産は体調面で乗り越えないといけない壁が多い。

妊婦にも大丈夫な薬だと分かって飲むことができれば、安心感は全く違う。妊娠に挑戦しようと思う人が増えるのでは」と話し、今回の「解禁」を歓迎する。

薬を開発する際には、健康な人や患者を対象に効果と安全性を調べる臨床試験(治験)が行われるが、妊婦が対象の治験はほとんどない。このため妊婦への使用を禁忌とするかどうかは主に動物実験の結果で決められる。

本当に危険なのかを判断するには、実際に妊婦に使用された情報を集めるしかない。厚生労働省は05年、国立成育医療研究センター(東京)に「妊娠と薬情報センター」を設置。主に海外の使用実績や研究論文などを幅広く調査してきた。

そうしてリスクを再評価した結果を基に、厚生省は今年6月、3種の薬について妊婦への禁忌を外し、薬を服用する利益が危険性を上回ると医師が判断する場

合には投与を認めると決定。添付文書が改訂された。病院内に「妊娠と薬」外来を設け、妊婦らからの薬の相談に早くから応じてきた虎の門病院(東京)の林昌洋薬剤部長は「用心深く使えないことにしていた薬が、根拠を積み重ねて大丈夫と判断された意義は大きい。治療を続ける必要がある患者さんに幸せを提供できる可能性がある」と話している。

「妊娠と薬情報センター」は今後も、調査結果を添付文書の見直しにつなげたいとしている。具体的には、免疫抑制剤に続いて「カルシウム拮抗薬」と呼ばれる降圧剤についての調査研究を予定している。

(共同通信)

秋田魁新報・朝刊  
2018年12月15日(土)

# 第一薬科大「空飛ぶ調剤所」構想

## 22年完成新校舎 ヘリポート利用 災害時に被災地へ 移動薬局車は来秋に導入

第一薬科大(南区)の都築仁子学長は11日、2022年ごろ完成する新校舎屋上に設けるヘリポートを使い、災害時にヘリコプターに薬剤師や薬品を搭載して被災地へ運ぶ「空飛ぶ調剤所」構想を明らかにした。実現すれば全国的にも珍しく、今後は行政機関と運用などについて協議する方針だ。

【蓬田正志】

同大は市薬剤師会の00万〜2000万円を要請を受け、改造したキャンピングカーに薬剤師や100〜150種類の薬品を搭載し、被災地で移動薬局として機能する「モバイルファーマシー」を15台導入する。車両は平時は学生の実習などに使う。一方、災害時は市などと連携

し、地震や浸水で薬局が被災した地域に向向き、避難所などで仮設調剤所として活用し、被災者の薬相談にのる。モバイルファーマシーは12年に宮城県薬剤師会が導入したのを皮切りに全国的に導入が進んでいるという。一方、「空飛ぶ調剤所」構想は、開学60周年を迎える2020年に着工する11階建て新校舎屋上のヘリポートを利用。災害時にヘリ

をリースし、車両移動ができない地域や離島に飛ばすことを検討している。都築学長は「ヘリファーマシーで医薬品が供給できれば」と話した。

毎日(福岡)・朝刊  
2018年12月12日(水)

## 病院2割 災害設備不十分

全国の拠点など 非常用発電や給水

全国の災害拠点病院など(同一79か所)だった。主な病院の約2割が、診療機能を3日程度維持するのに必要な発電や給水設備を備えていないことが、厚生労働省の調査でわかった。西日本豪雨や北海道地震など大災害が相次いだため、政府は重要インフラ(社会基盤)の緊急点検を実施。736か所の災害拠点病院に救命救急センターと周産期母子医療センターを加えた822病院を調べた。

それによると、必要な非常用自家発電設備をもっていないのは157病院(うち災害拠点病院125か所)。給水設備では207病院(同一79か所)だった。災害拠点病院は2012年に指定要件が改正され、3日分程度の燃料確保や適切な容量の受水槽の保有が義務付けられた。政府は今後、設備の増設に必要な経費を補助する予定。東京医科歯科大の大友康裕教授(救急災害医学)は「改正前に指定された病院で、要件を満たしていないところが多いだろう。この機会に必要な設備を整えるべきだ」と話している。

読売(東京)・夕刊  
2018年12月22日(土)

# 追う 解く

## 新居浜・西条圏域 医療機関の浸水対策

7月の西日本豪雨では、南予を中心に多くの医療機関で浸水や断水、停電などが発生し、十分な診療ができず、水害対策の必要性が浮き彫りになった。南海トラフ巨大地震で広域浸水が想定される新居浜・西条圏域は、災害時に医療機能を維持して患者の生命を守るための対策の検討を進めている。浸水域にある医療機関と自治体、警察、消防、自衛隊などでつくるプロジェクトチームが、2019年度までに病院職員

プロジェクトチームのメンバーら26人は11月30日、徳島赤十字病院（徳島県小松島市）を視察した。災害拠点病院で屋上へリポートや

免震装置を備え、先進的な取り組みをしているためだ。視察した病院では、南海トラフ地震で約5分の津波が押し寄せる想定で、毎年数百人規模の災害対応訓練を重ねている。参加者は、昨年新設した西棟2階の備蓄倉庫や4階の自家発電装置、近隣住民約千人が一時避難できる屋上と避難階段などを見て回った。徳島赤十字病院の福田靖高度救命救急センター長は「備蓄は最低3日といわれているが、浸水の長期化を考えると1週間は必要だ」と力説する。備蓄倉庫を業者に開放して商品を保管してもらい、緊急時に飲料水として使えるペットボトルの水12000本を確保している。職員が各自で1日分の非常食をロッカーに常備する

## 初動搬送計画 作成へ

取り組みなども紹介した。参加した西条中央病院の看護師高田真美さんは「設備や機材が整っていて、病全体で対策が進んでいる」という印象を持った。「自分たちも備蓄を進めてはいるが、課題は尽きない」と話した。

### ▼入院800人孤立も

愛媛県の地震被害想定調査によると、南海トラフ地震が発生した場合、新居浜・西条圏域は最大震度7の

高まり、県東予地方局が17年度に医療機関広域浸水対策事業を立ち上げた。緊急時に病院職員や各部署が取るべき行動を簡潔に記した「アクションカード」の作成支援や患者搬送体制など関係機関の役割を示した「地域行動計画」を策定し、ソフト面の強化を図る。

「院内に災害発生を宣言する」「電子カルテのシステムダウンに備える」などの行動をあらかじめ決めておくアクションカードは、

るが、ライフラインや浸水時の出入り口の確保といった医療機関固有の補強も必要となる。4病院を対象にした実態調査では、いくつかの病院で搬送手段が確保できないこと、浸水位置より低い場所に自家発電装置や医薬品保管庫があることが明らかになった。水上搬送用のボートや衛星電話の設置が検討されるが、費用の問題から整備には時間がかかりそうだ。

## 発災直後 入院継続が鍵

揺れで海岸の堤防が決壊するとされる。想定では、発災から数時間のうちに新居浜市で約9・6平方キ、土地の低い西条市では県内最大の約33・6平方キが1・3メートルの高さまで浸水する。西条の2病院が2・3メートルに漬かり、新居浜でも2病院で浸水や周辺道路が冠水するため、入院患者計約800人が数日から数週間孤立する恐れがある。

### ▼ハード整備遅れ

ハード面の整備も欠かせない。浸水または孤立の可能性がある4病院は、いまある施設を維持しながら対策を講じる方向で検討している。すべての病院の建物が新耐震基準を満たしてい

圏域の災害拠点病院である県立新居浜病院の明比俊外科部長は、災害医療コーディネーターの立場から「発災後すぐに複数の病院で患者をすべて避難させるのは現実的ではない」と指摘する。ライフラインを保つて支援が来るまで、いかに入院治療を継続するかが重要だと強調している。

(中井美歩)

圏域の災害医療を検討する中で浸水対応の重要性が

が新耐震基準を満たしてい

愛媛新聞・朝刊  
2018年12月9日(日)

# 熊本、真備 被災者と歩む

西日本豪雨の甚大な被害を受けた岡山県倉敷市真備町の避難所で、被災者と寝食を共にしながら支援を続ける看護師の女性がいる。今年7月まで熊本地震の被災地で約2年間活動し、災害後の避難生活で亡くなる「災害関連死」を多く見てきた。「みんなが元の生活に戻れる日まで支え続ける」。固い決意で避難所の環境改善に取り組んでいる。

## 神戸出身看護師 恩師の教え守り

11月末、被災者約20人が身を寄せる真備町市場の老人福祉施設「まきび荘」。看護師の山中弓子さん(50)＝神戸市出身＝は「家の改修が進まない」とこぼす高齢夫婦の話にじっと耳を傾けていた。「大工さんも忙しいんかな。私もここで年越しするから、おせちを作りましょうか」。その言葉に夫婦は「山中さんの料理はおいしいから楽しみにしましょう」と表情を和らげた。

山中さんは1995年の阪神大震災で自宅が被災。知人に誘われて避難所で救護などを手伝った。「被災者に感謝されるのがうれしかった」と振り返る。

ために経験を生かしたい」とNPO法人「九州キリスト災害支援センター」(本部・福岡市)の職員に転身。熊本県内の避難所で母子や妊婦らのケアにあたってきた。

新たな転機は今年7月。西日本豪雨の大きな被害を受けた真備町に被災者支援のために入っていたセンター関係者から、「手伝いに来て」と依頼された。駆けつけた小学校は被災者約350人が通路で雑魚寝をするなどひしめき合っていた。頭をよぎったのは熊本の被災地。亡くなった約260人のうち8割が、長引く避難生活で体や心をむしばまれた災害関連死だ

場を移すと、行政に掛け合っ  
て衛生面などの環境の改善を  
図るとともに、体調の異変を  
知らせるナースコールのボタ  
ンを複数設置。ボタンを押せ  
ば夜中でもすぐに顔を見せる  
山中さんを、被災者も「避難  
所のお母さんみたい」と信頼  
を寄せる。

そんな山中さんが理想とするのは、阪神大震災の仮設住宅で被災者を見守り続けたNPO法人「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」(解散)元理事長で看護師の黒田裕子さん(14年に73歳で死去)だ。看護師学校時代、黒田さんから「被災者が抱える問題を一緒に考えて考え、解決のために動くことが大切」と教えられた。今も「黒田さんならどうするだろう」と思いを巡らせながら床に就く。

## 「もっと医療の拡充を」

### 富岡への帰還意向調査

復興庁は30日、原発事故による避難指示が帰還困難区域を除いて解除された富岡町の住民意向調査の結果を発表した。帰還を判断するために必要な要素について「医療機関(診療科)の拡充」が50.7%と最も高く、4月に2次医療拠点「ふたば医療センター」が開院しても医療への住民ニーズが高いことが浮き彫りになった。

医療の充実は、既に帰還した人が「今後の生活に必要なと感じていること」でも88.4%(前年比19.9%増)でトップだった。

帰還に関し「戻らないと決めている」と答えたのが最多の48.1%(同1.3%増)。その理由として原発事故から7年が経過し、「既に生活基盤ができていたため」が6割を占めた。

避難指示解除から1年を経て、「既に町内で暮らしている」が5.2%(同2.3%増)に伸びた。「戻りたいが、戻ることができない」は18.4%(同1.8%減)でほぼ横ばいだった。帰還を判断する要素については、医療に次いで「商業施設の充実」どの程度の住民が戻るか「が約4割となり、介護・福祉施設や働く場の確保が続いた。

復興庁と県、町の共同調査は7回目。8～9月、6748世帯の代表を対象に行われ、2992世帯が回答した。回答率は44.3%

## 胆振東部地震発生時の札幌市消防

9月6日の胆振東部地震発生から3時間の主な通報内容  
(札幌市消防局)

通報時間	場所	通報内容
3時10分	北区拓北7の1	タンスが倒れ頭部を打撲した
3時11分	東区北28東15	タンスの下敷きになり、顔面から出血した
3時40分	西区琴似1の3	エレベーター内に3人が閉じ込められている
4時07分	南区真駒内	落下物が左下肢に当たり、痛みて動けない
4時27分	清田区里塚1の2	土砂が流れてきて、1階の玄関が開かない
4時38分	東区北28東18	ホームタンクが倒れ、灯油が漏えいした
5時23分	清田区北野1の2	自転車で走行中、道路の隆起にハンドルをとられて転倒し頭を打った
5時28分	北区新川5の3	住宅の煙突が倒れ、落下の危険がある
5時48分	東区北26東1	外壁がはがれてぶら下がり、危険な状態だ

# 119番 3時間で735件

## 平時の4倍出動は半数

看護師として京都の病院に勤めていた2016年、熊本地震が発生した。「被災者のくなくない」。まきび荘に活動の

読 売(大阪)・夕刊  
2018年12月7日(金)

福島民友・朝刊 2018年12月1日(土)

(同1・8減)。

胆振東部地震が発生した9月6日午前3時7分から同6時までの約3時間に、札幌市消防局への119番が、平常時の約40倍に当たる735件を受理していたことが23日、分かった。時間の経過とともに通報内容が変わり、市民の混乱ぶりがうかがえる。液化化の被害が集中した清田区からは、土砂流出や道路隆起による被害などの通報が目立った。(久保吉史)

北海道新聞の請求に市消防局が開示した。それによると、地震が発生した9月6日の通報は午前3時台が244件、4時台が290件、5時台が201件。午前3〜5時台の119番は通常、1時間当たり6件前後しかない。735件のうち、実際に

胆振東部地震の札幌市で最大の被害は、液化化現象による大規模な陥没が発生した清田区の20棟で、全体の約4割を占めた。次に東区の941棟。断水は最大1万5941世帯に及び、解消まで1カ月ほど要した。

消防隊員が現場に向かったのは半数近い345件。他の390件は「停電で困っている」「復旧の見通しを知らない」など相談や情報の問い合わせが多かった。午前3時台の主な通報は、室内での被害に関するものが目立った。「タンスの下敷きになり、顔から出血した」(東区の20代女性)など倒れた家財道具によるけがなどが多かった。4時台になると、野外での被害に関する通報が増え始める。地震発生から1時間20分経過した4時27分には、清田区里塚の住民から「土砂が流れてきて1階の玄関が開かない」と連絡があった。里塚では水道管が破損し、水道水が地上にあふれたほか、液化化した土砂が傾斜に沿って流れ出していた。負傷者の発生がな

いことから、消防隊員は別の現場へ向かったが、被害の出た場所の状況把握や対応は、市土木センターと水道局の職員が担ったことが消防局の記録に残っている。

一方、震度6弱を観測した東区からは「屋外の灯油タンクが倒れて灯油が漏れた」などの通報が増えた。日の出時間の5時台になると、清田区北野から「自転車で走行中、道路の隆起部分にハンドルをとられて転倒した」など屋外のインフラ被害に伴う通報が目立ち始めた。

市消防局消防救助課の太田正一郎消防係長は「通報が殺到する中、電話を受けた担当者は命の危険があったり、傷病者がいる現場を優先した。限られた人員で対処したため、傷病者がいない現場の対応は後になつた」と説明している。

# 災害時の情報伝達を確認

## 諏訪日赤拠点に無線通信訓練

諏訪郡医師会

茅野市、下諏訪町、富士見町、原村の医師でつくる諏訪郡医師会（鈴木正会長）は1日、無線通信訓練を諏訪市の諏訪赤十字病院を拠点とする諏訪地方の各医療機関で行った。諏訪、岡谷市の両医師会の協力を得て、諏訪地方の6病院、県、各市町村、消防、警察、アマチュア無線関係者

から約100人が参加。無線やデジタルシステムを使い地震発生時の被災情報の伝達・共有方法を確認した。同訓練は諏訪地方の医師会が持ち回りで毎年実施し、今年で3回目。災害時は情報が錯綜し、医師らが傷病者の受け入れや手当てを迅速に行えない場合がある。患者搬

送時に必要な道路状態や傷病者の重篤度、受け入れ病院の被災状況などを把握し、患者を適切に医療機関へ運べるようにしようと、情報網を整理して連絡体制の強化を図る。被災時は固定電話などが不通になるとして、無線のほか、離れた医療機関の被災状況

をインターネットで伝え合う「広域災害救急医療情報システム（EMIS）」を活用しているのが特徴だ。諏訪地方が震度7の揺れに襲われたとの想定で行った。各医療機関は人が人の情報や停電、道路陥没などの状況や情報を順次、伝達・共有した。諏訪地域災害時医療対策本部の諏訪日赤には、各医療機関や警察、消防などから無線で傷病者や被災状況などの情報が次々と寄せられた。EMISには各病院で断水や医療装置使用不可などの被災状況が順次書き込まれ、インターネットを通じて関係者同士

で患者の受け入れが可能なかを判断した。鈴木会長（63）は「これまでの訓練では無線が通じなかったり、情報が正確に届かなかつたりした。今回の訓練でも反省点をまとめ、来年以降の訓練や実際の災害の時に生かしていく」と話していた。

長野日報・朝刊  
2018年12月2日(日)

神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室のシンプジウム「いのちを守る 学び継ぐ」（神戸新聞社など後援）が30日、神戸市灘区の同大学六甲ホールで開かれ、研究者らが緊急医療や防災教育の現状について発表した。

（太中麻美）

# 務

各部署が迅速に被害状況を報告し、臨機応変にトリアージエリアを設置するなどした石巻赤十字病院の対応

大規模災害の発生時、身元不明遺体について、歯の治療痕やかみ合わせなどの歯牙鑑定によって身元を割り出す方法が有効となる。南海トラフ地震が懸念される県内でも津波などで数千人規模の死者が出るのが想定され、県警は県歯科医師会と協力し身元確認技術の向上に努めている。十六日には警察署の遺体安置所で、全国初となる実際に近い状況での研修も行う。

（須江政仁）

## 県警察歯科医会

で通用しない」と感じたという。その経験を基に同会は一六年から会員らを対象に研修会を実施。熊谷さんらが講師となり、遺体の口の筋肉のほぐし方や、口内の血液の除去方法について説明

# 南海トラフ地震に備え最新研究紹介 災害医療 人材育成急

神大で市民向けシンポ

東日本大震災を教訓に進化している防災の取り組みを、市民に発信するのが目的。神戸大や東北大などの6人が、講演やディスカッションを行った。

を紹介。「災害対応すべてをマニュアル化するのには不能。想定外のことに対応できない」と指摘し、課題が起るたびに把握、分析し、解決策立案と実行を繰り返す必要があるとした。「南海トラフ地震は来るかもしれないではなく、必ず来る」と、人材育成など備えの確立を呼び掛けた。

神戸大の沖本天太准教授は、人工知能(AI)を用いた災害派遣医療チーム(DMAT)の編成について発表。開発したDMAT編成ソフトで複数の医療機関からメンバーを選ぶ実験を行った結果、東日本大震災で派遣された数の2倍にあたる680チームを、1秒以内で編成できるとした。

香川大の長谷川修一教授は、大学の授業で防災士の養成講座を開いていることや、学生で災害時に避難者を受け入れる消防団を結成していることを紹介した。

神戸新聞・朝刊  
2018年12月1日(土)

## 「南海トラフ地震で多数の死者」想定

# 歯型で身元確認 きょう実践的研修

歯牙鑑定による身元確認は、一九八五年に日航ジャンボ機が群馬県上野村の御巣鷹の尾根に墜落した事故で有効性が証明された。翌年から全国の警察、医師会、歯科医師会共同で「警察医会」設立が進み、三重県でも設立。二〇一五年に県警と県歯科医師会がつくる「県警察歯科医会」が新設され、現在県内の歯科医師四十三人が登録している。

昨今、DNA型鑑定での身元確認が目ざされがちだが、同会理事の熊谷渉さん(左)は「歯牙鑑定は速さと費用の安さが特徴」と話す。DNA型鑑定は結果が出るまで一週間ほど要するが、歯牙鑑定はかかりつけ医に歯型などのデータがあ

れば三十分以内で結果が出る。費用も十分の一ほどで、遺体が多数出る突発的な大規模災害で有効だという。

県警捜査一課によると、今年は十一月末までに発見された身元不明遺体百九体のうち、十九体の身元が歯牙鑑定で判明。同課担当者は「特に津波などが発生した場合、家も流されるためDNA型鑑定をするための対象資料がないことも多い」と話す。

同会は、一一年の東日本大震災の被災地にも会員を派遣し身元確認作業を担った。チームを率いた熊谷さんは「遺体は口が開きにくく、圧死の場合は口内に血液がたまっている。普段の歯科治療経験だけでは現場

中日(三重)・朝刊  
2018年12月16日(日)

KEIZOKU TOPICS

災害に備える

特定行為 ..... 49  
 特別養護老人ホーム ..... 36~37  
 図書館 ..... 14~15・72

な

内視鏡手術 ..... 55  
 内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」 ..... 57  
 難病 ..... 75・93  
 西日本豪雨 ..... 114~115  
 日本対がん協会賞 ..... 8~9  
 乳がん ..... 7・9・11~14・18~19・21  
 乳がん看護認定看護師 ..... 18~19  
 認知症 ..... 36~37・80・100~101  
 妊婦 ..... 111  
 妊婦加算 ..... 98~99  
 脳梗塞 ..... 88  
 脳死移植(子ども) ..... 74~75  
 脳卒中 ..... 67

は

肺がん ..... 12  
 肺がん検診 ..... 104  
 バングラデシュ ..... 24  
 ピアサポート ..... 8~13・20  
 東日本大震災 ..... 114~115  
 ビッグデータ ..... 68~69  
 病院経営 ..... 58~61  
 病院建築 ..... 58~60  
 フォーラム ..... 14・80  
 腹腔鏡手術 ..... 105~106  
 福島第一原発事故 ..... 114~115  
 服薬指導 ..... 29・34~35  
 不妊治療 ..... 40~41・43  
 フリーアドレスオフィス ..... 58~59  
 フレイル ..... 64~65  
 『紛争地の看護師』 ..... 22  
 へき地保健師協会 ..... 62  
 ベネチアングラス ..... 71  
 ヘリファーマシー ..... 112  
 保育士 ..... 50  
 放射線治療 ..... 14~15  
 保健師 ..... 62・64~65  
 保険適用 ..... 54・56~57・90  
 ホスピタルアート ..... 72~73  
 北海道胆振東部地震 ..... 25・115  
 ボランティア(看護師) ..... 24~25・27

ま

マダガスカル ..... 26  
 漫画 ..... 11

看取り ..... 81  
 緑の都市賞 ..... 85  
 身元確認 ..... 116~117  
 ミャンマー ..... 27  
 無痛分娩 ..... 108  
 メディカルカフェ ..... 8~9  
 免疫抑制剤 ..... 111  
 免疫療法 ..... 56  
 「『もしもの時』のために」(冊子) ..... 80  
 モバイルファーマシー ..... 112  
 モロッコ ..... 25  
 門前薬局 ..... 28

や

薬剤師 ..... 28・33~35・112  
 薬剤師不足 ..... 29  
 予防接種 ..... 77

ら

落語 ..... 75  
 『離島の保健師』 ..... 62  
 リハビリテーション ..... 46・88~91  
 労働環境 ..... 48~49

A~Z

ACP ..... 18~19・80  
 ALS(筋萎縮性側索硬化症) ..... 93  
 BSL4施設 ..... 108~110  
 CT(コンピューター断層撮影) ..... 104~105  
 DMAT(災害派遣医療チーム) ..... 116~117  
 EPA(経済連携協定) ..... 51  
 「Findme(ファインドミー)」(HP) ..... 16~17  
 ICT(情報通信技術) ..... 66  
 IoT ..... 68~69  
 iPS細胞 ..... 93  
 JICA(国際協力機構) ..... 25  
 QOL(生活の質) ..... 21  
 SNS ..... 51  
 VSED ..... 78~79

職種

医師 ..... 16~17・47~49・54  
     ・70・100~101・116  
     産業医 ..... 14  
     心臓外科医 ..... 53  
 看護師 ..... 13~16・22~27  
     ・49~51・114~115  
     乳がん看護認定看護師 ..... 18~19  
 管理栄養士 ..... 35  
 助産師 ..... 26・63

保健師 ..... 62・64~65  
 薬剤師 ..... 28~29・33~35・112

疾患

咽頭食道憩室 ..... 55  
 インフルエンザ ..... 92  
 がん ..... 7~21・46・56・88・92  
     胃がん ..... 12・46  
     膵臓がん ..... 56  
     乳がん ..... 7・9・11~14・18~19・21  
     肺がん ..... 12・104  
 肝炎 ..... 94~95  
 狭心症 ..... 90  
 再生不良性貧血 ..... 75  
 心筋梗塞 ..... 90  
 脊髄損傷 ..... 54  
 遷延性意識障害 ..... 89  
 糖尿病 ..... 70  
 認知症 ..... 36~37・80・100~101  
     アルツハイマー型認知症 ..... 78  
 脳梗塞 ..... 88  
 脳卒中 ..... 67  
 ALS(筋萎縮性側索硬化症) ..... 93

調査・データ

がん患者が亡くなる前に利用した医療や療  
 養生活の実態調査 ..... 19  
 災害拠点病院の災害対策設備 ..... 112  
 処方された抗生物質の服用状態 ..... 110  
 富岡への帰還意向調査 ..... 114~115  
 ホスピタルアートの実践と評価 ..... 73

書籍・資料

インターネット番組  
     「がんノート」 ..... 10  
 冊子  
     「医療・介護商品カタログ」 ..... 55  
     「甲斐流忍法くらしのリハビリノート」 ..... 90  
     「『もしもの時』のために」 ..... 80  
 書籍  
     『健診心電図から臨床へ』 ..... 47  
     『在宅医療・介護』 ..... 46  
     『佐賀医人伝』 ..... 47  
     『紛争地の看護師』 ..... 22  
     『離島の保健師』 ..... 62  
 HP  
     「Findme(ファインドミー)」 ..... 16~17



# KEYWORD KENSAKU

[キーワード検索]

## あ

アマチュア無線	116
アメリカ	99
アルツハイマー型認知症	78
安楽死	78~79
イエメン	23
医学部	94~95
医学部教授	46~47
医学部入試	52
医学部入試不正	101
胃がん	12・46
医師	16~17・47~49 70・100~101・116
医師主導治験	54
イスラム国(IS)	22
遺族	20・104~105
犬型ロボット(aibo/アイボ)	71
医薬品	91~95・110~112
医薬分業	28
イラク	25
「医療・介護商品カタログ」(冊子)	55
医療機器	55
医療事故公表指針	105
医療通訳	61
医療ツーリズム	61
医療等ID	66
インターネット	10・16~17
インド	60
咽喉食道憩室	55
インフォームド・コンセント	16
インフルエンザ	92
遠隔医療	63
遠隔画像診断	67
延命治療	76・78~79
オバマケア	99
オランダ	66
オンライン服薬指導	30~31

## か

外国人患者	61
介護施設	36~37・78
画像診断見落とし	104~105
家庭医	66
カテーテル検査	90
がん	92
肝炎	94~95
がん患者	7~21・46
がんゲノム医療	56
がん検診	88

看護系大学	27
看護師	13~16・22~27 49~51・114~115
看護専門学校	50~51
がんサロン	11・20
患者家族	11・20
患者支援	39・70~73
感染症	108~110
がん相談支援センター	14~15
がん探知犬	88
がん哲学外来	8~9
「がんノート」(インターネット番組)	10
管理栄養士	35
緩和ケア	18~19
救急医療	86~87・115
救急搬送	86~87・115
狭心症	90
傾聴	78
ゲノム編集	40~45
健康相談	33・62~65
研修	49・116~117
「健診心電図から臨床へ」	47
5G	87
「甲賀流忍法くらしのリハビリノート」(冊子)	90
後期高齢者医療制度	96~97
抗菌薬	110
抗生物質	110
高齢者	36~37・64~65・78・90
国際救援活動	22~27
国家戦略特区	30
国境なき医師団(MSF)	22~23
骨髄移植	75
子ども	71~72
コミュニケーション	16~17・78

## さ

災害医療	112~117
災害拠点病院	112~113
再生医療	54
再生不良性貧血	75
在宅医療	28~31・81
「在宅医療・介護」	46
「佐賀医人伝」	47
サプリメント	35
産業医	14
残薬	34
時間外労働	48~49
死生観	77・81
社会保障費	96~97

従軍看護婦	100
終末期医療	18~19・76・78~81
就労支援	14~15
手術技能評価	53
受精卵	40~45
省エネ	60
消費税	96~97
情報共有システム	32~35・64~69 87・105~106
食事療法	7
助産師	26・63
処方箋	32~35
鍼灸	88
心筋梗塞	90
人工知能(AI)	68~69・90・116~117
心神喪失者等医療観察法	82~84
心臓外科医	53
身体拘束	36~39
心電図	47
心肺補助装置	54
シンポジウム	62・81・116~117
診療所	66
水害	113
膵臓がん	56
精神科病院	36・38~39・85
精神障害	82~84
セカンドオピニオン	16~17
脊髄損傷	54
遷延性意識障害	89
臓器移植	74~75
創業	94~95
措置入院	38~39
尊厳死	78~79
尊厳死宣言公正証書	76

## た

タイ	27
退院支援	58
体外受精	43
大学病院	82~83
地域医療	62・81
地域包括ケア	29
治験	56・90~91・93
調剤薬局	28・32~35
低糖質自販機	70
デザイナーペビー	40・44~45
デザイン経営	58~59
電子お薬手帳	32~33
電子カルテ	66・105~106
糖尿病	70

# NEWSPAPER

[掲載新聞一覧]

## 通 信 社

共同通信社 時事通信社

## 全 国 紙

朝日新聞	産経新聞	日本経済新聞	毎日新聞	読売新聞
東京本社	東京本社	東京本社	東京本社	東京本社
大阪本社	大阪本社	大阪本社	大阪本社	大阪本社
名古屋本社			中部本社 (名古屋)	中部支社 (名古屋)
西部本社 (北九州)			西部本社 (北九州)	西部本社 (福岡)
北海道支社			北海道支社	

## ブロック紙

中日新聞 北海道新聞 西日本新聞

## 地 方 紙 (県紙)

中日新聞	北海道新聞	西日本新聞
十勝毎日新聞(帯広)	信濃毎日新聞(長野)	日本海新聞(鳥取)
室蘭民報(室蘭)	長野日報(諏訪)	山陽新聞(岡山)
釧路新聞(釧路)	山梨日日新聞(甲府)	山陰中央新報(松江)
	岐阜新聞(岐阜)	中国新聞(広島)
東奥日報(青森)	静岡新聞(静岡)	山口新聞(下関)
岩手日報(盛岡)		
岩手日日(一関)	新潟日報(新潟)	徳島新聞(徳島)
河北新報(仙台)	富山新聞(富山)	愛媛新聞(松山)
秋田魁新報(秋田)	北日本新聞(富山)	高知新聞(高知)
山形新聞(山形)	北陸中日新聞(金沢)	
福島民友(福島)	北國新聞(金沢)	佐賀新聞(佐賀)
福島民報(福島)	福井新聞(福井)	長崎新聞(長崎)
		熊本日日新聞(熊本)
茨城新聞(水戸)	伊勢新聞(津)	大分合同新聞(大分)
下野新聞(宇都宮)	京都新聞(京都)	南日本新聞(鹿児島)
上毛新聞(前橋)	京都新聞(滋賀)	宮崎日日新聞(宮崎)
埼玉新聞(さいたま)	大阪日日新聞(大阪)	琉球新報(那覇)
千葉日報(千葉)	神戸新聞(神戸)	沖縄タイムス(那覇)
東京新聞(東京)	奈良新聞(奈良)	
神奈川新聞(横浜)	紀伊民報(田辺)	

## 専 門 紙

日経流通新聞MJ(日本経済新聞社発行)	中部経済新聞	日刊工業新聞
日経産業新聞(日本経済新聞社発行)	ビジネスアイ(日本工業新聞社発行)	日本農業新聞

## 日本新聞協会

新聞協会報

## 政 党 紙

公明新聞(公明党)	自由民主(自民党)	民進プレス(民進党)
社会新報(社民党)	しんぶん赤旗(共産党)	

お申込み・お問い合わせ 窓口

株式会社 **ニホン・ミック**  
CREATIVE FARM GROUP

TEL ▶ 06(6365)1560

FAX ▶ 06(6365)9518 ⑤▶ info@nihon-mic.co.jp

http://www.nihon-mic.co.jp/

〒530-0045 大阪市北区天神西町6番7号 ファイン・アートビル

\*電話・FAXまたは、ホームページ上のWeb専用申込フォームからお申込みいただけます

◆配本に関するお知らせ

配本日が当社休業日の場合は配本が翌営業日となり、お届けに時間がかかる場合がございます。何卒、ご了承くださいませようお願い申し上げます。 休業日 土日祝祭日、夏期休暇及び年末年始

### ●取引銀行

ゆうちょ銀行	〇一九支店	当座預金No.0880186
りそな銀行	梅田北口支店	当座預金No.0411158
みずほ銀行	梅田支店	当座預金No.0007179
三菱UFJ銀行	梅田新道支店	当座預金No.0005696
三井住友銀行	梅田支店	当座預金No.0228631

### ●郵便振替

00190-0-880186

月刊 切抜き速報 **医療と安全管理総集版**

2019年3号 平成31年3月1日発行 通巻162号(毎月1回1日発行)

●年間購読料 本体22,167円+税 [1冊単価 本体1,848円+税]

●送料サービス

日本の歴史がスタートしました。

日本の新聞★☆☆局面記事特集



少部数発行のKS・月刊 切抜き速報®シリーズ読者限定本

# JNSE・読み比べシリーズ

月刊切抜き速報®シリーズと連動し、テーマ別に編集。朝日・産経・日経・毎日・読売の全国紙に加え、北海道から沖縄までのブロック紙・地方紙、専門紙、合計85紙より、局面の「今」をタイムリーにまとめて発行します。月刊切抜き速報®シリーズとあわせることで、より深く読み比べできます。

KS・月刊切抜き速報®シリーズと併せて読みたいオススメの  
**JNSE・読み比べシリーズ**

○単冊販売/随時発行 ○既刊 販売中! お求め・詳細は弊社ホームページへ。  
各JNSEのテーマの最新記事につきましては、各別冊元の月刊切抜き速報®シリーズをご覧ください。

なぜ! 児童虐待通告最多3万7000件。全国の新聞報道から、新しい施策のヒントに! 児童虐待・児童福祉報道の主要記事を収録!

## シリーズ第9弾 **子どもの虐待記事 読み比べ⑨**



### 毎年増え続ける児童虐待…

2018年1~6月、警察の児童相談所への児童虐待通告件数は過去最多の3万7000件。その年、その年に起こる児童虐待は、どの新聞社も社会問題として大きく取り上げています。

さまざまな視点から児童虐待に関する「今」を掴み、「これから」を考えるため、全国85紙すべてをくまなく丁寧にチェック、1冊の本としてまとめました。  
全国で行われる「日本子ども虐待防止学会」に合わせて、毎年発行し、シリーズ第9弾となりました。

- 記事掲載期間 / 2017/10/6~2018/10/15
- A4判 152頁 本体2,315円+税
- 2018年11月22日発行
- 月刊切抜き速報®『保育と幼児教育版』別冊
- 収録コンテンツ

調査・データ/しつけと虐待/児童相談所・司法・警察のいま/医療機関の取り組み/内密出産の是非/児童養護施設・社会的養護の施設のいま/退所後支援の取り組み/里親・特別養子縁組のいま/社説・論説/連載



**子どもの虐待記事 読み比べ①~⑧ 好評発売中!!**

1986年~2017年までの新聞報道を厳選しただけです。

### エンド・オブ・ライフケア記事読み比べ

- 月刊切抜き速報。『福祉ニュース高齢福祉編』別冊
- 記事掲載期間 / 2015/2/14~2018/2/23
  - A4判 120頁 本体2,000円+税
  - 2018年4月12日発行

### 認知症ケア記事読み比べ②

- 月刊切抜き速報。『福祉ニュース高齢福祉編』別冊
- 記事掲載期間 / 2015/4/12~2017/3/12
  - A4判 120頁 本体2,000円+税
  - 2017年4月14日発行

### 在宅ケア記事読み比べ

- 月刊切抜き速報。『福祉ニュース高齢福祉編』別冊
- 記事掲載期間 / 2015/4/16~2016/5/20
  - A4判 120頁 本体2,000円+税
  - 2016年7月11日発行

### 東日本大震災 医療関連記事読み比べ

- 月刊切抜き速報。『医療と安全管理総集編』別冊
- 記事掲載期間 / 2011/3/25~2012/7/24
  - A4判 72頁 本体1,528円+税
  - 2013年1月1日発行

### インクルーシブ教育記事読み比べ

- 月刊切抜き速報。『福祉ニュース障害福祉編』別冊
- 記事掲載期間 / 2015/2/24~2018/9/15
  - A4判 96頁 本体1,800円+税
  - 2018年10月17日発行

### LGBT関連記事読み比べ

- 月刊切抜き速報。『健康てらしい』別冊
- 記事掲載期間 / 1996/7/20~2018/6/26
  - A4判 120頁 本体2,000円+税
  - 2018年7月26日発行

「新聞・朝刊1面コラム」と「社説・論説」を総集! +PLUS KSで魅力UP!

## 新聞コラム読み比べ / 社説・論説読み比べ



- ◎ 講話の知恵袋に
- ◎ 読活に
- ◎ 受験・小論文対策に
- ◎ 待合室に

毎年発行!

1年を締めくくり、新年の流れを掴む

### 新聞コラム読み比べ / 社説・論説読み比べ **大晦日&元日版**

新聞コラム読み比べ 2018年大晦日 & 2019年元日版

- 月刊切抜き速報。『教育版』別冊
- A5判 128頁
  - 本体1,157円+税
  - 2019年1月18日発行



コラムニストの着眼点や地域性豊かな年末年始の情景を読み比べ!! 表現力・文章力の向上にも役立つ1冊です。

私たち日本人は「大晦日と元日」に特別な思いがあります。各新聞社の報道にも特別感があります。大晦日と元日という特別な2日間の「新聞・朝刊1面コラム」と「社説・論説」を括り、その年の時代背景を表現した文章をお楽しみいただけます。

社説・論説読み比べ 2018年大晦日 & 2019年元日版

- 月刊切抜き速報。『教育版』別冊
- A4判 160頁
  - 本体2,778円+税
  - 2019年1月18日発行



各新聞社の主張や見方などを読み比べ! 大晦日と元日という局面を新たな展望と幅広い視点からご覧いただけます。

日本の祝日から「過去」「今」「これから」を読む

### 新聞コラム読み比べ / 社説・論説読み比べ **日本の祝日版**

日本の祝日から厳選して総集し、各新聞社の「新聞・朝刊1面コラム」と「社説・論説」から「祝日」報道の読み比べをお楽しみいただける特別本です。

「成人の日」「憲法記念日」「こどもの日」の3つの祝日を年毎に読み比べる楽しみをお届けいたします。

月刊切抜き速報®シリーズと併せてお読みいただくことでさらに魅力UP!

日本の新聞★★★新しい魅力、提案します。



**Nihon・MIC Co.,Ltd.**  
CREATIVE FARM GROUP

<http://www.nihon-mic.co.jp>